

令和5年度
生活文化調査研究事業（錦鯉）
報告書

文化庁 参事官（生活文化創造担当）

目 次

序 本調査研究事業について	1
1 章 錦鯉の歴史と現状について	2
1 節 錦鯉の歴史と概要について	2
1-1 錦鯉の概要	2
(1) 錦鯉について	2
錦鯉とは	2
錦鯉の生産・飼育技術	2
錦鯉の観賞と品評会	3
(2) 担い手について	4
錦鯉流通の全体構造	4
錦鯉の生産者・流通業者団体について	5
錦鯉の愛好者団体について	5
海外の愛好者・愛好者団体について	6
1-2 錦鯉の歴史	7
(1) 錦鯉の誕生	7
(2) 東京大正博覧会を契機とした国内への錦鯉の認知拡大	7
(3) 1960 年から 70 年代にかけての一大錦鯉ブーム	8
(4) 世界に発信される錦鯉	9
2 節 現代における錦鯉の現状と社会的な位置付けについて	10
2-1 現代社会における錦鯉	10
(1) 現代社会における錦鯉	10
錦鯉の文化的価値	10
錦鯉をめぐる社会的動き	10
(2) 国内外の錦鯉産業の概況	11
国内錦鯉産業の概況	11
2-2 国民意識調査について	13
(1) 調査の概要	13
■ 調査設計	13
■ 調査結果を見る上での注意事項	14
(2) 調査結果概要	15
1. 属性	15

2. 共通設問	18
3. 単純集計の結果について	22
2-3 海外からの評価と国際発信	72
海外から見た錦鯉の評価	72
国際発信の現状	73
2章 錦鯉団体・養鯉場の活動について	74
1節 錦鯉団体の活動について	75
1-1 錦鯉団体へのアンケート調査の実施概要	75
1-2 錦鯉の横断的団体へのアンケート調査の結果概要	76
(1) 錦鯉の横断的団体の活動について	76
(2) 錦鯉の継承について	79
(3) 新型コロナウイルス感染症の影響について	82
1-3 まとめ	82
団体の活動内容	82
錦鯉文化の継承	83
新型コロナウイルス感染症の影響	84
2節 錦鯉愛好者の活動について	85
2-1 愛好者団体支部へのアンケート調査の実施概要	85
2-2 愛好者団体支部へのアンケート調査の結果概要	86
(1) 愛好者団体支部の活動について	86
(2) 錦鯉の継承について	89
(3) 新型コロナウイルス感染症の影響について	95
2-3 まとめ	96
支部の活動内容	96
錦鯉文化の継承	97
新型コロナウイルス感染症の影響	98
3節 養鯉場（生産・流通業者等）の活動について	99
3-1 生産・流通業者へのアンケート調査の実施概要	99
3-2 養鯉場（生産・流通業者等）へのアンケート調査の結果概要	100
(1) 養鯉場（生産・流通業者等）の活動状況について	100
(2) 錦鯉の継承について	108
(3) 新型コロナウイルス感染症の影響について	117
3-3 まとめ	119

養鯉場（生産・流通業者）の活動内容.....	119
錦鯉文化の継承.....	120
新型コロナウイルス感染症の影響.....	121
結 本調査研究事業のまとめ.....	123
参考資料 有識者（錦鯉）及び有識者会議検討経過.....	128
参考資料 錦鯉の用具と原材料について.....	131
（1）概要.....	131
（2）流通の概要.....	132
（3）課題.....	135
参考資料 国民意識調査 調査票.....	136
（1）属性.....	136
（2）フィルタリング・パート.....	137
（3）分野設問.....	139
（4）共通設問.....	183
参考資料 錦鯉団体調査アンケート配布先.....	187

序 本調査研究事業について

1. 本事業の目的

文化庁では、平成27年度以降、生活文化を把握するための調査研究事業等を継続的に実施している。令和元年度には、錦鯉を含む生活分野に係る8分野について、各分野の全国的な団体に対するアンケート調査を実施し、活動状況及び各分野における課題等について把握を行った。翌令和2年度には、書道・茶道・華道の各分野について、分野ごとの歴史的変遷や社会的位置付け、各分野における無形の文化的所産に関する実態把握を目的とした調査を実施し、報告書を公表している。

本事業においては、錦鯉をはじめとする6分野を対象として、令和2年度の調査内容に準ずる形で調査研究事業を実施し、各分野の詳細な実態把握を行うことを目的としている。

令和3年度には、歴史的変遷や社会的位置付けに関する学術論文等の調査を実施、翌令和4年度には、各分野に対する国民の興味関心等の意識を把握するインターネット調査を実施した。令和5年度の調査研究事業は、上述した令和3年度、4年度の錦鯉についての調査結果等を踏まえ、更に錦鯉に関わる団体や養鯉場のアンケート調査、錦鯉の用具・原材料についての調査を行い、全体として取りまとめることで、生活文化の錦鯉分野の保護・振興策の検討に資する基礎資料とすることを目的としている。

※文化芸術基本法（平成13年法律第148号）

第十二条 国は、生活文化（茶道，華道，書道，食文化その他の生活に係る文化をいう。）の振興を図るとともに、国民娯楽（囲碁，将棋その他の国民的娯楽をいう。）並びに出版物及びレコード等の普及を図るため、これらに関する活動への支援その他の必要な施策を講ずるものとする。

2. 本事業の概要

本事業は、錦鯉がおかれている現状等について詳細な実態把握を行うため、

- ・ 錦鯉の成立、変遷を把握するための文献調査
- ・ 錦鯉への興味・関心等に関する国民意識調査
- ・ 錦鯉の生産及び流通業者を主たる会員とする団体、愛好者を主たる会員とする団体及びその支部、また、養鯉場へのアンケート調査
- ・ 錦鯉用具・原材料に関する製造業者等へのヒアリング調査

を行い、計9回の有識者会議を経て、報告書としてまとめたものである。

なお、今回の調査では、錦鯉用具・原材料に関する調査が十分に行えず、網羅的な調査にならなかったことから、これらの調査結果の分析については参考資料への掲載にとどめた。

1章 錦鯉の歴史と現状について

1節 錦鯉の歴史と概要について

1-1 錦鯉の概要

(1) 錦鯉について

錦鯉とは

日本庭園等の池で群泳する錦鯉は、それぞれが千差万別な模様を持ち、「泳ぐ宝石」「泳ぐ芸術品」「生きた錦絵」とも称されている。これら錦鯉は、日本の養魚環境や生産・飼育技術、用具（器具類）の開発等を通じて改良された観賞用¹コイであり、広く観賞²の対象として親しまれている。

これら錦鯉は、生物学的には日本の河川や湖沼に棲むマゴイと同種であり、近年の DNA 研究によって、日本に生息する大多数のコイが大陸のコイと遺伝的に関連することが指摘されている³。日本では、コイを食材として利用し、食用コイの飼育が行われてきた。それら飼育されたコイの中に、稀に色鮮やかなコイが生まれることがあり、突然変異によって生まれたその個体を交配・選別し観賞用コイとして賞翫するようになっていった。

錦鯉の生産・飼育技術

・ 錦鯉の品種と系統

錦鯉の生産・飼育は江戸時代の中越地域に始まると言われ、以来、より美しい個体をつくるための技術が積み重ねられ、多くの品種が生み出されてきた。代表的な品種⁴として「紅白」（白い地肌に赤い模様を持つもの）、「大正三色」（白い地肌に赤と黒の模様を持つもの）、「昭和三色」（黒い地肌に赤と白の模様を持つもの）があり、“錦鯉の御三家”と言われている。

現在、これら御三家を含めて、色彩や模様、斑紋等の特徴が異なる約 100 種類を超える品種が存在し、系統⁵等により体系化されている。こうした品種改良やその安定的存続において、錦鯉生産者

1 令和4年2月24日に制定され錦鯉の日本農林規格（JAS）では、「錦鯉」という用語を「観賞用として外観上の特性を有した鯉（*Cyprinus carpio*）の総称」、また「外観上の特性」という用語については「体形、地肌の色、斑紋、サイズ（全長・体高・体重等）、光り方等、外観上の特徴的な性質」と定義している。※「日本農林規格 錦鯉一用語」（URL：https://www.maff.go.jp/j/jas/jas_standard/attach/pdf/index-237.pdf）を参照した。最終確認日：令和6年2月15日

2 錦鯉の観賞は美術品に近く、「鑑賞」と表記する場合もあるが、本報告書では「観賞」の表記を用いる。

3 菅豊「新しい科学的知見が動物文化に与える影響—錦鯉を題材に—」（『家畜資源研究会報』19、家畜資源研究会、令和2年 p. 8-20）

4 錦鯉の「品種」について、菅豊「錦鯉と鯉師の歴史と文化」（『生き物文化誌ビオストーリー』第3号 生き物文化誌学会、平成17年 p. 38-47）では、「他の家畜動物のように、表現形質が固定されて均質性と永続性を持った個体群ではない」と解説されている。

5 系統とは、菅豊「錦鯉と鯉師の歴史と文化」（『生き物文化誌ビオストーリー』第3号 生き物文化誌学会、平成17年 p. 38-47）によると「錦鯉の良好な形質が次世代にある程度安定して伝わるライン」であり、優れた錦鯉を生み出した錦鯉生産者（養鯉業者）の屋号が冠されて語られることも多い。例えば、明治22年（1889）に蘭木（現・新潟県小千谷市）の広井國藏が作出し現在の紅白の起源となった「五助更紗」（五助は國藏の広井家の屋号）と種々の系統の紅白の掛け合わせから、大正時代には「治右衛門系」等、昭和時代には「友右衛門紅白」「弥五左衛門紅白」「田村屋紅白」「万蔵紅白」「仙助紅白」など多くの紅白の系統が生まれている。

(養鯉業者)が継承する生産・飼育技術や知見、経験が不可欠なものとなっている。

・錦鯉の生産及び飼育技術

錦鯉の生産プロセスは「親魚の選定」→「交配・産卵」→「選別」であり、親魚を掛け合わせる「交配」では、昔は自然交配だったが、現在はふ化率の高さや親魚を特定し系統保存しやすいという理由から人工交配が一般的になっている。産卵では、1尾の雌から10万～40万粒の卵が産卵され、4～7日で孵化して稚魚となる。

それら大量の稚魚の中から、色彩や斑紋等が良い個体だけを選んでいく作業が「選別」である。選別作業は通常4～5回程度行われ（ふ化後1週間程度で1回、7～9月の間に2回、越冬施設に入れる前に1回等）、生産者によっても異なるが、当初の稚魚全体の1～2%程度にまで選別を行う⁶。さらに翌年春、その時点で販売する個体と成長させる個体に選別する。後者は「立て鯉」と呼ばれ、夏の間、養鯉池^{ようりいけ}で成長させ、同年秋以降、「二歳」の錦鯉として愛好者や流通業者に売却される。ただし、将来の優良錦鯉と見込まれる立て鯉は成魚になるまで飼育が続けられる。その成長過程でも選別され、最終的に成魚となって品評会に出品されるのは、ごくわずかである。

このように、錦鯉は何度もの「選別」を経て作りあげられる観賞魚であるため、その生産過程では、選別する技術が何より重要になってくる。育種や交配の技術は科学の進歩によって変化し、近代化されているが、稚魚から成魚になるまで、将来の色調など品質がどのように変化するか等を予測して、その都度手作業で選別する。その際の選択眼・鑑識眼は経験や直感に負うところが大きい。

加えて、日本では個々の錦鯉の美しさの評価等も体系化されており⁷、生産者及び愛好者は、それを共有することで、より美しい錦鯉を作りあげ、観賞する文化を育んできた。錦鯉の愛好者が世界的に広がっている現在、日本の審美的な評価基準はほぼグローバル・スタンダードになっている。

錦鯉の観賞と品評会

・観賞の仕方と観点

品種や系統によって多様な姿を持つ錦鯉は、その姿を上から見て観賞する方法（上見^{うわみ}）が基本となっており、錦鯉の体形、色彩、斑紋などが錦鯉を観賞して楽しむためのポイントとなっている。

まず、体形としては、背筋の具合や、体の大きさ、尾鰭や胸鰭等の鰭、頭部の形等が、観賞する時の観点として挙げられる。例えば、背筋であればまっすぐ反りが少ない方が美しいとされているほか、体高・体長・体幅等の均衡がとれているかどうか、尾鰭や胸鰭が美しく欠損がないかどうか、頭部の形が整っているかどうか、観賞を楽しむ際のポイントになっている。

錦鯉の色彩は、品種や系統によっても赤や白、黒など多様であるが、基本的に色ははっきりと鮮明に出ているものが美しいとされている。例えば、白であれば純白に近いものが美しいとされ、その他の色でも、色がぼやけていない、シミなどが無い方が良いとされている。

6 青柳聡「山古志における養鯉業の実態と今後の課題」(『福祉社会開発研究』No. 1、東洋大学福祉社会開発センター、平成20年 p.111-115)

7 錦鯉の評価では、上から見た（上見^{うわみ}）体形・色彩・模様の3点が重視される。

斑紋も色彩と同様に品種や系統によって異なるが、頭から背中にかけて表出する斑紋がどう出ているかを観賞する。体の左右で偏りが無いほうが良いとされるほか、体のどこに斑紋が表出しているか、色彩と斑紋とをあわせた全体のバランスも、観賞する際のポイントとなっている。

また、錦鯉の観賞は上から見ることを基本としているが、昨今では錦鯉を水槽で飼育することも行われている関係で、横から観賞が行われることもある⁸。

・ 錦鯉品評会

錦鯉を飼育し観賞して楽しむほかに、飼育している錦鯉を「品評会」に出品して評価を競う楽しみ方もある。

錦鯉の品評会では、愛好者等が飼育する錦鯉が出品され、錦鯉の観賞知識や鑑識眼に長けた審査員によって品評が行われる。出品される鯉は、品評会ごとに規定された品種や体長による出品区分によって分けられる。品評を行う時は、専用のプールに放たれた錦鯉を審査員が審査し、その評価を決めていく。

次に品評会の規模感としては、生産者・流通業者団体である一般社団法人全日本錦鯉振興会が主催する「全日本総合錦鯉品評会」や、錦鯉愛好者の全国団体である一般社団法人全日本愛鱗会が主催する「(一社)全日本愛鱗会国際錦鯉品評会」のような全国規模で開催される品評会をはじめ、各団体の支部単位で行われるものや、地方等で小規模に行われるものなど様々である。また、若鯉や幼魚等の錦鯉の体長に限定して品評会が開催されている場合もある。

こういった品評会は、会を主催する団体や錦鯉に関連する業者や愛好者によって運営が行われており、審査は、団体に所属する会員等が審査員を務め、錦鯉の品評を行っている⁹。

(2) 担い手について

錦鯉流通の全体構造

基本的に錦鯉は商品として流通し、錦鯉を観賞・飼育する文化を担っているのは、錦鯉の生産者、購入する愛好者、そして両者を取り持つ流通業者である。

第二次世界大戦後しばらくは、生産地での“庭先販売”等を通じて、その個体を見そめた人への直接販売が中心だった。現在は、通常、流通業者を経て愛好者の手に渡る。ただし、愛好者が生産地に赴き、自分の目で確かめて直接購入するという商習慣も根強く残っている。

生産者、流通業者、愛好者の三者の接点には、品評会がある。新潟県の山間部で開催されていた錦鯉を含めた農業産物品評会等を前身に、昭和40年代に錦鯉単体の品評会というシステムが確立された。参加者がその年の自慢の錦鯉を持ち寄り、サイズや品種ごとに賞を授与するイベントで、オークション等もあわせて行われる。毎年、顧客対象のミニ品評会から市町村単位、県単位、九州や

8 アクアライフ編集部編『増補改訂版 錦鯉の飼い方 池でも水槽でも楽しめる!』(株式会社エムピージェー、令和2年) p. 88-103

9 (一社)全日本愛鱗会の場合、「公認審査員規則」が定められており、審査員として適格であるかどうかの基準が設けられている。

関東といった地区単位、全国レベルまで様々な規模の品評会が開催されており、全国レベルの品評会としては前述した「全日本総合錦鯉品評会」、「(一社)全日本愛鱗会国際錦鯉品評会」等がある。

品評会は、生産者側にとっては入賞して名誉を獲得する場であるとともに、商談の場でもある。錦鯉の取引における販売価格は、生産者と取引相手との交渉で決められる。錦鯉は、アート作品同様、大きさや体形、色彩や斑紋の美しさといった美的希少価値によって値段が付けられ、大規模品評会で高い評価を得た上位クラスの錦鯉は高値で売買されることも多い¹⁰。

加えて、一般的な供給側と観賞側の関係は供給側が生産の知識を持ち、観賞側は観賞の知識を持つというものであるが、錦鯉の場合は、生産者も錦鯉を楽しむ愛好者であり、愛好者の中には生産者の指導を受けながら自家産の錦鯉づくりを楽しむ人等がいる。それぞれが立場を超えて錦鯉の美しさやその観賞に商品という以上の価値を見だしている人々であり、密接な関係性が見られる。単に生産者と愛好者という二項対立では語れない側面があり、品評会の開催等でも生産者・流通業者団体と愛好者団体の双方が協賛等の形で協力しあうことが多い。

錦鯉の生産者・流通業者団体について

錦鯉の国内最大の生産者・流通業者団体には、昭和45年(1970)に結成された一般社団法人全日本錦鯉振興会がある。令和4年(2022)2月現在、493名の会員を擁し、機関誌『月刊錦鯉』を発行するとともに、毎年、全国レベルの「全日本総合錦鯉品評会」「錦鯉全国若鯉品評会」「国際錦鯉幼魚品評会」をはじめ地区・支部単位でも品評会を行い、優れた錦鯉を出品した生産者を表彰している。海外25か国にも194名の会員がいて、アジアや欧米各国の品評会に審査員を派遣する等協力している。

また、錦鯉の「飼育士」制度を設けているほか、農林水産省のイベントや観賞魚協会のイベント等への講師の派遣や錦鯉の出品、小学校等へ講師派遣等を行って錦鯉への理解促進、錦鯉産業の振興を図っている。

錦鯉の愛好者団体について

錦鯉愛好者の全国的な組織には一般社団法人全日本愛鱗会がある。海外でも“Zen Nippon Airinkai (ZNA)”の名で知られる世界最大の錦鯉愛好者組織で、令和4年(2022)2月現在、国内会員数556名、海外会員数720名を擁し、毎年、全国レベルの「(一社)全日本愛鱗会国際錦鯉品評会」を開催し、地区・支部単位で品評会も行っている。海外には15か国31支部があり、毎年「ZNAアジアカップ錦鯉品評会」¹¹等を主催している。また、品評会での審査員資格の制度を設けているほか、飼育・観賞の指導を通じて錦鯉を観賞する文化の向上に取り組んでいる。

10 日本政策投資銀行新潟支店「新潟県内錦鯉産業の『強み』～更なる発展に向けて～」(『DBJ 新潟支店レポート』、平成30年)

11 平成20年(2008)から、シンガポールを含む中国、インドネシア、マレーシア、台湾、香港、タイの7か国が毎年持ち回りで開催している。

海外の愛好者・愛好者団体について

昭和時代前半から錦鯉の海外輸出が手がけられ、海外にも錦鯉愛好者は多く存在し、それぞれの地域で愛好者や生産者・流通業者の組織も生まれている。

例えば、南米には“Associação Brasileira de Nishikigoi (ABN)”があり、日本の（一社）全日本愛鱗会のブラジル支部にも認定されている。同会は当地の日系人が自らの出自に連なる日本文化に愛着を持ち、錦鯉という故郷の新たな文化を受け入れたことから生まれた錦鯉愛好者団体であるが、英国には非日系人によって結成された”British Koi-Keepers Society (BKKS)”がある。現在、同会は英国内に15支部を構え、会員数約700名を擁する英国最大の錦鯉愛好者団体であり、主催する全国品評会には約2,000人が訪れる。なお、英国内には、BKKSのほか、中小規模の15の錦鯉愛好者団体（愛鯉クラブ）があり、うち7団体が品評会を開催している。

また、“Nishikigoi Vereniging Nederland (NVN)”は、平成5年（1993）から毎年夏に全ヨーロッパ的な品評会「オランダ・コイ・ショー」を開催していることで知られ、同イベントにはヨーロッパ各地から2万人を超える人が訪れている。

〈主要参考文献〉

- ・黒木健夫『新版 錦鯉入門』新日本教育図書株式会社、昭和61年
- ・菅豊「錦鯉と鯉師の歴史と文化」（『生き物文化誌ビオストーリー』第3号 生き物文化誌学会、平成17年 p. 38-47）
- ・星野拳他監修『錦鯉問答』新日本教育図書、平成19年
- ・菅豊「グローバル時代を生きる錦鯉ー日本文化の拡散と脱国籍化、現地化ー」（松井健、野林厚志、名和克郎編『国立民族学博物館論集1 生業と生産の社会的布置ーグローバリゼーションの民族誌のためにー』岩田書院、平成24年 p. 269-298）
- ・『鱗光』編集部編『錦鯉A～Z 錦鯉の教科書』新日教育図書株式会社
- ・アクアライフ編集部編『増補改訂版 錦鯉の飼い方 池でも水槽でも楽しめる』株式会社エムピージェー、令和2年
- ・50周年記念誌編纂委員会企画・構成『全日本錦鯉振興会50周年記念誌』全日本錦鯉振興会、令和2年
- ・『令和元年度生活文化庁調査研究事業 報告書』文化庁地域文化創生本部事務局、令和2年

1-2 錦鯉の歴史

(1) 錦鯉の誕生

資料的には定かになっていないが、地域の伝承によれば、錦鯉の歴史は今から 200 年ほど前の文化・文政期（1804～1830）、現在の新潟県小千谷市から長岡市山古志にまたがる山間部、二十村郷と呼ばれた地域で始まったとされている¹²。

二十村郷では急峻な傾斜地を開墾し、幾重にも棚田を設け、その一部や溜池を使って、副収入源また冬場のタンパク源として食用コイを飼育していた。それら食用コイの中に、まれに突然変異で赤やまだらな色付きのコイが出現し、郷の人々は、農業の傍ら、体色変化したコイの中でもことさら美しい色と模様を持つコイを選び、人為的に交配させて愛玩した。徐々にその楽しみが中越地方一帯に広がり、質の良い個体が売買されるようになったと言われる。

明治時代に入ると、二十村郷の錦鯉の生産・飼育はより盛んになった。明治 7 年（1874）に「東京に『飼鯉』大小 16 尾を送り、33 円の収益をあげた」¹³という資料が発見されており、当時の 33 円は米 4.5 石（約 680 kg）に相当し、食用コイではなく、観賞用コイとして高額で取引されていたことがうかがえる。

当時は、黒地の食用コイから少し変異して紅一色や黒い斑点が混じった「緋鯉」や、「浅黄」（薄い藍色がかかった色合いで整然とした網目の美しい模様を持つ）など数種類の観賞用コイしか存在しなかった。それら模様のある観賞用コイは「錦鯉」とは呼ばれず、「模様鯉」「変わり鯉」「色鯉」「花鯉」等の名称で呼ばれていた。現在のような多様な模様を持つ華麗な錦鯉が生まれるのは、明治 22 年（1889）に新潟県小千谷市蘭木の広井國蔵が新品種「紅白」を作り出して以降のことである。

以後、多品種化が進行していったが、その背景には、明治時代のヨーロッパの育種技術の導入等もあった。明治 37 年（1904）には、品種改良研究のためにドイツ鯉が日本に寄贈された。ドイツ鯉は、鱗が整然と並ぶ和鯉に対して、鱗が一行あるいは乱雑に並び、また鱗がないものもあり、そうしたドイツ鯉とそれまで作りだしていた錦鯉との交配が行われることで、品種改良の幅が広がった。

(2) 東京大正博覧会を契機とした国内への錦鯉の認知拡大

明治時代以降、都市部の富裕層等が錦鯉を購入することはあったものの、基本的に錦鯉を観賞する文化は錦鯉の産地とその周辺が中心で、品種開発等についても広く知られることはなかった。錦鯉が全国的に知られる大きな転機となったのは、明治から大正への改元記念として東京・上野公園で開催された大正 3 年（1914）の「東京大正博覧会」である。

旧二十村郷のうち東山村・竹沢村の人々は東山村竹澤村鯉魚出品組合を結成し、同博覧会に錦鯉

12 新潟県水産試験場編（越田秀包著）『農家の副業的養魚法（上）』（新潟県農会、昭和 6 年）には「又文化、文政の頃には真鯉の外緋鯉、白鯉を飼育し、緋鯉と白鯉の交配によって白色素地の腹部に緋の斑紋あるもの、又白鯉の鰓蓋にのみ緋の斑紋あるもの（俗に頬赤又はスットンといふ）を出し。又天保年間には漸次改良して頭巾被り（前頭半分紅色のもの）面被り（頭の全部紅色のもの）口紅（口吻紅色のもの）を出し、尚研究して更紗（白鯉背部に紅色の色彩斑紋あるもの）を出すに至つたと傳へてゐる。」と錦鯉産地の伝承が記されている。

13 山古志村史編集委員会編『山古志村史 通史』山古志村、昭和 58 年

23 尾を出品、水産館展示場に 18 尾が展示された¹⁴。同博覧会には 4 か月間で延べ 750 万人が来場し、多くの人々が錦鯉の美しさを知ることになった。同博覧会を行啓した皇太子・裕仁親王（後の昭和天皇）も非常に気に入られたと伝えられており、会期中に 8 尾が東宮御所に献納された。

ただ、この時点でも“越後の「^{かわりごい}変鯉^{いろこい}」（＝色鯉）」と呼ばれていた。「錦鯉」という呼称が登場するのは、その 3 年後である。大正 6 年（1917）に山古志村竹沢の星野栄三郎が「紅白」と並ぶ品種「大正三色」を作りだしたとき、コイの品種改良を指導していた阿部圭新潟県水産主任官が新品種の色・模様が鮮やかな三色鯉を「錦のような鯉」と表現したことから錦鯉という呼称が生まれたと言われ、昭和時代初期、新潟県出身で東京日本橋・高島屋百貨店で観賞魚店を営んでいた井上菊雄が本格的に錦鯉を商品名として販売し、その呼称が日本全国に拡大していった。

東京大正博覧会後も、京都で開催された大正 13 年（1924）の「東宮殿下御成婚奉祝万国博覧会参加 50 年記念博覧会」や大正 14 年（1925）の「全国副業展覧会」等に錦鯉が出品された。また、大正 15 年（1926）には虫亀（現・新潟県長岡市）から摂政殿下（皇太子裕仁親王）に錦鯉 5 尾を献上している。博覧会という近代的メディアでの露出や、当時の有力者・貴人に錦鯉の観賞を浸透させることによって、錦鯉は国内の人々により注目されるようになる。昭和 8 年（1933）に新宿伊勢丹屋上で行われた錦鯉展では、相馬子爵等の華族や久邇宮家など皇族が飼育する錦鯉も出品されたという。

その結果、錦鯉の流通は全国的に拡大した。昭和時代初頭の新潟県農会の記録には「京都を主とし、大阪、岐阜、金沢、富山、山形、長野地方に販出され…東京には当歳魚より一尺二、三寸くらい迄のもの多数出荷され…亦愛知、秋田、福島^{くにのみやけ}の諸県にも販出される」との記述が見られる。

また、前出の井上菊雄が昭和 11 年（1936）から当時の満州など海外への錦鯉の売り込みを始めている。同じ頃、新潟県の錦鯉生産者たちも、米国サンフランシスコで開催された昭和 15 年（1940）の「金門万国博覧会」に 300 尾を出品する等、錦鯉の海外普及に着手した。

（3）1960 年から 70 年代にかけての一大錦鯉ブーム

第二次世界大戦中に錦鯉生産が停止したことから錦鯉生産は衰退の危機に陥ったが、第二次世界大戦後、錦鯉の生産・飼育は復活した。昭和 22 年（1947）には錦鯉の海外輸出を目的とする新潟県色鯉養殖組合も結成されている。

そして、高度経済成長時代の 1960 年代から 70 年代にかけて一大錦鯉ブームが到来する。マイホームブーム等を背景に、錦鯉の飼育・観賞を趣味とする愛好者が爆発的に増加した。そうした需要拡大に伴い、錦鯉の産地は新潟県内から県外へと広がっていった。

錦鯉ブームの中、愛好者や生産者の全国組織化も進んだ。地方の愛好者組織であった大分愛鱗会が昭和 40 年（1965）に西日本愛鱗会へ拡大、昭和 43 年（1968）には全日本愛鱗会へと発展した。生産者も昭和 43 年に東京で「第 1 回全日本総合錦鯉品評会」を開催し、2 年後の昭和 45 年（1970）に生産者・流通業者の組織である全日本錦鯉振興会を設立している。

14 高梨直治「東京大正博覧会に『変わり鯉』（錦鯉）展示」（月刊『錦鯉』第 35 巻第 3 号（通巻 406 号）、錦彩出版、令和 3 年 p. 70-73）

加えて、錦鯉は海外交流において一定の役割も担うようになっていく。例えば昭和 40 年（1965）、広島市が姉妹都市であるハワイ・ホノルルに錦鯉を寄贈しているほか、昭和 47 年（1972）にはソ連・ボルゴグラード市と姉妹友好を提携した際にも錦鯉を贈呈する等、日本の伝統工芸品や美術品と同じような感覚で錦鯉が活用されるようになった。昭和 45 年（1970）の「日本万国博覧会（大阪万博）」では、政府出展施設として日本庭園が併設され、その池に新潟県と関西地方、中国地方の錦鯉生産者の錦鯉が放たれた。このように、錦鯉は日本文化を象徴するものの一つとして扱われるようになっていった。

（４）世界に発信される錦鯉

昭和 48 年（1973）のオイルショックによって国内の錦鯉ブームが終息へと向かう中、錦鯉ブームによって生産技術が向上し、良質な錦鯉の生産が拡大されるようになったことから海外輸出が拡大した。

その要因には、昭和 30 年代、空輸の進展とともに、ビニール袋と注入酸素による錦鯉の輸送法が確立されたことが挙げられる。それまでも船舶を用いた輸出は試みられていたものの、錦鯉は長時間の輸送に耐えることができないため、さほど実績が挙げられなかった。しかし、ビニール袋に適量の錦鯉と水、酸素を注入し、段ボールや発泡スチロール箱に梱包して空輸することで、遠方への簡便な輸送が可能になった。その結果、ハワイや米国本土、英国をはじめとする欧州各国や台湾、香港、シンガポール、インドネシア等、アジア各国に販路を広げた。

輸出拡大には、国内の錦鯉関係者・団体が積極的に海外での普及を図ったことも大きく影響している。昭和 48 年（1973）、全日本愛鱗会が初の海外支部を米国・カリフォルニアに設立し、以後、海外支部は増え、現在、海外に 34 支部があり、17 か国に友好団体を持ち、会誌『日鱗』の英語版等を発行している。

また、生産者側の動きとしては、昭和 46 年（1971）に広島県の生産者・玉木武彦が英語圏の錦鯉愛好者に向けて飼育や観賞の仕方等を記した『NISHIKIGOI:FANCY KOI』を出版したほか、全日本錦鯉振興会も海外の「コイ・ショー（海外版品評会）」等への出展や審査員派遣等を通して、錦鯉を観賞・飼育する文化の普及・振興を図ってきた。その結果、錦鯉の輸出も拡大基調で現在に至っている。

〈主要参考文献〉

- ・菅豊「錦鯉と鯉師の歴史と文化」（『生き物文化誌ビオストーリー』第 3 号 生き物文化誌学会、平成 17 年 p. 38-47）
- ・星野季他監修『錦鯉問答』新日本教育図書、平成 19 年
- ・前川建夫『日本文化の華 錦鯉』新日本教育図書、平成 21 年
- ・菅豊「グローバル時代を生きる錦鯉－日本文化の拡散と脱国籍化、現地化－」（松井健、野林厚志、名和克郎編『国立民族学博物館論集 1 生業と生産の社会的布置－グローバリゼーションの民族誌のために－』岩田書院、平成 24 年 p. 269-298）
- ・50 周年記念誌編纂委員会企画・構成『全日本錦鯉振興会 50 年記念誌』全日本錦鯉振興会、令和 2 年

2 節 現代における錦鯉の現状と社会的な位置付けについて

2-1 現代社会における錦鯉

(1) 現代社会における錦鯉

錦鯉の文化的価値

錦鯉は、品種改良の技術の進歩とともに、錦鯉に関する知識・経験が培われ、個体の評価の体系など審美眼・観賞眼も生まれ継承されてきた。特に錦鯉生産の聖地と言われる小千谷市東山地区、長岡市山古志地区をはじめとする産地では、その文化的継承が地域活力の源泉となり、人々の地域アイデンティティーを創出する誇りを醸成している。

錦鯉は日本の山間部の厳しい暮らしの中で、色鮮やかなコイの飼育・交配を重ねて、より美しい錦鯉を人為的に作りあげ、観賞して楽しむということに始まった地域の生活に根ざす形で発展・展開を遂げた文化であり、今日においては広く生活の中でたしなまれる文化となっている。

そもそも錦鯉は人為的に作りあげるコイであり、庭園の池等で飼育して、観賞されることが前提とされており、魚類学的には一般のコイと同様であるが、人間の介在がなければ存在し得ない文化的存在である。そうした日本人が作りあげた観賞魚文化は、今や、海外でも「Koi」という言葉が通用するほどグローバルな文化になっている。

錦鯉をめぐる社会的動き

錦鯉生産の中心地である新潟県旧山古志村（現・長岡市）や小千谷市は平成 16 年（2004）10 月の新潟県中越地震で壊滅的な被害を受けた。錦鯉の被害は 100 万尾以上、被害総額は 40 億円以上にも上ったが、全国の生産者や流通業者、愛好者たちが生き残った錦鯉を復興の日まで預かる等の支援や、被災後に廃業した事業者の飼育池等の集約化等の取組により、同地域は復活を遂げた。

平成 26 年（2014）10 月、長岡・小千谷両市は新潟県中越地震からの復興の象徴として錦鯉を「市の魚」に制定、平成 29 年（2017）には新潟県の「鑑賞魚」に指定され、同年、錦鯉の生産を含む地域における農業システムが日本農業遺産に認定されている。

このほかの動きとして、錦鯉を「国魚」に位置付けていこうとする動きも見られる。昭和 44 年（1969）には、新潟県錦鯉協議会の主催で開催された全国レベルの品評会「第 1 回全日本総合錦鯉品評会」大会記念誌のタイトルが『国魚』と題され、錦鯉への尊称として用いられている。全日本錦鯉総合品評会では現在でも、褒章名として「国魚」を用いており、団体により啓発活動も行われている。また、平成 31 年（2019）2 月に日本を代表する魚に錦鯉を位置付け、輸出戦略の強化を図る目的から、自民党の有志議員により「錦鯉文化産業振興議員連盟」が設立されるなど、錦鯉を国魚に推す動きが継続的に展開されている。

近年、国はクールジャパン戦略の一つに錦鯉を位置付けている。令和 2 年（2020）3 月に開催された「知的財産戦略本部 構想委員会 Create Japan ワーキンググループ（第 2 回）」では、個別分野として「食」「日本産酒類」「コンテンツ」「文化」「国立公園」「CJ 官民連携 PF」「老舗」とともに

「錦鯉」がテーマの一つとして取り上げられ、その活用や省庁間の連携強化等が議論された¹⁵。

なお、錦鯉関係者として、小西丈治（全日本錦鯉振興会前理事長）が錦鯉の振興・振興を図り文化芸術の振興に寄与した功績を以て平成 30 年度文化庁長官表彰を受賞している。

（２）国内外の錦鯉産業の概況

国内錦鯉産業の概況

錦鯉の国内生産額についての公的統計はなく詳細は不明であるが、「貿易統計」によれば、令和元年（2019）の輸出金額は約 39 億円であり、輸出が全体の約 8 割を占めると言われていることから¹⁶、国内分を含む錦鯉市場の全体規模は約 50 億円規模と考えられる。

一方、国内における錦鯉需要は、近年、減少傾向にあるとされる。その背景の一つは住宅環境の変化である。錦鯉は水槽でも飼育できるとはいえ、池で飼育するのが基本であり、庭付きの一戸建住宅から集合住宅へシフトする人々の増加に伴って国内需要が減少している。加えて、錦鯉愛好者の高齢化により、国内の愛好者数自体が減少している。

こうした国内錦鯉需要の減少も影響し、錦鯉生産者も減少している。もともと錦鯉生産者の多くが個人経営であり、後継者問題等も加わり、平成 15 年（2003）と令和 5 年（2023）の比較では経営体数は約 57%減、従業員数は約 39%減となっている。

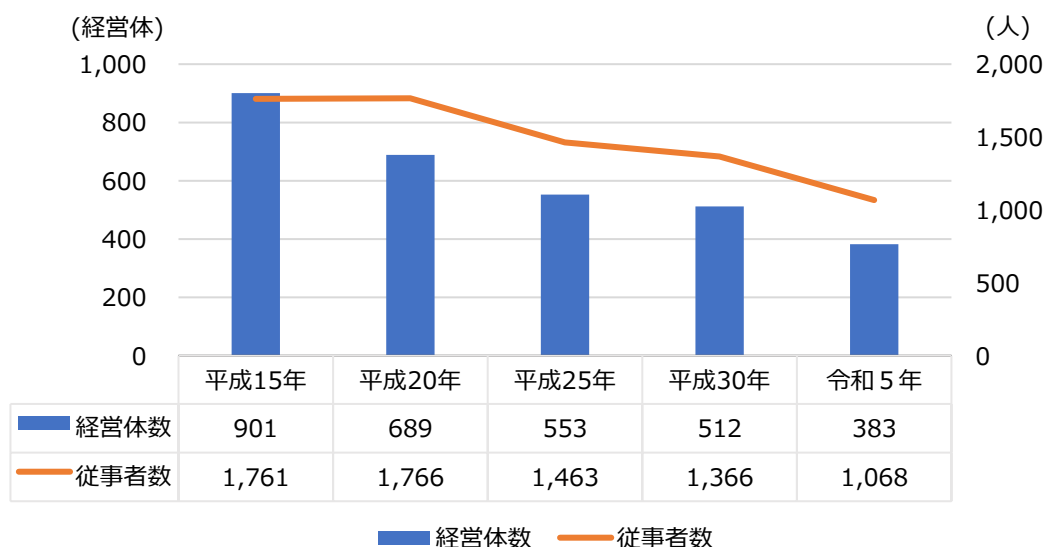


図 1 錦鯉養殖業の経営体数・従業者数の推移

出典：平成 20 年から平成 30 年の「漁業センサス」（農林水産省）（URL：<https://www.maff.go.jp/j/tokei/census/fc/index.html>）を参照し作成した。

15 内閣府知的財産戦略推進事務局「第 2 回 Create Japan WG 事務局説明資料」（URL：https://www.kantei.go.jp/jp/singi/titeki2/tyousakai/kousou/create_japan_wg/dai2/siryoul.pdf）最終確認日：令和 6 年 2 月 15 日

16 日本政策投資銀行新潟支店「新潟県内錦鯉産業の『強み』～更なる発展に向けて～」（『DBJ 新潟支店レポート』平成 30 年）

一方、輸出量が増える中、国内錦鯉産業において外国人の存在感が高まっている。輸出国数も平成17年（2005）以降、増え続けており、およそ30年前と比べて、その数は2倍以上に拡大し、対象エリアも欧米、アジアだけでなく、東欧やアフリカにまで広がっている¹⁷。

こうした日本の錦鯉のグローバル化は、国内錦鯉産業にとって欠かせない一方、稚魚が安価で大量に輸出されるという問題や、KHV¹⁸のような生産地の日本になかったコイの病気が日本にも入ってくるなど錦鯉の生産・飼育におけるリスクの拡大といった問題も生じさせている。

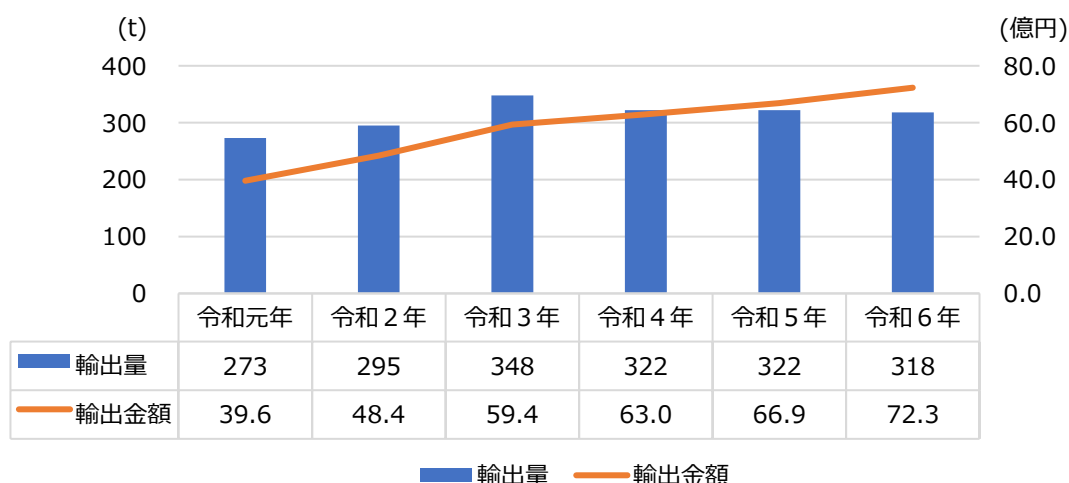


図2 錦鯉の輸出金額・輸出量

出典：令和元年から令和6年の「貿易統計」（財務省）（URL：<https://www.customs.go.jp/toukei/info/>）を参照し作成した。

錦鯉の輸出金額上位（令和6年）

国名	金額（億円）
アメリカ合衆国	11.8
ベトナム	10.4
香港	9.1
インドネシア	5.3
オランダ	5.0
英国	4.7
ドイツ	4.4
タイ	3.5
中華人民共和国	2.8
ナミビア	2.5

錦鯉の輸出重量上位国（令和6年）

国名	単位（t）
アメリカ合衆国	42.5
ベトナム	40.1
オランダ	37.7
英国	32.0
インドネシア	29.6
ドイツ	28.5
タイ	18.6
香港	16.3
マレーシア	10.9
フランス	10.7

図3 錦鯉の輸出金額・輸出重量上位国

出典：令和6年の「貿易統計」（財務省）（URL：<https://www.customs.go.jp/toukei/info/>）を参照し作成した。

17 日本政策投資銀行新潟支店「新潟県内錦鯉産業の『強み』～更なる発展に向けて～」(『DBJ 新潟支店レポート』平成30年)

18 KHV（コイヘルペスウイルス病）はかつての日本では見られなかったコイの病気であるが、錦鯉産業のグローバル化とともに平成15年（2003）日本にも入り、国内生産者が廃業に追い込まれるケースも出ている。現在、養殖業者にはKHVが発生した場合に都道府県知事への届出が義務付けられ、日本から一度海外に出した錦鯉は日本に戻せないことになっている。

2-2 国民意識調査について

(1) 調査の概要

生活文化に係る6分野（煎茶道、香道、和装、礼法、盆栽、錦鯉）に関して、インターネットを活用し2万人を対象としたウェブアンケート調査による国民の意識調査を実施することで、国民の生活文化に対する興味や関心などの実情について把握し、今後の生活文化等に関する政策立案の基礎資料の作成を行うことを目的として調査を実施した。

このウェブアンケート調査では、下記に示すとおり、錦鯉の経験の有無を問う設問を設け、回答者の経験・体験の深度を図ると共に、経験・体験の程度ごとに設問群を設け、活動内容や興味関心について把握を行った。（詳細は巻末参考資料を参照）

■ 調査設計

調査方法	インターネット調査（調査業者：株式会社クロス・マーケティング）						
調査地域	全国						
調査対象者	18歳以上の男女						
サンプル数	2万サンプル						
		18～ 20代	30代	40代	50代	60代	70代 以上
	男性	1,398	1,359	1,759	1,580	1,459	2,090
	女性	1,342	1,303	1,713	1,588	1,533	2,723
	それ以外/ 答えたくない	41	29	24	10	10	39
	※国勢調査（令和2年）に基づき、性・年齢・都道府県別の比率に2万サンプルを割付けている。						
調査期間	令和4年10月14日（金）～10月20日（木）						
設問項目	【属性】 F1：性別 F2：年齢 F3：居住地 F4：職業 F5：同居している人の状況 F6：昨年度の世帯全体の年収 F7：最終学歴 F8：子供の頃の習い事						
	【フィルタリング・パート】 FQ：錦鯉の経験の有無						
	【「錦鯉を飼育している（いた）、あるいは錦鯉の養鯉業を営んでいる（いた）」と回答した者への設問】 GQ1：錦鯉を飼育し始めたきっかけ GQ2：錦鯉を飼育し始めた当初に飼育の仕方を学んだ方法 GQ2補問：飼育の仕方を学んだ方法を選んだ理由 GQ3：現在の継続状況 GQ3補問1：錦鯉の飼育を続けている理由 GQ3補問2：錦鯉の飼育から離れたきっかけや理由						

	<p>G Q 4 : 錦鯉の飼育を続けている（続けていた）年数</p> <p>G Q 5 : 錦鯉の飼育に関する活動内容</p> <p>G Q 6 : 錦鯉の飼育に関する活動頻度</p> <p>G Q 7 : 錦鯉の飼育に関する月額費用</p> <p>G Q 8 : 錦鯉の飼育に関する興味関心や魅力</p>
	<p>【「イベント等で錦鯉の飼育体験や観賞をしたことはある」と回答した者への設問】</p> <p>G Q 9 : 錦鯉に触れ合ったり観賞したりしたきっかけ</p> <p>G Q 10 : 錦鯉に触れ合ったり観賞したりした場</p> <p>G Q 11 : 錦鯉を飼育しやすい状況</p> <p>G Q 12 : 錦鯉の飼育に支払える月額費用</p> <p>G Q 13 : 錦鯉を飼育していない理由</p> <p>G Q 14 : 錦鯉の飼育や観賞に対する印象やイメージ</p> <p>G Q 15 : 錦鯉の飼育に関する興味関心や魅力</p>
	<p>【「今まで錦鯉の飼育をしたことはない」と回答した者への設問】</p> <p>G Q 16 : 参加してみたい錦鯉の観賞の体験内容</p> <p>G Q 17 : 参加しやすい錦鯉の観賞の体験条件</p> <p>G Q 18 : 錦鯉の観賞体験をしたことがない理由</p> <p>G Q 19 : 錦鯉の飼育や観賞に対する印象やイメージ</p> <p>G Q 20 : 錦鯉の飼育に関する興味関心や魅力</p>
	<p>【共通設問】</p> <p>Q 1 : 趣味・余暇活動の参加状況</p> <p>Q 2 : 1ヶ月に使える趣味・余暇費用</p> <p>Q 3 : 1ヶ月に使える趣味・余暇時間</p> <p>Q 4 : 趣味・余暇活動を行う時間帯</p> <p>Q 5 : 消費行動に対する価値観</p> <p>Q 6 : 接触メディア</p>

■調査結果を見る上での注意事項

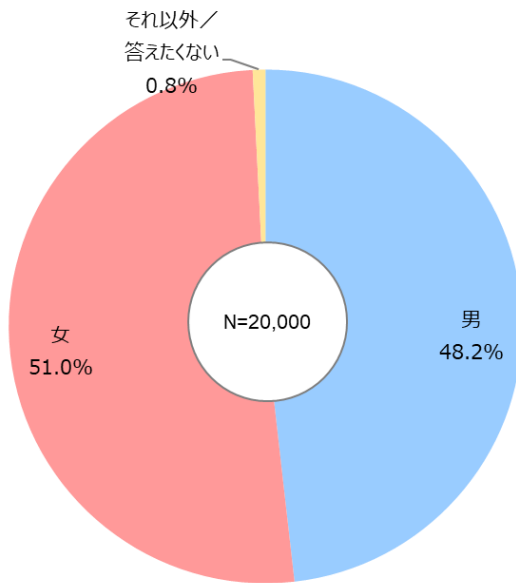
- ・集計は小数点第2位を四捨五入している。したがって、回答比率の合計は必ずしも100%にならない場合がある。
- ・集計表では、各回答の回答比率を示しているほか、属性（性別、年齢など）や設問間でのクロス集計を行った数値を示している。各回答の全体平均を比較して、±5ptもしくは±10ptの開きがある場合は色付けをしており、凡例を付してある。なお、5pt丁度、10pt丁度の場合、色付けを行っていない。
- ・集計によっては、母数が少なく、結果の信頼性が担保できないものがあるため、母数が少ない集計結果については、留意のため、グレーで表示している。
- ・調査設問項目【属性】のF3居住地は、総務省「地域別表章に関するガイドライン」の「類型I」に沿って、下記のとおり都道府県を分類している。
 北海道：北海道
 東北：青森県・岩手県・宮城県・秋田県・山形県・福島県
 関東：茨城県・栃木県・群馬県・埼玉県・千葉県・東京都・神奈川県・山梨県・長野県
 北陸：新潟県・富山県・石川県・福井県
 東海（中部）：岐阜県・静岡県・愛知県・三重県
 近畿：滋賀県・京都府・大阪府・兵庫県・奈良県・和歌山県

中国：鳥取県・島根県・岡山県・広島県・山口県
 四国：徳島県・香川県・愛媛県・高知県
 九州：福岡県・佐賀県・長崎県・熊本県・大分県・宮崎県・鹿児島県
 沖縄：沖縄県

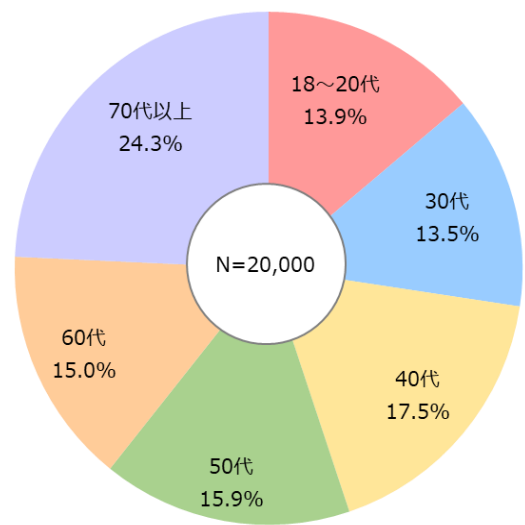
(2) 調査結果概要

1. 属性

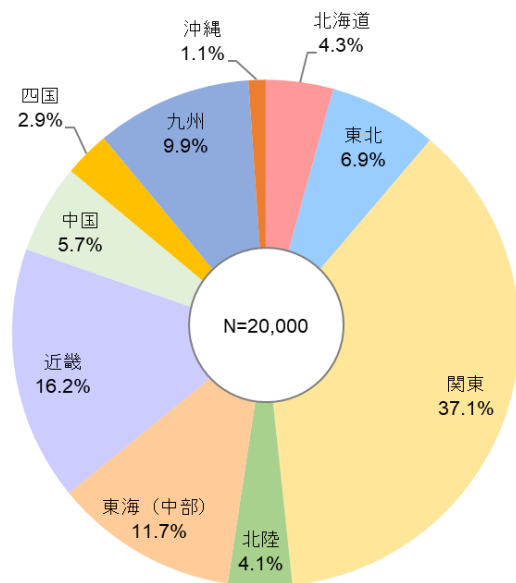
①性別



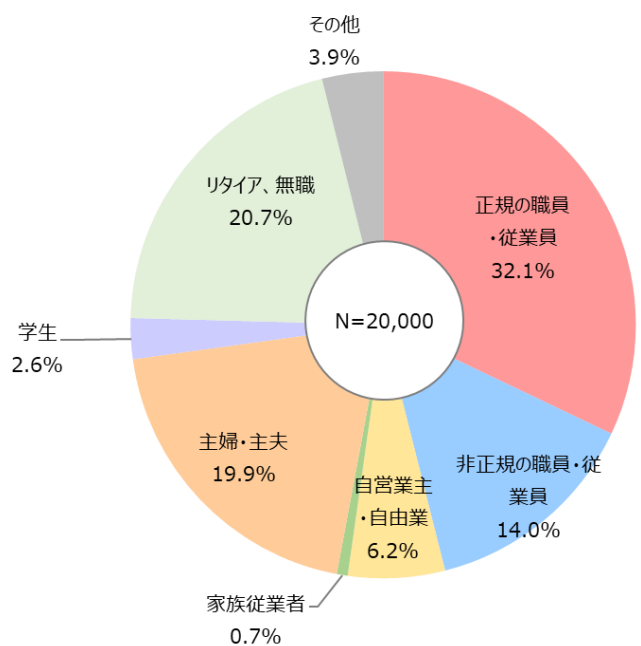
②年齢



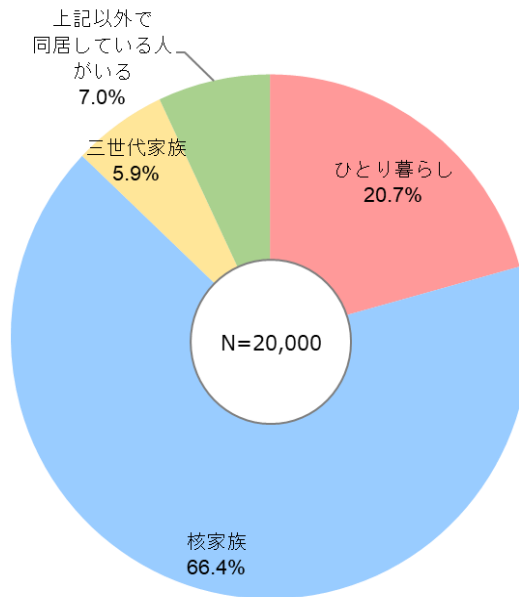
③居住地



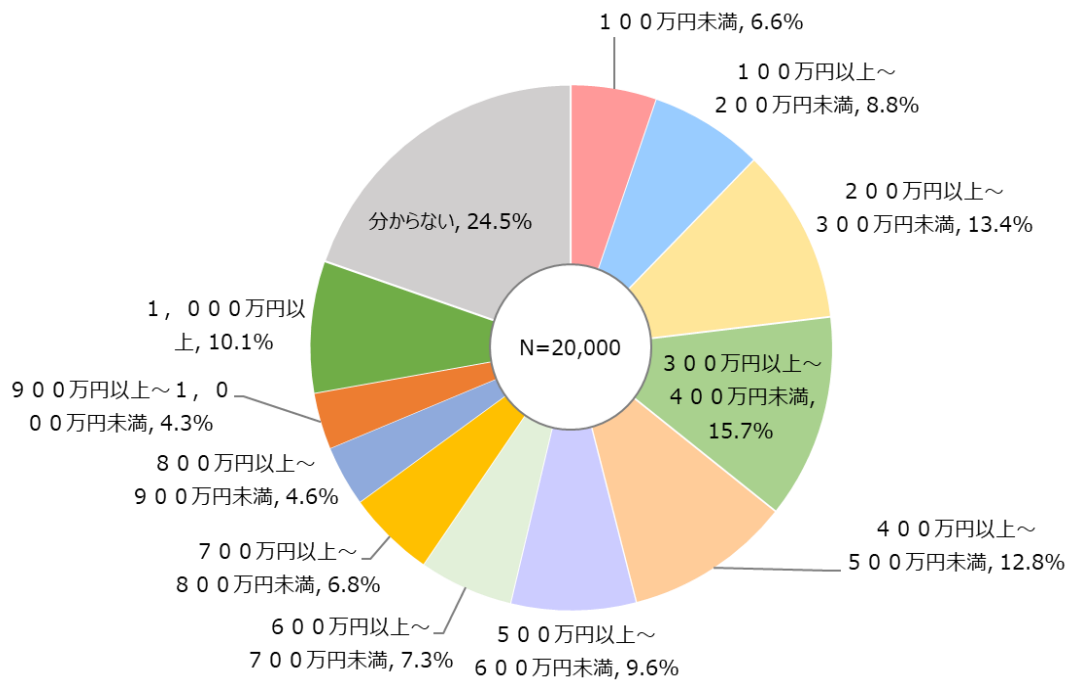
④職業



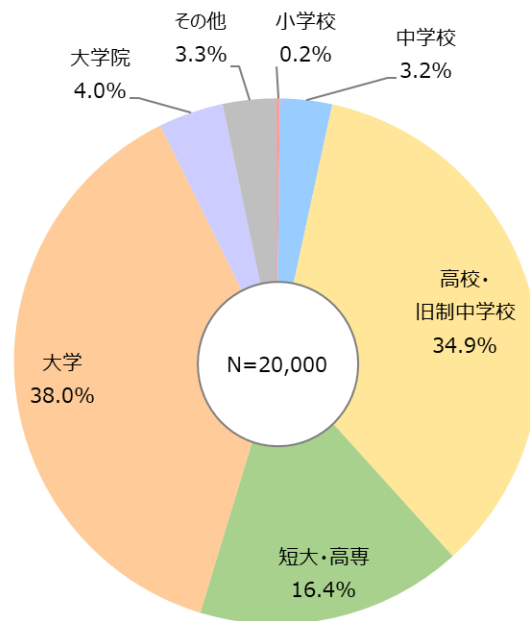
⑤同居している人の状況



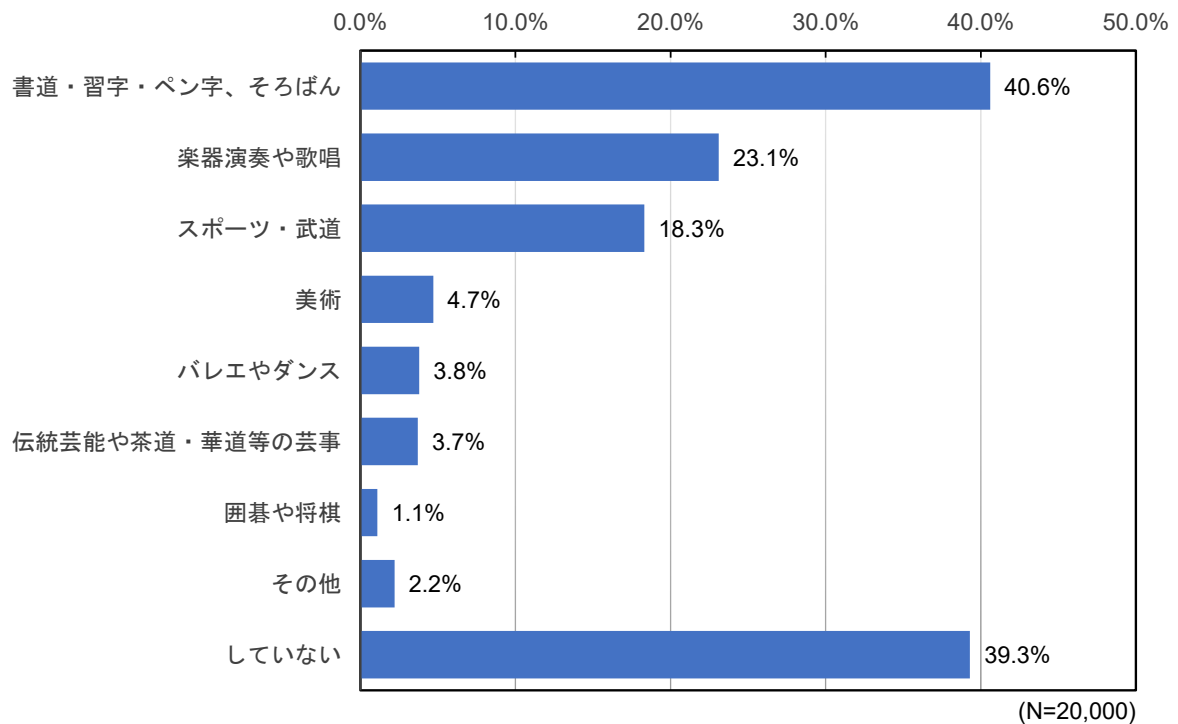
⑥昨年度の世帯全体の年収



⑦最終学歴



⑧子供の頃の習い事（複数回答）



(その他の内容) 英会話教室、学習塾、ボーイスカウト

2. 共通設問

共通1 あなたは下記のスポーツや趣味、娯楽等の活動をされていますか。(複数回答)

【スポーツ (観戦除く)】

		(件・%)											
全体	ウォーキング	ジョギング・マラソン	トレーニング	体操(器具を使わないもの)	ゴルフ(コース)	ゴルフ(練習場)	釣り	水泳(プールでの)	サイクリング・サイクスポート	テニス	球キャッチボール・野球	スキー	
		32.1	7.8	7.0	6.3	5.1	4.0	3.6	3.4	2.9	2.8	2.3	2.3
	卓球	エアロビクス、ジャズダンス	ボウリング	サッカー	バトミントン	スノーボード	バレーボール	柔道・剣道・空手などの武道	バスケットボール	フットサル	スキューバダイビング・グライダー	パークゴルフ・フなど	ウインドゴルフなどの
		2.1	2.0	1.8	1.8	1.6	1.2	1.1	1.1	1.0	0.9	0.8	0.7
	ソフトボール	サーフィン・ウィンドサーフィン	乗馬	アイススケート	ゲートボール	ヨット・モーターボート	カー・ラフティン	ハンググライダー・パラグライダー					
20,000	0.7	0.5	0.4	0.4	0.2	0.2	0.2	0.1					

【趣味・創作】

		(件・%)											
全体	音楽鑑賞(配信、CD、レコード、FMなど)	読書(仕事、勉強などを除く)	映画(テレビは除く)	動画鑑賞(レンタル、配信を含む)	園芸、庭いじり	音楽会、コンサートなど	スポーツ観戦(テレビは除く)	美術鑑賞(テレビは除く)	ファッション(楽しみとしての)	編物、織物、手芸	観劇(テレビは除く)	洋楽の演奏	
		17.3	16.1	14.5	13.6	12.8	10.8	7.4	6.7	5.9	5.9	4.9	4.7
	日曜大工	料理(日常的なものを除く)	写真の制作	学習・調べもの	絵を描く、彫刻をする	洋裁、和裁	詩、和歌、俳句など	文芸の創作(小説、戯作)	動画の制作・編集	演芸鑑賞(テレビは除く)	お花	模型づくり	書道
		4.6	4.3	3.9	3.7	3.0	2.9	2.3	2.1	2.0	1.8	1.8	1.7
	お茶	趣味工芸(組ひも、細工など)	邦楽、民謡	コーラス	陶芸	洋舞、社交ダンス	おどり(日舞など)						
20,000	1.6	1.5	1.5	1.1	1.0	0.8	0.4						

【娯楽】

		(件・%)										
全体	テレビゲーム（家庭用）	カラオケ	温泉施設（健康ランド、クアハウス、スパ銭湯等）	宝くじ	外食（日常的なものを除く）	ソーシャルゲームなどのオンラインゲーム	中央競馬	バーベキュー	麻雀	パチンコ	将棋	サウナ
	7.9	6.9	6.8	5.8	5.5	5.3	4.7	3.8	3.7	3.7	2.8	2.7
	ゲームセンター、ゲームコーナー	カラオケ、花札など	地方競馬	サッカーくじ（toto）	バー、飲み屋	囲碁	ボートレース（競艇）	競輪	ビリヤード	オートレース	クラブ、キャバレー	ディスコ
20,000	2.5	2.3	1.9	1.8	1.7	1.2	1.2	1.0	0.9	0.5	0.5	0.3

【観光・行楽】

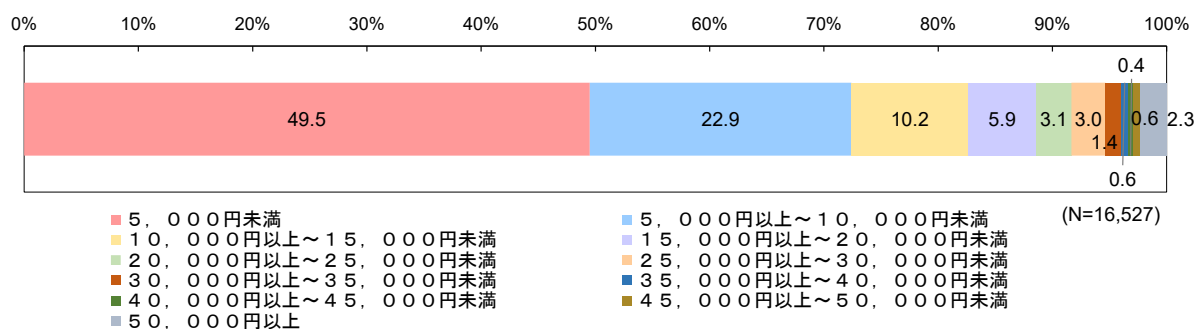
		(件・%)										
全体	国内観光旅行（避暑、避寒、温泉など）	ドライブ	動物園、植物園、水族館、博物館	海外旅行	ピクニック・ハイキング・野外散歩	遊園地	帰省旅行	催し物、博覧会	登山	海水浴	オートキャンプ	フィールドアスレチック
	30.7	17.9	12.4	9.2	6.9	6.4	6.4	5.4	4.0	2.1	2.0	0.6
	20,000											

【その他・特に何もしていない】

		(件・%)									
全体	複合ショッピングセンター、アウトレツトモール	ウインドウショッピング	ペット（遊ぶ、世話をする）	SNS、ツイッターなどのデジタルコミュニケーション	ヨガ、ピラティス	ボランティア活動	農園（市民農園など）	エステティック、ホームエステ	クルージング（客船による）	自由記述	特に何もしていない
	15.7	11.2	8.7	6.2	3.3	2.9	2.1	1.6	1.1	0.8	17.4
	20,000										

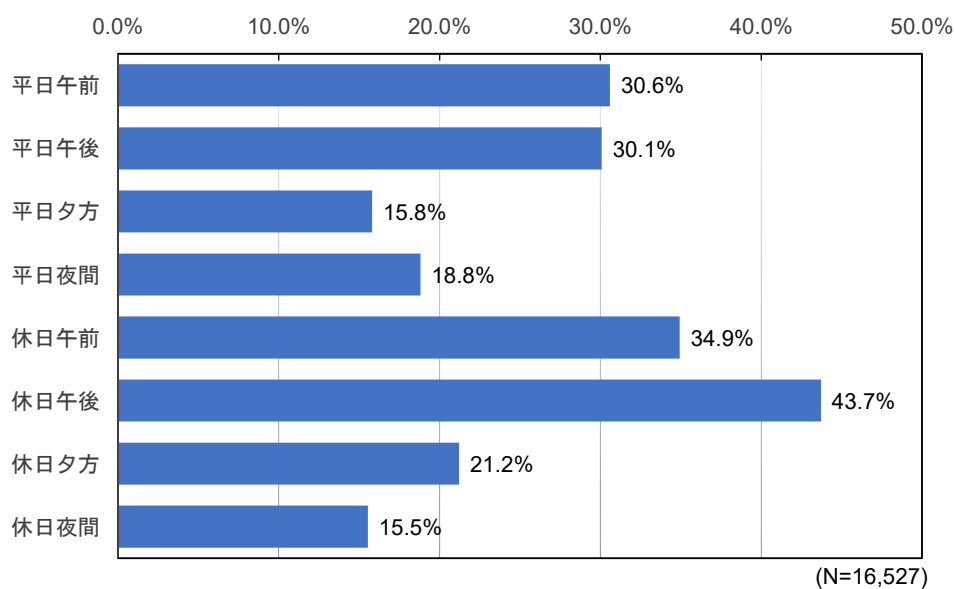
<共通1で「特に何もしていない」以外を回答した方>

共通2 あなたは、スポーツや趣味、娯楽等の活動に、平均月どの程度の費用を払っていますか。



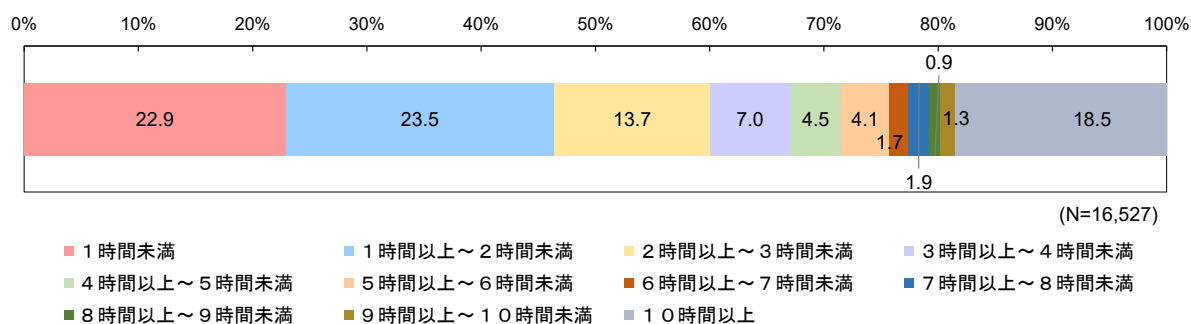
<共通1で「特に何もしていない」以外を回答した方>

共通3 あなたが、スポーツや趣味、娯楽等の活動をよくする時間帯を教えてください。(複数回答)

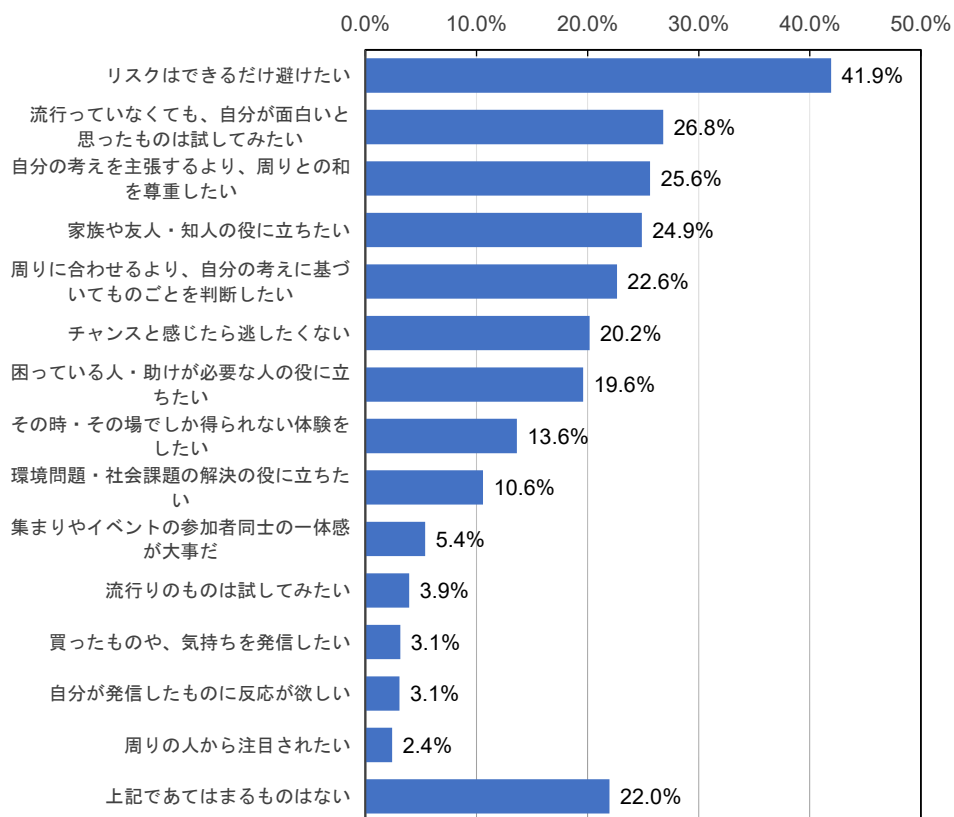


<共通1で「特に何もしていない」以外を回答した方>

共通4 あなたは、スポーツや趣味、娯楽等の活動に、平均月どの程度の時間をかけていますか。

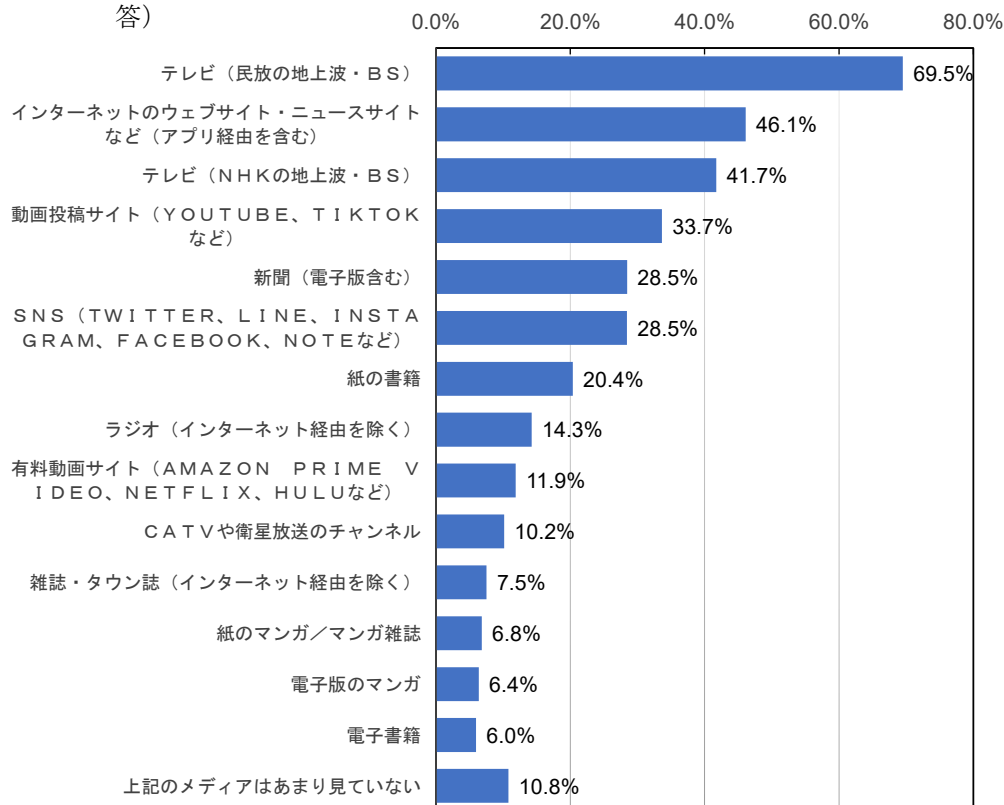


共通5 下記の中で、あなたのお考え、意識に近いものを教えてください。(複数回答)



(N=20,000)

共通6 下記の中で、あなたが普段よくご覧になっているメディアを教えてください。(複数回答)



(N=20,000)

3. 単純集計の結果について

■全調査対象者への設問（FQ6：錦鯉の経験・体験の有無）

錦鯉の飼育をしたことがある者、あるいは全く飼育をしたことがない者がどの程度いるのかは、統計調査等では明らかとなっていない。加えて、錦鯉の「経験」にも深度があり、飼育をしたり養鯉場を営んでいたなどの経験がある者や、イベント等で錦鯉の飼育や観賞等の体験をしたりしたことがある者等があると想定される。経験の有無を大別するならば、錦鯉を趣味あるいは職業として飼育したことがある者、イベント等で飼育あるいは観賞等の体験をした者、そして飼育等の経験がない者に分けることができると考えられる。

本設問では、上記の想定に基づき、錦鯉の経験の有無とあわせて、経験の深度を図る選択肢を設けて、実態の把握を行った。

FQ6 錦鯉の経験の有無

経験率を見ると、「錦鯉を飼育している（いた）、あるいは錦鯉の養鯉業を営んでいる（いた）」（以下、「経験あり」）比率は2.4%（487人）、「イベント等で錦鯉の飼育体験や観賞をしたことはある」（以下、「参加体験あり」）7.3%（1,451人）、「今まで錦鯉の飼育をしたことはない」（以下「未経験」）90.3%（18,062人）となった。

男女別では、男性で「経験あり」、「参加体験あり」と回答した者の回答比率がそれぞれ全体平均を上回っており、若干男性が高い。

年齢別では、「参加体験あり」という回答比率について年齢が若い方が高くなっており、特に18～20代で11.5%と高い。

		n=		%		
				錦鯉を飼育している(いた)、 あるいは錦鯉の養鯉業を 営んでいる(いた)	イベント等で錦鯉の飼育体験や 観賞をしたことはある	今まで錦鯉の飼育を したことはない
全体		20,000	2.4 7.3	90.3		
性別	男	9,645	3.0 7.4	89.5		
	女	10,202	1.9 7.1	91.0		
	それ以外／答えたくない	153	0.7 3.9	95.4		
年齢	18～20代	2,781	3.3 11.5	85.2		
	30代	2,691	2.5 9.4	88.1		
	40代	3,496	1.9 7.6	90.4		
	50代	3,178	2.0 5.6	92.4		
	60代	3,002	2.7 6.2	91.1		
	70代以上	4,852	2.3 5.1	92.6		

図1 FQ6：錦鯉の経験の有無

■「錦鯉を飼育している（いた）、あるいは錦鯉の養鯉業を営んでいる（いた）」と回答した者への設問（GQ1～GQ8：経験者の実態把握）

本設問群では、錦鯉の飼育を経験したことがあると回答した者が、どのようなきっかけや機会です錦鯉の飼育等を行うようになったのか、また、興味関心を持っているのか等を経験の実態を把握するためのアンケートを実施した。

GQ1 錦鯉を飼育し始めたきっかけ

全体平均で最も回答比率が高いのは「親や兄弟姉妹・祖父母など家族が飼育していた」の60.8%で、次いで「学校や職場で飼育されているのを見たり、公園や庭園、養鯉場や錦鯉品評会、文化施設等やイベントで観賞をしたりした」13.6%、「友人、知人などが錦鯉を飼育していて、勧められた・誘われた」12.5%、「趣味や教養として、錦鯉に興味関心があった」11.9%と続く。

全体平均の回答比率と男女別、年齢別、経験年数別の回答比率とを比較すると、男女別では男性で「親や兄弟姉妹・祖父母など家族が飼育していた」（54.5%）の回答比率が全体平均より低く、女性で70.6%と高い。

次に年齢別で見ると、年齢が高いほど「親や兄弟姉妹・祖父母など家族が飼育していた」という回答比率が高く、「親や兄弟姉妹・祖父母など家族が養鯉場を営んでいた」という回答比率が低くなる傾向が見られる。また、経験年数別で見ると、「親や兄弟姉妹・祖父母など家族が飼育していた」については、経験年数が長いほど回答比率が高くなっている傾向が見られる。

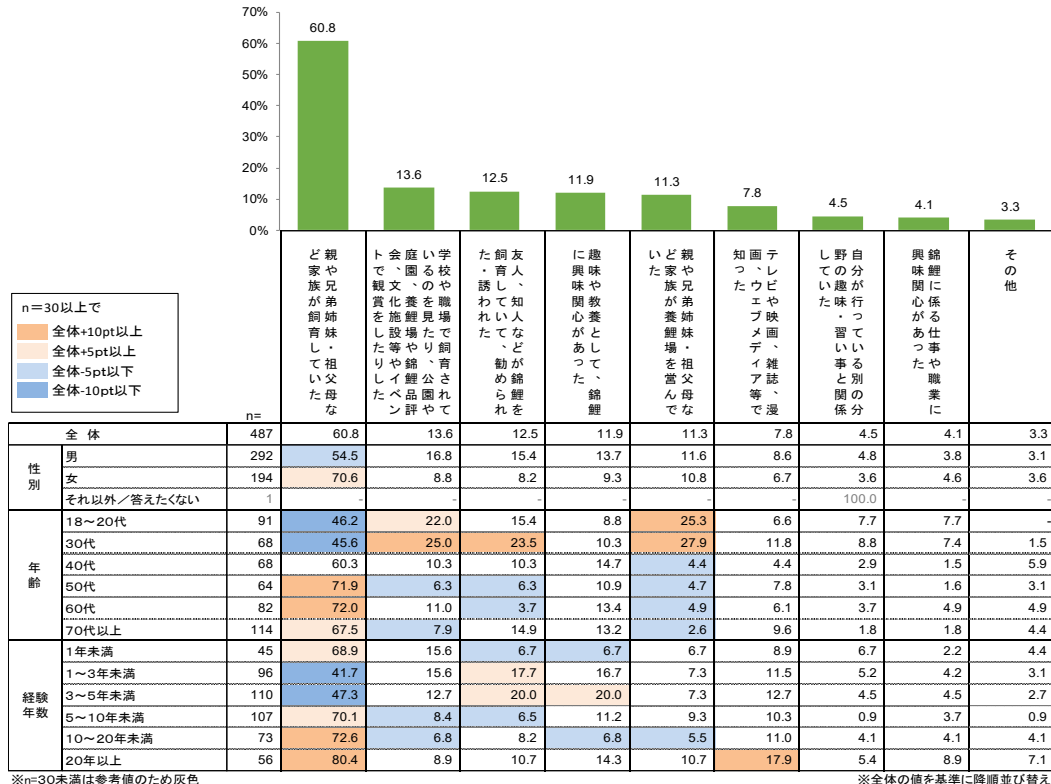


図2 GQ1：錦鯉を飼育し始めたきっかけ

(その他の内容) 貰った、お店で見て飼いたくなった

G Q 2 錦鯉を飼育し始めた当初に飼育の仕方を読んだ方法

全体平均で最も回答比率が高いのは「家族や知人等、身近な人に教えてもらっていた」の61.4%で、次いで「雑誌や専門書等を見て学んでいた」17.5%、「錦鯉の愛好者団体に教えてもらっていた」15.2%、「養鯉場で教えてもらっていた」14.8%と続く。

全体平均の回答比率と男女別、年齢別、経験年数別の回答比率とを比較すると、男女別では「家族や知人等、身近な人に教えてもらっていた」が男性56.2%、女性69.6%と女性の回答比率の方が高く、飼育し始めたきっかけと同様の傾向が見られる。

次に年齢別では、10～30代で「錦鯉の愛好者団体に教えてもらっていた」という回答比率が高い一方、50代以上で低い。逆に、50代以上では、「家族や知人等、身近な人に教えてもらっていた」の回答比率が高い傾向が見られる。

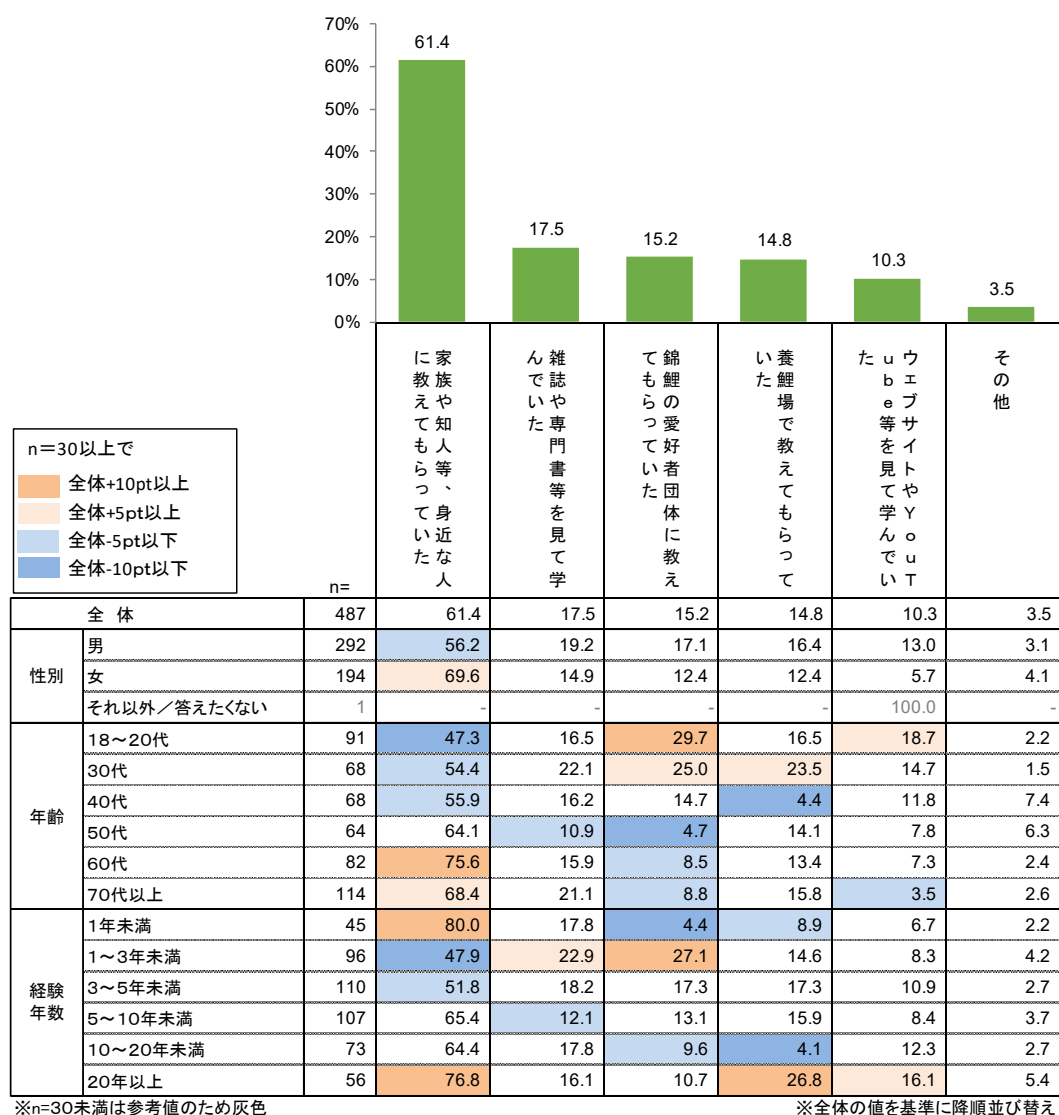


図3 G Q 2 : 錦鯉を飼育し始めた当初に飼育の仕方を読んだ方法

(その他の内容) 学んでいない、自分流、学校で飼育していた

G Q 2 補問 飼育の仕方を学んだ方法を選んだ理由

全体平均で最も回答比率が高いのは「家族や友人等と一緒に良かった」の 33.7%で、次いで「手軽にやってみたかった」18.5%、「通いやすい場所だった」、「費用が手頃だった」（共に 14.6%）と続く。

全体平均の回答比率と年齢別の回答比率とを比較すると、年齢別では、10～30代で「通いやすい場所だった」、「費用が手頃だった」の回答比率が高く、70代以上で「手軽にやってみたかった」（35.1%）という回答比率が高い。

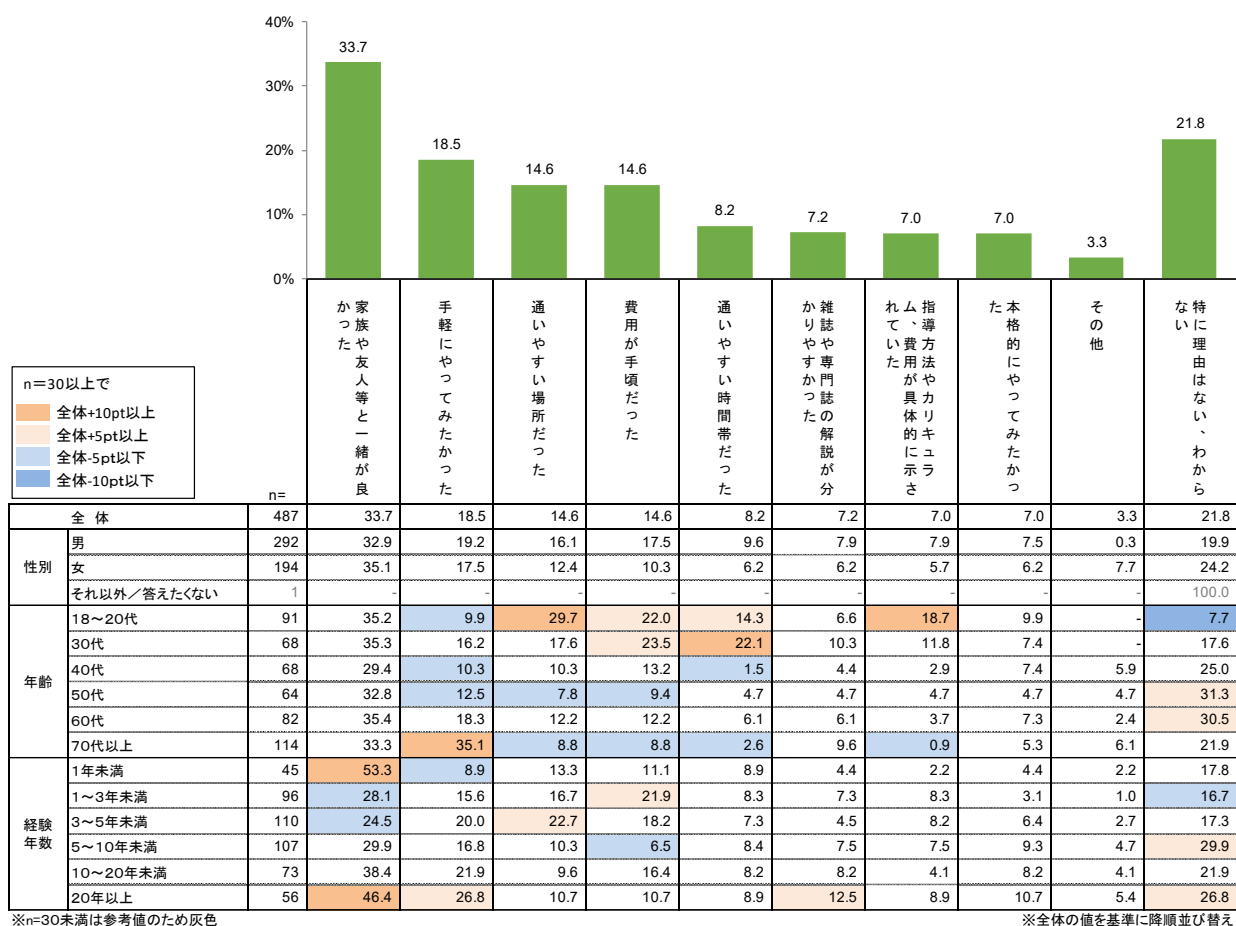


図4 G Q 2 補問：飼育の仕方を学んだ方法を選んだ理由

(その他の内容) 家に池があった、金魚と同じだと思ったから、手伝わねばならない状況だった

G Q 3 現在の継続状況

「続けている」は 34.1% (166 人)、「続けていない」は 65.9% (321 人) で続けていないとの回答比率が高い。

全体平均の回答比率と男女別、年齢別、経験年数別の回答比率とを比較すると、男女別では男性で「続けている」が 41.4% と高い。

次に、年齢別では若い人ほど「続けている」という回答比率が高くなっている。

経験年数別では、20 年以上の回答比率が最も高く、次に 1～3 年未満と続く。

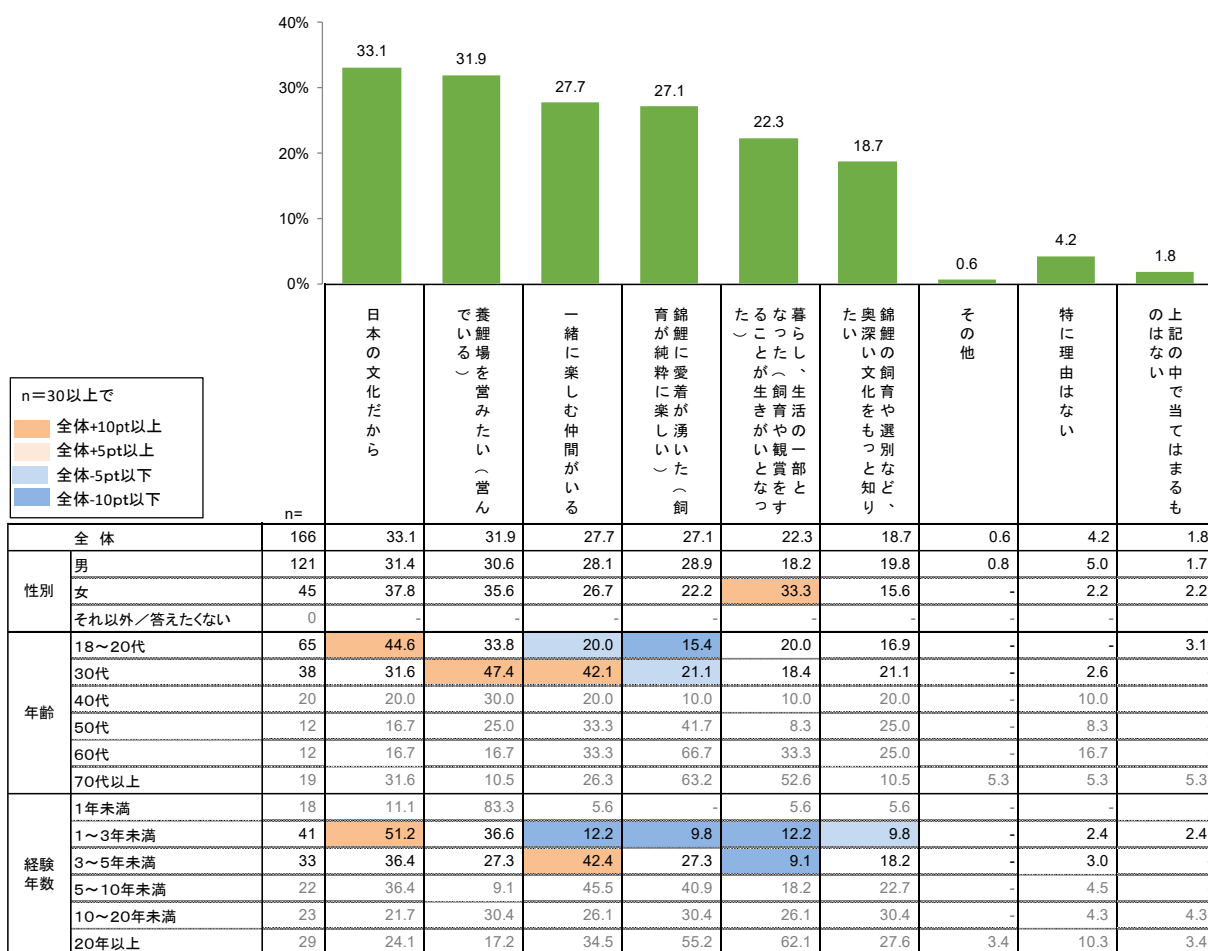
			(%)	
			続けている	続けていない
n=				
全体		487	34.1	65.9
性別	男	292	41.4	58.6
	女	194	23.2	76.8
	それ以外/答えたくない	1		100.0
年齢	18～20代	91	71.4	28.6
	30代	68	55.9	44.1
	40代	68	29.4	70.6
	50代	64	18.8	81.3
	60代	82	14.6	85.4
	70代以上	114	16.7	83.3
経験年数	1年未満	45	40.0	60.0
	1～3年未満	96	42.7	57.3
	3～5年未満	110	30.0	70.0
	5～10年未満	107	20.6	79.4
	10～20年未満	73	31.5	68.5
	20年以上	56	51.8	48.2

※n=30未満は参考値のため灰色

図5 G Q 3 : 現在の継続状況

GQ4 錦鯉の飼育を続けている理由

全体平均で最も回答比率が高いのは「日本の文化だから」の33.1%で、次いで「養鯉場を営みたい（営んでいる）」31.9%、「一緒に楽しむ仲間がいる」27.7%、「錦鯉に愛着が湧いた（飼育が純粋に楽しい）」27.1%と続く。



※n=30未満は参考値のため灰色

※全体の値を基準に降順並び替え

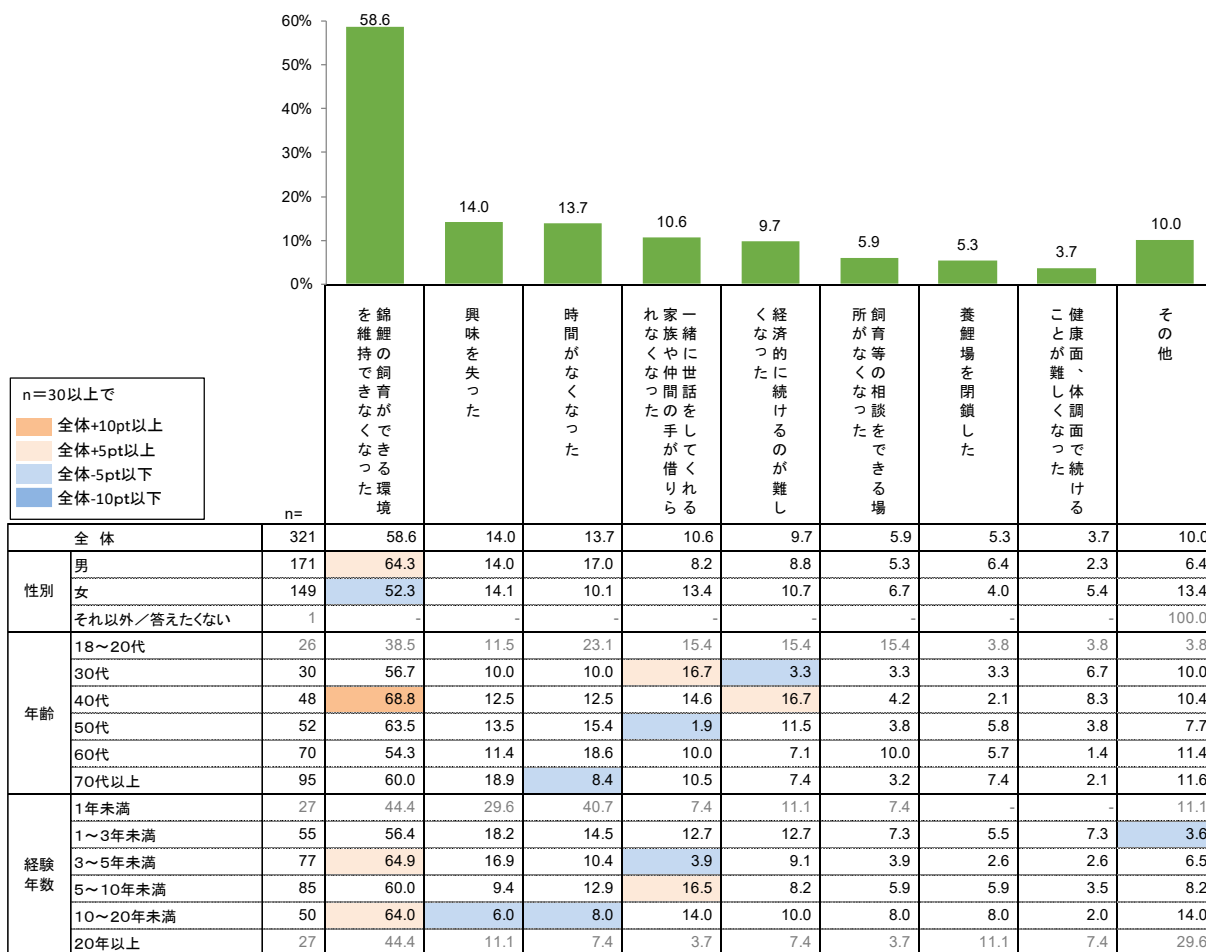
図6 GQ3補問1：錦鯉の飼育を続けている理由

(その他の内容) 自宅に池があるから

G Q 3 補問 2 錦鯉の飼育から離れたきっかけや理由

全体平均で最も回答比率が高いのは、「錦鯉の飼育ができる環境を維持できなくなった」の58.6%で、次いで「興味を失った」14.0%、「時間がなくなった」13.7%と続く。

全体平均の回答比率と男女別、経験年数別の回答比率とを比較すると、男女別では、男性で「錦鯉の飼育ができる環境を維持できなくなった」(64.3%)の回答比率が高く、女性で52.3%と低い。経験年数別では、年数が少ないほど「興味を失った」という回答比率が高い傾向が見られる。



※n=30未満は参考値のため灰色

※全体の値を基準に降順並び替え

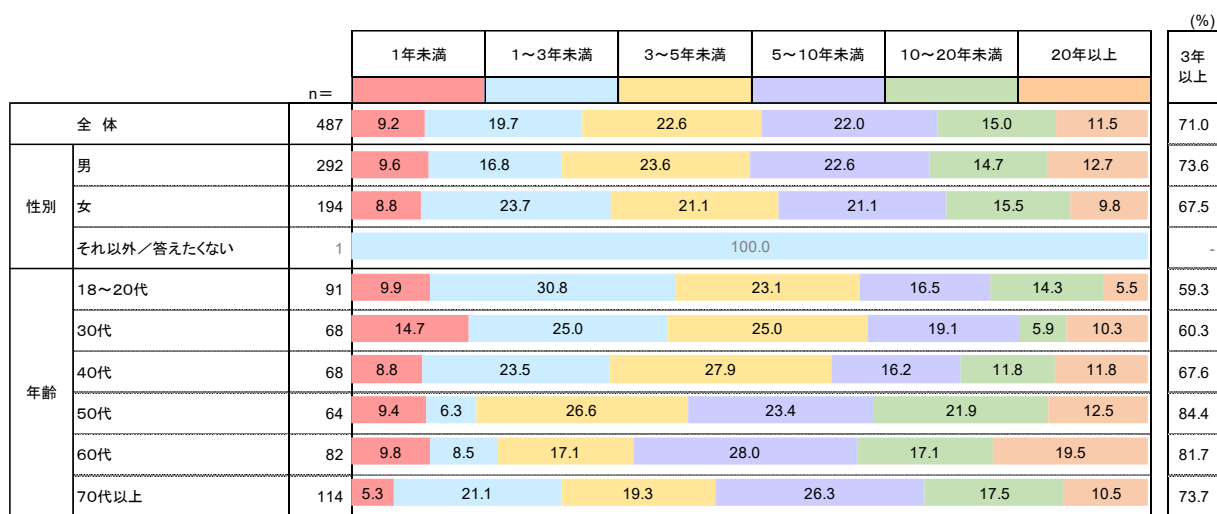
図7 G Q 3 補問 2 : 錦鯉の飼育から離れたきっかけや理由

(その他の内容) 鯉が死んでしまった、引越しをした、池を埋め立てた、水槽に入らなくなった

GQ4 錦鯉の飼育を続けている（続けていた）年数

全体平均で最も回答比率が高いのは、「3～5年未満」の22.6%で、次いで「5～10年未満」22.0%、「1～3年未満」19.7%と続く。全体平均で3年以上続けている（いた）人の比率は71.0%となっている。

全体平均の回答比率と男女別の回答比率とを比較すると、男女別では、3年以上の継続者が、男性で73.6%（292人中215人）、女性で67.5%（194人中131人）となっており、男性の方が長期に続けている（いた）人が多い。



※n=30未満は参考値のため灰色

図8 GQ4：錦鯉の飼育を続けている（続けていた）年数

GQ5 錦鯉の飼育に関する活動内容

全体平均で最も回答比率が高いのは、「自宅等の池で飼育している（いた）」の64.3%で、次いで「自宅等の水槽で飼育している（いた）」32.9%、「養鯉場に預けて飼育してもらっている（いた）」11.3%、「錦鯉の品評会に出品している（いた）」7.0%と続く。

全体平均の回答比率と年齢別の回答比率とを比較すると、年齢別では50代以上の者で「自宅等の池で飼育している（いた）」が多く、若いほど「自宅等の水槽で飼育している（いた）」、「養鯉場に預けて飼育してもらっている（いた）」という回答比率が高くなっている。

また、経験年数別では、経験年数が5年以上で「自宅等の池で飼育している（いた）」の回答比率が高い傾向が見られる一方、1年以上5年未満では「自宅等の水槽で飼育している（いた）」の回答比率が高い傾向にあり、年代によって、また、経験年数によって飼育の仕方に傾向が見られる。

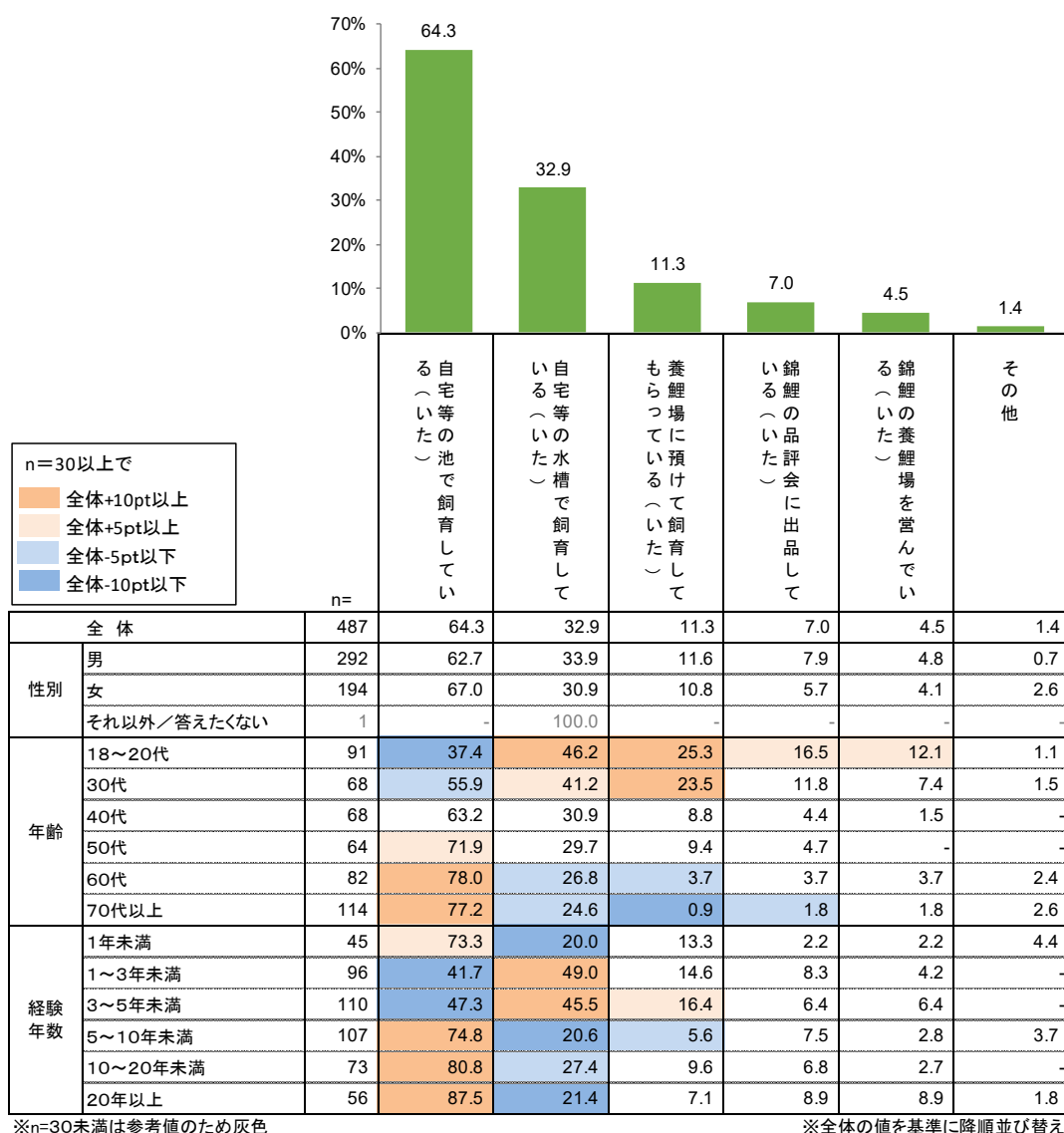


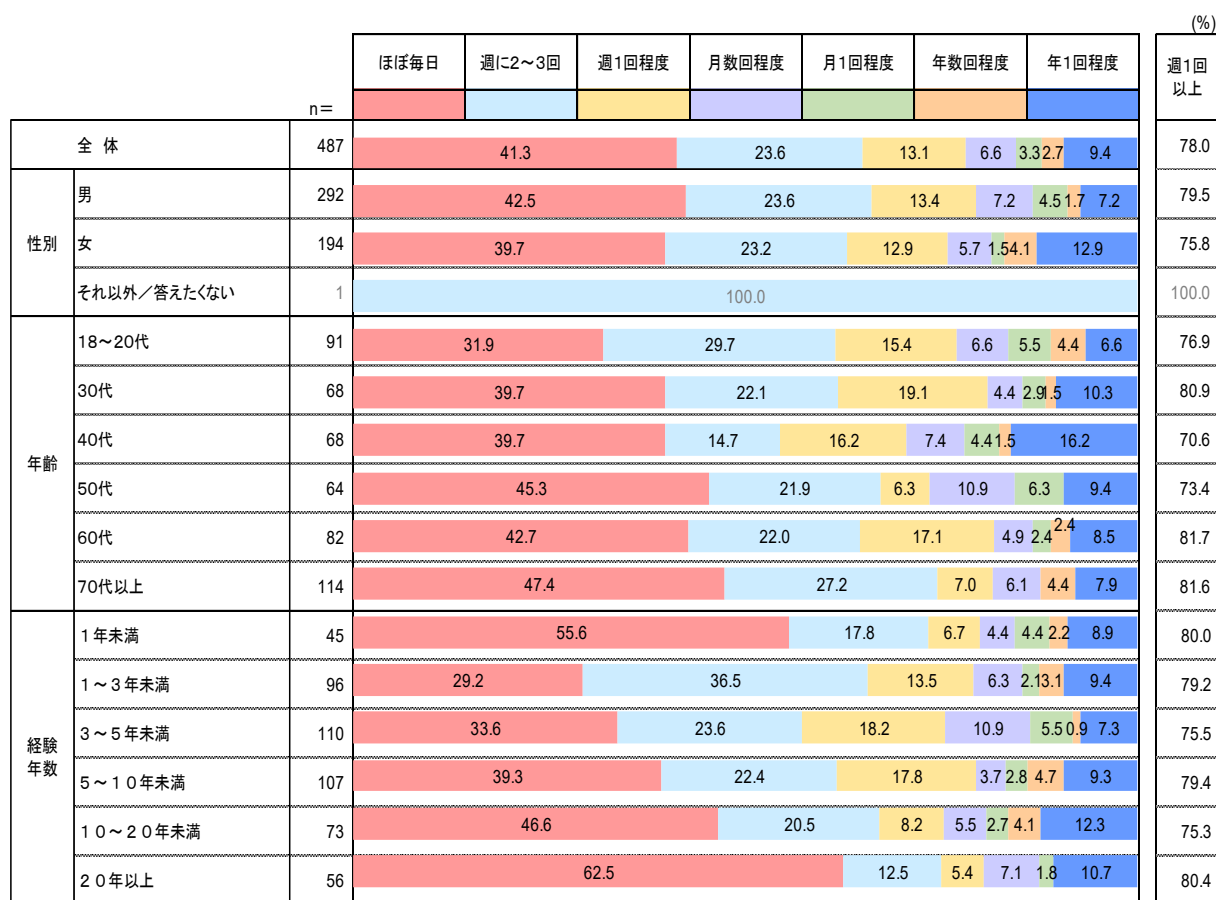
図9 GQ5：錦鯉の飼育に関する活動内容

(その他の内容) 学校で飼育している、実家で飼育していた

GQ6 錦鯉の飼育に関する活動頻度

全体平均で最も回答比率が高いのは、「ほぼ毎日」の 41.3%で、次いで「週に2～3回」23.6%、「週1回程度」13.1%と続く。週1回以上活動している（いた）比率は78.0%（487人中380人）である。男女別では、男性で週1回以上活動している（いた）比率が79.5%（292人中232人）、女性で75.8%（194人中147人）となっている。

全体平均の回答比率と経験年数別の回答比率とを比較すると、「ほぼ毎日」（41.3%）と回答した者のうち、20年以上の経験年数の者（62.5%）が全体平均を大きく上回っているほか、「週に2～3回」（23.6%）と回答した者では、1～3年未満の経験年数の者（36.5%）が全体平均を大きく上回る回答比率となっている。



※n=30未満は参考値のため灰色

図10 GQ6：錦鯉の飼育に関する活動頻度

GQ7 錦鯉の飼育に関する月額費用

全体平均で最も回答比率が高いのは、「1万円未満」の60.4%で、次いで「1万円以上～5万円未満」22.0%、「5万円以上～10万円未満」9.7%と続く。月額5万円以上支出している（いた）比率は17.7%（487人中86人）である。

全体平均の回答比率と年齢別、経験年数別の回答比率とを比較すると、年齢別で見た場合、「1万円未満」（60.4%）と回答した者のうち40代、60代、70代以上で全体平均の回答比率を上回っている。また、「1万円以上～5万円未満」（22.0%）では18～20代が、「5万円以上～10万円未満」（9.7%）では、18～20代、30代の回答比率が高い傾向にある。

		n=	1万円未満							5万円以上合計									
		n=	1万円未満	5万円未満	10万円未満	10万円未満	15万円未満	15万円以上	10万円以上	5万円以上	10万円以上	15万円以上	20万円以上	25万円以上	30万円以上	35万円以上	40万円以上	45万円以上	50万円以上
全体		487	60.4	22.0	9.7	4.1	2.1	1.8	17.7										
性別	男	292	58.2	24.3	9.2	4.1	2.4	1.7	17.5										
	女	194	63.4	18.6	10.3	4.1	1.5	2.1	18.0										
	それ以外／答えたくない	1	100.0	-	-	-	-	-	-										
年齢	18～20代	91	24.2	39.6	20.9	4.4	6.6	4.4	36.3										
	30代	68	39.7	23.5	22.1	8.8	2.9	2.9	36.8										
	40代	68	72.1	16.2	8.8	2.9	-	-	11.8										
	50代	64	62.5	23.4	4.7	4.7	3.1	1.6	14.1										
	60代	82	82.9	13.4	-	1.2	-	2.4	3.7										
	70代以上	114	77.2	15.8	3.5	3.5	-	-	7.0										
経験年数	1年未満	45	80.0	13.3	4.4	2.2	-	-	6.7										
	1～3年未満	96	57.3	28.1	11.5	3.1	-	-	14.6										
	3～5年未満	110	54.5	20.0	19.1	5.5	0.9	-	25.5										
	5～10年未満	107	63.6	16.8	9.3	4.7	3.7	1.9	19.6										
	10～20年未満	73	57.5	24.7	4.1	4.1	6.8	2.7	17.8										
	20年以上	56	58.9	28.6	-	3.6	-	8.9	12.5										

※n=30未満は参考値のため灰色

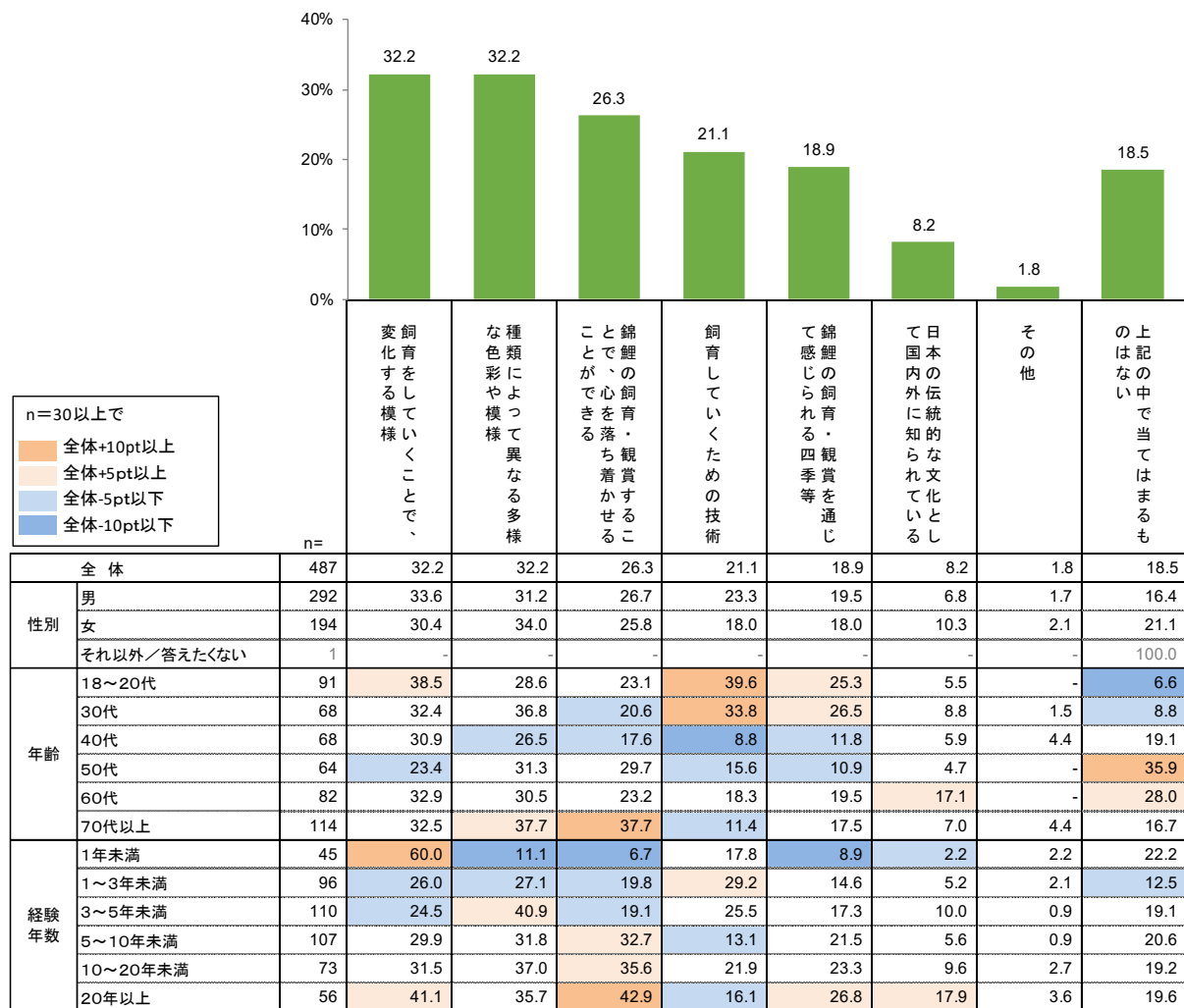
図 11 GQ7：錦鯉の飼育に関する月額費用

G Q 8 錦鯉の飼育に関する興味関心や魅力

全体平均で最も回答比率が高いのは、「飼育をしていくことで、変化する模様」と「種類によって異なる多様な色彩や模様」（ともに 32.2%）で、次いで「錦鯉の飼育・観賞することで、心を落ち着かせることができる」26.3%、「飼育していくための技術」21.1%と続く。

全体平均の回答比率と年齢別、経験年数別の回答比率とを比較すると、年齢別では、10～30代で「飼育していくための技術」、「錦鯉の飼育・観賞を通じて感じられる四季等」の回答比率が高い傾向が見られる。

次に経験年数別では、経験年数が5年以上と回答した者ほど「錦鯉の飼育・観賞することで、心を落ち着かせることができる」の回答比率が高く、経験年数1年未満では「飼育をしていくことで、変化する模様」の回答比率が高い傾向があり、経験年数によって錦鯉に感じる興味関心や魅力に違いが見られる。



※n=30未満は参考値のため灰色

※全体の値を基準に降順並び替え

図 12 G Q 8 : 錦鯉の飼育に関する興味関心や魅力

(その他の内容) ペットとしてかわいい、飼育が楽しい、とにかく美しい

■ 「イベント等で錦鯉の飼育体験や観賞をしたことはある」と回答した者への設問（GQ9～GQ15：参加体験者の実態把握）

本設問では、錦鯉の飼育や観賞体験をイベント等で体験したと回答した者が、どのようなきっかけや機会に錦鯉に関わる体験をしたのか、また、どの程度錦鯉に興味関心を持っているのか等を把握するためのアンケートを実施した。

GQ9 錦鯉に触れ合ったり観賞したりしたきっかけ

全体平均で最も回答比率が高いのは、「学校や職場で飼育されているものや、公園や庭園、文化施設等で行われているイベントで見た」の45.0%で、次いで「テレビや映画、雑誌、漫画、ウェブメディア等で知った」21.6%、「親や兄弟姉妹・祖父母など家族が飼育していた」20.3%と続く。

全体平均の回答比率と年齢別の回答比率とを比較すると、年齢別では50代以上で「親や兄弟姉妹・祖父母など家族が飼育していた」という回答比率が高く、30代では、「学校や職場で飼育されているものや、公園や庭園、文化施設等で行われているイベントで見た」との回答比率が高い傾向にある。

また、60代以上では「親や兄弟姉妹・祖父母など家族が養鯉場を営んでいた」という回答比率は低く、10～50代の回答比率が全体平均を少し上回っている。

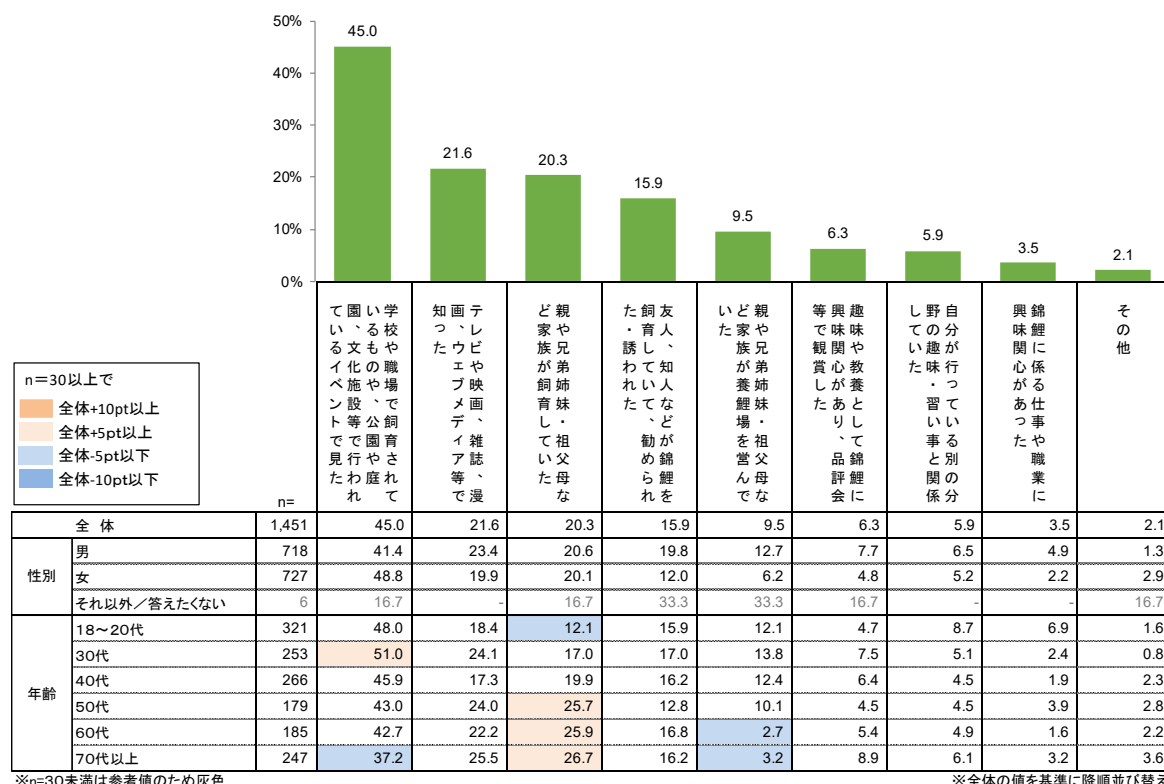


図13 GQ9：錦鯉に触れ合ったり観賞したりしたきっかけ

（その他の内容）旅行に行った際錦鯉と触れ合う機会があった、神社に行った際にいた、住んでいる地域が錦鯉の名産地であるから

GQ10 錦鯉に触れ合ったり観賞したりした場

全体平均で最も回答比率が高いのは、「公園や庭園、文化施設等でのイベント」の 54.9%で、次いで「学校や職場で飼育されていた」25.3%、「錦鯉を扱う団体や業者が主催する品評会や即売会」17.2%、「自宅」13.5%となる。

全体平均の回答比率と年齢別の回答比率とを比較すると、10～30代で「学校や職場で飼育されていた」の回答比率が全体平均より高く、70代以上では著しく低い傾向にある。また、70代以上では「錦鯉を扱う団体や業者が主催する品評会や即売会」（23.9%）、「自宅」（18.6%）の回答比率が高く、年齢によって錦鯉の飼育や観賞を体験した場に違いが見られる。

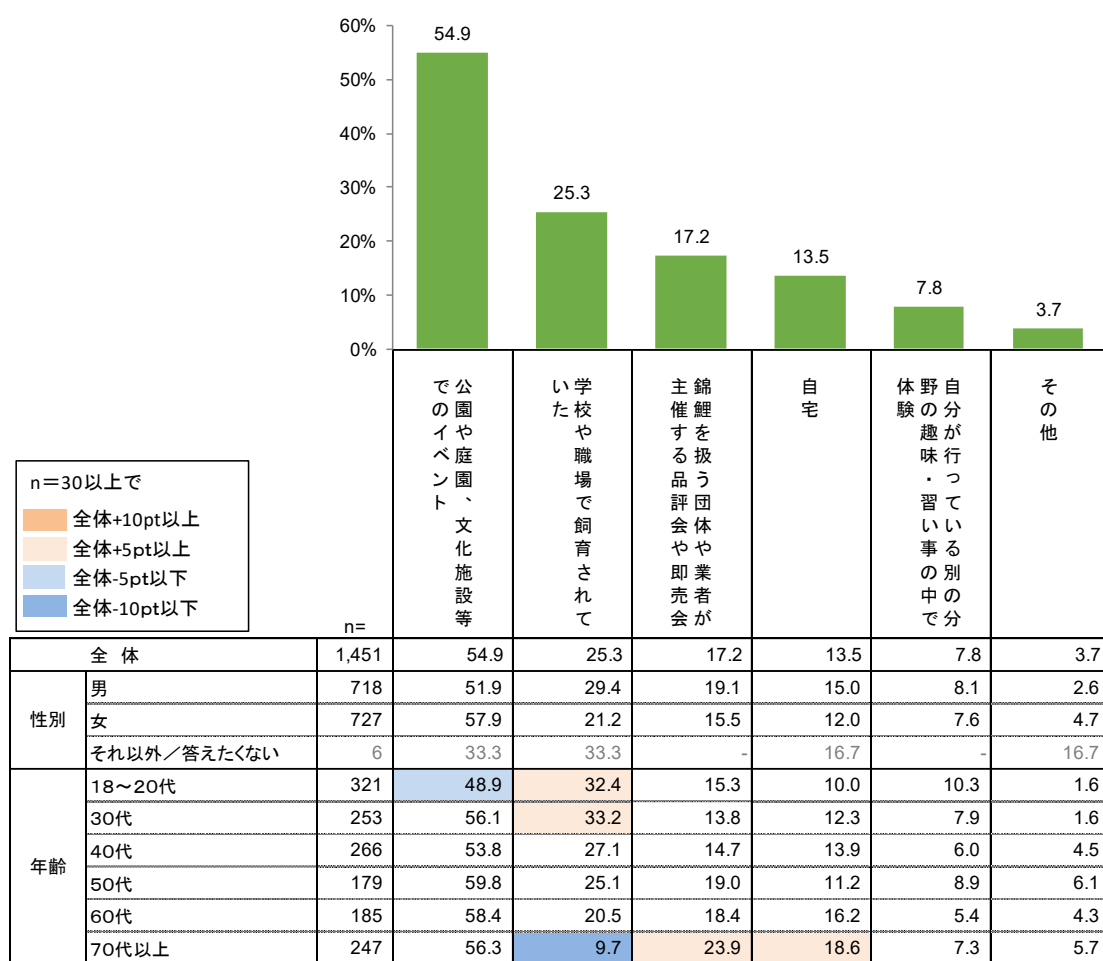


図 14 GQ10：錦鯉に触れ合ったり観賞したりした場

(その他の内容) 親戚の家、知人宅、旅行先で

GQ11 錦鯉を飼育しやすい状況

全体平均で最も回答比率が高いのは、「通いやすい場所に相談に乗ってもらえる養鯉場等があったら」の24.2%で、次いで「知人、家族と一緒に飼育できたら」22.8%、「家族や知人等、身近な人から飼育の仕方等を教えてもらえたら」19.7%、「飼育の仕方や設備の整え方等をわかりやすく示している雑誌や専門誌があったら」の19.6%と続く。

全体平均の回答比率と年齢別の回答比率とを比較すると、10～30代で「通いやすい場所に相談に乗ってもらえる養鯉場等があったら」、「飼育の仕方や設備の整え方等をわかりやすく示している雑誌や専門誌があったら」の回答比率が全体平均を上回っている。

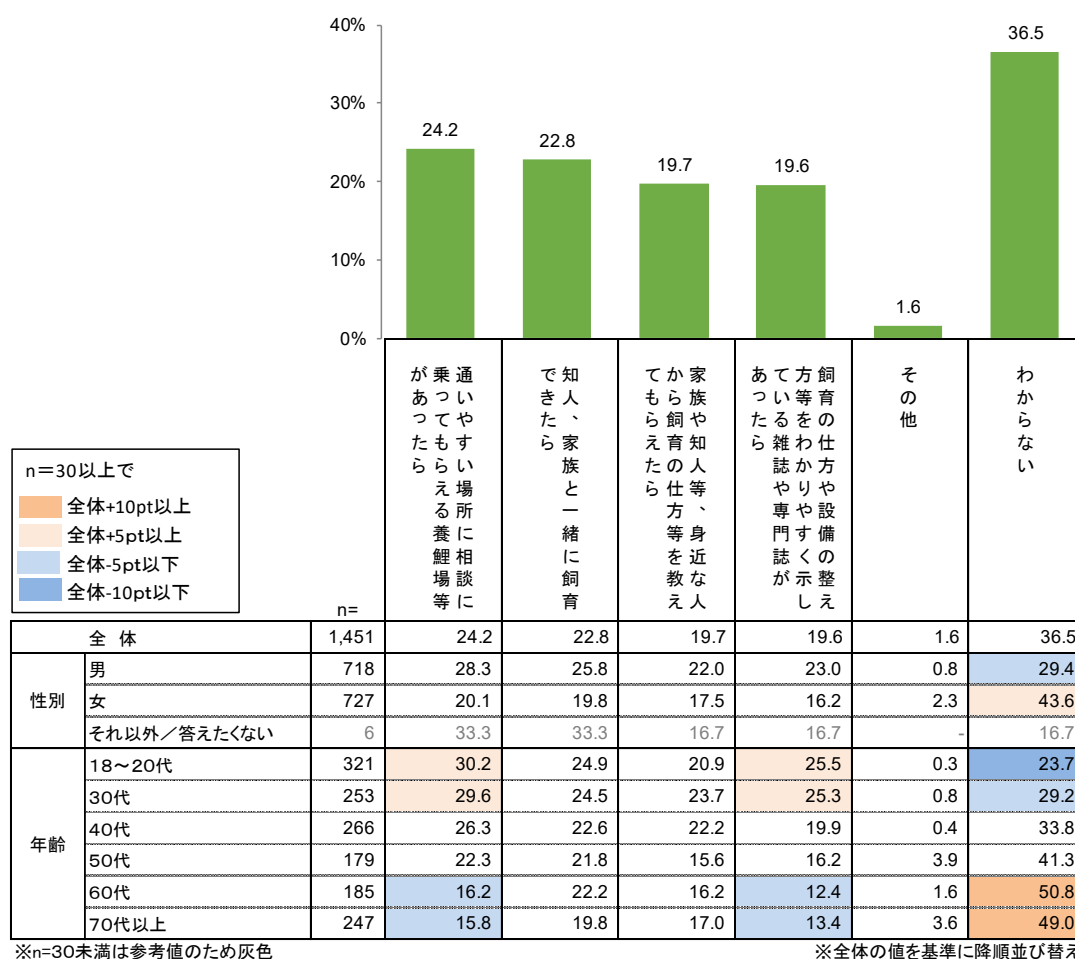


図 15 GQ11：錦鯉を飼育しやすい状況

(その他の内容) 自宅に大きな池があったら、飼育にかかる費用・年数があれば

G Q12 錦鯉の飼育に支払える月額費用

全体平均で最も回答比率が高いのは、「1万円未満」の67.7%で、次いで「1万円以上～5万円未満」18.0%、「5万円以上～10万円未満」8.5%となった。月額5万円以上支払ってもいいと回答した比率は14.3%（1,451人中208人）である。

全体平均の回答比率と男女別、年齢別の回答比率とを比較すると、男女別の場合、「1万円未満」（67.7%）と回答した者のうち、男性が60.3%と全体平均を下回っている。また、男性で月額5万円以上支払ってもいいという回答比率が16.9%（718人中121人）あったのに対し、女性は12.0%（727人中87人）にとどまり、男女で差がある。

次に、年齢別で見た場合、「1万円未満」（67.7%）と回答した者のうち、10～30代で全体を下回っている一方、50代以上は全体平均を大きく上回っている。その一方で、10～30代は1万円以上の回答比率が全体平均を上回っており、年齢によって傾向が異なる。

		(%)							
		n=	1万円未満	5万円未満	10万円未満	15万円未満	20万円未満	25万円以上	5万円以上合計
全体		1,451	67.7	18.0	8.5	4.0	1.2	0.7	14.3
性別	男	718	60.3	22.8	9.9	5.7	0.7	0.6	16.9
	女	727	75.0	13.1	7.2	2.3	1.7	0.8	12.0
	それ以外／答えたくない	6	66.7	33.3	-	-	-	-	-
年齢	18～20代	321	53.6	26.2	12.5	4.4	2.5	0.9	20.2
	30代	253	57.7	19.8	13.0	6.7	1.6	1.2	22.5
	40代	266	64.3	16.9	10.5	6.4	1.1	0.8	18.8
	50代	179	78.8	14.5	2.2	3.4	0.6	0.6	6.7
	60代	185	80.0	13.0	5.9	-	0.5	0.5	7.0
	70代以上	247	82.6	13.0	2.8	1.6	-	-	4.5

※n=30未満は参考値のため灰色

図 16 G Q12 : 錦鯉の飼育に支払える月額費用

GQ13 錦鯉を飼育していない理由

全体平均で最も回答比率が高いのは、「興味がなかった」の40.7%で、次いで「錦鯉を飼育できる場所や設備がない」26.3%、「生物の扱いが難しいと思う」23.5%、「始めるための費用が確保できなかった」17.6%と続く。

全体平均の回答比率と男女別、年齢別の回答比率とを比較すると、男女別で見た場合、男性で「興味がなかった」の回答比率が32.7%と全体平均より低く、女性は48.6%と高い。

次に年齢別では、「錦鯉を飼育できる場所や設備がない」(26.3%)と回答した者のうち、10~30代で全体平均より回答比率が低く、50代以上で回答比率が全体平均を上回っている傾向が見られる。

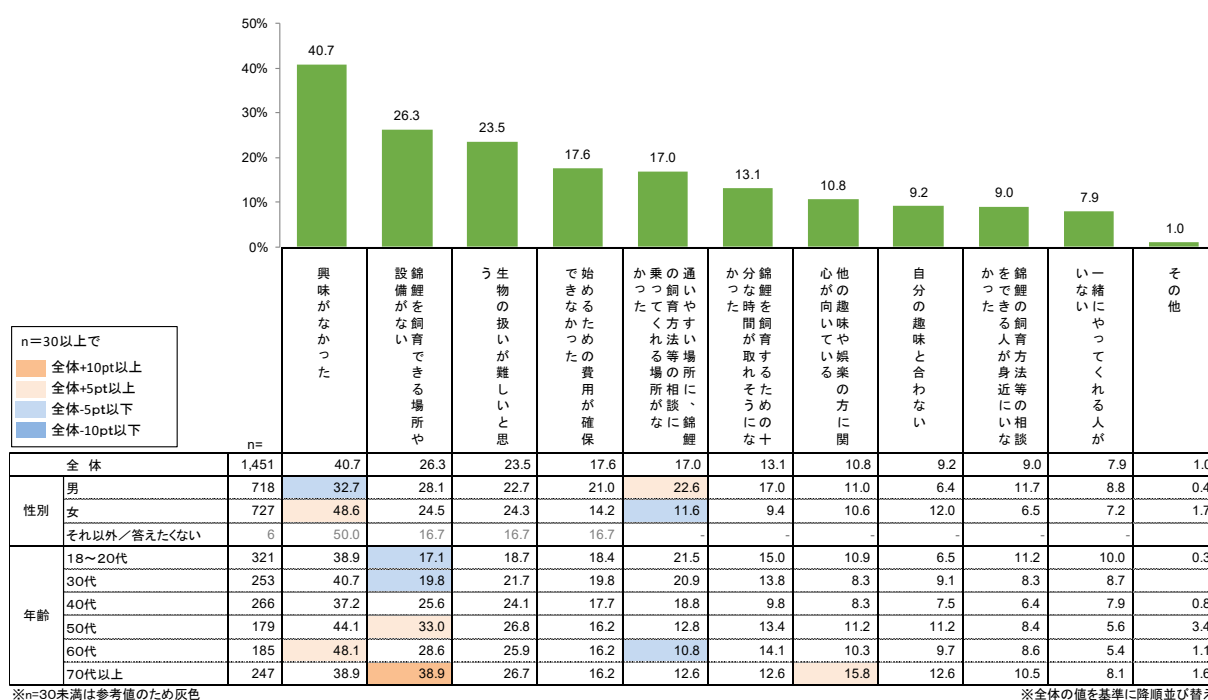


図17 GQ13：錦鯉を飼育していない理由

(その他の内容) 飼うという発想がなかった、家族の理解を得にくい、親が飼育していてポンプ音がうるさいと思った

G Q14 錦鯉の飼育や観賞に対する印象やイメージ

全体平均で最も回答比率が高いのは、「生物を扱うのは容易ではない」の 35.1%で、次いで「設備等にお金がかかる」34.5%、「錦鯉を飼育するための環境を整えるのが難しい」34.3%、「錦鯉の飼育や観賞が楽しめる」33.5%、「飼育の方法等が難しい」31.8%となっており、上位5つのイメージのうち4つが錦鯉飼育の難しさに関わるものとなっている。

全体平均の回答比率と男女別、年齢別の回答比率とを比較すると、男女別では男性で「生物を扱うのは容易ではない」という回答比率が29.9%と低く、逆に女性で40.2%と高い傾向が見られる。

次に年齢別では、「生物を扱うのは容易ではない」(35.1%)で18~20代の回答比率が、「設備等にお金がかかる」(34.5%)でも18~20代の回答比率が低い傾向にあり、両項目では、50代以上の回答比率が高くなっていることが分かる。

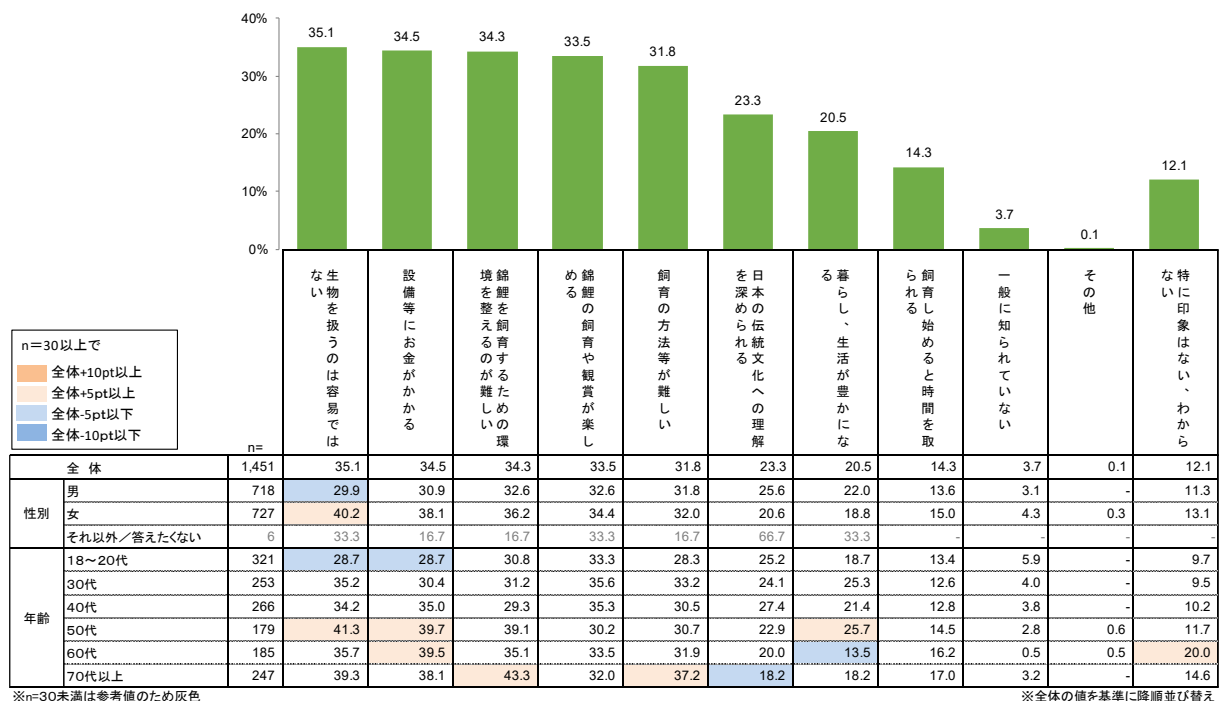


図 18 G Q14 : 錦鯉の飼育や観賞に対する印象やイメージ

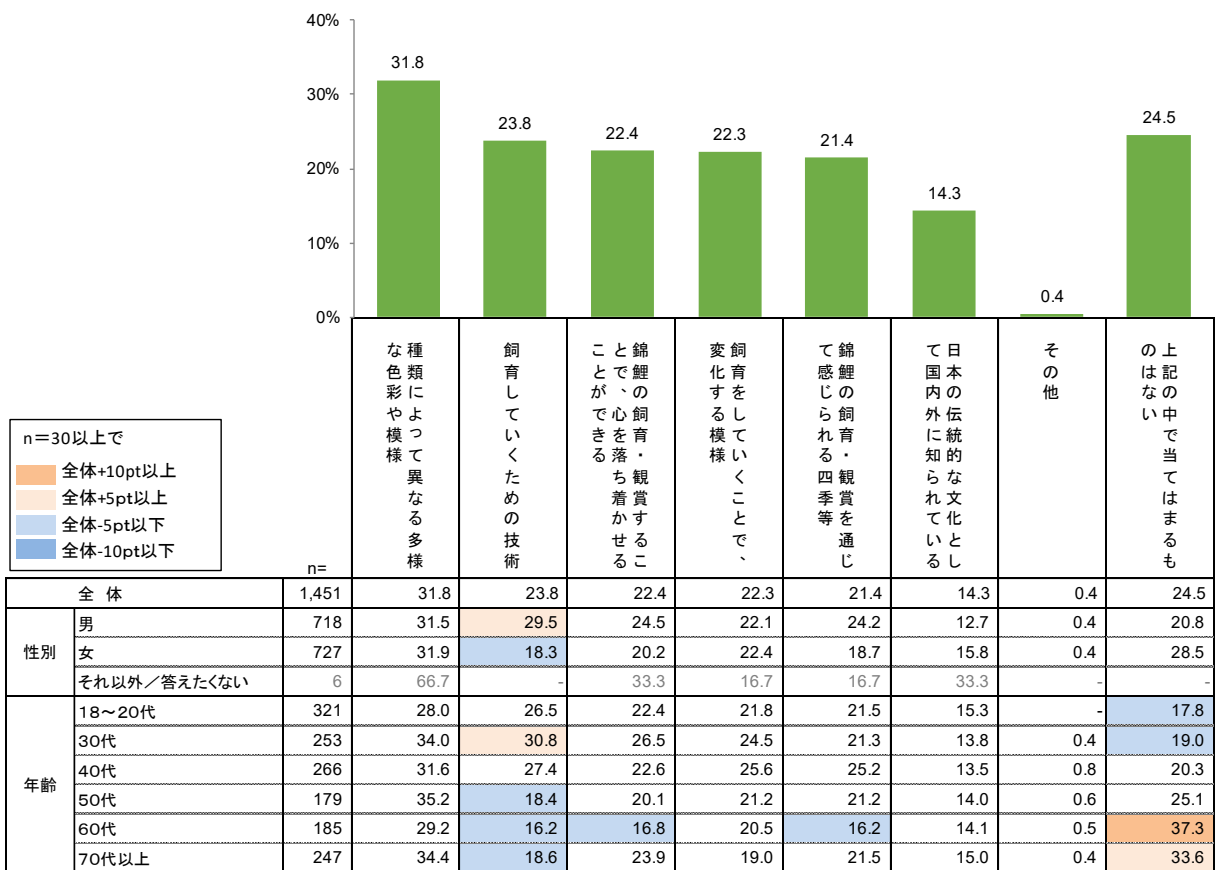
(その他の内容) ポンプにかなり電気代がかかる、元気だった鯉を数百匹全滅させてしまった経験あり

G Q 15 錦鯉の飼育に関する興味関心や魅力

全体平均で最も回答比率が高いのは、「種類によって異なる多様な色彩や模様」の 31.8%で、次いで「飼育していくための技術」23.8%、「錦鯉の飼育・観賞することで、心を落ち着かせることができる」22.4%と「飼育をしていくことで、変化する模様」22.3%とがほぼ同率で続いている。

全体平均の回答比率と男女別、年齢別の回答比率とを比較すると、男女別で見た場合、男性で「飼育していくための技術」という回答比率が29.5%と高く、逆に女性で18.3%と低く、この項目のみ男女で興味関心や魅力に著しい差が見える。

次に年齢別で見ると、「飼育していくための技術」(23.8%)と回答した者のうち、50代以上の回答比率が低い一方、30代ではこの項目の回答比率が高い傾向が見られ、18~20代、40代でも全体平均をやや上回っている。



※n=30未満は参考値のため灰色

※全体の値を基準に降順並び替え

図 19 G Q 15 : 錦鯉の飼育に関する興味関心や魅力

(その他の内容) 情操教育、美しい、生物学

■「今まで錦鯉の飼育をしたことはない」と回答した者への設問（GQ16～GQ20：未経験者の実態把握）

本設問では、錦鯉の飼育等を経験したことがないと回答した者が、錦鯉の飼育や観賞の体験をするなら、どのような内容や機会なら参加したいか、また、錦鯉に対してどの程度、興味関心を持っているのか等を把握するためのアンケートを実施した。

GQ16 参加してみたい錦鯉の観賞の体験内容

全体平均で最も回答比率が高いのは、「上記の中で当てはまるものはない」の75.2%で、次いで「錦鯉の種類や飼育の仕方、観賞の仕方を教えてくれる」12.7%、「普段の生活の中で、錦鯉の飼育や観賞をどのように楽しめるのか教えてくれる」9.4%、「錦鯉の飼育で必要となる設備や環境等を詳しく教えてくれる」7.8%となった。

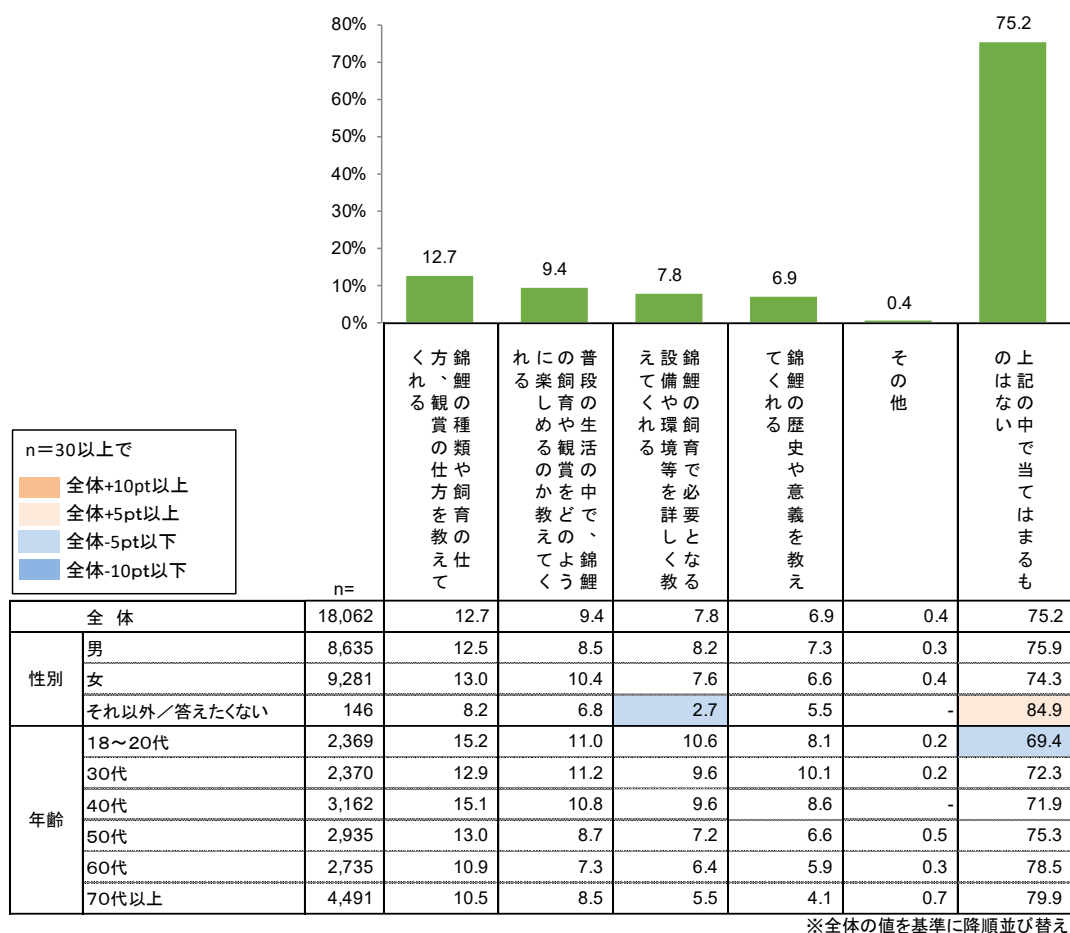


図 20 GQ16：参加してみたい錦鯉の観賞の体験内容

（その他の内容）錦鯉を飼育できる環境がない、無料、その日からすぐに始められるセットがあれば良いかも

GQ17 参加しやすい錦鯉の観賞の体験条件

全体平均で最も回答比率が高いのは、「わからない」の 69.0%で、次いで「公園や庭園、文化施設等で観賞できたら」12.0%、「手ごろな参加費で参加できたら」11.3%となる。

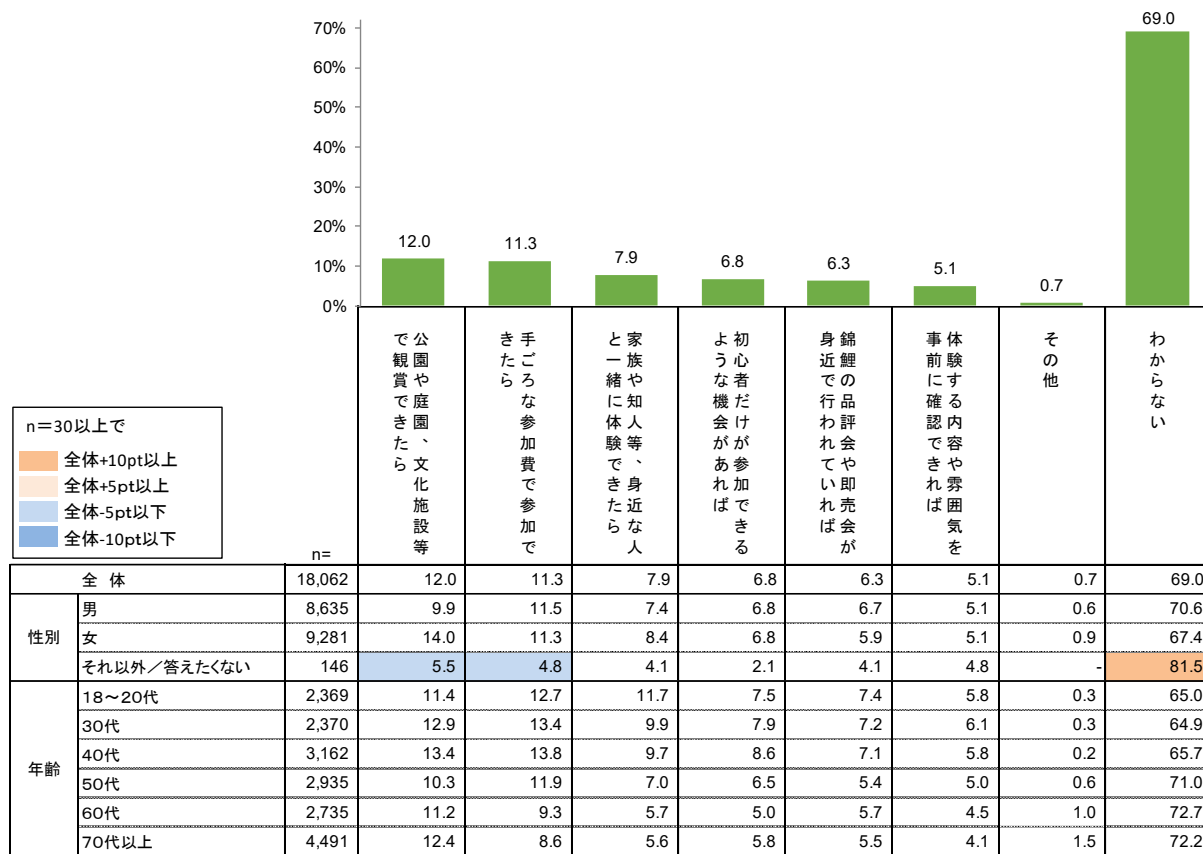


図 21 GQ17 : 参加しやすい錦鯉の観賞の体験条件

(その他の内容) 参加費が無料、バリアフリー、旅行のオプション

GQ18 錦鯉の観賞体験をしたことがない理由

全体平均で最も回答比率が高いのは、「興味がない」の40.2%で、次いで「自分の趣味と合わない」32.4%、「そもそも知らなかった」17.5%となった。

全体平均の回答比率と年齢別の回答比率とを比較すると、年齢別では、「興味がない」(40.2%)と回答した者のうち、50代以上で「興味がない」という回答比率が高くなっている傾向が見られるほか、「自分の趣味と合わない」(32.4%)と回答した者の中では、18~20代の回答比率が高いことが分かる。

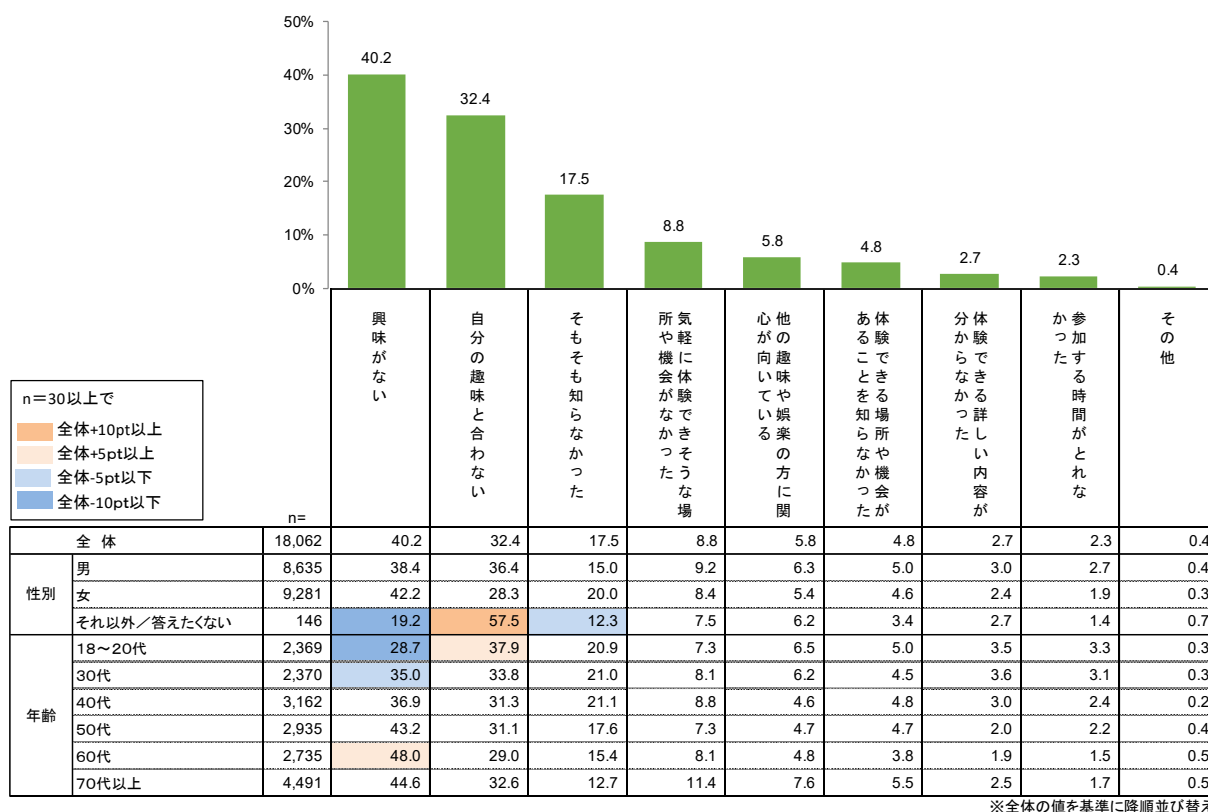


図22 GQ18：錦鯉の観賞体験をしたことがない理由

(その他の内容) 飼育できる環境がない、費用が高額、鯉が苦手、子供のときから身近に飼育されていた

GQ19 錦鯉の飼育や観賞に対する印象やイメージ

全体平均で最も回答比率が高いのは、「特に印象はない、わからない」の 52.8%で、次いで「生物を扱うのは容易ではない」19.9%、「設備等にお金がかかる」19.8%、「錦鯉を飼育するための環境を整えるのが難しい」18.9%、「飼育の方法等が難しい」16.6%と続き、回答者の5割がそもそも印象やイメージを持っていないほか、飼育の難しさ等のイメージが先行している傾向が見られる。

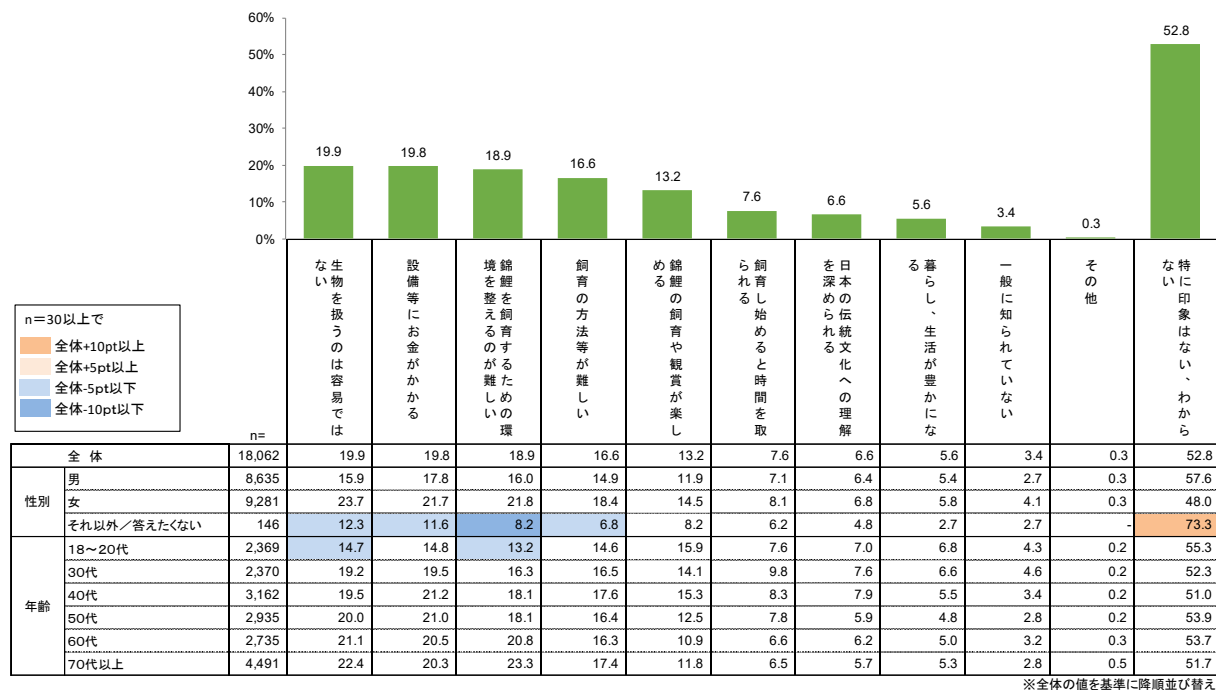


図 23 GQ19：錦鯉の飼育や観賞に対する印象やイメージ

(その他の内容) お金持ちの趣味、旅行に行けない、錦鯉そのものの価格が高すぎて手が出ない、見てると癒される・結構かわいい

G Q20 錦鯉の飼育に関する興味関心や魅力

全体平均で最も回答比率が高いのは、「上記の中で当てはまるものはない」の71.9%で、次いで「飼育していくための技術」10.1%、「種類によって異なる多様な色彩や模様」9.6%、「飼育をしていくことで、変化する模様」8.8%と続いている。

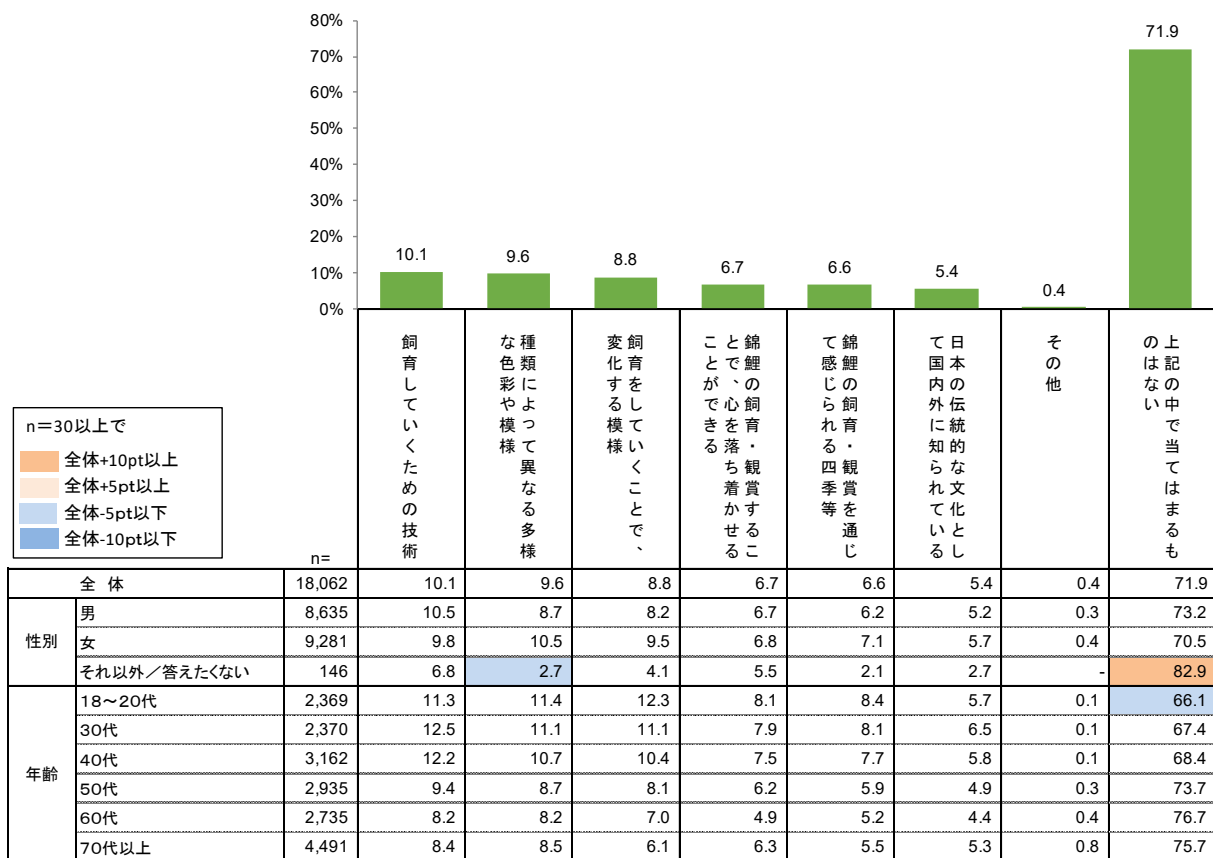


図24 G Q20 : 錦鯉の飼育に関する興味関心や魅力

(その他の内容) 鑑賞はいいが飼育は無理、広い庭の家を持てたら、金魚ぐらいの大きさを気軽に飼えるのであれば、飼育する場所がない中での楽しみ方をレクチャーしてもらえれば

(3) 調査結果に基づく分析と考察

本節では、錦鯉の振興施策の検討を主眼として、前掲の集計結果に加えてクロス集計等も行い、これらの結果について分析を行う。

錦鯉に関して「経験あり」、「参加体験あり」、「未経験」、それぞれの回答者にどのような特徴が見られるのかを分析するため、「居住地」、「職業」、「同居家族」、「世帯年収」、「子供の頃の習い事」等の設問とのクロス集計を行った。結果は以下のとおりである。

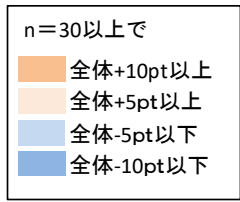
回答者の特性や傾向について

■居住地、職業、同居家族、世帯年収とのクロス集計結果

居住地、職業、同居家族、世帯年収のクロス集計からは、顕著な傾向や特徴等は見られなかった。

集計表 1 居住地・職業・同居家族×錦鯉の経験の有無

		n=	FQ フィルタリング・パート (%)		
			「経験あり」層	「参加体験あり」層	「未経験」層
全体		20,000	2.4	7.3	90.3
居住地	北海道	852	1.6	6.6	91.8
	東北	1,385	2.8	7.7	89.5
	関東	7,422	2.3	7.1	90.6
	北陸	816	2.8	7.4	89.8
	東海(中部)	2,349	2.0	7.2	90.8
	近畿	3,247	1.9	7.4	90.7
	中国	1,140	4.0	7.8	88.2
	四国	584	3.1	8.6	88.4
	九州	1,987	3.1	7.5	89.4
沖縄	218	1.4	2.8	95.9	
職業	正規の職員・従業員	6,411	3.1	8.9	88.0
	非正規の職員・従業員	2,803	1.7	8.0	90.2
	自営業主・自由業	1,239	4.3	9.2	86.5
	家族従業者	135	3.7	11.9	84.4
	主婦・主夫	3,987	1.6	5.5	92.8
	学生	512	2.7	14.5	82.8
	リタイア、無職	4,141	2.3	4.7	93.0
	その他	772	1.2	4.8	94.0
同居家族	ひとり暮らし	4,145	2.8	7.0	90.3
	核家族	13,277	2.3	7.3	90.4
	三世代家族	1,179	3.9	8.9	87.2
	上記以外で同居している人がいる	1,399	1.4	6.4	92.2



集計表2 昨年度の世帯年収×錦鯉の経験の有無

		FQ フィルタリング・パート (%)			
		「経験あり」層	「参加体験あり」層	「未経験」層	
全体		20,000	2.4	7.3	90.3
昨年度の世帯年収	100万円未満	991	3.5	6.2	90.3
	100万円以上～200万円未満	1,325	2.2	6.0	91.8
	200万円以上～300万円未満	2,030	2.1	7.5	90.3
	300万円以上～400万円未満	2,367	2.7	7.6	89.7
	400万円以上～500万円未満	1,937	2.8	8.1	89.1
	500万円以上～600万円未満	1,457	2.2	8.0	89.8
	600万円以上～700万円未満	1,096	2.9	8.9	88.1
	700万円以上～800万円未満	1,024	2.6	9.1	88.3
	800万円以上～900万円未満	702	2.8	11.0	86.2
	900万円以上～1,000万円未満	653	4.3	8.7	87.0
	1,000万円以上	1,525	3.7	9.5	86.8
分からない	4,893	1.3	4.8	93.9	

■子供の頃の習い事とのクロス集計結果

次に、錦鯉の経験・体験の有無についての回答と、「子供の頃の習い事」に関する設問への回答とのクロス集計の結果を示す。

クロス集計を行った結果、錦鯉を飼育した経験ありと回答した者の全体平均（2.4%）と比較すると、「囲碁や将棋」（18.6%）の回答比率が全体平均を大きく上回っているほか、「バレエやダンス」（9.5%）、「伝統芸能や茶道・華道等の芸事」（7.5%）の2項目で全体平均を上回る回答比率となっている。一方、錦鯉の飼育又は観賞体験ありと回答した者の全体平均（7.3%）と比較すると、飼育経験ありと回答した者と近似した傾向が見られ、全体的に習い事を経験している回答比率が高い傾向にある。

集計表3 子供の頃の習い事×錦鯉の経験の有無

		FQ フィルタリング・パート (%)			
		「経験あり」層	「参加体験あり」層	「未経験」層	
全体		20,000	2.4	7.3	90.3
楽器演奏（ピアノやバイオリンなど）や歌唱（コーラスや声楽など）		4,615	3.7	10.0	86.3
バレエやダンス（バレエ、モダンダンスやコンテンポラリーダンスなど）		755	9.5	18.3	72.2
美術（絵画や版画、彫刻、工芸など）		939	7.2	15.3	77.4
伝統芸能や茶道・華道等の芸事		743	7.5	16.7	75.8
囲碁や将棋		221	18.6	23.5	57.9
書道・習字・ペン字、そろばん		8,121	2.9	8.7	88.4
スポーツ・武道		3,661	3.3	12.6	84.1
その他		449	2.2	13.4	84.4
していない		7,852	1.3	3.4	95.3

■スポーツや趣味、娯楽等の活動とのクロス集計結果

次に、スポーツや趣味、娯楽等（以下、趣味・娯楽等）の活動の内容や、これらの活動に費やす時間やお金に関する回答結果とのクロス集計結果から見る事ができる特徴や傾向を示す。

趣味・娯楽等として行っている活動内容とのクロス集計結果からは、これらの活動を「特に何もしていない」と回答した者の全体平均 17.4%と比較すると、錦鯉の飼育等を経験したことがないと回答した者の回答比率が 18.8%に対し、錦鯉の飼育等の経験がある者では 4.7%、錦鯉の飼育又は観賞体験をしたことがある者では 3.3%と回答比率が低いことから、未経験者と比べて、経験者や体験者は趣味・娯楽等に積極的な関わりを持っている傾向にある。

趣味・娯楽等の活動内容の傾向として、「お花」、「お茶」、「書道」、「邦楽、民謡」、「おどり」といった日本の伝統的な文化に関して、経験者や参加体験者の回答比率が高い一方、未経験者の回答比率は全体平均よりやや低い傾向が見られる。

次に、1ヶ月に使える趣味・娯楽等にかかる費用や活動する時間帯、活動に費やす時間とのクロス集計結果を示す。まず、趣味・娯楽等にかかる費用については、「5,000円未満」（49.5%）と回答した者のうち、経験者（30.2%）、参加体験者（35.7%）と全体平均を下回っている。また、平均月2万円以上支出していると回答した全体平均（11.4%）と比較した場合、経験者（23.7%）と参加体験者（17.8%）で全体平均を上回る一方、未経験者（10.4%）は下回る結果となっており、経験者や参加体験者の方が、趣味・娯楽等に関する月額を払っている傾向が見られる。

趣味・娯楽等の活動を行う時間帯を見ると、「平日夕方」（15.8%）を回答した者のうち、経験者（23.5%）、参加体験者（20.2%）の回答比率が全体平均を上回っている。

趣味・娯楽等に費やす月平均の時間を見ると、「1時間未満」（22.9%）と回答した者のうち、経験者（15.3%）と参加体験者（17.2%）の回答比率が低い傾向にあるほか、経験者・参加体験者共に月2時間以上の項目への回答比率が高いことがうかがえる。

集計表 4 錦鯉の経験の有無×趣味・娯楽等の活動状況

		共通設問1 趣味・余暇活動の参加状況 (%)						
		信動を画鑑賞（レンタル、配）	邦楽、民謡	書道	お茶	お花	おどり（日舞など）	特に何もしていない
	n=30以上で							
	全体+10pt以上							
	全体+5pt以上							
	全体-5pt以下							
	全体-10pt以下							
	n=							
全体	20,000	13.6	1.5	1.7	1.6	1.8	0.4	17.4
「経験あり」層	487	12.5	4.1	4.9	5.1	5.5	2.3	4.7
「参加体験あり」層	1,451	21.4	3.9	5.4	5.4	4.5	1.4	3.3
「未経験」層	18,062	13.0	1.2	1.3	1.2	1.5	0.2	18.8

※共通設問1は、分析で取り上げた選択肢のみ抜粋して掲載している。（以下同様）

集計表5 錦鯉の経験の有無×趣味・娯楽等に1ヶ月に使える費用

		共通設問2 1ヶ月に使える趣味・余暇費用 (%)											
		5000円未満	15000円未満	11000円未満	21000円未満	22000円未満	32000円未満	33000円未満	43000円未満	44000円未満	54000円未満	50000円以上	合計
n=30以上で													
全体	16,527	49.5	22.9	10.2	5.9	3.1	3.0	1.4	0.6	0.4	0.6	2.3	11.4
「経験あり」層	464	30.2	21.6	15.7	8.8	6.5	5.0	2.6	1.9	0.6	0.4	6.7	23.7
「参加体験あり」層	1,403	35.7	25.9	12.4	8.2	5.6	4.3	2.2	0.9	0.9	1.1	2.7	17.8
「未経験」層	14,660	51.4	22.7	9.8	5.6	2.7	2.8	1.2	0.6	0.3	0.6	2.1	10.4

集計表6 錦鯉の経験の有無×趣味・娯楽等を行う時間帯

		共通設問3 1ヶ月に使える趣味・余暇時間帯 (%)							
		平日午前	平日午後	平日夕方	平日夜間	休日午前	休日午後	休日夕方	休日夜間
n=30以上で									
全体	16,527	30.6	30.1	15.8	18.8	34.9	43.7	21.2	15.5
「経験あり」層	464	33.6	33.0	23.5	19.8	34.9	38.4	21.1	11.4
「参加体験あり」層	1,403	26.4	26.4	20.2	21.5	37.6	41.6	23.4	15.6
「未経験」層	14,660	30.9	30.3	15.1	18.5	34.7	44.1	21.0	15.7

集計表7 錦鯉の経験の有無×趣味・娯楽等に費やす時間

		共通設問4 趣味・余暇活動を行う時間 (%)										
		1時間未満	21時間未満	32時間未満	43時間未満	54時間未満	65時間未満	76時間未満	87時間未満	98時間未満	190時間未満	10時間以上
n=30以上で												
全体	16,527	22.9	23.5	13.7	7.0	4.5	4.1	1.7	1.9	0.9	1.3	18.5
「経験あり」層	464	15.3	22.2	14.9	9.5	5.6	4.7	2.8	3.0	1.1	1.3	19.6
「参加体験あり」層	1,403	17.2	23.7	16.6	8.4	5.7	5.6	2.1	2.1	1.2	1.4	16.0
「未経験」層	14,660	23.7	23.5	13.3	6.7	4.4	4.0	1.7	1.8	0.9	1.3	18.7

■消費行動に関する意識や価値観に関するクロス集計結果

消費行動に関する意識や価値観の項目と錦鯉の経験・体験の有無とのクロス集計結果を示す。

「経験あり」と回答した者の場合、「リスクはできるだけ避けたい」と「上記であてはまるものはない」を除いた全ての意見で回答比率が全体平均を上回っており、「周りに合わせるより、自分の考えに基づいてものごとを判断したい」(22.6%)の回答比率が35.3%と、全体平均を大きく上回る回答比率となっている。これに対し「参加体験あり」と回答した者は、「上記であてはまるものはない」を除いた全項目で全体平均を上回り、「チャンスと感じたら逃したくない」(20.2%)の

項目では、32.5%と回答比率を大きく上回ると共に、「経験あり」の数値（26.5%）も上回る回答比率となっている。

一方、「未経験」と回答した者の場合、「上記であてはまるものはない」以外の項目で回答比率が全体平均を下回っており、経験者、参加体験者、未経験者それぞれの消費行動に対する価値観に差異があることが分かる。

集計表 8 錦鯉の経験の有無×消費行動に対する価値観

		共通設問5 消費行動に対する価値観 (%)																		
		た	自	ご	周	た	た	立	決	要	い	者	ら	た	は	流	買	応	自	な
		り、	分	と	り	カ	リ	家	環	困	周	集	そ	た	分	行	っ	自	な	上
		い、	の	を	に	ン	ス	族	境	っ	り	ま	の	行	が	っ	っ	分	い	記
		周	考	判	合	ス	は	や	問	て	の	り	時	り	面	て	っ	が	あ	て
		り	え	断	わ	は	で	友	に	い	人	や	な	の	白	い	た	っ	っ	ま
		の	を	し	せ	可	可	人	立	る	の	一	い	の	い	く	や	っ	ま	る
		考	主	た	る	だ	人	知	ち	る	注	体	か	の	も	も	気	た	る	も
		え	張	い	よ	け	の	人	た	さ	目	場	得	の	も	も	持	の	の	の
		と	す	い	り	選	解	の	い	ら	さ	し	加	試	も	ち	を	に	は	は
		を	重	て	、	じ	の	役	た	さ	だ	か	み	し	も	を	反	ま	ま	る
		尊	し	も	自	し	の	に	い	た	加	み	も	も	の	に	ら	る	る	も
		重	よ	の	の	た	の	に	た	た	加	み	も	の	の	に	ら	る	る	も
		し	り	の	の	し	の	に	い	い	加	み	も	の	の	に	ら	る	る	も
		よ	よ	の	の	し	の	に	い	い	加	み	も	の	の	に	ら	る	る	も
		り	り	の	の	し	の	に	い	い	加	み	も	の	の	に	ら	る	る	も
		ま	ま	の	の	し	の	に	い	い	加	み	も	の	の	に	ら	る	る	も
		る	る	の	の	し	の	に	い	い	加	み	も	の	の	に	ら	る	る	も
		ま	ま	の	の	し	の	に	い	い	加	み	も	の	の	に	ら	る	る	も
		る	る	の	の	し	の	に	い	い	加	み	も	の	の	に	ら	る	る	も
		ま	ま	の	の	し	の	に	い	い	加	み	も	の	の	に	ら	る	る	も
		る	る	の	の	し	の	に	い	い	加	み	も	の	の	に	ら	る	る	も
		ま	ま	の	の	し	の	に	い	い	加	み	も	の	の	に	ら	る	る	も
		る	る	の	の	し	の	に	い	い	加	み	も	の	の	に	ら	る	る	も
		ま	ま	の	の	し	の	に	い	い	加	み	も	の	の	に	ら	る	る	も
		る	る	の	の	し	の	に	い	い	加	み	も	の	の	に	ら	る	る	も
		ま	ま	の	の	し	の	に	い	い	加	み	も	の	の	に	ら	る	る	も
		る	る	の	の	し	の	に	い	い	加	み	も	の	の	に	ら	る	る	も
		ま	ま	の	の	し	の	に	い	い	加	み	も	の	の	に	ら	る	る	も
		る	る	の	の	し	の	に	い	い	加	み	も	の	の	に	ら	る	る	も
		ま	ま	の	の	し	の	に	い	い	加	み	も	の	の	に	ら	る	る	も
		る	る	の	の	し	の	に	い	い	加	み	も	の	の	に	ら	る	る	も
		ま	ま	の	の	し	の	に	い	い	加	み	も	の	の	に	ら	る	る	も
		る	る	の	の	し	の	に	い	い	加	み	も	の	の	に	ら	る	る	も
		ま	ま	の	の	し	の	に	い	い	加	み	も	の	の	に	ら	る	る	も
		る	る	の	の	し	の	に	い	い	加	み	も	の	の	に	ら	る	る	も
		ま	ま	の	の	し	の	に	い	い	加	み	も	の	の	に	ら	る	る	も
		る	る	の	の	し	の	に	い	い	加	み	も	の	の	に	ら	る	る	も
		ま	ま	の	の	し	の	に	い	い	加	み	も	の	の	に	ら	る	る	も
		る	る	の	の	し	の	に	い	い	加	み	も	の	の	に	ら	る	る	も
		ま	ま	の	の	し	の	に	い	い	加	み	も	の	の	に	ら	る	る	も
		る	る	の	の	し	の	に	い	い	加	み	も	の	の	に	ら	る	る	も
		ま	ま	の	の	し	の	に	い	い	加	み	も	の	の	に	ら	る	る	も
		る	る	の	の	し	の	に	い	い	加	み	も	の	の	に	ら	る	る	も
		ま	ま	の	の	し	の	に	い	い	加	み	も	の	の	に	ら	る	る	も
		る	る	の	の	し	の	に	い	い	加	み	も	の	の	に	ら	る	る	も
		ま	ま	の	の	し	の	に	い	い	加	み	も	の	の	に	ら	る	る	も
		る	る	の	の	し	の	に	い	い	加	み	も	の	の	に	ら	る	る	も
		ま	ま	の	の	し	の	に	い	い	加	み	も	の	の	に	ら	る	る	も
		る	る	の	の	し	の	に	い	い	加	み	も	の	の	に	ら	る	る	も
		ま	ま	の	の	し	の	に	い	い	加	み	も	の	の	に	ら	る	る	も
		る	る	の	の	し	の	に	い	い	加	み	も	の	の	に	ら	る	る	も
		ま	ま	の	の	し	の	に	い	い	加	み	も	の	の	に	ら	る	る	も
		る	る	の	の	し	の	に	い	い	加	み	も	の	の	に	ら	る	る	も
		ま	ま	の	の	し	の	に	い	い	加	み	も	の	の	に	ら	る	る	も
		る	る	の	の	し	の	に	い	い	加	み	も	の	の	に	ら	る	る	も
		ま	ま	の	の	し	の	に	い	い	加	み	も	の	の	に	ら	る	る	も
		る	る	の	の	し	の	に	い	い	加	み	も	の	の	に	ら	る	る	も
		ま	ま	の	の	し	の	に	い	い	加	み	も	の	の	に	ら	る	る	も
		る	る	の	の	し	の	に	い	い	加	み	も	の	の	に	ら	る	る	も
		ま	ま	の	の	し	の	に	い	い	加	み	も	の	の	に	ら	る	る	も
		る	る	の	の	し	の	に	い	い	加	み	も	の	の	に	ら	る	る	も
		ま	ま	の	の	し	の	に	い	い	加	み	も	の	の	に	ら	る	る	も
		る	る	の	の	し	の	に	い	い	加	み	も	の	の	に	ら	る	る	も
		ま	ま	の	の	し	の	に	い	い	加	み	も	の	の	に	ら	る	る	も
		る	る	の	の	し	の	に	い	い	加	み	も	の	の	に	ら	る	る	も
		ま	ま	の	の	し	の	に	い	い	加	み	も	の	の	に	ら	る	る	も
		る	る	の	の	し	の	に	い	い	加	み	も	の	の	に	ら	る	る	も
		ま	ま	の	の	し	の	に	い	い	加	み	も	の	の	に	ら	る	る	も
		る	る	の	の	し	の	に	い	い	加	み	も	の	の	に	ら	る	る	も
		ま	ま	の	の	し	の	に	い	い	加	み	も	の	の	に	ら	る	る	も
		る	る	の	の	し	の	に	い	い	加	み	も	の	の	に	ら	る	る	も
		ま	ま	の	の	し	の	に	い	い	加	み	も	の	の	に	ら	る	る	も
		る	る	の	の	し	の	に	い	い	加	み	も	の	の	に	ら	る	る	も
		ま	ま	の	の	し	の	に	い	い	加	み	も	の	の	に	ら	る	る	も
		る	る	の	の	し	の	に	い	い	加	み	も	の	の	に	ら	る	る	も
		ま	ま	の	の	し	の	に	い	い	加	み	も	の	の	に	ら	る	る	も
		る	る	の	の	し	の	に	い	い	加	み	も	の	の	に	ら	る	る	も
		ま	ま	の	の	し	の	に	い	い	加	み	も	の	の	に	ら	る	る	も
		る	る	の	の	し	の	に	い	い	加	み	も	の	の	に	ら	る	る	も
		ま	ま	の	の	し	の	に	い	い	加	み	も	の	の	に	ら	る	る	も
		る	る	の	の	し	の	に	い	い	加	み	も	の	の	に	ら	る	る	も
		ま	ま	の	の	し	の	に	い	い	加	み	も	の	の	に	ら	る	る	も
		る	る	の	の	し	の	に	い	い	加	み	も	の	の	に	ら	る	る	も
		ま	ま	の	の	し	の	に	い	い	加	み	も	の	の	に	ら	る	る	も
		る	る	の	の	し	の	に	い	い	加	み	も	の	の	に	ら	る	る	も
		ま	ま	の	の	し	の	に	い	い	加	み	も	の	の	に	ら	る	る	も
		る	る	の	の	し	の	に	い	い	加	み	も	の	の	に	ら	る	る	も
		ま	ま	の	の	し	の	に	い	い	加	み	も	の	の	に	ら	る	る	も
		る	る	の	の	し	の	に	い	い	加	み	も	の	の	に	ら	る	る	も
		ま	ま	の	の	し	の	に	い	い	加	み	も	の	の	に	ら	る	る	も
		る	る	の	の	し	の	に	い	い	加	み	も	の	の	に	ら	る	る	も
		ま	ま	の	の	し	の	に	い	い	加	み	も	の	の	に	ら	る	る	も
		る	る	の	の	し	の	に	い	い	加	み	も	の	の	に	ら	る	る	も

以上のクロス集計結果と、「①単純集計の結果について」で示した回答者の年齢・性別とのクロス集計の結果も踏まえ、錦鯉の「経験あり」「参加体験あり」「未経験」、それぞれの回答者の特徴や傾向は以下のとおりになる。

1) 錦鯉の飼育等の経験があると回答した者の傾向

男女別で見た場合、女性よりも男性の方が飼育等の経験をした者の総数がやや多いのが特徴の一つといえる。年齢別で見た場合、70代以上が最も多く、次いで18～20代、60代と続く。

次に経験者は、子供の頃の習い事として伝統的な文化に係る分野のうち、とりわけ囲碁や将棋を習っていたと回答している者が多い傾向にある。また、趣味・娯楽等の活動に積極性がありなおかつ伝統的な文化に係る趣味への嗜好性の高さがうかがえる。続いて、消費行動への意識については、周りとの協調や一体感を大事にしつつも自身の考え方で物事を判断し、身近な人や社会の役に立ちたいという価値観を持っている者が全体平均と比べると多い傾向が見える。また、普段のメディア接触についてはNHKやCATVやラジオ、新聞等のメディア媒体への接触率が高い傾向にある。

2) 錦鯉の飼育及び観賞体験に参加したことがあると回答した者の傾向

男女別で見た場合、女性の方が男性よりも参加体験者の総数が少し多いのが特徴の一つといえる。年齢別で見た場合、18～20代が最も多く、次いで40代、30代と続く。

また、子供の頃の習い事の経験があるとの回答比率が高い傾向にあり、錦鯉の飼育等の経験者と比べると日本の伝統的な文化のみならず、バレエやダンスについても高い回答比率となっている。また、趣味・娯楽等の活動に対して積極的な傾向にあり、伝統的な文化への関わりも高い傾向がうかがえる。

消費行動への意識については、錦鯉の飼育等を経験した者と近似した傾向があるが、「チャンスと感じたら逃したくない」という項目では、経験者よりも高い回答比率を示している。また、普段のメディア接触については、全体平均と比べて回答比率が大きく上回るものはないが、普段から幅広くメディアに接触している傾向にある。

3) 錦鯉の飼育等は未経験であると回答した者の傾向

男女別、年齢別等では顕著な特徴は見られなかった。

子供の頃の習い事の経験については、経験がないとの回答比率が高い傾向にあり、趣味・娯楽等の活動に対して、「特に何もしていない」という回答比率が全体平均を上回っており、積極的に趣味・娯楽等を行うことがない回答者が多い傾向にある。また、消費行動への意識については、「上記であてはまるものはない」という回答が全体平均を上回っており、特徴的な傾向は見られない。メディア接触については、民放のテレビが全体平均をわずかに上回る程度で、その他のメディア接触率については全体平均をやや下回っていることから、接触率が高い傾向にあるとは言い難い。

未経験者の傾向と特徴

次に、上記の属性分析を踏まえ、「経験あり」「参加体験あり」「未経験」、それぞれの回答者ごとに設けた設問の回答結果についてクロス集計を行い、回答者の特徴について分析を行う。

はじめに、錦鯉の飼育や観賞をしたことがないと回答している者の設問の分析を行う。上述の回答者属性に関する分析では、「未経験」と回答した者については際立った特徴や傾向は見いだせなかった。加えて、今後の振興施策を考える上で、「未経験」と回答した者が、なぜ錦鯉の観賞を経験してこなかったのか、また、錦鯉の飼育や観賞をすることに對してどのような意識を持っているのか、どのような体験方法や周知の実施をすれば参加体験等に繋げていく可能性を見いだすことができるのか、その検討のために分析を行う必要がある。

■未経験層の体験機会への参加意向

未経験と回答した者のうち、錦鯉の観賞体験をしてみたいという意向を持つ回答者、体験意向がない回答者にはどのような特徴があるのか。趣味・娯楽等の活動内容、消費意識、メディア接触の設問とGQ16「参加してみたい錦鯉の観賞の体験内容」とのクロス集計を行い、回答者の特徴について分析を行う。

GQ16では、体験内容として設定した選択肢にはあてはまるものはないと回答率の75.2%が回答しており、残りの24.8%は、体験内容によっては錦鯉の観賞体験に参加してみたいという意向を持っていると推察される。

まず、錦鯉の観賞体験に参加してみたいとの意向を示した回答者について、クロス集計結果からその特徴を確認する。趣味・娯楽等の活動とのクロス集計結果を見ると、提示した体験内容を選択している者の場合、趣味・娯楽等の項目のほとんどで全体平均を少し上回る回答比率を示しており、趣味・娯楽等の活動に対して決して消極的ではないことが推察される。

消費行動に対する価値観とのクロス集計結果からは、提示した体験内容を選択している者は、消費行動に関する価値観のほとんどの項目で、全体平均を上回る回答比率を示しており、明確な意見や嗜好性があることがうかがえる。

普段からのメディア接触とのクロス集計結果を見ると、提示した体験内容を選択している者は、様々なメディアへの回答比率が全体平均を上回っており、「参加体験あり」と回答した者と近似した傾向、つまり、普段から幅広くメディアに接触している傾向が見て取れる。

次に、錦鯉の観賞体験について参加の意向がない者について、その特徴を確認する。GQ16で「上記の中で当てはまるものはない」と回答した者のうち23.1%は、趣味・娯楽等の活動について「特に何もしていない」と回答しており、消費行動に関する設問でも、メディア接触についても、当てはまらない、特にしていないという選択肢を選んでおり、全体平均を上回る回答比率を示している。このように、錦鯉の観賞体験に参加する意向がない者の特徴として、趣味・娯楽活動やメディアへの接触に必ずしも積極的とはいえず、消費についての意識・意見をあまり明確に持っていない傾向が確認できる。

集計表 10 参加してみたい錦鯉の観賞の体験内容×趣味・娯楽等の活動状況

	n=	共通設問1 趣味・余暇活動の参加状況 (%)						
		信 画 鑑 賞 (レ ン タ ル 、 配)	邦 楽 、 民 謡	書 道	お 茶	お 花	お ど り (日 舞 な ど)	特 に 何 も し て い な い
全 体	18,062	13.0	1.2	1.3	1.2	1.5	0.2	18.8
錦鯉の種類や飼育の仕方、観賞の仕方を教えてくれる	2,294	21.4	2.8	2.3	2.0	2.2	0.1	4.9
錦鯉の歴史や意義を教えてくれる	1,244	21.3	3.0	2.7	2.5	2.7	0.2	4.1
錦鯉の飼育で必要となる設備や環境等を詳しく教えてくれる	1,416	22.2	3.2	2.7	2.8	2.3	0.4	5.2
普段の生活の中で、錦鯉の飼育や観賞をどのように楽しめるのか教えてくれる	1,706	19.2	2.4	2.8	2.3	3.2	0.3	5.7
その他	65	15.4	-	-	-	1.5	-	4.6
上記の中で当てはまるものはない	13,579	11.3	0.9	1.1	1.0	1.2	0.2	23.1

集計表 11 参加してみたい錦鯉の観賞の体験内容×消費行動に対する価値観

	n=	共通設問5 消費行動に対する価値観 (%)																			
		た り 自 分 の 考 え を 主 張 す る よ し	ご と を 判 断 し た い て も の 自 分	周 り に 合 わ せ る よ り	た く さ ん と 感 じ た ら 迷 い	た い さ ん は で き る だ け 選 別	立 ち た い 知 人 の 役 に	決 め た い 社 会 課 題 の 解 決	環 境 に 立 ち た い	要 な い 人 の 立 ち た い	困 り な い 人 の 立 ち た い	周 り の 人 か ら 注 目 さ れ た	集 ま り の 一 体 感 が 大 さ だ め	そ の 時 に そ の 場 で し か 得 ない	た い り の も の は 試 し て み	流 行 の も の は 試 し て み	分 が 面 白 い と 思 っ た も の	流 行 の も の は 試 し て み	発 信 し た い	買 っ た も の や 、 気 持 ち を	応 が 欲 し い も の に 反
全 体	18,062	24.8	21.6	19.0	41.9	24.1	9.8	18.7	2.1	5.0	12.8	3.5	26.1	2.7	2.8	23.7					
錦鯉の種類や飼育の仕方、観賞の仕方を教えてくれる	2,294	40.5	30.4	32.2	53.7	38.4	18.5	33.0	3.9	9.1	24.8	6.4	41.0	5.5	5.3	3.4					
錦鯉の歴史や意義を教えてくれる	1,244	37.6	31.7	38.3	48.9	36.2	23.5	32.4	5.9	10.8	25.5	9.6	37.4	8.2	7.6	2.8					
錦鯉の飼育で必要となる設備や環境等を詳しく教えてくれる	1,416	34.5	31.8	37.6	54.6	39.4	20.7	34.1	6.6	11.0	26.1	8.9	40.0	7.8	7.1	3.0					
普段の生活の中で、錦鯉の飼育や観賞をどのように楽しめるのか教えてくれる	1,706	36.5	29.0	33.8	52.8	38.2	21.3	33.1	5.4	11.2	26.6	7.7	40.9	7.5	6.0	3.6					
その他	65	33.8	35.4	23.1	63.1	38.5	16.9	38.5	3.1	9.2	10.8	6.2	40.0	4.6	7.7	9.2					
上記の中で当てはまるものはない	13,579	21.2	19.8	15.4	40.0	21.3	7.7	15.8	1.4	3.9	10.1	2.5	23.6	1.9	2.1	30.2					

集計表 12 参加してみたい錦鯉の観賞の体験内容×接触メディア

	n=	共通設問6 接触メディア (%)																
		B S レ ビ (民 放 の 地 上 波)	波 レ ビ (NH K の 地 上 波)	テ レ ビ (NH K の 地 上 波)	テ レ ビ (NH K の 地 上 波)	チ ャ ン ネ ル や 衛 星 放 送 の 機 器 (除 く)	経 由 を 除 く)	ラ ジ オ (電 子 版 含 む)	新 聞 (電 子 版 含 む)	タ バ ク レ ッ ト 経 由 を 除 く)	雑 誌 、 タ ウ ン 誌 (電 子 版 含 む)	電 子 書 籍 (電 子 版 含 む)	電 子 書 籍 (電 子 版 含 む)	電 子 書 籍 (電 子 版 含 む)	紙 の 書 籍 (電 子 版 含 む)	紙 の マ ン ガ 、 マ ン ガ 雑 誌 (電 子 版 含 む)	電 子 版 の マ ン ガ (電 子 版 含 む)	x 、 H o u s i n g 、 N e t e t c (電 子 版 含 む)
全 体	18,062	69.9	41.1	9.6	13.6	28.0	6.8	45.8	32.9	27.7	19.8	5.6	6.3	6.0	11.3	11.7		
錦鯉の種類や飼育の仕方、観賞の仕方を教えてくれる	2,294	79.6	51.2	11.6	17.7	33.8	11.4	57.9	46.5	40.4	29.0	9.5	11.3	11.4	16.8	1.8		
錦鯉の歴史や意義を教えてくれる	1,244	76.5	52.3	12.9	18.6	31.8	12.5	57.3	47.7	42.2	30.0	11.9	12.2	11.5	17.8	1.4		
錦鯉の飼育で必要となる設備や環境等を詳しく教えてくれる	1,416	75.7	49.4	13.4	19.7	31.0	15.0	56.4	49.2	40.2	28.6	10.3	13.3	12.1	16.7	2.0		
普段の生活の中で、錦鯉の飼育や観賞をどのように楽しめるのか教えてくれる	1,706	75.6	48.2	12.2	17.7	32.6	12.0	54.6	44.3	39.6	28.1	8.3	11.0	10.0	15.7	2.2		
その他	65	83.1	53.8	13.8	10.8	41.5	6.2	58.5	40.0	33.8	23.1	6.2	1.5	3.1	16.9	-		
上記の中で当てはまるものはない	13,579	68.2	39.3	9.0	12.8	27.4	5.8	44.0	30.1	24.9	18.3	4.8	5.3	5.0	10.3	14.8		

■参加したい体験機会別に見た参加条件

次に、錦鯉の飼育や観賞を経験したことがないと回答した者が体験したい内容、また、体験条件にはどのような特徴があるのかについて、G Q16「参加してみたい錦鯉の観賞の体験内容」の各種の参加体験とG Q17「参加しやすい錦鯉の観賞の体験条件」の回答結果をクロス集計し、未経験者の考える体験しやすい内容と条件の傾向について分析を行う。

まず、G Q16 で「上記の中で当てはまるものはない」と回答した者の 88.9%が、G Q17 で「わからない」と回答している。一方、実際に希望する体験機会がある層では、「わからない」という回答は極めて少ない。

具体的な体験内容を選択した者の参加条件への回答比率は、全体平均より非常に高いことが分かる。その中でも、「手ごろな参加費で参加できたら」「公園や庭園、文化施設等で観賞できたら」の2項目はいずれの観賞体験の条件でも回答比率が高く、重視される傾向にあることが確認できる。

以上のように、錦鯉の飼育や観賞体験について未経験であると回答した者のうち、G Q16 で具体的な体験内容を答えた者の多くは、G Q17 の体験を行う際の条件についても具体的な条件を選択していることから、体験内容及び条件が明確な方が未経験者への参加体験を促しやすいものと推察できる。

集計表 13 参加してみたい錦鯉の観賞の体験内容×参加しやすい錦鯉の観賞の体験条件

		GQ17 参加しやすい錦鯉の観賞体験の条件 (%)							
		と家族一緒に知人体験等できた近人	身近で行われたい即売会が	手ごろな参加費で参加できたら	公園や庭園、文化施設等で観賞できたら	事前確認できれば雰囲気	初心者だけが参加できる	その他	わからない
n=30以上で									
全体+10pt以上									
全体+5pt以上									
全体-5pt以下									
全体-10pt以下									
	n=								
全体	18,062	7.9	6.3	11.3	12.0	5.1	6.8	0.7	69.0
錦鯉の種類や飼育の仕方、観賞の仕方を教えてくれる	2,294	36.5	26.6	45.5	38.1	18.2	21.8	0.1	8.4
錦鯉の歴史や意義を教えてくれる	1,244	31.8	34.8	48.5	42.4	24.9	23.7	0.3	6.5
錦鯉の飼育で必要となる設備や環境等を詳しく教えてくれる	1,416	28.2	32.6	53.2	48.0	27.5	26.9	0.2	5.8
普段の生活の中で、錦鯉の飼育や観賞をどのように楽しめるのか教えてくれる	1,706	24.6	25.5	44.4	44.4	27.4	29.9	0.2	6.8
その他	65	7.7	3.1	7.7	15.4	6.2	7.7	47.7	32.3
上記の中で当てはまるものはない	13,579	1.8	0.9	2.4	4.4	1.0	2.6	0.7	88.9

■これまで錦鯉を経験してこなかった理由と参加したい体験機会

錦鯉の飼育や観賞を経験したことがないと回答した者には、これまでに観賞体験をしてこなかった理由（G Q18）に関する問いを設けている。この設問を設けた理由として、未経験者のうちには、体験機会が身近になかった者、特定の事情で体験することができなかった者、そもそも全く興味がなかった者等、回答者によって個々の事情や理由があることを想定したためである。

既に、回答者の中には興味関心がなかったわけではなく、体験できなかった事情や理由があると回答した者がいることがG Q18 の回答結果から判明しているが、体験できなかった事情や理由があると回答した者はどのような体験機会があれば参加しやすいと考えているのか。G Q18 の回答と参加してみたい体験内容を問う設問（G Q16）のクロス集計を行い、その傾向を分析する。

まず、錦鯉の観賞体験をこれまでしてこなかった理由として「興味がない」が回答比率として最も高く（40.2%）、次点で「自分の趣味と合わない」（32.4%）、「そもそも知らなかった」（17.5%）と続いている。

GQ16とのクロス集計の結果を見ると、GQ16で「上記の中で当てはまるものはない」と回答した者では、GQ18の「興味がない」（44.8%）、「自分の趣味と合わない」（40.3%）の回答比率が全体平均よりも高いことが分かる。

一方、GQ16で具体的な体験内容についての選択肢を回答した者の場合、「興味がない」、「自分の趣味と合わない」の回答比率が全体平均よりも著しく低く、体験できなかった事情の回答比率が高い。また、「そもそも知らなかった」と回答した者の中でも、体験内容に関する回答比率は全体平均よりも高いことから、機会があれば参加体験を希望する層が一定数いると推察できる。

また、GQ18の「気軽に体験できそうな場所や機会がなかった」、「体験できる場所や機会があることを知らなかった」の回答比率が全体平均を大きく上回っており、体験機会そのものが身近になかった場合や、体験機会があっても体験機会を希望する者に情報として届いていなかったことが回答結果から推察される。

集計表 14 参加してみたい錦鯉の観賞の体験内容×錦鯉の観賞体験をしたことがない理由

	n=	GQ18 錦鯉を観賞体験したことがない理由 (%)								
		そもそも知らなかった	興味がない	所や機会がなかった	気軽な体験できなかった	参加する時間がとれない	体験できる場所や機会があつた	体験できない内容が	心他の趣味や娯楽の方に	自分の趣味と合わない
全体	18,062	17.5	40.2	8.8	2.3	4.8	2.7	5.8	32.4	0.4
錦鯉の種類や飼育の仕方、観賞の仕方を教えてくれる	2,294	31.3	27.4	29.4	5.1	15.3	8.5	10.5	7.1	0.2
錦鯉の歴史や意義を教えてくれる	1,244	27.1	25.4	31.5	11.4	17.4	10.9	9.7	7.0	0.4
錦鯉の飼育で必要となる設備や環境等を詳しく教えてくれる	1,416	22.5	23.9	34.3	12.2	23.5	14.5	13.0	9.6	0.4
普段の生活の中で、錦鯉の飼育や観賞をどのように楽しめるのか教えてくれる	1,706	23.0	22.1	30.5	8.2	20.4	12.9	15.4	10.7	0.3
その他	65	7.7	63.1	9.2	4.6	7.7	1.5	10.8	33.8	15.4
上記の中で当てはまるものはない	13,579	14.8	44.8	2.8	0.6	1.3	0.8	4.2	40.3	0.4

■ 「未経験」層と「参加体験あり」層の錦鯉へのイメージの違い

錦鯉の飼育をしたことがないと回答した者が持つ錦鯉の飼育や観賞に対して持っているイメージや印象について、GQ19の結果では、「特に印象はない、わからない」（52.8%）、「生物を扱うのは容易ではない」（19.9%）、「設備等にお金がかかる」（19.8%）、「錦鯉を飼育するための環境を整えるのが難しい」（18.9%）、「飼育の方法等が難しい」（16.6%）、「錦鯉の飼育や観賞が楽しめる」（13.2%）となっており、そもそも具体的なイメージを持っていない者が多く、飼育自体が難しいという印象が先行している。この要因は、回答者が錦鯉の飼育を経験したことがなく、具体的な内容や体験を経た上での印象を持っていないためと考えられる。

下のグラフは、錦鯉の飼育や観賞体験に参加したことがあると回答した者のイメージ（G Q 14）と未経験者のイメージ（G Q 19）の回答結果を比較したものである。

未経験者で最も回答比率が高かった「特に印象はない、わからない」の回答比率は参加体験を経ることで大幅に減少していると共に、プラスイメージもマイナスイメージも大きく増加している。このような比較から、飼育や観賞体験を行うことで、錦鯉の飼育に関する難しさについても、錦鯉の飼育の楽しさや日本の伝統的な文化であることも明確にイメージできるようになっていることが分かる。

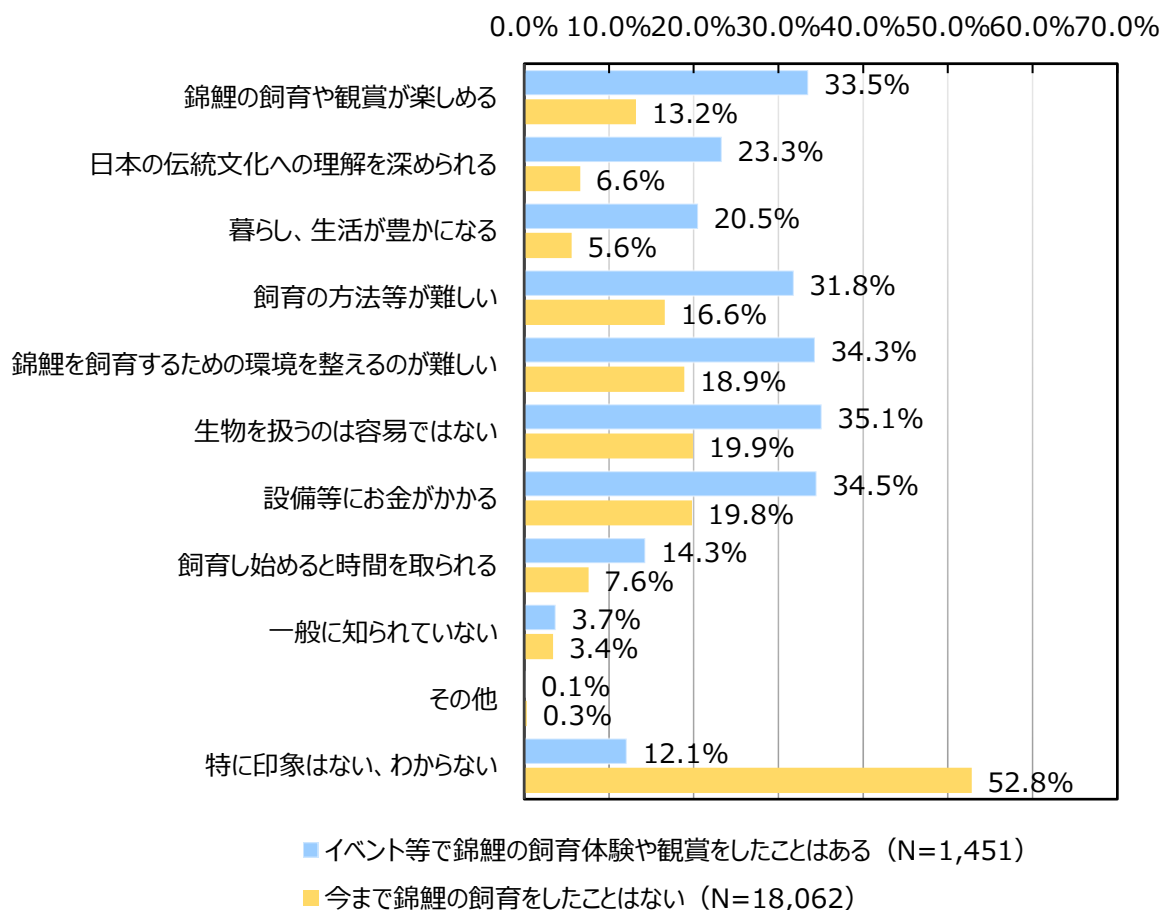


図 25 未経験者と参加体験者の錦鯉に対する印象やイメージの違い

■「未経験」層と「参加体験あり」層、「経験あり」層の錦鯉の魅力についての評価の違い

未経験者が錦鯉に対する印象やイメージを具体的に描けないように、錦鯉の魅力に対する設問（G Q 8、G Q 15、G Q 20）にも同様の傾向が見られる。

下のグラフを見ても分かるように、錦鯉の飼育を経験したことがないと回答した者の7割が、「上記の中で当てはまるものはない」（71.9%）と回答し、経験者と参加体験者の場合の回答比率と比較しても大きな差があることが分かる。

このことは、ほかの魅力についてもいえ、参加体験者と未経験者を比較すると全ての魅力に対して回答比率が大きく伸びていることが分かる。また、参加体験者と経験者との魅力等についての回

答比率を比較すると、「飼育をしていくことで、変化する模様」や「錦鯉の飼育・観賞することで、心を落ち着かせることができる」といった、実際に飼育し観賞を続けていくことで理解できると思われる魅力に対する回答比率が高くなっていることが分かる。

以上のように回答比率に大きな差が見られることから、イメージや印象と同じく実際に体験することの重要性がうかがえる。

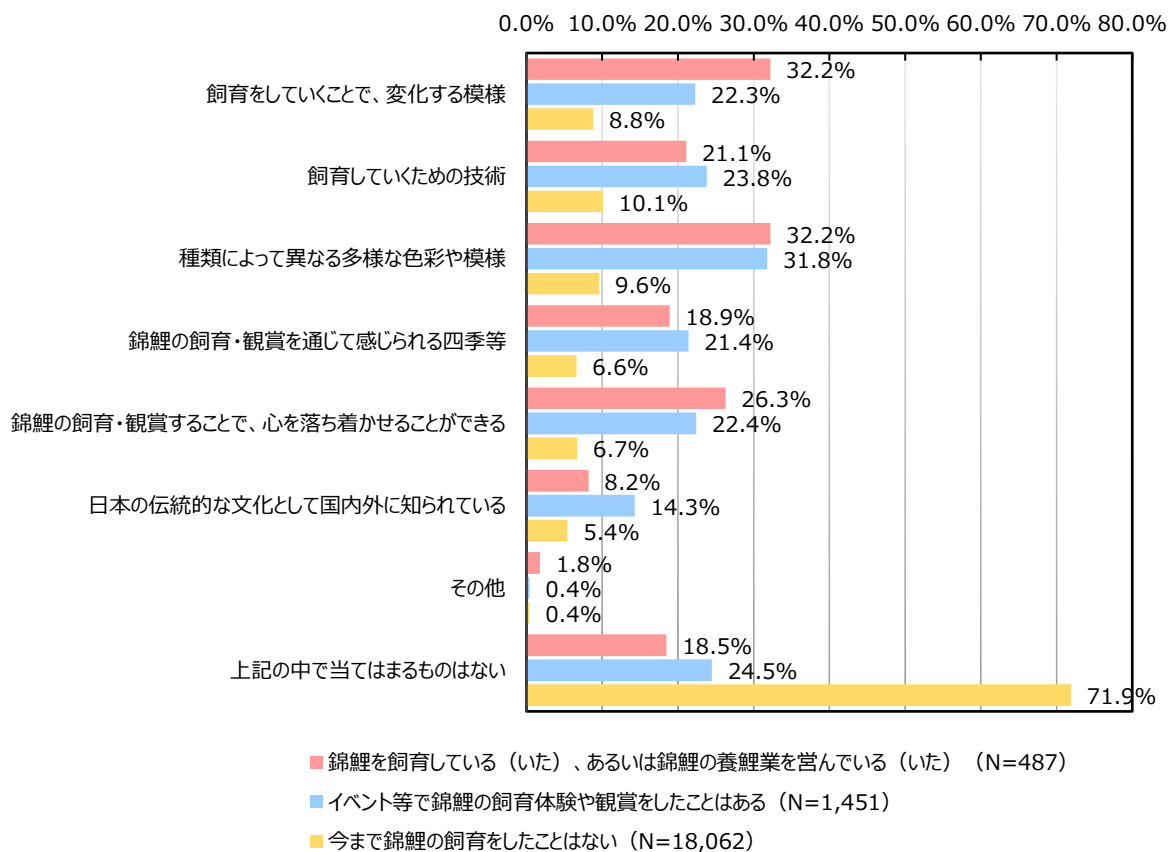


図 26 各回答者における錦鯉に対する興味関心や魅力の違い

上記のクロス集計の結果から、錦鯉の飼育をしたことがないと回答した者の特徴や傾向をまとめると、以下のとおりである。

1) 錦鯉に興味関心がある者の属性に関する傾向と特徴

錦鯉の飼育をしたことがないと回答した者のうち、参加体験の意向を示さない者が 75.2%いる一方、24.8%が体験内容に関する選択肢をいずれか選択しており、未経験者の中でも機会があれば参加したいという意向を持つ者がいる。

これら参加意向を示す者は、参加意向を示していない回答者と比べた場合、趣味・娯楽等の活動に対して消極的ではない者であり、消費行動への明確な意見を有し、普段から幅広いメディアに触れている傾向にある。

2) 未経験者が考える参加しやすい体験の条件と内容についての傾向と特徴

G Q 16、G Q 17 のクロス集計の結果から、未経験者のうち、参加体験をしたいとの意向を示した者の約 40～50%が、行きやすい場所と手頃な参加費用の 2 点を参加体験の条件としてとりわけ重視している傾向が見えてくる。

また、G Q 16 と G Q 18 とのクロス集計の結果からは、体験できなかった事情・理由として「そもそも知らなかった」、「気軽に体験できる場所がなかった」「体験できる場所や機会があることを知らなかった」と回答している割合が多く、これらの事情や理由を回答した者は、観賞体験へ具体的な内容を回答していることから、参加意向を持つ者の多くが、錦鯉自体を知らなかったり、錦鯉の観賞体験等ができる機会を得ることができなかつたりしていたことが分かる。

3) 錦鯉の飼育に対する印象や魅力に関する傾向と特徴

未経験者の場合、錦鯉に対する印象や魅力について、未経験であるが故に、具体的なイメージや魅力は分からないという当然の結果が導かれた。その点を踏まえて、経験者や参加体験者との印象や魅力への回答の差を見ると、参加体験や経験を重ねることで、具体的な印象やイメージ、魅力を描くことができるようになること、また、実際に飼育を行った者は、変化していく錦鯉の模様や飼育や観賞を行うことで心を落ち着かせることができるといった魅力の回答比率が高くなっていることが分かる。

参加体験ありと回答した者の傾向と特徴

次に、参加体験ありと回答した者の回答傾向を分析する。錦鯉に触れ合ったり、観賞したりしたことがあると回答した者は、何らかのきっかけがあって観賞等の体験を行う機会を得ており、しかし、自ら飼育を行うまでには至ってはいない者と捉えることができる。ではどのような状況で体験機会を得たのか、また、飼育を行うまでに至らない事情や理由等があるのかをクロス集計を用いてその傾向と特徴を分析する。

■参加体験者の体験のきっかけと機会

体験のきっかけ（GQ9）を問う設問の結果では、「学校や職場で飼育されているものや、公園や庭園、文化施設等で行われているイベントで見た」（45.0%）と最も高く、次いでテレビや映画などのメディアで知ったとの回答が21.6%、親族等が飼育していたとの回答が20.3%と続き、参加体験者の多くは自身の身近な場所であったり公園等で飼育されている錦鯉を観賞していたりすることが分かる。また、体験の場（GQ10）については公園や庭園等での観賞（54.9%）、次いで学校や職場での観賞（25.3%）と続いている。

体験したきっかけと体験機会の関係性の特徴や傾向を明らかにするため、GQ9とGQ10のクロス集計の結果が下の表である。体験したきっかけについて、最も回答比率が高かった、学校や職場、公園や庭園等で観賞するきっかけを得た（45.0%）と回答した者のうち、「公園や庭園、文化施設等でのイベント」（60.4%）、「学校や職場で飼育されていた」（50.4%）の2項目で回答比率が高い。そのほか、「親や兄弟姉妹・祖父母など家族が飼育していた」（20.3%）と回答した者では、「自宅」（57.7%）のほかに「錦鯉を扱う団体や業者が主催する品評会や即売会」（32.0%）の回答比率も高いことが分かる。また、趣味や教養として関心を持った者や、テレビ等のメディアで知った者、友人・知人に誘われた者の場合、品評会や即売会で観賞する機会を得ており、錦鯉を観賞する機会の一つとして品評会等が役割を果たしていることが分かる。

このような結果から、学校や職場、公園等で飼育されていた錦鯉を観賞等の機会を得た回答者が比率として高い傾向にある。また、趣味や教養としてあるいはテレビ等で知ったり、友人・知人に誘われたりして興味を持った者については、品評会や即売会が錦鯉を観賞する機会や場としての役割を果たしているものと推察される。

集計表 15 錦鯉に触れ合ったり観賞したりした場×錦鯉に触れ合ったり観賞したりしたきっかけ

	n=	GQ9錦鯉に触れ合ったり観賞したりしたきっかけ (%)												
		ど 親 家 族 兄 弟 姉 妹 し て 祖 父 母 な	い た 家 族 兄 弟 姉 妹 を 飼 育 し て い た	親 や 兄 弟 姉 妹 ・ 祖 父 母 な が 飼 育 し て い た	た 飼 育 し て い た 人 が 誘 わ れ た	友 人 ・ 知 人 に 誘 わ れ た	て 園 や 学 校 ・ 職 場 ・ 公 園 等 で 飼 育 さ れ て い る	知 っ た メ ジ ア ・ 電 子 メ ジ ア 等 で 知 っ た	テ レ ビ ・ 電 影 ・ 画 像 ・ 電 子 メ ジ ア 等 で 知 っ た	等 興 味 や 観 賞 し た こ と が あ り て は	興 味 や 観 賞 し た こ と が あ り て は	錦 鯉 に 関 心 が あ り て は	し 野 自 分 が 行 っ て い る 別 の 分 野 の 興 味 ・ 習 い 事 中 で 体 験 し た	そ の 他
全 体	1,451	20.3	9.5	15.9	45.0	21.6	6.3	3.5	5.9	2.1				
錦鯉を扱う団体や業者が主催する品評会や即売会	250	32.0	14.4	25.2	37.6	23.6	14.4	8.4	3.6	2.0				
学校や職場で飼育されていた	367	18.5	21.5	22.1	50.4	22.6	8.2	4.6	3.5	1.4				
公園や庭園、文化施設等でのイベント	796	13.6	6.4	16.5	60.4	27.0	5.4	2.4	3.6	1.6				
自宅	196	57.7	14.3	20.4	18.9	14.8	8.7	7.1	7.1	0.5				
自分が行っている別の分野の趣味・習い事の中で体験	113	20.4	12.4	17.7	22.1	14.2	15.9	8.8	33.6	1.8				
その他	54	37.0	-	20.4	29.6	18.5	-	1.9	-	27.8				

■錦鯉を飼育しやすい状況

錦鯉を飼育しやすい状況（GQ11）に関する設問の結果では、「わからない」（36.5%）が最も多く、次いで「通いやすい場所に相談に乗ってもらえる養鯉場等があったら」（24.2%）、「知人、家族と一緒に飼育できたら」（22.8%）、「家族や知人等、身近な人から飼育の仕方等を教えてもらえたら」（19.7%）、「飼育の仕方や設備の整え方等をわかりやすく示している雑誌や専門誌があったら」（19.6%）となっており、身近な養鯉場や親族等に相談に乗ってもらったり、飼育の仕方を教えてもらったりしたいという傾向が見える。一方、支払い可能な月額費用（GQ12）を見ると、「1万円未満」（67.7%）、「1万円以上～5万円未満」（18.0%）と続き、回答者の約86%は5万円未満の費用であれば錦鯉の飼育を始めやすいと回答している。

GQ11とGQ12のクロス集計の結果を見ると、「1万円未満」（67.7%）を選択した者の中では、「わからない」（91.5%）の回答比率が全体平均を大きく上回る一方、その他の選択肢は全体平均を下回っている。一方、「1万円以上～5万円未満」（18.0%）と回答した者の中では、「わからない」を除く全ての項目で全体平均を上回り、「知人、家族と一緒に飼育できたら」（26.6%）、「飼育の仕方や設備の整え方等をわかりやすく示している雑誌や専門誌があったら」（26.4%）、「通いやすい場所に相談に乗ってもらえる養鯉場等があったら」（23.4%）の3項目が全体平均を上回っている。

集計表 16 錦鯉を飼育しやすい状況×錦鯉の飼育に支払える月額費用

	n=	GQ12錦鯉の飼育に支払える月額費用 (%)					
		1万円未満	5万円未満	10万円未満	5万円以上	10万円以上	10万円以上
全体	1,451	67.7	18.0	8.5	4.0	1.2	0.7
家族や知人等、身近な人から飼育の仕方等を教えてもらえたら	286	63.3	21.3	10.1	2.8	1.0	1.4
知人、家族と一緒に飼育できたら	331	50.2	26.6	14.5	6.3	1.8	0.6
通いやすい場所に相談に乗ってもらえる養鯉場等があったら	351	51.6	23.4	12.5	10.5	2.0	-
飼育の仕方や設備の整え方等をわかりやすく示している雑誌や専門誌があったら	284	51.1	26.4	13.4	6.0	2.8	0.4
その他	23	91.3	4.3	-	4.3	-	-
わからない	529	91.5	5.7	1.9	0.2	0.2	0.6

※n=30未満は参考値のため灰色

次に、錦鯉をこれまで飼育していない理由（GQ13）に関する設問の結果では、「興味がなかった」（40.7%）が最も多く、次いで「錦鯉を飼育できる場所や設備がない」（26.3%）、「生物の扱いが難しいと思う」（23.5%）と続く。GQ11の飼育しやすい状況とのクロス集計を行い、参加体験者が飼育しやすい状況について更なる分析を行う。

飼育しやすい状況について「わからない」（36.5%）と回答した者のうち、飼育しなかった理由について「自分の趣味と合わない」（66.9%）、「興味がなかった」（57.7%）の回答比率が高く、体験をしても興味関心が湧かなかったことが分かる。一方、飼育をしやすい状況として、「通いやすい場所に相談に乗ってもらえる養鯉場等があったら」（24.2%）と回答した者が錦鯉の飼育を行っていない理由として「一緒にやってくれる人がいない」（49.6%）が最も多く、次いで「錦鯉の飼

育方法等の相談をできる人が身近にいなかった」(48.9%)、「通いやすい場所に、錦鯉の飼育方法等の相談に乗ってくれる場所がなかった」(45.5%)と続く。他の項目では、生物の扱いが難しい、設備がないという回答も全体平均を上回っており、錦鯉の飼育を行う際のハードルの1つとなっているが、一緒にやる人がいない、相談できる人や場所がない、と言った理由や事情の方が、回答比率が高い傾向が見られる。

集計表 17 錦鯉を飼育していない理由×錦鯉を飼育しやすい状況

	n=	GQ11 錦鯉を飼育しやすい状況 (%)							
		てか もら え た ら	家 族 や 知 人 の 仕 方 を 近 教 え 人	で 知 ら れ た 一 緒 に 飼 育	が あ つ た ら 場 所 に 相 談 等 に	通 い や す い 場 所 に 相 談 等 に	あ つ た ら 雑 記 や 専 門 誌 が 示 し え	飼 育 の 仕 方 や 設 備 の 整 え	そ の 他
全 体	1,451	19.7	22.8	24.2	19.6	1.6	36.5		
興味がなかった	591	16.2	14.6	13.0	11.3	1.7	57.7		
通いやすい場所に、錦鯉の飼育方法等の相談に乗ってくれる場所がなかった	246	33.3	41.9	45.5	30.9	-	3.7		
始めるための費用が確保できなかった	255	25.1	31.8	40.0	29.4	2.0	16.9		
錦鯉を飼育するための十分な時間が取れそうになかった	190	29.5	34.2	41.6	32.1	1.1	18.4		
一緒にやってくれる人がいない	115	33.0	47.0	49.6	33.9	-	10.4		
錦鯉の飼育方法等の相談をできる人が身近にいなかった	131	36.6	38.2	48.9	45.0	-	9.2		
生物の扱いが難しいと思う	341	22.6	24.6	29.0	26.7	3.2	36.4		
錦鯉を飼育できる場所や設備がない	381	21.8	21.0	28.6	28.1	3.4	36.7		
他の趣味や娯楽の方に心が向いている	156	24.4	25.0	29.5	25.6	3.8	38.5		
自分の趣味と合わない	133	11.3	12.8	8.3	9.0	4.5	66.9		
その他	15	13.3	13.3	-	-	20.0	53.3		

※n=30未満は参考値のため灰色

クロス集計の結果を見る限り、回答者にとって錦鯉を飼育しやすい状況とは、錦鯉を飼育できなかった事情や理由と密接な関係があり、一緒に飼育をしてくれる人の存在や、飼育について相談できる相手（親族あるいは養鯉場などの専門家）がいない等の事情があり、参加体験者にとって飼育を始める際のハードルになりやすくなっている傾向が見える。

上記のクロス集計の結果から、錦鯉の飼育や観賞体験をしたことがあると回答した者の特徴や傾向をまとめると、以下のとおりである。

1) 参加体験者の体験機会ときっかけの傾向と特徴

GQ9とGQ10のクロス集計結果の分析からは、公園や庭園、文化施設等でのイベントや、学校や職場において、錦鯉を観賞する機会を得た者が多い傾向にある。また、親族等が錦鯉を飼育している場合は自宅において錦鯉に接する機会があるほか、品評会や即売会において観賞等の体験機会を得ている。加えて、テレビ等のメディアで知った者や友人・知人から誘われたと回答している者も、品評会・即売会を錦鯉の観賞を行った場として回答しており、公園や庭園、学校や職場のみならず、錦鯉の品評会や即売会も、錦鯉を鑑賞する機会として、重要な役

割を果たしているものと推察される。

2) 参加体験者が考える習いやすい状況や内容についての傾向と特徴

参加体験者が錦鯉を飼育しやすい状況や内容については、月に支払える費用と習いやすい状況とのクロス集計結果からは、月額費用として10,000円以上を支払うと回答した者ほど、飼育の具体的な状況について回答している傾向にあり、錦鯉を飼育してみたいと考えていると捉えることができる。

一方、飼育していない理由と飼育しやすい状況とのクロス集計結果からは、錦鯉の鑑賞等の体験をしても錦鯉の飼育等に興味を持てなかった者が数多くいる一方で、興味関心はあっても一緒に飼育できる人がいない、錦鯉の飼育について相談できる人や場が身近にない、といった理由や事情があって飼育には至っていないことが分かる。生物を飼育することの難しさや、飼育を行うための設備についても飼育に至らない事情や理由として回答されているが、クロス集計の回答比率を見る限り、一緒に飼育できる人がいることや、身近に飼育の相談がしやすい人や場があることが錦鯉の飼育を始めやすい状況であると考えている者が多い傾向が見られる。

経験ありと回答した者の傾向と特徴

経験ありと回答した者の回答傾向について分析を行う。錦鯉の飼育を経験したことがある者がどのような経緯や場所で錦鯉の飼育を行い始め、どの程度の者が継続してきたのかを分析することで、参加体験者と未経験者との違いを明らかにする。

■始めたきっかけと継続性及び継続理由

錦鯉を飼育し始めたきっかけ（GQ1）の結果からは、「親や兄弟姉妹・祖父母など家族が飼育していた」（60.8%）が最も回答比率が高く、次いで、「学校や職場で飼育されているのを見たり、公園や庭園、養鯉場や錦鯉品評会、文化施設等やイベントで観賞をしたりした」（13.6%）、「友人、知人などが錦鯉を飼育していて、勧められた・誘われた」（12.5%）、「趣味や教養として、錦鯉に興味関心があった」（11.9%）などとなっており、親族等からの影響が大きいことが分かる。

次に、飼育をし始めたきっかけ（GQ1）と現在の継続状況（GQ3）についてクロス集計を行い、始めたきっかけと継続率の関係を分析する。継続率の全体平均（34.1%）に対し、「親や兄弟姉妹・祖父母など家族が養鯉場を営んでいた」（74.5%）が全体平均の数値を大きく上回り、「友人、知人などが錦鯉を飼育していて、勧められた・誘われた」（68.9%）と続く一方、始めたきっかけとして最も回答比率が高かった「親や兄弟姉妹・祖父母など家族が飼育していた」（27.7%）が全体平均を下回る結果となり、養鯉場を営んでいた者が親族等にいた者や、友人・知人から勧められた者、イベントやメディアを通じて関心を持ったことをきっかけとして飼育をし始めた者の継続率が高い反面、親族等が飼育していたことをきっかけとして始めた者の継続率が低い傾向にあり、後者は何らかの事情や理由で継続できなかつたと推察される。

集計表 18 錦鯉を飼育し始めたきっかけ×現在の継続状況

	n=	GQ3 現在の継続状況 (%)	
		続けている	続けない
全体	487	34.1	65.9
親や兄弟姉妹・祖父母など家族が飼育していた	296	27.7	72.3
親や兄弟姉妹・祖父母など家族が養鯉場を営んでいた	55	74.5	25.5
友人、知人などが錦鯉を飼育していて、勧められた・誘われた	61	68.9	31.1
学校や職場で飼育されているのを見たり、公園や庭園、養鯉場や錦鯉品評会、文化施設等やイベントで観賞をしたりした	66	53.0	47.0
テレビや映画、雑誌、漫画、ウェブメディア等で知った	38	52.6	47.4
趣味や教養として、錦鯉に興味関心があった	58	37.9	62.1
錦鯉に係る仕事や職業に興味関心があった	20	70.0	30.0
自分が行っている別の分野の趣味・習い事と関係していた	22	36.4	63.6
その他	16	12.5	87.5

※n=30未満は参考値のため灰色

次に、継続理由に関する設問（GQ3補問1）では、「日本の文化だから」（33.1%）の回答比率が最も高く、次いで「養鯉場を営みたい（営んでいる）」（31.9%）、「一緒に楽しむ仲間がいる」（27.7%）、「錦鯉に愛着が湧いた（飼育が純粋に楽しい）」（27.1%）などと続いている。

始めたきっかけ（GQ1）とのクロス集計を行い、継続する理由ときっかけの関係性について分析を行うと、まず継続理由として最も回答比率が高かった「日本の文化だから」（33.1%）と回答した者の中では、「親や兄弟姉妹・祖父母など家族が養鯉場を営んでいた」（58.5%）が最も回答比率が高く、次いで「友人、知人などが錦鯉を飼育していて、勧められた・誘われた」（54.8%）、「学校や職場で飼育されているのを見たり、公園や庭園、養鯉場や錦鯉品評会、文化施設等やイベントで観賞をしたりした」（45.7%）の回答比率が高い。「一緒に楽しむ仲間がいる」（27.7%）でも同じ項目で回答比率が高いことが分かる。

また、「養鯉場を営みたい（営んでいる）」（31.9%）と回答した者の中では、「親や兄弟姉妹・祖父母など家族が飼育していた」（50.0%）、次いで「親や兄弟姉妹・祖父母など家族が養鯉場を営んでいた」（46.3%）の回答比率が高く、親族が錦鯉を飼育していたと回答した者は継続率こそ高くなかったものの、継続している者の中では、養鯉場を営んでいたり、もしくは今後開業を考えていたりする者が少なからずいることが分かる。

一方、友人や知人から誘われたり、文化施設やイベント等で観賞したりしたことをきっかけとして錦鯉の飼育を始めた者は、養鯉場を営みたいもしくは営んでいると考えている者は少ない傾向にあるが、その他の飼育を続けている理由については、全体平均を上回る回答比率となっており、錦鯉に愛着が湧いた、暮らしや生活の一部である、という認識を持っている傾向にある。

集計表 19 錦鯉を飼育し始めたきっかけ×錦鯉の飼育を続けている理由

		GQ3補問1 錦鯉の飼育を続けている理由 (%)									
		で養 鯉場 を 営 み た い （ 営 ん で い る ）	日 本 の 文 化 だ か ら	一 緒 に 楽 し む 仲 間 が い る	た ら し な 暮 ら し が 生 活 の 一 部 と な る	奥 深 い 文 化 を 選 ん だ り 、 錦 鯉 の 飼 育 が 純 粋 に 楽 し い と 思 う	錦 鯉 に 愛 着 が 湧 い た （ 飼 育 が 純 粋 に 楽 し い ）	た ら し な 暮 ら し が 生 活 の 一 部 と な る	そ の 他	特 に 理 由 は な い	の 上 は な い 中 で 当 て は ま る も
n=30以上で	n=										
全体+10pt以上											
全体+5pt以上											
全体-5pt以下											
全体-10pt以下											
全 体	166	31.9	33.1	27.7	18.7	27.1	22.3	0.6	4.2	1.8	
親や兄弟姉妹・祖父母など家族が飼育していた	82	50.0	29.3	25.6	24.4	30.5	28.0	-	4.9	2.4	
親や兄弟姉妹・祖父母など家族が養鯉場を営んでいた	41	46.3	58.5	41.5	24.4	31.7	22.0	-	2.4	-	
友人、知人などが錦鯉を飼育していて、勧められた・誘われた	42	31.0	54.8	50.0	33.3	35.7	28.6	-	-	-	
学校や職場で飼育されているのを見たり、公園や庭園、養鯉場や錦鯉品評会、文化施設等やイベントで観賞をしたりした	35	28.6	45.7	40.0	37.1	45.7	31.4	2.9	2.9	2.9	
テレビや映画、雑誌、漫画、ウェブメディア等で知った	20	45.0	55.0	55.0	40.0	50.0	40.0	-	-	-	
趣味や教養として、錦鯉に興味関心があった	22	31.8	40.9	45.5	36.4	72.7	59.1	-	4.5	-	
錦鯉に係る仕事や職業に興味関心があった	14	64.3	71.4	42.9	50.0	50.0	64.3	-	-	-	
自分が行っている別の分野の趣味・習い事と関係していた	8	62.5	62.5	62.5	50.0	50.0	75.0	-	-	-	
その他	2	-	-	-	-	100.0	100.0	-	-	-	

※n=30未満は参考値のため灰色

錦鯉の飼育から離れたきっかけや理由（GQ3補問2）を見ると、「錦鯉の飼育ができる環境を維持できなくなった」（58.6%）と最も回答比率が高く、次いで「興味を失った」（14.0%）、「時間がなくなった」（13.7%）と続いている。

始めたきっかけ（GQ1）と離れたきっかけをクロス集計しその関係について分析を行う。全体平均との差が大きい回答比率に着目すると、「錦鯉の飼育ができる環境を維持できなくなった」（58.6%）と回答した者の中で、「学校や職場で飼育されているものを見たり、公園や庭園、養鯉場や錦鯉品評会、文化施設等やイベントで観賞をしたりした」（45.2%）の回答比率が低く、参考値ではあるが、「親や兄弟姉妹・祖父母など家族が養鯉場を営んでいた」、「自分が行っている別の分野の趣味・習い事と関係していた」と回答した者の場合も、この回答比率は低くなっていることが分かる。

また、「興味を失った」（14.0%）と回答した者の中では、「学校や職場で飼育されているものを見たり、公園や庭園、養鯉場や錦鯉品評会、文化施設等やイベントで観賞をしたりした」と回答した者の回答比率が25.8%と高いほか、「健康面、体調面で続けることが難しくなった」（3.7%）と回答した者の中でも、「学校や職場で飼育されているものを見たり、公園や庭園、養鯉場や錦鯉品評会、文化施設等やイベントで観賞をしたりした」（9.7%）の回答比率が高い。「学校や職場で飼育されているものを見たり、公園や庭園、養鯉場や錦鯉品評会、文化施設等やイベントで観賞をしたりした」と回答した者が錦鯉の飼育を続けなくなった理由としては、興味を失ったことが大きいことが分かる。その他の回答者では、親族等が養鯉場を営んでいたと回答した者を除き、飼育環境の維持が困難となり、飼育が継続できなくなっている傾向が表れている。

集計表 20 錦鯉を飼育し始めたきっかけ×錦鯉の飼育から離れたきっかけや理由

		GQ3補問2 錦鯉の飼育から離れたきっかけ (%)								
		時間がなくなった	錦鯉の飼育ができた環境	飼育等がなくなった	興味を失った	経済的に続けるのが難しい	健康面、体調面で続けるのが難しい	家族や仲間の手がかり	養鯉場を閉鎖した	その他
n=30以上で										
全体+10pt以上										
全体+5pt以上										
全体-5pt以下										
全体-10pt以下										
全体	n=321	13.7	58.6	5.9	14.0	9.7	3.7	10.6	5.3	10.0
親や兄弟姉妹・祖父母など家族が飼育していた	214	11.7	63.6	6.1	12.6	9.3	2.8	13.6	6.1	10.3
親や兄弟姉妹・祖父母など家族が養鯉場を営んでいた	14	21.4	35.7	7.1	21.4	7.1	7.1	-	-	14.3
友人、知人などが錦鯉を飼育していて、勧められた・誘われた	19	21.1	68.4	-	21.1	10.5	-	15.8	5.3	5.3
学校や職場で飼育されているのを見たり、公園や庭園、養鯉場や錦鯉品評会、文化施設等やイベントで観賞をしたりした	31	16.1	45.2	9.7	25.8	9.7	9.7	12.9	6.5	6.5
テレビや映画、雑誌、漫画、ウェブメディア等で知った	18	27.8	66.7	11.1	27.8	11.1	5.6	5.6	-	-
趣味や教養として、錦鯉に興味関心があった	36	13.9	61.1	5.6	13.9	11.1	2.8	5.6	8.3	8.3
錦鯉に係る仕事や職業に興味関心があった	6	16.7	50.0	16.7	66.7	16.7	16.7	33.3	-	-
自分が行っている別の分野の趣味・習い事と関係していた	14	35.7	42.9	7.1	-	14.3	-	7.1	7.1	7.1
その他	14	7.1	64.3	-	-	14.3	7.1	7.1	-	35.7

※n=30未満は参考値のため灰色

以上のようなクロス集計の結果からは、親族等が錦鯉の飼育を行っていたことをきっかけとして錦鯉の飼育を始めた者は、その総数は多いものの、継続率は高くはない傾向にある。継続率だけに着目するなら、親族等が養鯉場を営んでいた、友人・知人から誘われた、メディアで知って興味を持った者の継続率が高い傾向にある。

錦鯉の飼育を続けている理由については、友人・知人から勧められたり、イベント等がきっかけとなったりした者の場合、錦鯉を日本の文化として大切なものと考えており、錦鯉に愛着を持ち、暮らしや生活の一部として捉えていることが分かる。また、親族等が錦鯉を飼育していた者の場合、継続率が低い傾向にこそあるが、養鯉場を開きたいもしくは開いているとする回答比率が高く、本格的に飼育を行っている者と捉えることができる。

一方、錦鯉の飼育を継続できなかった理由や事情と始めたきっかけとのクロス集計からは、親族等が養鯉場を営んでいたと回答した者を除き、ほとんどの者が飼育環境の維持が困難となったことで、飼育を継続できなくなっていることが分かる。その他、イベント等での観賞をきっかけにした者等の場合、興味を失ったとの回答比率が高い傾向もみえる。

■活動内容

錦鯉に関する活動内容（GQ5）の結果では、「自宅等の池で飼育している（いた）」（64.3%）の回答比率が最も高く、次いで、「自宅等の水槽で飼育している（いた）」（32.9%）、「養鯉場に預けて飼育してもらっている（いた）」（11.3%）と続く。

まず、活動内容（GQ5）と現在の継続状況（GQ3）についてクロス集計を行い、活動内容と継続率の関係を分析する。継続していると回答した者（34.1%）の中では「自宅等の池で飼育している（いた）」（26.8%）の回答比率が低く、「養鯉場に預けて飼育してもらっている（いた）」（83.6%）、「錦鯉の品評会に出品している（いた）」（73.5%）の回答比率が高いことが分かる。

集計表 21 錦鯉の飼育に関する活動内容×現在の継続状況

	n=	GQ3 現在の継続状況 (%)	
		続けている	続けない
全体	487	34.1	65.9
自宅等の池で飼育している(いた)	313	26.8	73.2
自宅等の水槽で飼育している(いた)	160	41.3	58.8
養鯉場に預けて飼育してもらっている(いた)	55	83.6	16.4
錦鯉の品評会に出品している(いた)	34	73.5	26.5
錦鯉の養鯉場を営んでいる(いた)	22	68.2	31.8
その他	7	14.3	85.7

※n=30未満は参考値のため灰色

次に、活動内容（GQ5）と月額費用（GQ7）についてクロス集計を行い、関係性を分析する。まず最も回答比率が高かった「1万円未満」（60.4%）では、「自宅等の池で飼育している（いた）」が全体平均よりやや高い。その一方で、養鯉場に預けている者や品評会に錦鯉を出品している者の回答比率が全体平均と大きく差があり、この2者は、5万円以上の月額費用への回答比率が高いことから、飼育方法によって、月額費用が異なることが確認できる。

集計表 22 錦鯉の飼育に関する活動内容×錦鯉の飼育に関する月額費用

	n=	GQ7 錦鯉の飼育に関する月額費用 (%)						
		1万円未満	1万円以上5万円未満	5万円以上10万円未満	10万円以上50万円未満	50万円以上100万円未満	100万円以上	50万円以上合計
全体	487	60.4	22.0	9.7	4.1	2.1	1.8	17.7
自宅等の池で飼育している(いた)	313	70.3	18.2	5.4	2.6	1.6	1.9	11.5
自宅等の水槽で飼育している(いた)	160	50.0	28.1	13.1	1.9	2.5	4.4	21.9
養鯉場に預けて飼育してもらっている(いた)	55	20.0	21.8	29.1	12.7	5.5	10.9	58.2
錦鯉の品評会に出品している(いた)	34	14.7	17.6	26.5	17.6	8.8	14.7	67.6
錦鯉の養鯉場を営んでいる(いた)	22	13.6	27.3	18.2	9.1	9.1	22.7	59.1
その他	7	85.7	14.3	-	-	-	-	-

※n=30未満は参考値のため灰色

■経験年数

錦鯉の飼育を続けている年数（GQ4）の結果では、「3～5年未満」が22.6%と最も多く、次いで「5～10年未満」の22.0%、「1～3年未満」の19.7%と続いている。

経験年数（GQ4）と習い始めたきっかけ（GQ1）のクロス集計を行い関係性について分析する。まず、飼育をし始めたきっかけとして回答比率が最も高かった「親や兄弟姉妹・祖父母など家族が飼育していた」（60.8%）と回答した者のうち、「20年以上」（80.4%）、「10～20年未満」（72.6%）が全体平均を大きく上回っているほか、「5～10年未満」（70.1%）、「1年未満」（68.9%）の項目も回答比率が高いことが分かる。

その一方、経験年数が1～5年未満と回答した者においては、「友人、知人などが錦鯉を飼育していて、勧められた・誘われた」の回答比率が全体平均を上回っているが、経験年数が1年未満と回答した者の場合では、友人・知人から誘われた、あるいはイベント等をきっかけとして飼育を始めたという回答比率が低い傾向が見られる。

集計表 23 錦鯉の飼育を続けている年数×錦鯉を飼育し始めたきっかけ

		GQ1 錦鯉を飼育し始めたきっかけ (%)									
		ど 家 族 が 兄 弟 姉 妹 し て い た 父 母 な	い ど 家 族 兄 弟 姉 妹 を 祖 父 母 で な	た 飼 育 し て い た 人 な ど が 錦 鯉 を	ト 会 庭 い 学 知 画 テ に 興 興 錦 し 野 自 そ の 他	ト 会 庭 い 学 知 画 テ に 興 興 錦 し 野 自 そ の 他	ト 会 庭 い 学 知 画 テ に 興 興 錦 し 野 自 そ の 他	ト 会 庭 い 学 知 画 テ に 興 興 錦 し 野 自 そ の 他	ト 会 庭 い 学 知 画 テ に 興 興 錦 し 野 自 そ の 他	ト 会 庭 い 学 知 画 テ に 興 興 錦 し 野 自 そ の 他	ト 会 庭 い 学 知 画 テ に 興 興 錦 し 野 自 そ の 他
全体	n=487	60.8	11.3	12.5	13.6	7.8	11.9	4.1	4.5	3.3	
1年未満	45	68.9	15.6	6.7	6.7	6.7	8.9	6.7	2.2	4.4	
1～3年未満	96	41.7	15.6	17.7	16.7	7.3	11.5	5.2	4.2	3.1	
3～5年未満	110	47.3	12.7	20.0	20.0	7.3	12.7	4.5	4.5	2.7	
5～10年未満	107	70.1	8.4	6.5	11.2	9.3	10.3	0.9	3.7	0.9	
10～20年未満	73	72.6	6.8	8.2	6.8	5.5	11.0	4.1	4.1	4.1	
20年以上	56	80.4	8.9	10.7	14.3	10.7	17.9	5.4	8.9	7.1	

次に経験年数（GQ4）と飼育の仕方を学んだ方法を選んだ理由（GQ2補問）のクロス集計を行い関係性について分析する。飼育の仕方を学んだ方法を選んだ理由として最も回答比率が高かった「家族や友人等と一緒に良かった」（33.7%）を回答した者のうち、「1年未満」（53.3%）、「20年以上」（46.4%）の回答比率が全体平均よりも高い傾向にある。

集計表 24 錦鯉の飼育を続けている年数×飼育の仕方を学んだ方法を選んだ理由

		GQ2補問 飼育の仕方を学んだ方法を選んだ理由 (%)									
		か 家 族 や 友 人 等 と 一 緒 が 良 い	通 い や す い 場 所 だ っ た	費 用 が 手 頃 だ っ た	通 い や す い 時 間 帯 だ っ た	れ ム 指 か た 本 手 手 そ の な 特 に 理 由 は な い 、 わ か ら	れ ム 指 か た 本 手 手 そ の な 特 に 理 由 は な い 、 わ か ら	れ ム 指 か た 本 手 手 そ の な 特 に 理 由 は な い 、 わ か ら	れ ム 指 か た 本 手 手 そ の な 特 に 理 由 は な い 、 わ か ら	れ ム 指 か た 本 手 手 そ の な 特 に 理 由 は な い 、 わ か ら	れ ム 指 か た 本 手 手 そ の な 特 に 理 由 は な い 、 わ か ら
全体	n=487	33.7	14.6	14.6	8.2	7.0	7.2	7.0	18.5	3.3	21.8
1年未満	45	53.3	13.3	11.1	8.9	2.2	4.4	4.4	8.9	2.2	17.8
1～3年未満	96	28.1	16.7	21.9	8.3	8.3	7.3	3.1	15.6	1.0	16.7
3～5年未満	110	24.5	22.7	18.2	7.3	8.2	4.5	6.4	20.0	2.7	17.3
5～10年未満	107	29.9	10.3	6.5	8.4	7.5	7.5	9.3	16.8	4.7	29.9
10～20年未満	73	38.4	9.6	16.4	8.2	4.1	8.2	8.2	21.9	4.1	21.9
20年以上	56	46.4	10.7	10.7	8.9	8.9	12.5	10.7	26.8	5.4	26.8

経験年数（GQ4）と錦鯉の飼育に関する興味関心や魅力（GQ8）のクロス集計を行い関係性について分析する。経験年数で見ると、20年以上と回答した者の場合、「錦鯉の飼育・観賞することで、心を落ち着かせることができる」（42.9%）との回答比率が特に高く、その他「飼育をしていくことで、変化する模様」（41.1%）、「錦鯉の飼育・観賞を通じて感じられる四季等」（26.8%）、「日本の伝統的な文化として国内外に知られている」（17.9%）も全体平均を上回る回答比率である。その一方で「飼育していくための技術」（16.1%）の回答比率は低い。

経験年数が長い点に着目すると、5年以上の経験年数の者において、「錦鯉の飼育・観賞することで、心を落ち着かせることができる」との回答比率が高くなり、1～5年未満では回答比率が低く、経験年数の長さによって魅力や興味関心の持ち方が異なることが分かる。特に経験年数が1年未満と回答した者の場合、「飼育をしていくことで、変化する模様」（60.0%）がとりわけ

回答比率が高く、その他の項目では回答比率が低くなっており、経験年数が長い者が広く錦鯉の魅力を回答している傾向とは対照的といえる。

集計表 25 錦鯉の飼育を続けている年数×錦鯉の飼育に関する興味関心や魅力

		GQ8 錦鯉の飼育に関する興味関心や魅力 (%)								
		変飼育する模様	飼育していくための技術	な種類や模様	て錦鯉の飼育・観賞を通じ	ことのできる	錦鯉の飼育・観賞	て日本の伝統文化	その他	の上記の中で当てはまるもの
n=30以上で										
全体+10pt以上										
全体+5pt以上										
全体-5pt以下										
全体-10pt以下										
	n=									
全体	487	32.2	21.1	32.2	18.9	26.3	8.2	1.8	18.5	
1年未満	45	60.0	17.8	11.1	8.9	6.7	2.2	2.2	22.2	
1～3年未満	96	26.0	29.2	27.1	14.6	19.8	5.2	2.1	12.5	
3～5年未満	110	24.5	25.5	40.9	17.3	19.1	10.0	0.9	19.1	
5～10年未満	107	29.9	13.1	31.8	21.5	32.7	5.6	0.9	20.6	
10～20年未満	73	31.5	21.9	37.0	23.3	35.6	9.6	2.7	19.2	
20年以上	56	41.1	16.1	35.7	26.8	42.9	17.9	3.6	19.6	

上記のクロス集計の結果から、錦鯉の飼育をしたことがあると回答した者の特徴や傾向をまとめると、以下のとおりである。

1) 飼育し始めたきっかけと継続率に見える傾向と特徴

親族等が錦鯉を飼育していたことをきっかけとして錦鯉の飼育を始めた者の総数は多いが、継続率は決して高くはなく、親族等が養鯉場を営んでいたり、友人・知人から誘われたりした者の方の継続率が高い傾向が見られる。

きっかけと継続理由及び辞めてしまった理由とのクロス集計の結果からは、友人や知人から誘われた、あるいはイベント等での体験をきっかけとして始めた者は、錦鯉の飼育を楽しみ、暮らしや生活の一部として捉えていることが継続理由の傾向として見える。一方、親族等が錦鯉を飼育していたあるいは養鯉場を営んでいたことで飼育を始めた者では、養鯉場を営みたいもしくは営んでいるとの回答比率が高い傾向にある。一方、始めたきっかけと飼育を辞めてしまった理由とのクロス集計では、親族等が養鯉場を営んでいた、あるいはイベント等をきっかけに飼育を始めた者を除き、ほとんどの者が飼育環境を維持できなくなったことが、継続できなくなった理由であることが分かる。

2) 活動内容と継続している状況や年数から見える傾向と特徴

養鯉場に預けて飼育している者や錦鯉の品評会に出品している者の継続率が高く、自宅等の池で飼育している者の継続率はあまり高くない傾向が見られる。このような活動を行っている者の月額費用の傾向としては、継続率が高かった養鯉場に預けて飼育している者や、品評会に出品している者ほど、月額を費用を多く出している傾向が見られる。

3) 経験年数と飼育をし始めたきっかけや魅力から見える傾向と特徴

経験年数と飼育し始めたきっかけとの関係を見た場合、いずれの経験年数においても、親族等が錦鯉の飼育をしていたことをきっかけとして飼育を始めた者は多いが、とりわけ10年以上の経験年数と回答した者の回答比率が高い。一方、1～5年未満の経験年数の場合では、友人や知人からの勧めや、イベント等での体験をきっかけとしている者も少なくない傾向が見られる。経験年数と飼育の仕方を学んだ方法を選んだ理由とのクロス集計では、いずれの経験年数においても家族や友人等と一緒に良かったとの回答は多いが、経験年数が1年未満、20年以上と回答した者の回答比率が高い傾向にある。また、1～5年未満の経験年数の場合、通いやすさや費用の手頃さの回答比率もやや高い傾向が見える。

経験年数と錦鯉の飼育に関する興味関心や魅力については、経験年数が長くなるほど、多様な魅力を回答する傾向にあり、特に錦鯉の飼育や観賞で心を落ち着かせることができるとの回答は20年以上の経験年数の回答者で顕著である。

(4) 分析結果のまとめ

活動状況や興味関心の度合いを把握することを目的としてウェブアンケートを利用した調査を実施した。

調査結果からは、錦鯉を飼育したことがない者が多いことが分かった。未経験者が多いことについては、設問群の回答結果からも見えるように、興味関心が持てなかった、自分の趣味と合わない者がいる一方で、そもそも知らなかった者が多くいることに注目する必要がある。また、錦鯉を知ってはいるが、気軽に体験できる場がなかった、あるいは体験できる場自体を知らなかったことで、参加体験には至らなかった者もいることが明らかになった。

一方で、経験者や参加体験者の場合は、錦鯉について知る機会や体験をする場に接する機会があったことから、錦鯉の飼育を行ったり、観賞したりすることができたことが分かる。経験者の場合、親族等が錦鯉を飼育していたことをきっかけとして飼育し始めたと回答している者が多く、その他、イベント等で体験したり、友人・知人から勧められたりしたことが、飼育を始めるきっかけとなっている。一方、参加体験者の場合は、公園や庭園、文化施設等での観賞等を体験しており、これ以外にも錦鯉の品評会や即売会で観賞等の体験をしている傾向があり、経験者・参加体験者・未経験者のそれぞれに、錦鯉を知る機会、接することができる機会や環境に大きな開きがあることが、調査結果の分析から見えてくる。

経験者の活動状況等については、約6割は継続していない状況で、継続している者については、70代以上を除き、若い世代ほどに継続率が高い傾向が見られる。

また、調査結果では、錦鯉の飼育の仕方に関して自宅等の池を使って飼う方法をとっている人が最も多かったが、継続できていないとの回答率も高かった。

その一方、養鯉場等に預けている人や水槽で育てている人の継続率は比較的高い傾向にあり、興味関心を持つ者の環境に応じた錦鯉の飼育の方法が、継続性に繋がるものと考えられる。

このことは、継続していない者が続けられなかった事情として、錦鯉を飼育できる環境が維持で

きなくなったとの理由が最も大きいため、生物を飼育し観賞を楽しむ文化特有の環境づくりが継続の難しさに結び付いている状況にあることが見えてきた。

参加体験者の活動状況等については、参加体験をしたきっかけと体験した機会のクロス集計から、公園や庭園等で錦鯉を観賞する体験をしたとの回答比率が高い傾向にあるほか、品評会や即売会が錦鯉を観賞する機会になっていることも明らかになった。また、観賞等を経験している者がこれまで錦鯉を飼育し始めるに至らなかった理由や事情と飼育を始めやすい状況のクロス集計からは、一緒に飼育をしてくれる人や、身近に飼育方法等の相談に乗ってくれる人や場があれば、錦鯉の飼育を始めやすい傾向にあることが見えてくる。

上記の結果から、錦鯉の飼育などに興味関心を持つ者を増やしていくことを想定した場合、例えば、全国で行われている様々な規模の錦鯉の品評会などのイベントが、錦鯉の飼育や観賞に関する情報を発信し、興味関心を喚起していく上で重要になるものと考えられる。このようなイベントそのものを、新聞や雑誌あるいはインターネット等のメディアを活用し、広く周知していくことで、錦鯉やそこに関わる様々なイベントに対する一般への認知を高めると共に、錦鯉は池で飼うだけでなく、水槽や預けて飼育する等の様々な飼育の仕方もあり、楽しみ方もあることを伝えることで、興味関心を持つ者を増やす可能性を広げることができるものと考えられる。

2-3 海外からの評価と国際発信

海外から見た錦鯉の評価

錦鯉は海外でも観賞魚として人気があり、ロックバンド Queen の故フレディ・マーキュリーや、レディー・ガガ、ブラッド・ピット等も錦鯉愛好者として知られ、それぞれの地域で愛好者団体が組織されている。

英語で一般的なコイは“Carp”で、錦鯉は“Asian Carp”“Colored Carp”と呼ばれてきたが、近年は認知度と人気の高さから“Koi”で通じることが多くなっている。個々の錦鯉の評価においても「tuya（艶）」など日本の錦鯉用語は海外の錦鯉関係者間で通じ、海外の錦鯉の観賞や錦鯉コンテストの審査においても日本が育んできた錦鯉評価の体系がほぼ共有されている。

また、海外では「世界最大のガーデンフィッシュ」とも呼ばれ、特に欧米において錦鯉はガーデニング文化と密接に関わっている。水槽で飼われる熱帯魚や金魚をはじめ様々な観賞魚文化が欧米に移入されているが、ガーデニング文化に忍び込んだのは、チョウザメとこの錦鯉のみであると言われる。

国民性や文化土壌から愛好者が好む錦鯉の品種にも地域性が見られる。日本では「紅白」、「大正三色」、「昭和三色」の人気の高いが、欧米では色彩が鮮やかな鯉が好まれてきた。また、近年は無地で金色が含まれている「光り無地」、色や形に特徴がある「変わり鯉」、薄暗い色をしたタイプが好まれるとも言われている。一方、中国では赤色が縁起の良い色で、「丹頂」や金色が含まれている錦鯉の人気の高い¹⁹。

錦鯉の観賞・飼育がグローバル化する中、飼育書等も多数発行されている。錦鯉の海外進出当初は日本の飼育書・飼育指南書の翻訳が多かったが、いまではそれぞれの地において独自の飼育書・指南書が編纂され、錦鯉はいまや各国の文化として根付き、現地化する傾向が見られる。

海外の錦鯉流通業者が国内の産地を訪問して購入することも珍しくない。例えば、旧山古志村等にも英語で書かれた錦鯉関連の看板が林立し、新型コロナ前は海外の流通業者や愛好者、また錦鯉ハンティング・ツアー（海外の錦鯉流通業者が顧客を集めて新潟県や、岡山県、広島県、福岡県等の錦鯉主要産地を訪れるツアー）等を受け入れることも多かった。

また、国内産地で錦鯉を購入した外国人愛好者の中には、オーナー制度²⁰を活用して品評会に出品する人が増えている。これは KHV の影響もあるが、日本の錦鯉の飼育技術への信頼の高さを示している。

19 アジアとヨーロッパの錦鯉の受容の仕方の違いについて、菅豊「グローバル時代を生きる錦鯉—日本文化の拡散と脱国籍化、現地化—」（松井健、野林厚志、名和克郎編『国立民族学博物館論集1 生業と生産の社会的布置—グローバル化の民族誌のために—』岩田書院、平成24年 p.269-298）では、ヨーロッパの場合は19世紀のジャポニスム（日本趣味）の延長として錦鯉が伝統日本文化を喚起させるシンボリックなアイテムとして受容され、アジアの場合は“花鳥魚虫文化”と呼ばれる観賞動植物文化が育まれており、特に中国等では文化的素地の上で錦鯉という観賞魚そのものが受容されていると分析している。

20 立て鯉購入後も、そのまま生産者に飼育を委託し、育ててもら制度。コンテストの入賞を狙って国内外の愛好者が利用することが多い。

国際発信の現状

錦鯉の生産者・流通業者の団体である一般社団法人全日本錦鯉振興会では、平成16年（2004）の国際錦鯉サミットの開催や、国内外のジャパンフェスティバル等での展示、駐日大使館への寄贈等を継続的に行い、ベトナム語版等のムックを通じて錦鯉に関する情報を提供している。近年は、HPの開設やSNS等インターネットで情報を発信して、直接、国内外へ販売する生産者も増えている。

錦鯉愛好者の団体である一般社団法人全日本愛鱗会は、海外支部を通じた普及活動や、アジア地区において「ZNAアジアカップ錦鯉品評会」を主催する。

加えて、両団体は、海外の錦鯉の品評会「コイ・ショー」等への審査員派遣等によって、現地の錦鯉愛好団体や流通業者と連携して各地域での錦鯉の浸透を図っている。国レベルのショーには、錦鯉流通業者だけでなく、錦鯉の餌や機材を生産する関連業者等もブースを出店し、日本の錦鯉関連産業のアピールの場になることも多い。

近年の国・自治体による錦鯉の発信例としては、令和3年（2021）7月22日～8月7日に東京オリンピック・パラリンピックにあわせて展開された「日本博」事業の一つ「東北ハウス」（東北6県と新潟県の官民による実行委員会が主催）で、水槽展示やリモートによる講演によって錦鯉の魅力が発信された。さらに国はクールジャパン戦略の一環として錦鯉の海外プロモーション展開を視野に入れている。

〈主要参考文献〉

- ・菅豊「錦鯉と鯉師の歴史と文化」（『生き物文化誌ビオストーリー』第3号 生き物文化誌学会、平成17年 p.38-47）
- ・青柳聡「山古志における養鯉業の実態と今後の課題」（『福祉社会開発研究』No.1、東洋大学福祉社会開発センター、平成20年 p.111-115）
- ・菅豊「グローバル時代を生きる錦鯉ー日本文化の拡散と脱国籍化、現地化ー」（松井健、野林厚志、名和克郎編『国立民族学博物館論集1 生業と生産の社会的布置ーグローバリゼーションの民族誌のためにー』岩田書院、平成24年 p.269-298）
- ・50周年記念誌編纂委員会企画・構成『全日本錦鯉振興会50年記念誌』全日本錦鯉振興会、令和2年
- ・金融財政事情研究会編『第14次 業種別審査事典』きんざい、令和2年

2章 錦鯉団体・養鯉場の活動について

1. 本章の主旨

本章では、令和5年度に実施した、錦鯉の普及啓発や継承等に関する活動を行っている錦鯉の横断的団体（生産・流通業者を主たる会員とする団体（以下、「生産・流通業者団体」とする）及び愛好者を主たる会員とする団体（以下、「愛好者団体」とする）、愛好者団体の支部、生産・流通業者に対して実施したアンケート調査の結果を中心に、錦鯉の文化継承の担い手の活動について現状を分析する。

2. 令和元年度調査の概要

「令和元年度生活文化調査事業」において、錦鯉団体2団体（愛好者団体と生産者団体）に対してアンケート調査を実施し、各団体の活動状況に関して把握を行った。

調査の結果、それぞれの団体が支部を組織して全国的な活動を行っており、また、会員制度を設けて団体の運営が行われている。事業予算額は、2団体とも5,000万円～1億円未満と回答している。

主な事業活動としては、両団体とも錦鯉の品評会を開催しており、これらに加え、教育機関や生涯学習機関への協力などの取組も実施している。また、両団体とも資格制度（審査員の資格、飼育士）を有している。

錦鯉団体が考える現状の課題としては、両団体とも会員の高齢化と減少を挙げており、愛好者を主たる会員としている団体では、マンション・アパートなど都市的な住居の増加による庭・池の減少を、国内の錦鯉愛好者減の原因として指摘している。一方、生産・流通業者を主たる会員としている団体では、施設拡大のハードルが高いこと、小規模団体においては、将来の見通しの悪化が後継者不足を招いていることを回答している。また、錦鯉の文化の継承に向け、魚病対策、野池の充実、錦鯉のブランド化の必要性という意見が出されている。

今回のアンケートでは、こうした令和元年度の調査の実績を踏まえ、さらに詳細な実態把握を行っていくものとする。

1 節 錦鯉団体の活動について

1-1 錦鯉団体へのアンケート調査の実施概要

錦鯉の活動の詳細な実態の把握を行うことを目的として、錦鯉の横断的団体（「生産・流通業者団体」「愛好者団体」の2団体）を対象とし、各団体の活動内容や、その現状と課題、錦鯉のどのような点を大事にしながら継承に取り組んできたのか等を知ることが目的としたアンケートを実施した。なお、調査年度（令和5年度）においてははまだ新型コロナウイルス感染症の影響が残っている時期であったことから、同感染症の影響の状況についてもあわせて調査の対象とした。

■調査設計

調査方法	郵送によるアンケート票の配布、郵送又は電子メールでの回答
調査対象	2団体（配布先は巻末参考資料を参照）
調査期間	令和5年（2023）11月29日（水）～令和5年（2023）12月25日（月）
回収数	2団体（回収率：100%）
設問項目	<p>Q1：団体について（概要、主な目的・定款等、沿革）</p> <p>Q2：団体の活動（直近3年）について</p> <p>①「品評会・販売会」の実施（活動概要、課題、今後の展望等）</p> <p>②「会員向け研修会、講習会」の実施（活動概要、課題、今後の展望等）</p> <p>③「一般、学校向け講演会、講師派遣」の実施（活動概要、課題、今後の展望等）</p> <p>④「機関誌の発行」の実施（活動概要、課題、今後の展望等）</p> <p>⑤「広報活動」の実施（活動概要、課題、今後の展望等）</p> <p>⑥「その他活動」の実施（活動概要、課題、今後の展望等）</p> <p>Q3：錦鯉の継承について</p> <p>①「錦鯉を次世代に伝えていく上で守り続けていく必要がある」と考えられる要素の中で特に大事だと思われる要素とその理由</p> <p>②①で選択した要素に関して、錦鯉団体としての現状及び守っていく上で必要な取組</p> <p>③錦鯉を次世代に伝えていく上で、課題と感じていることの有無、具体的課題と解決に向けた取組、課題を解決した事例と工夫した事例</p> <p>Q4：新型コロナウイルス感染症の影響について</p> <p>①新型コロナウイルス感染症の影響の程度</p> <p>②具体的な影響</p> <p>③実施した対応策</p> <p>④復旧の程度</p>

〈調査結果を参照する際の注意事項〉

- ・集計は小数点第2位を四捨五入している。したがって、回答比率の合計は必ずしも100%にならない場合がある。
- ・SA（単一回答）設問は横帯グラフ、MA（複数回答）には棒グラフを使用している。

1-2 錦鯉の横断的団体へのアンケート調査の結果概要

(1) 錦鯉の横断的団体の活動について

①「品評会・販売会」の実施について

○活動概要

(活動の種類や内容)

- ・いずれの団体も、品評会を開催しており、若鯉や幼魚など錦鯉の大きさの区分を限定する形で行われている品評会もある。また、支部や地区単位でも品評会が実施されている。
- ・一般的には審査員が直接錦鯉を見て品評を行う形式だが、1団体ではAI審査を用いたオンラインでの品評会が実施されている。

(開催頻度及び参加人数)

- ・1団体については団体主催の品評会が1回、支部毎で開催する品評会が1回、地区単位で開催する品評会が1回と回答している。もう1団体は、全国規模の品評会を4回行っているが、様々な大きさの錦鯉が出品される総合的な品評会や若鯉に限定したものなど、異なる品評会がそれぞれ年1回ずつ開催されている。
- ・参加人数等については、総合的な品評会を実施している団体は、錦鯉の出品数が2,000匹前後、品評会を観覧しに来る人数が3,000人前後であると回答している。

○現状と課題

- ・1団体からは、年々、品評会へ錦鯉を出品する人や出品数自体が減少しており、団体会員も減少している点を課題として挙げている。
- ・もう1団体からは、品評会は錦鯉の価値づけやブランド化として重要な役割を果たしている点を指摘しつつ、現状として錦鯉に係る文化についての発信力が弱く発信力を強化していく必要がある点を課題の1つとして挙げている。この他に、錦鯉を生産する者は育っているが、販売・流通を担う業者が育っていない点を課題として挙げており、販売・流通を担う業者が錦鯉の価値付けをしていく上で重要な役割を担っている現状にもかかわらず国内需要が低迷しているため、後進の育成が滞っていると説明している。

○今後の展望等

- ・品評会への出品者や出品数、会員の減少を課題として挙げた団体からは、課題解決を考えた場合、若い会員の入会をはじめとした団体会員の増強が必要であるとの展望を示している。
- ・もう一方の団体からは、品評会は団体会員の絆や連帯を高める非常に大きな機会であるとしており、KHVの問題があった時、団体会員が一致団結して事態への対応や解決を図ることが出来たので、今後も品評会を継続していきたいとしている。

②「会員向け研修会、講習会」の実施について

○活動概要

（活動の種類や内容）

- ・両団体ともに、会員向けの研修会や講習会を実施している。1団体は、愛好者向けに鯉の見方や鯉にまつわる病気等の対策に関する研修会を実施している。
- ・もう一方は、会員である国内の錦鯉生産者や販売者を対象として錦鯉の飼育に関する専門的な知識を教授する講座を開催しているほか、海外で活動している生産者やバイヤーを対象としたセミナーも開催している。

（開催頻度及び参加人数）

- ・開催頻度については、愛好者向けの研修を開いている団体は、全国規模の研修会と地区単位で実施する研修会をそれぞれ年に1回開催しており、全国規模の研修会には100名程度参加している。

○現状と課題

- ・現状と課題については記載がなかった。

○今後の展望等

- ・今後の展望については記載がなかった。

③「一般、学校向け講演会、講師派遣」の実施について

○活動概要

（活動の種類や内容）

- ・1団体から、講師派遣等とは異なるが、以前は学校に錦鯉の飼育セットを寄贈していたことがあると回答があった。

○現状と課題

- ・錦鯉の飼育セットを寄贈については学校側の負担があるということで、断られることが増えたという回答があった。

○今後の展望等

- ・飼育セットの寄贈ではなく、今後は学校等に講師派遣をする等して、錦鯉の魅力を伝えるような取組が出来れば、と回答している。

④「機関誌の発行」の実施について

○活動概要

- ・両団体とも機関誌として月刊で錦鯉の専門誌を発行している。

○現状と課題

- ・1団体からは、機関誌の英語・中国語対応のオンライン版の準備を行っているが、体制の構

築が難しいとの回答があった。

○今後の展望等

- ・今後の展望については特に記載がなかった。

⑤「広報活動」の実施について

○活動概要

(広報媒体について)

- ・両団体ともに広報活動を行っており、1団体はWEBサイトの運営とともに品評会等で一般の観覧者向けに配布するパンフレットを作成している。
- ・1団体はYouTubeチャンネルを開設しており庭園等の映像等を紹介しているほか、主催ではないが錦鯉のサミット開催に協力している。

○現状と課題

- ・現状と課題については特に記載がなかった。

○今後の展望等

- ・今後の展望等について、YouTubeチャンネルの開催等を行っている団体からは、今後もYouTubeを利用した情報発信を行うとともに、錦鯉のサミットへの協力や外国人向けに地方視察ツアーを実施したいとしている。

⑥「その他活動」の実施について

○活動概要

(活動の概要)

- ・1団体から、錦鯉の品種についての定義を統一する取組を行っているほか、錦鯉を輸出する国の市場や錦鯉に関する規制についての調査を行っていると回答している。

(活動の目的・成果)

- ・錦鯉の品種についての定義を統一する取組については、日本農林規格(JAS)において、主要品種21品種の定義を明文化が出来たという。また品種の定義を統一するとともに、国際的な基準化についての取組も進めているという。

○現状と課題

- ・現状と課題については、特に記載がなかった。

○今後の展望等

- ・統一的な品種の定義を行うことによって、統一的な規格に基づいた安心な流通へ繋げることができると展望を示している。また、将来的には錦鯉に関する証明書を発行し一尾一尾管理するとともに、データベース化を図ることで、優良な血統の判別等へとつなげていきたいとしている。また、上記の取組と関連したものとして、品評会で賞を受けた錦鯉の画像をNFT化して販売することも考えていると回答している。

(2) 錦鯉の継承について

① 継承すべき要素

今日までの錦鯉の継承において、何が守り伝えられてきたのかを具体的に特定していくために、錦鯉の横断的団体向けのアンケート調査において、「錦鯉を次世代に伝えていく上で守り続けていく必要がある」と考えられる要素として以下を掲げ、これらの中で、団体において特に大事だと思われる要素を3点選んでもらった。

- | |
|-----------------------------|
| 1. 錦鯉の飼育の技術及び知識 |
| 2. 錦鯉の育種の技術及び知識 |
| 3. 錦鯉そのもの、良い親鯉 |
| 4. 錦鯉を選別するのに必要となる審美眼や知識 |
| 5. 錦鯉をより良く生育するための環境 |
| 6. 錦鯉をより良く生育するための飼料や機材、道具 |
| 7. 錦鯉の似合う庭などの和の空間 |
| 8. 錦鯉のある暮らしがもたらす自然観、精神性、芸術性 |

上記はいずれも錦鯉の文化を継承する構成要素として欠くことのできないものであり、分けて考えることが難しい選択肢であるが、錦鯉の何を継承してきたのか、また、次世代に何を伝えていくのかを具体的に知るための試みとして、その大事だと思われる要素に対して、錦鯉の横断的団体がどのような取組を行い、何を課題に考えているかを具体的に知るために、あえて細分化して上記のような要素の提示を行った上で、(1)「錦鯉を次世代に伝えていく上で守り続けていく必要がある」と考えられる要素とその理由、(2)(1)で選択した要素に対して、錦鯉の横断的団体としての現状及び守っていく上で必要な取組、(3)錦鯉を次世代に伝えていく上で、課題と感じていることの有無及びその理由を質問した。

その結果、(1)についての横断的団体へのアンケート回答の選択については、以下の表1のとおりとなった。

表1 錦鯉の文化の継承に特に大事だと思われる要素

	愛好者団体	生産・流通業者団体
1. 錦鯉の飼育の技術及び知識	○	
2. 錦鯉の育種の技術及び知識		
3. 錦鯉そのもの、良い親鯉		
4. 錦鯉を選別するのに必要となる審美眼や知識	○	○
5. 錦鯉をより良く生育するための環境	○	○
6. 錦鯉をより良く生育するための飼料や機材、道具		
7. 錦鯉の似合う庭などの和の空間		
8. 錦鯉のある暮らしがもたらす自然観、精神性、芸術性		○

結果を見ると、双方の団体がともに選択した要素としては、「4. 錦鯉を選別するのに必要となる審美眼や知識」と「5. 錦鯉をより良く生育するための環境」の2つがあり、錦鯉の美しさをどう評価するか、及び、どう生育の環境を整えるかが錦鯉の文化の継承に重要な要素として共通に認識されていることが分かる。

一方、愛好者団体が選択した要素としては「1. 錦鯉の飼育の技術及び知識」を、生産・流通業者団体は「8. 錦鯉のある暮らしがもたらす自然観、精神性、芸術性」を要素として選択している。こうした選択となっている背景としては、愛好者団体においては、会員向けに魚病対策などの研修会が実施されており愛好者の飼育技術や知識の向上が重要視されていること、生産・流通業者団体においては錦鯉を日本文化として位置付けること、またそれらを海外に発信することが近年重視されているためと考えられる。

以下、各要素別に、【大事だ(守り続けていく必要がある)と思われる理由】と【現状】や【必要な取組】についての回答記述をまとめると、下記ようになる(回答がなかった「2. 錦鯉の育種の技術及び知識」「3. 錦鯉そのもの、良い親鯉」「6. 錦鯉をより良く生育するための飼料や機材、道具」「7. 錦鯉の似合う庭などの和の空間」を除く)。

「1. 錦鯉の飼育の技術及び知識」 1 団体 (50.0%)

【大事だ(守り続けていく必要がある)と思われる理由】

- ・ 錦鯉を飼育していくにあたって、飼育の技術や知識を次世代へ継承していくことが重要であるとされている。

【現状】

- ・ 飼育及び知識の継承についての現状として、団体の会員が以前と比べて減少している。

【必要な取組】

- ・ 取組の1つとして、団体が主催する品評会等の取組を通じて、新たに会員を増やして行くことが必要としている。

「4. 錦鯉を選別するのに必要となる審美眼や知識」 2 団体 (100%)

【大事だ(守り続けていく必要がある)と思われる理由】

- ・ 錦鯉の美を追求し、その美観等を継承していくことが重要である。
- ・ また、錦鯉の美を考えるにあたり、錦鯉の美だけではなく広い視野が必要との指摘もある。

【現状】

- ・ 1 団体から回答があり、若い世代に海外に行って視野・見聞を広めるように働きかけをしている。

【必要な取組】

- ・ 1 団体は、海外での見聞を広める中でも、海外での錦鯉品評会で審査員として経験を積むようなことが必要と回答している。

「5. 錦鯉をより良く生育するための環境」 2 団体 (100%)

【大事だ(守り続けていく必要がある)と思われる理由】

- ・ 錦鯉にとって良い環境で育成していくことで、より美しく錦鯉に成長していくことから生育環境を大事にしていく点を継承する必要があるとしている。

【現状】

- ・ 庭や池などが減少し、従来、錦鯉を飼育していた環境が変化してしまっている点が指摘されている。

【必要な取組】

- ・ 錦鯉を生育していく環境づくりが大事であること、広く発信・アピールしていく必要があるとしている。

「8. 錦鯉のある暮らしがもたらす自然観、精神性、芸術性」 1 団体 (50.0%)

【大事だ(守り続けていく必要がある)と思われる理由】

- ・ 錦鯉が日本の文化であるとの記載が見られる。

【現状】

- ・ 近年の錦鯉の海外でのブームによって、錦鯉が高価なもの、また、富裕層だけのものというイメージが強くなっているほか、錦鯉を里山や庭園などで目にする機会が減っているとの回答が見られる。

【必要な取組】

- ・ 日本の庭園で錦鯉が泳ぐ姿を発信するほか、良い錦鯉を作るために努力をしている生産者の生き方を含めた姿など、日本に無くてはならない文化であることを発信・アピールをしていくことが必要としている。

②錦鯉を次世代に伝えていく上で、課題と感じていること

「錦鯉を次世代に伝えていく上で、団体として課題だと感じていること」について聞いたところ、1 団体が「2. 取り組むことが難しい状況にある課題がある」を選択している。

上記を選択した団体が挙げた課題と、解決に向けて取り組んでいる内容もしくは取り組むことが難しい状況等は以下のとおりである。

「2. 取り組むことが難しい状況にある課題がある」 1 団体 (50.0%)

【具体的な課題と解決に向けた取り組みについて】

- ・ 農地の池への転用について

錦鯉を生育するための池として農地を転用する点を課題として挙げている。

上記の課題についての解決に向けた取り組みが難しい理由については、農地の転用に関する法律があり、農地の立地等によっては養殖池への転用が難しい場合が多くある点を指摘している。

(3) 新型コロナウイルス感染症の影響について

①影響の程度

「新型コロナウイルス感染症の影響はどの程度あったか」について聞いたところ、1団体から回答があり、「3. ある程度影響があった」を選択している。

②具体的な影響

新型コロナウイルス感染症の影響について、錦鯉品評会の開催に影響があり、海外からの出品が困難となった点を挙げている。一方、錦鯉を含めて生き物を扱う業界全体として、巣籠り需要もあり良い影響も見られたという。また、回答では、新型コロナウイルス感染症の影響よりも飼料や光熱費の高騰が、錦鯉の生産者にとっては大きな影響であったとしている。

③実施した対応策

対応策については特に記載がなかった。

④復旧の程度

新型コロナウイルス感染症の影響を受けた団体に対し、現状（令和5年末）における復旧の程度を聞いたところ、1団体から回答があり「影響は概ね払拭されている」と回答している。

1-3 まとめ

団体の活動内容

錦鯉の横断的団体の活動をみると、2つの団体とも、複数の品評会を開催しているのみならず、団体の各支部においても支部主催の品評会が開催されている。品評会は、壮魚や成魚、若鯉や幼魚と言った錦鯉の大きさによる区分を部門として設定して行われる大規模な品評会があるほか、若鯉等、区分を限定する形で行われている品評会も行われていることが確認できる。

次に、両団体共に団体会員向けに研修会や講習会を実施しており、錦鯉の見方や魚病に関する知識や対策方法をテーマとしている場合や、錦鯉の飼育に関する専門的な知識をテーマとしている場合等に分かれる。品評会と同じく団体が主催しているほか、支部や地区が主催で実施されている例もある。他方、両団体とも一般向けに講演会の開催や講師派遣等の取組は実施されておらず、1団体はかつて、錦鯉の飼育セットを学校に寄贈する取組を行っていたが現在は実施しておらず、今後講師派遣等を通じた錦鯉の魅力発信の機会創出を検討している。

両団体とも錦鯉に関する専門誌を機関誌として発行しており、加えてウェブサイトやパンフレットの作成、YouTubeによる情報発信も実施している。

上記の取組以外としては、生産・流通業者の横断的団体は、錦鯉の品種に関する定義の統一を進めるとともに国際的な基準化にも取り組んでいる。他にも、将来的には、錦鯉の証明書を発行できるようにして一尾一尾管理出来るようにデータベース化を図ることも視野に入れて活動を進めている状況にある。

それぞれの団体が抱える課題として、愛好者の横断的団体については団体会員の減少を挙げており、主催する品評会への出品者や出品数が年々減少していることから、錦鯉の若い愛好者を増やし会員を増強していく必要があると考えている。一方、生産・流通業者の横断的団体が挙げる課題は、錦鯉に係る文化の発信力を強化していく必要がある点に加えて、錦鯉の価値付けをする上で重要な役割を持つ販売・流通業者が育っていない点を挙げており、いずれの課題も団体会員が一致団結して解決にあたっていくと回答している。

錦鯉文化の継承

「錦鯉を次世代に伝えていく上で守り続けていく必要がある」と考えられる要素に関する設問については、いずれの団体も「錦鯉を選別するのに必要となる審美眼や知識」「錦鯉をより良く生育するための環境」という要素を選択している点に注目したい。愛好者と生産・流通業者と言う、錦鯉へのかかわり方が異なる中でも、美しい良い錦鯉を選び、そういった錦鯉をより良く生育することが重要な点として共通認識となっていることが分かる。

次世代へ継承していく上で、両団体ともに重要視している要素がある一方で、愛好者の横断的団体は「錦鯉の飼育の技術及び知識」を選択しており、普段から錦鯉を飼育し観賞する上で基本となる飼育方法等の技術や知識を、錦鯉に係る文化を次世代へ継承していく上で重視している。生産者・流通業者の横断的団体の場合は、「錦鯉のある暮らしがもたらす自然観、精神性、芸術性」を選択しており、海外での錦鯉の人気の高まりを受け輸出が拡大する一方、国内においては錦鯉を目にする機会が減っていることに加え、錦鯉が富裕層だけのものというイメージが強くなっている点を危惧しており、錦鯉が日本の文化として大切なものであることを再認識してもらう必要があると考えている。このことから、錦鯉を生産・流通する立場からすれば、これまで継承されてきた錦鯉の文化的価値そのものが損なわれないようにすることが、錦鯉に係る文化を次世代へ継承する上で重要視されていることが分かる。

このように、錦鯉に係る文化に関わる立場や捉え方によって、重要視している要素の違いが見られることが垣間見える。

上記の要素を次世代に守り伝えていく必要がある中、現状や課題として、庭や池を持つ人が少なくなり錦鯉を飼育できる環境が減少している点や、庭園や里山で錦鯉の姿を見かける機会自体が減少している点をそれぞれの団体が挙げている。

錦鯉が飼育出来る環境を構築することが難しくなっていることもあり、錦鯉を愛好する者自体が減少するとともに愛好者団体の会員数の減少も進んでいる。また、普段錦鯉を見かける機会が減少している一方で、海外での錦鯉への人気や関心の高まり等もあり、あたかも錦鯉が富裕層だけが扱うことが出来る文化のようなイメージが出来上がっていることも、錦鯉を愛好する者の減少の一要因となっていると考えられる。

これらの課題に対しての必要な取組として、錦鯉を飼育できるような環境づくり自体の発信やアピール、錦鯉自体が日本の文化であること、またそこに係る生産者や流通業者等の在り方を含めた

発信が必要と考えており、錦鯉に係る文化が身近なものであり、誰もが関わりやすい文化であることを積極的に発信していく取組が重要であると考えていることが分かる。

新型コロナウイルス感染症の影響

アンケート回答では、新型コロナウイルス感染症の影響について、1団体がある程度影響があったと回答している。具体的な影響として、錦鯉品評会を開催する際に海外からの出品が出来なくなった点や、巣籠り需要もあって業界全体としては良い影響もあったと団体は回答している。

新型コロナウイルス感染症の影響について、令和5年末の復旧の程度については概ね払拭されていると回答しているが、団体は新型コロナウイルス感染症よりも飼料や光熱費の高騰が生産業者にとって大きな影響であると回答している。

2 節 錦鯉愛好者の活動について

2-1 愛好者団体支部へのアンケート調査の実施概要

錦鯉を飼育し、愛好している者の詳細な活動実態を把握するため、愛好者団体の支部を調査対象とし、前出の横断的団体へアンケート内容と同じく、活動内容や、現状と課題、錦鯉のどのような点を大事にしながら継承に取り組んできたのかなどを知ることを目的としたアンケートを実施した。

また、調査年度（令和5年度）においてははまだ新型コロナウイルス感染症の影響が残っている時期であったことから、同感染症の影響の状況についてもあわせて調査の対象とした。

■調査設計

調査方法	郵送によるアンケート票の配布、郵送又は電子メールでの回答
調査対象	愛好者の横断的団体の32支部（配布先は巻末参考資料を参照）
調査期間	令和5年（2023）11月29日（水）～令和5年（2023）12月25日（月）
回収数	20支部（回収率：62.5%）
設問項目	<p>Q1：団体について（概要、主な目的・定款等、沿革）</p> <p>Q2：団体の普段の活動について</p> <p>①「品評会・販売会」の実施（活動概要、課題、今後の展望等）</p> <p>②「会員向け研修会、講習会」の実施（活動概要、課題、今後の展望等）</p> <p>③「一般、学校向け講演会、講師派遣」の実施（活動概要、課題、今後の展望等）</p> <p>④「機関誌の発行」の実施（活動概要、課題、今後の展望等）</p> <p>⑤「広報活動」の実施（活動概要、課題、今後の展望等）</p> <p>⑥「その他活動」の実施（活動概要、課題、今後の展望等）</p> <p>Q3：錦鯉の継承について</p> <p>①「錦鯉を次世代に伝えていく上で守り続けていく必要がある」と考えられる要素の中で特に大事だと思われる要素とその理由</p> <p>②①で選択した要素に関して、錦鯉団体としての現状及び守っていく上で必要な取組</p> <p>③錦鯉を次世代に伝えていく上で、課題と感じていることの有無、具体的課題と解決に向けた取組、課題を解決した事例と工夫した事例</p> <p>Q4：新型コロナウイルス感染症の影響について</p> <p>①新型コロナウイルス感染症の影響の程度</p> <p>②具体的な影響</p> <p>③実施した対応策</p> <p>④復旧の程度</p>

〈調査結果を参照する際の注意事項〉

- ・集計は小数点第2位を四捨五入している。したがって、回答比率の合計は必ずしも100%にならない場合がある。
- ・SA（単一回答）設問は横帯グラフ、MA（複数回答）には棒グラフを使用している。

2-2 愛好者団体支部へのアンケート調査の結果概要

(1) 愛好者団体支部の活動について

①「品評会・販売会」の実施について

○活動概要

(活動の種類や内容)

- ・アンケートへの回答があった20支部のうち、4支部が品評会を開催しているとの回答があった。

(開催頻度及び参加人数)

- ・品評会の開催頻度については、年に1回程度品評会を開催している所が多いが、春・秋の2回品評会を行っている支部も見られる。次に参加人数については、10名前後の参加者と回答している。

○現状と課題

- ・品評会を実施していると回答している4支部のうち、3支部が支部会員の高齢化を課題として挙げており、2支部は会員数の減少を課題として挙げています。
- ・支部会員の高齢化に伴い、支部で実施していた品評会の運営が困難になり始めているほか、参加する人数も減少している傾向にある。

○今後の展望等

- ・3支部から、支部会員の新規獲得に向けた行事や催事の企画を進めたいと考えている。

②「会員向け研修会、講習会」の実施について

○活動概要

(活動の種類や内容)

- ・アンケートに回答があった20支部のうち、2支部から回答が得られた。1支部は、錦鯉の実物を見て観賞する眼を養うために、支部がある県以外の錦鯉産地との研修交流を実施している。もう一つの団体でも、実物審査研修を実施しており、同じく実物を観賞することによる眼力の向上を目的としている。

(開催頻度及び参加人数)

- ・開催頻度については、1支部は年に1回実物審査研修を実施していると回答している。

○現状と課題

- ・現状と課題については、1支部は会員の高齢化と海外の錦鯉愛好者の増加による錦鯉の市場価格の高騰を挙げている。もう一つの支部は、研修会への参加者が年々減少していることに加え、実物研修を行うために必要な錦鯉を揃えることが困難である点を課題として挙げている。

○今後の展望等

- ・今後の展望については、1支部のみ回答があり、支部主催の研修会を止めて地区単位での研修会へ合併・移行する動きをしている。

③「一般、学校向け講演会、講師派遣」の実施について

○活動概要

(活動の種類や内容)

- ・アンケート回答のあった20支部のうち3支部から回答があった。1支部は、錦鯉品評会の審査員の養成を行っており、もう1支部は愛好者グループが主催する品評会へ審査員として参画して、審査だけではなく錦鯉に関するアドバイスも行っていると回答している。
- ・他の1支部については、錦鯉品評会などをはじめ、支部会員が育てた錦鯉の稚魚の配布を行っており、稚魚の配布と合わせて錦鯉の飼育を記載したチラシも配布していると回答している。

○現状と課題

- ・品評会に審査員として参画している支部の回答では、近年の品評会の傾向として毎年同じ人が品評会に参加している点を課題として挙げている。

○今後の展望等

- ・錦鯉の稚魚とチラシの配布を行っている支部は、今後も活動を継続したいと回答している。

④「機関誌の発行」の実施について

○活動概要

- ・アンケート回答があった20支部から機関誌を発行しているとの回答は得られなかったが、上部組織において機関誌が月刊誌として発行されており、頒布が行われているとの回答があった。

○現状と課題

- ・1支部からは、錦鯉の愛好者はいるものの団体会員に入会してもらえない点を課題として挙げている。

○今後の展望等

- ・今後の展望については、愛好者の団体加入が無いと支部が衰退していく点について危惧されている。

⑤「広報活動」の実施について

○活動概要

(広報媒体について)

- ・アンケートに回答のあった20支部のうち1支部が、上部団体が発行している機関誌の市立図書館への寄贈を行っていると回答しており、その他の広報活動については特に記載がなかった。

○現状と課題

- ・現状と課題については特に記載がなかった。

○今後の展望等

- ・今後の展望等については特に記載がなかった。

⑥「その他活動」の実施について

○活動概要

(活動の概要)

- ・アンケート回答があった20支部のうち、1支部から、鯉供養を行っているという回答が得られた。

○現状と課題

- ・現状と課題については、特に記載がなかった。

○今後の展望等

- ・今後の展望等については、特に記載がなかった。

(2) 錦鯉の継承について

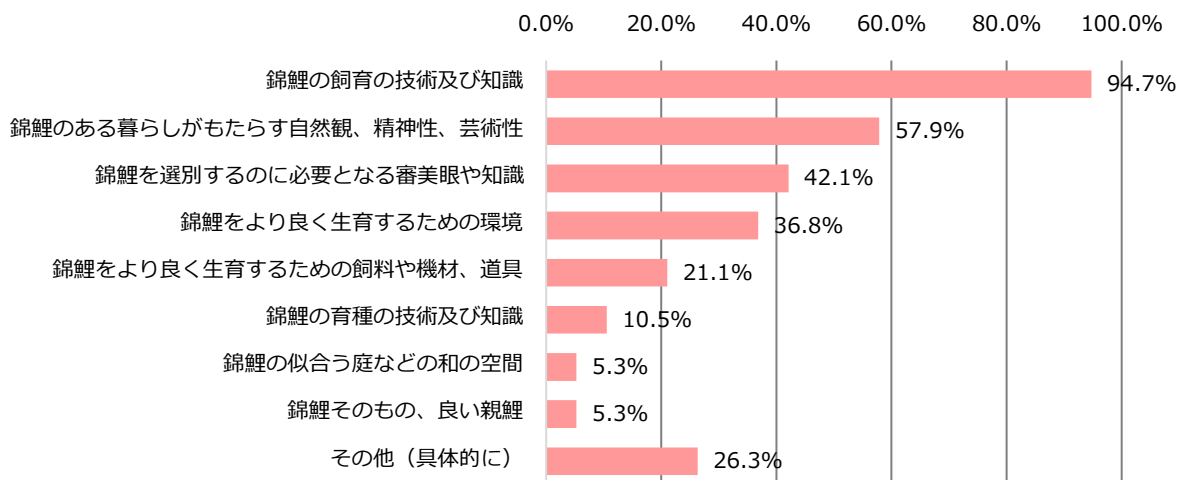
①継承すべき要素

横断的団体向けのアンケート調査と同様に、「錦鯉を次世代に伝えていく上で守り続けていく必要がある」と考えられる要素として以下を掲げ、これらの中で、団体において特に大事だと思われる要素を3点選んでもらった。

1. 錦鯉の飼育の技術及び知識
2. 錦鯉の育種の技術及び知識
3. 錦鯉そのもの、良い親鯉
4. 錦鯉を選別するのに必要となる審美眼や知識
5. 錦鯉をより良く生育するための環境
6. 錦鯉をより良く生育するための飼料や機材、道具
7. 錦鯉の似合う庭などの和の空間
8. 錦鯉のある暮らしがもたらす自然観、精神性、芸術性

上記はいずれも錦鯉の文化を継承する構成要素として欠くことのできないものであり、分けて考えることが難しい選択肢であるが、錦鯉の何を継承してきたのか、また、次世代に何を伝えていくのかを具体的に知るための試みとして、その大事だと思われる要素に対して、錦鯉の愛好者団体支部がどのような取組を行い、何を課題に考えているかを具体的に知るために、あえて細分化して上記のような要素の提示を行った上で、(1)「錦鯉を次世代に伝えていく上で守り続けていく必要がある」と考えられる要素とその理由、(2)(1)で選択した要素に対して、錦鯉の愛好者団体支部としての現状及び守っていく上で必要な取組、(3)錦鯉を次世代に伝えていく上で、課題と感じていることの有無及びその理由を質問した。

その結果、(1)についての愛好者団体支部のアンケート回答の選択については、以下のグラフ(図1)の通りとなった。



(n=19)

図1 錦鯉の文化の継承に特に大事だと思われる要素

結果を見ると、「錦鯉の飼育の技術及び知識」が 18 支部 (94.7%) と最も多く、次いで「錦鯉のある暮らしがもたらす自然観、精神性、芸術性」の 11 支部 (57.9%)、「錦鯉を選別するのに必要となる審美眼や知識」の 8 支部 (42.1%)、「錦鯉をより良く生育するための環境」の 7 支部 (36.8%) と続く。

各要素別に、【大事だ(守り続けていく必要がある)と思われる理由】と【現状】や【必要な取組】についての回答記述をまとめると、下記ようになる。

「1. 錦鯉の飼育の技術及び知識」18 支部 (94.7%)

【大事だ(守り続けていく必要がある)と思われる理由】

- ・ 錦鯉を飼育する上で、錦鯉の特性や飼育する人間のライフスタイルに応じた飼育環境づくりや、水質管理や餌の供給量の調整等の知識や技術は、基本であるとともに重要であるとの意見が見られる。
- ・ それらの知識や技術を、愛好者同士で共有することや次の世代へ伝えることも重要であるとの意見も見られた。

【現状】

- ・ 愛好者のライフスタイルや生活環境により飼育環境自体が大きく異なる上、愛好者自身の知識・技術の差も異なる部分が大いといった現状が指摘されている。また、生産業者等による委託飼育が行われていることもあり、愛好者の飼育知識や技術の差が大きくなっているとの意見も見受けられる。
- ・ 飼育技術や知識については、錦鯉品評会に参加する愛好者同士の情報交換が行われている他、昨今では飼育や魚病対策に関する知識も周知されるようになってきている現状にあるという。また、錦鯉を販売する業者の中には錦鯉の飼育知識や技術が乏しい業者もまれにあり、初心者がそういった業者で錦鯉を購入してしまうことで、飼育が上手いいかない例もあることから、愛好者同士の知識や技術の共有や伝達は不可欠であるとの意見も見られる。

【必要な取組】

- ・ 愛好者団体や生産業者等、錦鯉に係る団体や人によって錦鯉の飼育知識や技術の周知や普及が必要と言う意見が多く見られる。
- ・ 飼育知識や技術の周知には、愛好者同士が双方のコミュニケーションを通じて知識・技術を理解する機会が必要であるとともに、たとえば愛好者団体が発刊している機関誌を通じた知識等の周知、研修会の開催、愛好者同士がコミュニケーションを図るためのイベント開催等の取組も必要と言う意見も見られる。

「2. 錦鯉の育種の技術及び知識」2 支部 (10.5%)

【大事だ(守り続けていく必要がある)と思われる理由】

- ・ 大切だと思われる理由については特に記載がなかったが、水槽でも飼育が可能な面白さが大事であると言った意見が見られた。

【現状】

- ・現状については特に記載が見られなかった。

【必要な取組】

- ・必要な取組については特に記載が見られなかったが、育種については養鯉業者の領分であるという意見が見られた。

「3. 錦鯉そのもの、良い親鯉」 1支部 (5.3%)**【大事だ(守り続けていく必要がある)と思われる理由】**

- ・大切だと思われる理由については特に記載がなかったが、良い親鯉となればピンキリであり、高額になってしまうとの意見が見られた。

【現状】

- ・良い親鯉については是非把握したいが、それらの情報を把握するのは難しい現状にあるという。

【必要な取組】

- ・良い錦鯉や親鯉について情報収集が可能な場合は集めるようにしている。

「4. 錦鯉を選別するのに必要となる審美眼や知識」 8団体 (42.1%)**【大事だ(守り続けていく必要がある)と思われる理由】**

- ・健康で美しい錦鯉を残していくためには、錦鯉それぞれの特色や体形・模様・質等の将来性を見越した上で、選別を行っていく必要があるので、審美眼や知識は大切であるという意見が多い。
- ・錦鯉の美観等については、愛好者各個人の感性によっても異なる部分があるが、錦鯉の品種それぞれが持つ標準的な美しさや良さ等をよく理解することが大事であるという意見も見られる。

【現状】

- ・錦鯉を選別するための審美眼や知識は、養鯉場等から錦鯉を購入する際にも必要となっているほか、品評会で錦鯉の審査を行う場合も必要となっているので、愛好者団体では研修会等が実施されている。
- ・また、錦鯉の飼育経験が浅い愛好者については、審美眼や知識を含め経験が浅いことから、高い値段で錦鯉を購入している場合もあると言った現状を指摘する回答も見られた。

【必要な取組】

- ・研修会や勉強会等の審美眼や知識を学ぶ場を積極的に設けること、またそれらに参加していくことで経験を積んでいく必要であるとの意見が多く見られる。
- ・研修会は愛好者団体主催で実施されているが、審美眼や知識を学ぶ機会を増やす観点から、支部団体等でも研修会を開催していく必要があるとの意見もある。
- ・また、錦鯉の飼育経験が浅い愛好者は、経験豊富な先輩と一緒に錦鯉を購入したりするなどの工夫や、信頼出来る生産業者を見つけることも必要であるという指摘が見られる。

「5. 錦鯉をより良く生育するための環境」 7支部 (36.8%)

【大事だ(守り続けていく必要がある)と思われる理由】

- ・愛好者が錦鯉を飼育し鑑賞する上で、また生産業者が生産・販売を行う上でも、錦鯉をより良く生育するための飼育環境の整備は重要であるという意見が多く見られる。
- ・飼育環境として、濾過槽等の設置などによる水質の維持などが必要であるという意見の他にも、土地の気候に合わせた環境づくりが必要であったりすることが回答されている

【現状】

- ・現状としては、以前の錦鯉の飼育環境と比べると、飼育池を造りにくかったり必要な機材や装置が高くなっていたりと、良い飼育環境を整えること自体が困難になりつつあるという意見が多い。
- ・また、知識や経験が浅い愛好者の中でも、愛好者団体に参加していない人の場合、知識を学んだり相談したりする機会等が無いという指摘も見られる。

【必要な取組】

- ・生産業者や愛好者団体等が積極的に愛好者を育てて行く必要があるという指摘がある。
- ・また 初心者向けのリーフレットの配布や説明を通じて飼育環境を作るための知識を広めていく方法や、錦鯉を飼育するのが上手い人の経験談などを雑誌に掲載して読んでもらう等の取組が必要との指摘もある。

「6. 錦鯉をより良く生育するための飼料や機材、道具」 4支部 (21.1%)

【大事だ(守り続けていく必要がある)と思われる理由】

- ・錦鯉をより良く生育するためには、愛好者の生活環境によって異なる飼育環境に応じた機材や飼料・道具類が必要になるので、機材や道具類は重要であるという意見が多い。
- ・また、愛好者の生活環境によって飼育環境も異なるため、長年にわたって錦鯉を飼育してきた人が、飼料や機材道具に関する自身の経験や知識、ノウハウを伝えていくことも大事という指摘も見られる。

【現状】

- ・愛好者の生活環境によって、錦鯉を飼育する環境は異なる上、錦鯉の飼育をどのように楽しむかも愛好者それぞれであるので、各愛好者がそれぞれの飼育環境や嗜好に応じて、飼料や機材、道具類を整えているとの回答が多い。

【必要な取組】

- ・全ての飼育環境で、高級な機材や道具が必須という訳ではなく、安価で簡単な方法で飼育環境を構築し保持する方法もあることを広く伝えていく必要がある、との指摘が見られる。

「7. 錦鯉の似合う庭などの和の空間」 1支部 (5.3%)

【大事だ(守り続けていく必要がある)と思われる理由】

- ・大切だと思われる理由については特に記載がなかったが、錦鯉を飼育する環境として庭のある環境が大事との意見が見られた。

【現状】

- ・家を作ることはあっても、錦鯉を飼育できるような池を造ることが出来る庭を整える場所が無い点を指摘している。

【必要な取組】

- ・必要な取組について特に記載は見られなかった。

「8. 錦鯉のある暮らしがもたらす自然観、精神性、芸術性」 11支部 (57.9%)

【大事だ(守り続けていく必要がある)と思われる理由】

- ・錦鯉の美しさや模様が神秘的であるという理由や、錦鯉を飼育することで生活をしていく中で息抜きや気持ちの安定、心の安らぎになると言った回答が多かった。

【現状】

- ・錦鯉の芸術性等については品評会で展示されている錦鯉をみんなで鑑賞したり、愛好者団体が実施する研修会等に参加したりすることで技術や知識、感性を磨いているという回答が見られる。
- ・また、錦鯉と共に暮らすという生活環境の構築が難しくなっている点を指摘する回答も多く見られる。

【必要な取組】

- ・錦鯉の飼育を啓蒙していく取組が必要との回答が多く、錦鯉は小さな池や水槽でも飼育できることや、錦鯉を飼育することで得られる精神的な安らぎや趣味としての楽しさなどを多くの人に伝えていく必要があるとの意見が見られる。

「9. その他」 5支部 (26.3%)

【大事だ(守り続けていく必要がある)と思われる理由】

- ・錦鯉は日本の文化であると言った意見や、愛好者団体の会員同士が親睦を深めていくことが錦鯉の次世代への継承の観点から必要と言った意見、国や行政からの支援や助成が大事と言う意見も見られる。

【現状】

- ・錦鯉愛好者の減少が著しい状況にあるほか、錦鯉品評会を開催する場所の確保や人員の確保、若手愛好者の育成が出来ないと言った現状について指摘されている。

【必要な取組】

- ・国や地方公共団体等からの協力や支援を得ることが出来るように様々な機会にアピールを続けていくことが必要と言った意見の他、品評会等でも積極的に愛好者同士がふれあい話し合い交流を持つことが必要と意見も見られる。

②錦鯉を次世代に伝えていく上で、課題と感じていること

「錦鯉を次世代に伝えていく上で、団体として課題だと感じていること」について聞いたところ、アンケート回答があった 20 支部のうち、18 支部から回答が得られた。回答としては、「2. 取り組むことが難しい状況にある課題がある」が 13 支部（72.2%）、次いで「1. 解決に向けて取り組んでいる課題がある」が 6 支部（33.3%）「3. 課題はない（解決した場合を含む）」との回答は 3 支部（16.7%）となった。

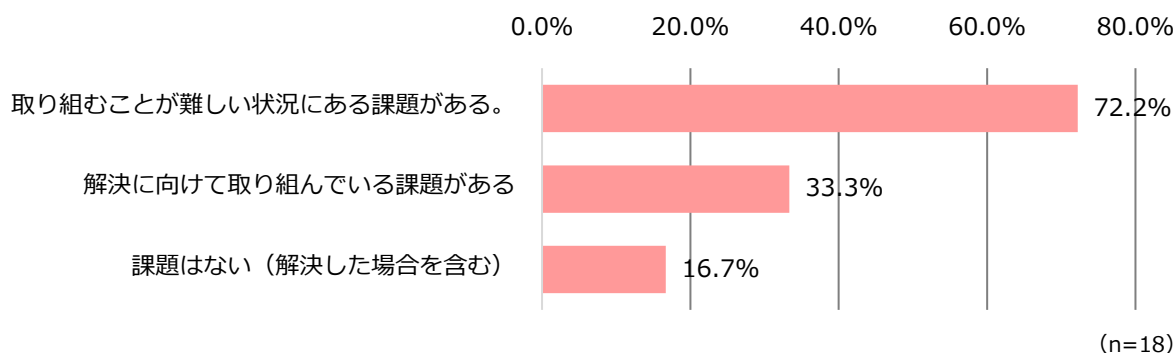


図2 錦鯉を次世代に伝えていく上で、課題だと感じていること

上記を選択した団体が挙げた課題と、解決に向けて取り組んでいる内容もしくは取り組むことが難しい状況等は以下のとおりである。

「1. 解決に向けて取り組んでいる課題がある」6 支部（33.3%）

【具体的な課題と解決に向けた取り組みについて】

・会員の増強について

支部会員の高齢化や減少が進んでいる点を課題として挙げており、それらの対策として若者や錦鯉に関心がある人と交流を図りながら支部会員へ勧誘などを行っている。支部によっては一般の方に錦鯉をプレゼントして興味を持ってもらうような取組を行っている例も見られる。

「2. 取り組むことが難しい状況にある課題がある」13 支部（72.2%）

【具体的な課題と解決に向けた取り組みについて】

・支部会員の高齢化と若年層の減少

支部会員の高齢化と若年層の会員の減少について課題として挙げており、課題解決に向けた取り組みを各支部において進めているが、対応策や適切な取組が見当たらないと回答している場合が多い。その要因として、錦鯉を飼うことができる環境を整えることが難しい点や、趣味や娯楽が多様化した中で錦鯉の魅力をアピールしにくい状況にある等の点を挙げている。

「3. 課題はない（解決した場合を含む）」3支部（16.7%）

【具体的な課題と解決に向けた取り組みについて】

- ・錦鯉品評会の運営について

1支部から、錦鯉品評会の運営課題の解決が挙げられている。回答によれば、支部主催の錦鯉品評会に自治体やまちづくりを支援する協議会等が品評会運営に参画することで、経費負担等の問題や会員が飼育している不要になってしまった錦鯉の対応等の課題を解決出来ているという。

(3) 新型コロナウイルス感染症の影響について

①影響の程度

「新型コロナウイルス感染症の影響はどの程度あったか」について聞いたところ、アンケート回答のあった20支部のうち17支部体から回答が得られた。回答としては、「3. ある程度影響があった」が9支部（52.9%）と最も多く、次いで、「2. 大きな影響はあったが、団体・流派の存続にまでの影響ではなかった」の7支部（41.2%）、「あまり／ほとんど影響はなかった」の2支部（11.8%）と続く。「1. 極めて大きく団体・流派の存続にまで影響があった」という回答は無かった。

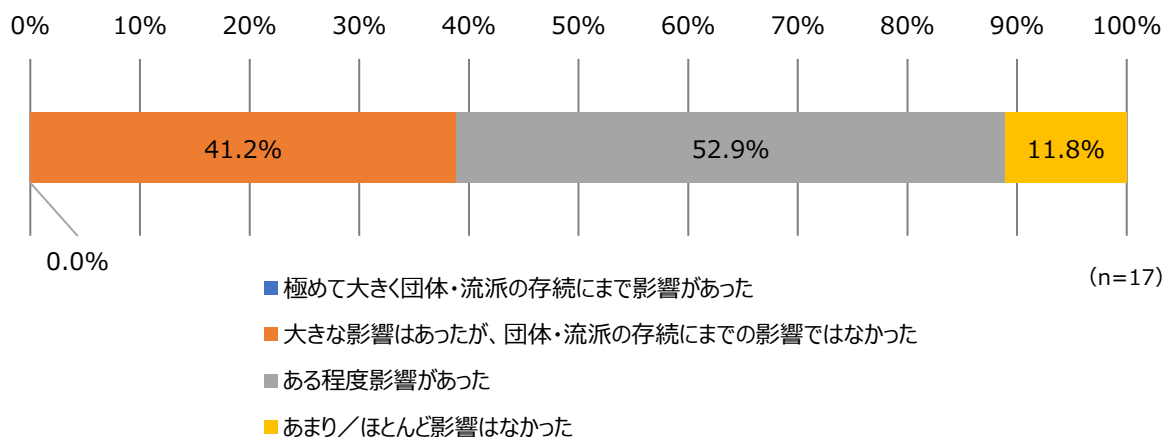


図3 新型コロナウイルス感染症の影響はどの程度あったか

②具体的な影響

新型コロナウイルス感染症の影響について、支部が主催する錦鯉品評会や催事・行事、運営のための会議等を中止もしくは延期せざるを得なかったとの回答が最も多い。また、品評会を再開出来ても出品者や出品数が減少した、支部の会員数が減少したとの回答も見られる。

③実施した対応策

実施した対応策としては、品評会の開催場所を変更しソーシャルディスタンスを保つように配慮するほか、感染症対策をしながら品評会の開催を再開した支部が多く見られる。また、品評会を中止した代わりに、錦鯉のフォトコンテストを行ったり、会員同士で錦鯉を飼育している池を巡るような催事を新たに実施したりするなど、支部会員同士の交流の場を新たに設ける等の工夫を実施したとの回答も見られる。

④復旧の程度

新型コロナウイルス感染症の影響を受けた団体に対し、現状（令和5年末）における復旧の程度を聞いたところ、回答未記入であった6支部を除く14支部からの回答は、「1. 影響は概ね払拭されている」が11支部（78.6%）と最も多く、「ある程度影響は残っている」が3支部（21.4%）と続く。「2. いまだに大きな影響が残っている」との回答は無かった。

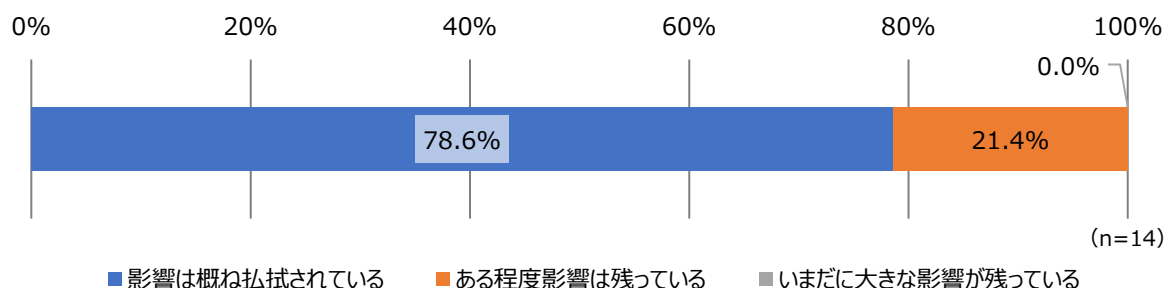


図4 復旧の程度について

2-3 まとめ

支部の活動内容

錦鯉の愛好者団体支部が行っている活動内容について、まず、錦鯉品評会を実施している支部は決して多くは無いが、開催している支部においては年に1回程度、多い場合は春と秋に品評会を実施している。また、支部主催ではなく地区単位で品評会が行われており、支部がその品評会に参画している例も確認できる。

次に会員向けの研修会や講習会については、2支部が実施内容について回答しており、いずれの支部においても錦鯉の実物を見て観察眼や観賞眼を養う目的で研修会が行われている。1支部については錦鯉の産地へ赴き実物研修を実施している。

一般や学校向けの講演会の開催や講師派遣については、3支部が実施しており、1支部では錦鯉品評会の審査員を養成する取組を、1支部では一般の愛好者グループが主催する品評会への審査委員派遣、もう1支部は品評会会場で錦鯉の稚魚の配布や飼育方法をまとめたパンフレットを配布している。

機関誌の発行については、支部単独で機関誌や会報等の発行は行われておらず、支部の上部組織である横断的団体が発行している機関誌があるとの回答が見られる。また、広報活動については、

先の機関誌を図書館に寄贈しているとの回答が1支部からあったのみで、その他支部では広報活動を展開しているとの回答は見られなかった。なお、その他の活動として、鯉供養を実施していると1支部から回答が得られた。

これらの活動を行っていくにあたり、愛好者団体支部が抱える課題として、会員の高齢化と減少を課題として捉えている支部が多い。アンケート回答では、会員の高齢化に伴い錦鯉品評会の運営が困難な状況になりつつある点を具体例として挙げており、また、錦鯉愛好者である会員数が減少している状況についても言及している。それらの課題について回答している支部からは、若い愛好者が会員になってくれるような、行事や催事の実施を考えているところがあるほか、参加者が減少している実物研修会を、支部主催ではなく地区単位での実施に移行することを考えている支部もある。

また、上記とは別の課題として、錦鯉自体の値段が高騰しており、実物研修会を実施するのに必要な錦鯉を揃えること自体に支障が出ている点を挙げている支部もある。

錦鯉文化の継承

「錦鯉を次世代に伝えていく上で守り続けていく必要がある」と考えられる要素に関する設問については、「錦鯉の飼育の技術及び知識」、「錦鯉のある暮らしがもたらす自然観、精神性、芸術性」、「錦鯉を選別するのに必要となる審美眼や知識」、「錦鯉をより良く生育するための環境」、「錦鯉をより良く生育するための飼料や機材、道具」、「錦鯉の育種の技術及び知識」、「錦鯉の似合う庭などの和の空間」、「錦鯉そのもの、良い親鯉」の順で回答の割合が高い。各要素について、大切であると考えられる理由はおおよそ以下のとおりであった。

- ・ 錦鯉の飼育の技術及び知識については、飼育を行う上での基本的な要素であるが、飼育する錦鯉の特徴や、飼育する人間のライフスタイルに応じた飼育環境を整える必要があったり、水質管理や餌の供給等を調整したりと、様々な状況に対応する必要もあることから、技術や知識は重要なものである。
- ・ 錦鯉のある暮らしがもたらす自然観、精神性、芸術性については、錦鯉の美しさはもちろんのこと、錦鯉の飼育することで生活の中での心の安らぎになる点が非常に大事である。
- ・ 錦鯉を選別するのに必要となる審美眼や知識については、錦鯉を購入したり、仔取りをしたりする際等、健康で美しい良い錦鯉を残していくためには、錦鯉の特色や将来性を見越して選別を行うため、審美眼と知識は重要な要素である。
- ・ 錦鯉をより良く生育するための環境については、錦鯉を生育していく場合、濾過装置の設置等による水質の維持管理や、飼育環境の土地の気候に合わせた環境整備や対応も必要となるなど、環境整備は重要な要素である。

- ・錦鯉をより良く生育するための飼料や機材、道具については、飼育環境を整える上で、愛好者自身の生活環境などは人それぞれで異なっており、その環境を整えるため機材や飼料は重要な要素である。
- ・錦鯉の育種の技術及び知識については、大切である理由について記載は見られなかったが、意見として、水槽でも飼育出来る面白さが大事といった回答が見られた。
- ・錦鯉の似合う庭などの和の空間については、大切である理由について記載は見られなかったが、意見として、庭のある環境が大事との回答が見られた。
- ・錦鯉そのもの、良い親鯉については、大切である理由について記載は見られなかったが、良い親鯉となると値段もピンからキリまでであるとの回答が見られた。

上記の要素を次世代に守り伝えていく必要がある中、その課題点として、錦鯉の飼育や飼育環境の整備、審美眼などの技術や知識等を、愛好者同士で情報交換するような機会や、初心者が技術や知識を学んだり愛好者の先輩に聞いたりする機会も減少している傾向にあることが指摘されている。

また、住宅事情や生活環境の変化もあり、庭に池をつくったりすること等も少なくなり、錦鯉を飼育しやすい環境を構築しにくくなっている点も指摘されているほか、それらの要因も相まって愛好者自体が減少しているとの意見も見られる。

課題を解決するための取組としては、愛好者間でコミュニケーションを図るための催事等の開催や、飼育や飼育環境の整備、魚病に関する知識や技術の周知を図るための研修会や勉強会等を開催する等の取組が必要との指摘が見られる。また、池等の飼育環境が構築しにくい状況にあり、結果として錦鯉愛好者の減少にもつながっている点については、たとえば水槽での錦鯉飼育等の方法や、飼育環境を構築するノウハウを初心者に伝える機会を作る、等の取組が必要との意見も見られる。

新型コロナウイルス感染症の影響

新型コロナウイルス感染症については、回答あった 17 支部の内、「3. ある程度影響があった」が 9 支部（52.9%）と最も多く、次いで「2. 大きな影響はあったが団体の存続にまでの影響ではなかった」7 支部（41.2%）と続く。

具体的な影響としては、団体支部が主催している品評会等の催事や会議の中止・延期が発生した例が最も多く、催事等の再開以降は参加者等の減少が見られるなど、少なくない影響があったことが窺える。

対応策としては、影響が弱まった時期にソーシャルディスタンスを保つなどの感染症対策を施しながら品評会等の実施をしたほか、対面で品評会を行わない代わりにフォトコンテストを実施するなどの工夫も行われていたことが分かる。

3節 養鯉場（生産・流通業者等）の活動について

3-1 生産・流通業者へのアンケート調査の実施概要

生産・流通業者団体の会員であり、錦鯉の生産又は流通に関する活動を行っている錦鯉の業者（養鯉場等）を対象として、各団体の活動内容や、その現状と課題、錦鯉のどのような点を大事にしながら継承に取り組んできたのかなどを知ることが目的としたアンケートを実施した。

また、調査年度（令和5年度）においてははまだ新型コロナウイルス感染症の影響が残っている時期であったことから、同感染症の影響の状況についてもあわせて調査の対象とした。

■調査設計

調査方法	郵送によるアンケート票の配布、郵送又は電子メールでの回答
調査対象	281 か所
調査期間	令和5年（2023）12月4日（月）～令和5年（2023）12月25日（月）
回収数	75 か所（回収率：26.7%）
設問項目	Q1：生産・流通業者の概要 Q2：生産・流通業者の事業・活動状況について ① 錦鯉の育成・販売 ② 錦鯉の委託管理、品評会への出品 ③ 後継者・研修生の育成、愛好者へのアドバイス ④ 情報発信 ⑤ 愛好者団体・その他の団体との関わり ⑥ 自治体、その他との連携 ⑦ その他の活動 Q3：錦鯉の継承について ①「錦鯉を次世代に伝えていく上で守り続けていく必要がある」と考えられる要素の中で特に大事だと思われる要素とその理由 ②①で選択した要素に関して、錦鯉団体としての現状及び守っていく上で必要な取組 ③錦鯉を次世代に伝えていく上で、課題と感じていることの有無、具体的課題と解決に向けた取組、課題を解決した事例と工夫した事例 Q4：新型コロナウイルス感染症の影響について ①新型コロナウイルス感染症の影響の程度 ②具体的な影響 ③実施した対応策 ④復旧の程度

〈調査結果を参照する際の注意事項〉

- ・集計は小数点第2位を四捨五入している。したがって、回答比率の合計は必ずしも100%にならない場合がある。
- ・SA（単一回答）設問は横帯グラフ、MA（複数回答）には棒グラフを使用している。

3-2 養鯉場（生産・流通業者等）へのアンケート調査の結果概要

（1）養鯉場（生産・流通業者等）の活動状況について

①錦鯉の育成・販売

○活動概要

（育成している代表的な錦鯉の種類）

- ・回答のあった75か所の養鯉場のうち、生育している品種について73か所の養鯉場から回答があった。

最も多く扱われている錦鯉の品種としては、紅白（36件、49.3%）、次いで、昭和三色（30件、41.1%）、大正三色（28件、38.4%）、変わり鯉（15件、20.5%）と続き、特に紅白、大正三色、昭和三色のいわゆる「御三家」を中心に扱っている養鯉場が多い傾向にある。

（錦鯉育成の年間スケジュール）

- ・錦鯉の育成に関する年間スケジュールについては、各養鯉場においてやや異なるものの、以下のようなスケジュール感であった。

まず、4月頃から錦鯉を育成する池の準備が始まり、5～6月頃に産卵、7～9月頃にかけて稚魚の選別作業が行われる。なお、早い場合は産卵から1か月ほどで1回目の選別を行い9月頃までに合計3回ほど選別を行っている養鯉場もあり、その年に生まれた錦鯉（当才・当歳）を販売するか、さらに育てるか等の選別が行われている。10月頃には当才（当歳）の販売が行われるようになるほか、越冬のため、鯉を池から上げる作業もあわせて行われる。

（販売の方法）

- ・各養鯉場における錦鯉の販売方法については、店頭や対面での販売を行っているとの回答が多く、インターネットやネットオークションを併用している養鯉場も多く見られる。

（育成や販売における成果）

- ・育成や販売における成果としては、錦鯉品評会の全国大会や地区大会等で入賞した錦鯉を輩出していることを成果として挙げている養鯉場が多い。

（海外との関わり）

- ・海外との関わりについて、回答が得られた73か所の養鯉場のうち28か所の養鯉場が、バイヤーなどを通じて海外へ錦鯉を販売している。養鯉場の中には、海外への販売が9割を占めていると回答している例も見られるほか、国内での錦鯉販売が難しくなりつつあることを回答している養鯉場もある。

○現状と課題

- ・現状と課題として特に多く回答されているのは、錦鯉の育成に係る各種費用の高騰である。電気代等の高熱費をはじめとして経費が高騰している点を課題としている。次に、養鯉場の人手不足や経営者の高齢化が課題として挙げられており、繁忙期になる初春や夏場の人手不足を挙げている場合や、普段から手伝いに来ている人が高齢化している場合や経営者自身が

高齢となっている場合も見られる。

- ・また、錦鯉の愛好者の減少と高齢化に伴って、愛好者の増加を課題として挙げている養鯉場も多くある。この他、育成する錦鯉の品質向上や、養鯉場の事業承継や後継者問題、錦鯉を育成するための飼育池の不足等の課題を挙げている養鯉場もある

○今後の展望等

- ・今後の展望等としては、より良い品質の錦鯉の育成について考えている養鯉場が多い他、錦鯉の愛好者の増加について考えている養鯉場も多い傾向にある。より良い品質の錦鯉の育成に関しては、海外において生産される錦鯉に負けないような品質の向上を考えている養鯉場や、愛好者が減少しているからこそ、高品質の錦鯉を育成する必要があるなど、それぞれの立場によって背景は異なるものの、品質の向上を考えている養鯉場が多い。
- ・次に錦鯉の愛好者の増加について考えている養鯉場については、国内における錦鯉愛好者の高齢化や減少傾向にあることを課題と捉えており、池ではなく水槽による錦鯉の飼育など環境を多様化しながら愛好者の拡大に繋がりたいという考えも確認できるほか、錦鯉の楽しみ方をまずは多くの人に知ってもらうことが必要と考える養鯉場もある。
- ・この他、展望として育成する錦鯉の量の増加や育成する飼育池の拡張等を考えている場合や、海外への錦鯉の輸出をさらに拡大したいと考える養鯉場もある一方、養鯉場の事業承継が困難で先が見通せないといった回答も見られる。

②錦鯉の委託管理、品評会への出品

○活動の概要

(委託管理の状況や規模)

- ・回答のあった 75 か所の養鯉場のうち、委託管理の状況や規模については、70 か所の養鯉場から回答があった。
- ・このうち、委託管理を実施している養鯉場は、33 か所 (47.1%) となった。アンケート回答から、養鯉場が行っている委託管理は、愛好者から錦鯉そのものを預かって養鯉場が管理する飼育池や野池で飼育を行っている場合と、錦鯉を飼育している愛好者をはじめ店舗や寺院等から、池自体の管理を委託されている場合の 2 つに分かれていることが確認できる。特に前者、錦鯉そのものを預かり飼育している養鯉場が多くを占めており、多いところでは 100 匹前後を預かっている養鯉場も見られるほか、人手や労力の問題で 10 匹前後に絞り込んでいる養鯉場も見られる。

(錦鯉品評会出品についての状況や成果)

- ・回答のあった 75 か所の養鯉場のうち、錦鯉品評会出品についての状況等については、70 か所の養鯉場から回答があった。このうち、錦鯉品評会出品への出品を実施している養鯉場は、58 か所 (82.9%) となった。
- ・品評会への出品については、養鯉場が飼育している錦鯉を出品する場合のほか、愛好者が飼育している錦鯉の出品をサポートしている場合も見られる。なお、愛好者の出品をサポート

している養鯉場では、国内の愛好者に限定している場合と、外国人の愛好者の錦鯉を委託管理して出品している例が確認できる。

(海外との関わり)

- ・海外との関わりについては、アンケート項目に回答のあった 70 か所の養鯉場のうち、17 か所 (24.3%) が海外との関わりを持っている。この中でも、海外の愛好者の錦鯉を委託管理している養鯉場が多く、委託管理とあわせて顧客の要望に応じて日本国内の品評会に出品も行われている。

○現状と課題

- ・現状と課題については、それぞれの養鯉場で大きく異なっており比較的多かったのが、養鯉場の人手不足、錦鯉を生育するための費用等の高騰、設備が不足している点等を課題として挙げている傾向にある。また、品評会で良い賞を獲得できるような良質の錦鯉を生育出来ない点を課題として挙げている養鯉場も多い。
- ・この他、愛好者の高齢化や若い愛好者が少ない点を挙げている養鯉場もあり、錦鯉を飼育するにも費用が掛かるので、コストを抑えた飼育方法の提案も必要との意見も見られる。

○今後の展望等

- ・今後の展望としては、良質の錦鯉の育成を目指している養鯉場が多い。人手不足や費用の高騰、設備の不足といった課題を抱えつつも、良い錦鯉を生育して愛好者へ提供すること、また、良質な錦鯉を品評会に出品して評価されることによって、養鯉場としての価値を高めていきたいと考えている養鯉場が多いことが回答内容から見えてくる。
- ・減少傾向にある錦鯉の愛好者を増やしていきたいと回答している養鯉場からは、初心者向けの品評会の開催やコストが低い飼育方法が必要、といった意見も見られる。

③後継者・研修生の育成、愛好者へのアドバイス

○活動概要

(後継者及び研修生等の受け入れ)

- ・回答のあった 75 か所の養鯉場のうち、後継者や研修生の受け入れの有無については、69 か所から回答が得られた。この内、21 か所 (30.4%) の養鯉場で後継者の育成等を行っていると回答があり、7 か所 (10.1%) の養鯉場では研修生の受け入れを行っていると回答している。
- ・後継者については、現在、養鯉場の後継者の育成を図っているとの回答が多く、中にはすでに回答者と一緒に養鯉場を経営している所もある。
- ・研修生については、受け入れを行っている所は必ずしも多くは無いが、ビジネスビザによる無給での研修を受け入れている所や、短期での研修のみ受け入れている所など養鯉場の事情によって異なる。なお、現在は実施していないが、研修生の受け入れを検討している養鯉場も 3 か所ほどある。

(愛好者へのアドバイス)

- ・愛好者へのアドバイスについては、質問項目に回答あった69か所のうち、29か所(42.0%)がアドバイスを行っているとの回答している。どの養鯉場も相談を受ければ随時アドバイスを行っており、その内容については、錦鯉の飼育方法や飼育する池や水槽の水の管理、魚の病気やその対処方法などを愛好者に教えている場合が多い。中には、錦鯉の生産や選別、飼育池の修繕などのアドバイスを行っている養鯉場もある。

(海外との関わり)

- ・海外との関わりについては、質問項目に回答のあった69か所のうち、9か所(13.0%)の養鯉場で海外との関わりがあると回答している。
- ・主に、海外の錦鯉の愛好者への飼育に関するアドバイスを行っている場合が多く、その他には海外の人を研修生としての受け入れを行っている養鯉場もある。

○現状と課題

- ・活動における課題としては、錦鯉の愛好者の減少や、錦鯉自体のイメージ(飼育が難しそう、贅沢なもの)を払拭して、身近なものとしたいといった課題が見られる。
- ・錦鯉を生育する技術や審美眼等を磨き上げていくことが難しく後継者育成や事業承継が難しい点や、アルバイトやパートを雇うことが出来るが常勤の職員を雇うことが難しい、養鯉池を増やそうにも農地法の関係もあり容易に拡充が出来ない等、養鯉場を経営していく上での課題点も挙げられている。

○今後の展望等

- ・今後の展望としては、まず錦鯉の愛好者の減少について挙げている養鯉場の場合は、錦鯉の初心者でも興味が持ってもらえるようなイベントや品評会の開催を考えていたり、小学校の授業等で錦鯉について知ってもらう機会を増やすと言った取組を検討していたりしている。また、錦鯉の飼育が難しい、贅沢なものといったイメージを払拭する必要があると考えている養鯉場は、錦鯉にも色々な飼育方法があることを知ってもらうことで身近な存在であることを知ってもらうような取組が必要と考えている。
- ・この他、後継者育成が難しいと言った課題を挙げている養鯉場からは、後継者育成はせずに自分の代で養鯉場を閉じるため、現状の経営をきちんと頑張っていきたいと考えているところもあれば、世襲が困難である点を踏まえ、錦鯉の生育に関する技術や知識・美的感覚などを学ぶため、若手の養鯉場経営者に海外で開催される品評会に参加してもらい、様々な経験積んでもらうことで、国際情勢にも対応出来る経営者を育成する必要があると指摘している養鯉場もある。

④情報発信

○活動概要

(情報発信の有無や内容)

- ・アンケート回答のあった75か所のうち、67か所から回答があった。回答があった67か所のうち44か所(65.7%)は、何らかの形で情報発信を行っていることが確認できる。
- ・回答で最も多く見られたのは、Instagram等のSNSの利用の29か所(65.9%)で、このうち14か所(48.3%)がFacebook、11か所(37.9%)がInstagram、4か所(13.8%)はYouTubeを利用している。SNSの利用に次いで19か所(43.2%)がホームページやウェブサイトの運用を、12か所(27.3%)が錦鯉の専門雑誌への広告を行っている。

(情報発信の目的)

- ・情報発信を行っているという回答している44か所の養鯉場が、情報発信を行う目的としては、主に養鯉場自体の存在を知ってもらい錦鯉の販売や顧客獲得につなげたい、といった目的を挙げる養鯉場がほとんどである。
- ・中には錦鯉の愛好者の飼育技術の向上につなげられるような内容について情報発信を行っている養鯉場も見られる。

(情報発信の成果)

- ・情報発信を行っているという回答している44か所の養鯉場のうち、13か所(29.5%)は情報発信を行ったことによる成果があったと回答している。そのほとんどは、情報発信を行ったことで新規顧客の誘導に成功しているといった主旨の回答であった。

○現状と課題

- ・情報発信の課題としては、情報発信そのものを継続的に行っていくことや、発信を行う頻度を増やす点について言及している養鯉場が多い。これらの課題を挙げる養鯉場からは、錦鯉の生育に関する業務が多岐にわたるため、発信を行う頻度をなかなか増やせない状況にあると言及している養鯉場も見られる。
- ・この他の課題として、情報発信のために必要な知識が不足している、発信を専門に行えるような人材がいない、海外からの問い合わせ等に対応するため英語や中国語等に対応する必要がある、といった点を課題としている養鯉場もある。

○今後の展望等

- ・情報発信の今後の展望については、情報発信を行っている養鯉場からは、継続して情報発信を行うとともに、SNS等を見る人が求める情報内容を発信したいといった回答が多いほか、現在、情報発信を行っていない養鯉場でも情報発信を行うことを検討しているといった回答が見られる。

⑤愛好者団体・その他の団体との関わり

○活動概要

(連携している団体)

- ・アンケート回答のあった75か所の養鯉場のうち、62か所から項目への回答があった。このうち、愛好者団体やそのほかの団体との関わりや連携などを行っているとは回答している養鯉場は30か所(48.4%)、また、かつては関わりがあったと回答している養鯉場が5か所(8.1%)ほどあった。

(連携の内容)

- ・団体と連携等を行っているとは回答した30か所のうち、9か所(30.0%)が愛好者団体の実施する品評会に対して協力をを行っているとは回答している。具体的には、品評会への錦鯉の出品や搬入等の手伝いや審査員としての協力をしている養鯉場が多い。他の連携内容としては、錦鯉の飼育方法のレクチャーや愛好者団体での研修等の実施が行われている。
- ・愛好者団体以外との団体との連携としては全日本錦鯉振興会会員としての活動や振興会が実施する事業への協力と言った内容が見られる。

(海外との関わり)

- ・海外との関わりについては、海外で実施される品評会に審査員として出席しているとは回答している養鯉場が2か所あるほか、海外で活動している錦鯉団体と関わりを持っている例も見られる。
- ・団体との連携とは異なる内容だが、仲介業者を経由する形で錦鯉を海外に販売しているとの回答も見られた。

○現状と課題

- ・課題と挙がっているものとしては、連携している愛好者団体の会員を含めて、錦鯉の愛好者が減少している点を挙げている他、愛好者団体の会員数の減少に関係して団体の活動経費も減少しているため、品評会開催等の活動が難しくなっているといった課題についても挙げられている。
- ・海外の品評会で審査員として招待されている養鯉場からは渡航に係る費用面が課題という点が挙げられている。

○今後の展望等

- ・今後の展望としては、若い世代に錦鯉に興味を持ってもらいたい、愛好者団体の会員を増やしたいなど、錦鯉の愛好者を増やしたいという展望を持っている養鯉場が多い傾向にある。また、展望とは異なるが現状の活動に関する意見として、愛好者団体が飼育方法などのレクチャーをすれば錦鯉を飼育する人は増えるのでは、と言った回答も見られる。

⑥自治体、その他との連携

○活動概要

(連携している組織とその内容)

- ・自治体と連携していると回答のあった養鯉場では、自治体と協力した催事への出展を行っている例や、自治体が運営する内水面試験場と協力して KHV に関する蔓延防止マニュアルの作成を行ったとの回答もある。また、水族館が実施する事業への協力や、品評会に後援や協賛をもらっている等の回答が見られる。
- ・自治体以外の例では、全日本錦鯉振興会との連携や同会実施事業への協力、地元の漁業組合や養殖組合に所属しており、組合の事業に参画している例があるほか、地域の小・中学校の社会科見学への協力を行っている例も見られる。

○現状と課題

- ・漁業組合等に所属して連携を行っている養鯉場は、組合員の高齢化が進んでいるのと同時に組合員自体も減少傾向にあり、現在実施している品評会等の催事を継続できるか見通せない点が課題であると指摘している。

○今後の展望等

- ・現状と課題において、組合員の高齢化と減少について指摘した養鯉場からは、品評会等のイベントの継続が見込めない場合は、イベント規模の縮小や近隣地域との合同開催も視野に入れるかもしれないとの回答がある。

⑦その他の活動

○活動概要

(活動の概要や目的)

- ・その他の活動としては、地域の小学校や中学校に錦鯉を寄付している例や、小学校で実施する社会科見学への協力を行っている養鯉場があるほか、養鯉場独自で錦鯉品評会を開催している例や、飼育コンテストや審査コンテストのような催事を開催している例が2例ほど見られる。
- ・この他、次の世代に継承可能な錦鯉の飼育環境の整備方法を提唱する等の取組を実施している例や、初心者向けに錦鯉の水槽飼育の方法を掲載した書籍を執筆している例、愛好者団体が発行している雑誌に養鯉場の生産状況等について連載記事を執筆していた等の例が見受けられる。

○現状と課題

- ・錦鯉の水槽飼育に関する書籍を執筆した養鯉場は、水槽飼育をする人が増えたと回答しているほか、品評会や催事を主催している養鯉場からも、少しずつ新しい錦鯉愛好者が増えていく、催事のリピーターがいて毎年楽しんでもらっていると回答が見られる。
- ・小学校へ錦鯉を寄贈している養鯉場からは、毎年錦鯉に関する教室を開いている養鯉場もあ

り、取組は良好に進んでいると回答している。

- ・愛好者団体の雑誌に連載を行っていた養鯉場は、雑誌の発行部数自体は多くは無いが、連載を行っていたお陰で自身の養鯉場を知っている顧客が多かったと回答している。

○今後の展望等

- ・小学校への錦鯉の寄付を行っている養鯉場は、取組を全国に広めたいと回答している。
- ・品評会や催事を主催している養鯉場は、出来る範囲でイベントを増やして行きたいという回答や、今後も錦鯉のすばらしさを楽しんでもらえるように継続していきたいと回答している。
- ・継承可能な飼育環境の整備方法について提唱を行っている養鯉場は、今後の展望が見えない状況にあると回答が寄せられている。

(2) 錦鯉の継承について

①継承すべき要素

横断的団体向け及び愛好者団体の支部向けのアンケート調査と同様に、「錦鯉を次世代に伝えていく上で守り続けていく必要がある」と考えられる要素として以下を掲げ、これらの中で、生産・流通業者において特に大事だと思われる要素を3点選んでもらった。

1. 錦鯉の飼育の技術及び知識
2. 錦鯉の育種の技術及び知識
3. 錦鯉そのもの、良い親鯉
4. 錦鯉を選別するのに必要となる審美眼や知識
5. 錦鯉をより良く生育するための環境
6. 錦鯉をより良く生育するための飼料や機材、道具
7. 錦鯉の似合う庭などの和の空間
8. 錦鯉のある暮らしがもたらす自然観、精神性、芸術性

上記はいずれも錦鯉の構成要素として欠くことのできないものであり、分けて考えることが難しい選択肢であるが、錦鯉の何を継承してきたのか、また、次世代に何を伝えていくのかを具体的に知るための試みとして、養鯉場（生産・流通業者等）が大事だと考える要素についての取組を行い、何を課題に考えているかを具体的に知るために、あえて細分化して上記のような要素の提示を行った上で、(1)「錦鯉を次世代に伝えていく上で守り続けていく必要がある」と考えられる要素とその理由、(2)(1)で選択した要素に対して、錦鯉の横断的団体としての現状及び守っていく上で必要な取組、(3)錦鯉を次世代に伝えていく上で、課題と感じていることの有無及びその理由を質問した。

その結果、(1)についての養鯉場（生産・流通業者等）へのアンケート回答の選択については、グラフ（図5）の通りとなった。

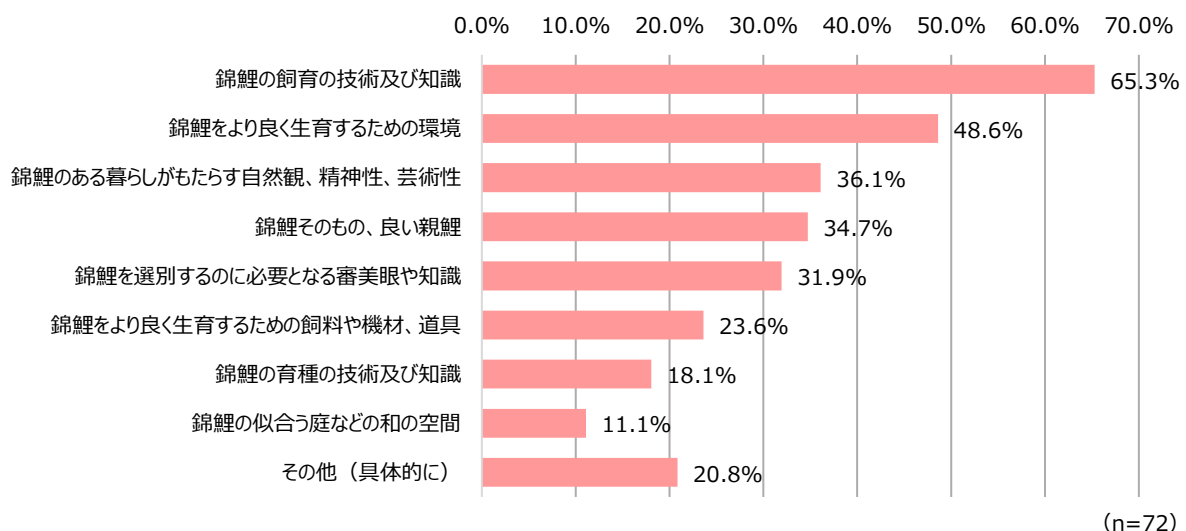


図5 錦鯉の文化の継承に特に大事だと思われる要素

上図のとおり、全体では「1. 錦鯉の飼育の技術及び知識」が、47 団体（65.3%）と最も高く、次いで「5. 錦鯉をより良く生育するための環境」の35 団体（48.6%）、「8. 錦鯉のある暮らしがもたらす自然観、精神性、芸術性」の26 団体（36.1%）、「3. 錦鯉そのもの、良い親鯉」の25 団体（34.7%）、「4. 錦鯉を選別するのに必要となる審美眼や知識」23 団体（31.9%）と続く。

重要な要素として選択された上位5つの要素について、まず、横断的団体2団体のアンケート結果と比較する。横断的団体で同率1位であった「4. 錦鯉を選別するのに必要となる審美眼や知識」「5. 錦鯉をより良く生育するための環境」の2つとも重視される要素として含まれているが、養鯉場の場合、生育するための環境を重視している養鯉場が多い傾向にあることが分かる。

次に、愛好者の横断的団体が選択した「1. 錦鯉の飼育の技術及び知識」が、養鯉場へのアンケート結果でも1位となっている一方で、生産・流通業者の横断的団体が選択した、「8. 錦鯉のある暮らしがもたらす自然観、精神性、芸術性」を重視している養鯉場も多い。生産者・流通業者という錦鯉を生産・流通する立場として錦鯉の飼育技術や知識を重視していると同時に、錦鯉を愛好する一愛好者として、錦鯉がいる暮らしがもたらす側面も重視していると推察される。

続いて、愛好者団体の支部に実施したアンケートの回答結果との比較をすると「1. 錦鯉の飼育の技術及び知識」が全体1位となっている点は共通しており、愛好者、生産・流通業者、いずれの立場においても錦鯉を飼育し続けることが重要視されている。

次に、「8. 錦鯉のある暮らしがもたらす自然観、精神性、芸術性」について、愛好者団体では2位、生産・流通業者3位と重視されていることが分かるが、回答率を比較すると20%以上の開きがあることから愛好者が、錦鯉を生活の一部としていることが推察される。一方、愛好者団体の支部の回答結果では4位であった「5. 錦鯉をより良く生育するための環境」が生産・流通業者では2位と高く、愛好者団体支部では同率7位と順位が低かった「3. 錦鯉そのもの、良い親鯉」が全体同率3位と比較的高い順位となっていることから、生産・流通業者の立場において重視されていることが、錦鯉自体の生産を行う中で、出来る限り良い錦鯉を飼育するための技術や知識、各系統において大事になる親鯉の存在が欠かせない要素であることが見て取れる。

アンケート回答の各要素別に、【大事だ(守り続けていく必要がある)と思われる理由】と【現状】や【必要な取組】についての回答記述をまとめると、下記ようになる。

「1. 錦鯉の飼育の技術及び知識」47 団体（65.3%）

【大事だ(守り続けていく必要がある)と思われる理由】

- ・美しい錦鯉を作出するには、飼育に関する技術及び知識は基本であり必須の要素である、と言った主旨の回答が多く見られる。
- ・また、錦鯉の血筋を活かしていくためには、飼育及び知識が必要であり、それらが無いと錦鯉自体が絶えてしまうため重要であるというや、飼育技術及び知識の共有と普及が錦鯉を長く飼育してく上でも重要であるという意見も見られる。

【現状】

- ・各養鯉場から異なる観点に基づいて、現状について回答されている。一つは養鯉場経営者

が有する飼育技術や知識に関する現状で、技術と知識の向上に努めている、技術や知識の継承がうまくいっていると言った回答が多く見られるほか、技術や知識の普及があまり進んでいない現状を懸念している養鯉場も見られる。

また、鯉の飼育環境や病気に関する現状について、自然環境や気象条件の大きな変化によって従来の技術や知識のみでは、適切な飼育が難しくなっている点や、鯉の病気への対応に苦心しているといった点が現状として挙げられている。

- ・その他、錦鯉を飼育する愛好者の飼育技術や知識についての言及も見られ、長年錦鯉を飼育している愛好者については問題ないが、新しく錦鯉を飼育し始める人に対して養鯉場からも適切な飼育方法や知識の提供を行っているものの、なかなかうまく伝わらなかったりすることがあるとしている。

【必要な取組】

- ・現状と同様に、各養鯉場からそれぞれの観点で必要な取組について回答がされている。養鯉場経営者が有する飼育技術や知識に係る取り組みとしては、実践を通じた飼育技術や知識の向上が常に必要と回答している養鯉場が多い傾向があるほか、同業者同士での情報交換や他の養殖業や農業等の知識や情報等も積極的に取り入れていきたいと回答している養鯉場もある。また、経営者が有する飼育技術や知識の継承について言及している回答も見られ、若い世代への継承に力を入れている場合や、後継者はいないが錦鯉が好きな人がいれば是非、技術や知識を伝えたいと回答している養鯉場もある
- ・次に、飼育技術や知識の普及や発信について言及している例として、団体が積極的に情報発信を行った方が良いという意見や、初心者・中級者の愛好者向けとして、品評会で飼育技術や知識をまとめた小冊子やパンフレットを頒布している養鯉場も確認できる。また、魚病についての言及も見られ、飼育技術や知識と同じく、団体から発信と情報共有を行った方が良いという意見が見られた。

「2. 錦鯉の育種の技術及び知識」13 団体 (18.1%)

【大事だ(守り続けていく必要がある)と思われる理由】

- ・錦鯉の育種の技術及び知識が大切な理由として、良い錦鯉を育てる上で、親鯉同士の交配や育成する幼魚の選別は不可欠であるという回答が多いほか、良い錦鯉の遺伝子を次の世代へ継承していくという観点からも重要であるとの意見も見られる。

【現状】

- ・育種に関する技術や知識の現状については、系統だった育種や親鯉の系統の保存は難しい現状にあることや、錦鯉の選別自体、錦鯉を育種する人間の経験や感性に依拠する所が多く、新しい品種を生み出すには何代も掛かるとの回答が見られる。また、養鯉場としてはより良い育種のため良い親鯉を求めている一方で、KHVの懸念もあるため、新しい親鯉を導入することにも時間がかかる等の現状についても言及されている。

【必要な取組】

- ・ 毎年のように肥料や改良剤をまいて実践している、春に1～2回・秋に1～2回選別するとうまくいくと思う、魚病の感染を防ぐための専用のハウスを建設した、データを基に作業している、などそれぞれの対応策についての回答となっている。

「3. 錦鯉そのもの、良い親鯉」25 団体 (34.7%)**【大事だ(守り続けていく必要がある)と思われる理由】**

- ・ 錦鯉そのもの、良い親鯉を大事と考える理由については、特に親鯉が大事である言及する回答が多く見られた。
- ・ 錦鯉を育種・飼育していく上で、体形や模様などが良い親鯉から、良い錦鯉が作出できるという回答が見られ、血統・系統が遺伝するといった観点から、オリジナルの良い系統の親鯉や良質な親鯉を大事にしておくことを重視している傾向が確認できる。

【現状】

- ・ 現状としては、多くの養鯉場において、良い系統の親鯉の導入を行うことで作出する錦鯉の品質の向上に努めているほか、新たな親鯉を導入しつつも自家産の系統の親鯉を保存・継承するような取組を進めるなど、養鯉場としてのブランドの確立なども意識されている。

【必要な取組】

- ・ 必要な取組としては、質や体型が遺伝する傾向にあるため良い親鯉を確保することが大事という養鯉場が多い。また、偶然作出されたような錦鯉の品種の固定化を行っていくことも取組として必要としている養鯉場もある。
- ・ 上記のような回答の他、海外における錦鯉人気を背景として、良い系統の錦鯉が海外へ流失してしまっていることを懸念する回答も見られる。

「4. 錦鯉を選別するのに必要となる審美眼や知識」23 団体 (31.9%)**【大事だ(守り続けていく必要がある)と思われる理由】**

- ・ 錦鯉を選別するための審美眼や知識を大切だと思ふ理由については、錦鯉を飼育していく中で、体格や骨格、肌の質、模様等も含めて美しい錦鯉を育てるためには、それらを見極める眼と知識や経験等は必須であるという回答が多く見られる。
- ・ また、これら審美眼や知識や飼育の経験を積み重ねないと身に付かない上、飼育する者のセンスも問われる部分も大きいことから、次世代に伝えていくには長い時間が必要となるとの回答も見られるほか、若手の中にはこれら審美眼や知識が不足している者もあり、旧来あった審美眼が失われつつあるのでは、と危惧をいただいている養鯉場もある。

【現状】

- ・ 審美眼や知識に関する現状については、養鯉場を経営する者各自の審美眼や知識に基づいて育種や育成する錦鯉を判断している現状にあり、親鯉の掛け合わせ等も様々な形で行うことでどのように遺伝するか等のデータの蓄積を試みている養鯉場もある。

- ・これら審美眼や知識については、感覚的な部分が大きく、後継者を育てる際や愛好者に教えることが難しいと言った点について言及している養鯉場もあり、後継者育成を行っている養鯉場からは経営者として一人前になるにはまだ時間がかかる、等の回答も見られる。また、飼育を行う者の審美眼や知識ではなく、大手の養鯉場が作出した錦鯉であることが重視されがちになっているのではないかと、といった懸念を示している養鯉場もある。

【必要な取組】

- ・必要な取組としては、とにかく良い錦鯉、たとえば品評会で入賞しているような錦鯉を見たりする等、経験と知識を積み上げることが必要な取組として言及されている。
- ・また、錦鯉の育種や飼育を行う際の工夫について言及している養鯉場もあり、良い親鯉の選別や仕入れを重視する、品種が持つ特性や希少性に基づいてある程度統一した評価を持っておく、分かりやすい特徴を持っている幼魚を選別して遺伝の性質を観察する、などの工夫が行われていることが分かる。

「5. 錦鯉をより良く生育するための環境」35 団体（48.6%）

【大事だ(守り続けていく必要がある)と思われる理由】

- ・錦鯉の生育環境について大事だと思ふ理由については、飼育や育種の技術や知識、良い親鯉があることの前提として、まずは飼育する錦鯉に適した生育環境が必要であるという意見が多い。
- ・錦鯉の生育環境の中でも、水質と土質を重視する意見が多く見られ、特に水質については、自然環境が錦鯉の生育の良し悪しに大きく影響を与えるものであるため、病原菌等がないきれいな水で育てることが大事であるとの意見が多い。

【現状】

- ・生育環境の現状については、各養鯉場において生育環境を整えるための工夫等について言及が行われている回答が多い。
- ・中でも水質について言及している回答が多く、毎年生育している環境であっても水質が異なるため、水の色等もよく観察して錦鯉にとって過ごしやすい環境を整えていると養鯉場がほとんどである。
- ・また、水質と同様に池の土質も毎年変化する上、天候等にも左右されることが多いので、各養鯉場においては、様々な環境の変化も加味しながら飼育環境の調整に気を遣っていることが回答から見て取ることが出来る。
- ・生育環境の調整以外については、養鯉池の造成が難しい状況にあり、たとえば田を野池に転用することが法律の規制もあって容易ではない点を回答している場合も見られる。

【必要な取組】

- ・生育環境についての必要な取組としては、錦鯉にとって住みやすい・育ちやすい環境づくりが必要との意見が多い。特に錦鯉の養育に必要な野池の造成が必要と言う意見が多く見られ、農地法の改正が必要であると考えている養鯉場も多くある。

- ・この他、水質を保つために濾過装置などを導入して水を清潔に保つ等の取組を進めていると回答している養鯉場も多く見られるほか、魚病対策の徹底も意見として見られる。

「6. 錦鯉をより良く生育するための飼料や機材、道具」17 団体 (23.6%)

【大事だ(守り続けていく必要がある)と思われる理由】

- ・飼料や機材、道具が大切だと思われる理由としては、錦鯉を長く飼育するためには不可欠な要素として考えられている。特に、水の汚れが少ない飼料や水質を維持するための濾過装置が必要という意見が多く見られる。
- ・また、適切な飼料や機材こそ、錦鯉を愛好する者に必要であり、飼育の知識と共に正しく使ってもらうことが大事であるという意見も散見される。

【現状】

- ・飼料や機材、道具の現状については、飼料や機材の開発自体はメーカーが中心となって行われており、特に飼料の研究は進んでいるとの回答が見られるほか、さらなる開発の進展が望ましいと言った意見も見られる。
- ・その他、飼料や機材等の価格が値上がりしていると回答している養鯉場があるほか、飼料や機材を更新しても結局は錦鯉を養育する人の知識や技術、経験によって錦鯉の育成状況が左右されるところもあり、飼料や機材の正しい使い方を身に付ける必要があるとの意見もある。

【必要な取組】

- ・必要な取組としては、飼料や機材を用いて錦鯉の養育環境をどう良くするかという点について様々な回答が見られる。
- ・飼料や機材の開発をメーカーと養鯉場が共同で行い品質向上に努めるのが大事と言った意見や、メーカーが飼料や濾過装置等の実証実験をしっかり行うべきと言った意見や、機材を購入した者が修理しやすい機材が望ましいと言った意見も見られる。
- ・この他、錦鯉の愛好者を増やすために、初心者でも導入しやすい設備や機材等の開発が必要との意見も見られるなど、愛好者を意識した機材開発や、機材の扱い方を学んでもらう必要があると言った回答も見られる。

「7. 錦鯉の似合う庭などの和の空間」8 団体 (11.1%)

【大事だ(守り続けていく必要がある)と思われる理由】

- ・錦鯉の似合う和の空間が大切であるという理由については、愛好者への普及の観点から大事であるという意見が多く見られる。
- ・飼育する環境自体が整備されない限り愛好者は増えないという意見や、庭や池がある家自体が少なくなっており、錦鯉を飼育出来る環境が無いため鑑賞や飼育を行う機会自体が少なくなっているといった危機感を示している養鯉場もある。また、住宅メーカーとタイアップして池を取り入れたモデルハウスを企画しては？と言った意欲的な回答も見られた。

【現状】

- ・現状については、様々な意見が見られ、そもそも池のある場所が少ないと言った現状について回答している養鯉場をはじめ、錦鯉が泳いでいる池自体がきれいに掃除されていなかったりすることが多く、池や錦鯉自体のイメージ自体の悪化に繋がっているとの意見や、造園業者が排水や排泥が簡単に出来る庭池の作り方を知らないのではとの意見も見られる。
- ・この他、錦鯉の楽しみ方は和の空間との調和以外にも様々な楽しみ方があることを顧客に伝えているなど、錦鯉の楽しみ方自体を伝えている養鯉場もあれば、池の周りには落葉樹を植えずに常緑樹を植える方が、調和がとれると言ったアドバイスを回答している養鯉場もある。

【必要な取組】

- ・必要な取組については、きれいに管理された池にきれいな錦鯉が泳いでいる光景を見たら飼育してみたいと思う人はいる筈と言った意見や、造園組合等と相談して錦鯉業界が庭池の造営マニュアルを作成して、掃除や管理がしやすい池作りが出来るようにした方が良いという意見もあり、きれいな池と錦鯉の組み合わせによって錦鯉の魅力を伝えたいと考えている養鯉場がある。
- ・この他に、錦鯉が高級なものであるとのイメージが先行しすぎているので、気軽に誰でも飼育が出来ること、また飼育のノウハウを広める必要があると言った意見も見られる。

「8. 錦鯉のある暮らしがもたらす自然観、精神性、芸術性」26 団体 (36.1%)**【大事だ(守り続けていく必要がある)と思われる理由】**

- ・大切だと思われる理由として、錦鯉の美しさや、錦鯉が泳ぐ姿を眺めることで、心や精神的な豊かさ、癒しを感じることが出来るなど、錦鯉を飼育や鑑賞を通じてもたらされる精神的な側面について回答している養鯉場が多い。
- ・その他、錦鯉を飼育し鑑賞することの楽しさや、精神的な癒しの部分についてあまり世間に知られていない、それらを広く伝えた方が良いという意見も多く見られる。

【現状】

- ・現状としては、錦鯉を飼育できる環境（家に池がある等）が少なくなっている、錦鯉を飼育する人そのものが減少していると言った意見が多く見られる。
- ・この他に、錦鯉がメディアに取り上げられる際、金額面ばかり取り上げられて、錦鯉の飼育や鑑賞することの良さがなかなか取り上げられないといった点を懸念する回答もある。

【必要な取組】

- ・必要な取組としては、錦鯉の美しさや飼育や鑑賞の面白さを広く伝える取組が必要と考えている養鯉場が多いことが分かる。
- ・例えば、錦鯉が泳ぐ姿を見せるために、公園などの施設に池を造って錦鯉を飼育することを勧めていくなど、日常空間で錦鯉の鑑賞機会を増やす取組が必要と考える養鯉場が多く、SNS で錦鯉の美しさを発信すると言った手段等の回答も見られる。

「9. その他」 15 団体 (20.8%)

【大事だ(守り続けていく必要がある)と思われる理由】

- ・「その他」の意見としては、健康で美しい錦鯉を飼育することが大事と言った意見が多く見られたほか、錦鯉を愛好してくれる人達の存在が大事であると言った意見もある。
- ・他に、養鯉場の後継者問題や、愛好者を増やして行くことが大事等の回答も見られる。

【現状】

- ・錦鯉の飼育や、養鯉場の経営及び事業承継についての現状についての回答が多く見られる。
- ・飼育面については、新しいスタッフの育成や新規の技術・機材の導入、飼育環境の整備等を進めているとの回答のほか、魚病対策として薬剤頼みになっている現状を回答している養鯉場もある。また、養鯉場の経営及び事業承継については、後継者がいない現状を挙げている養鯉場の他、経費節減に努めているという回答も見られる。また、産卵時期に親鯉が産卵しなかったり、受精をしなかったりと言う飼育面での問題をあげている養鯉場もある。
- ・この他、錦鯉の愛好者が減少している点について触れている回答もあり、愛好者の高齢化や、愛好者を育てる組織や団体、品評会などの場が無い点を危惧している養鯉場もある。

【必要な取組】

- ・養鯉場の経営及び事業承継について、常に顧客である愛好者が求めている商品や価格、サービスを考え実施することが必要と言った回答の他、飼育面については、魚病対策としての強い系統の導入を検討している。また、親鯉が産卵や受精をしない現象について回答した養鯉場からは、内水面試験場等で原因や対策を調べて欲しいと回答している。
- ・錦鯉の愛好者減少については、若い愛好者を増やす取組が必要であるが具体的な取組については不明とする養鯉場のほか、愛好者を育てるための組織や品評会等の場を設ける必要があると考えている養鯉場もある。

②錦鯉を次世代に伝えていく上で、課題と感じていること

「錦鯉を次世代に伝えていく上で、団体として課題だと感じていること」について聞いたところ、「1. 解決に向けて取り組んでいる課題がある」が 32.7%、「2. 取り組むことが難しい状況にある課題がある」が 55.1%、「3. 課題はない (解決した場合を含む)」が 12.2%との結果となった。

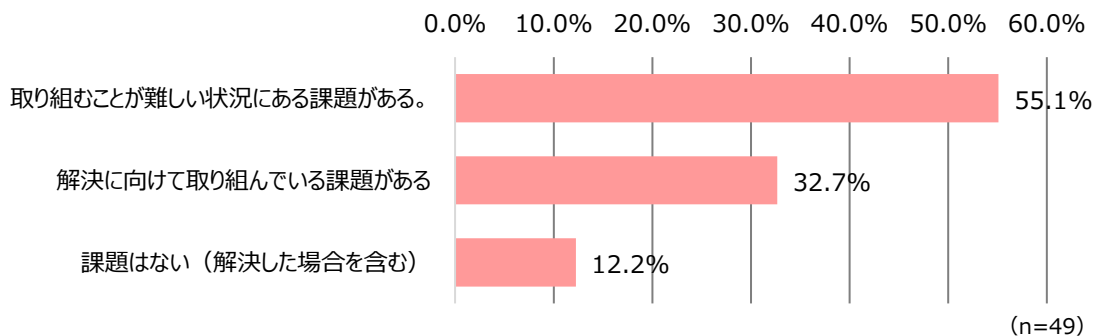


図6 錦鯉を次世代に伝えていく上で課題と感じていること

上記を選択した団体が挙げた課題と、解決に向けて取り組んでいる内容もしくは取り組むことが難しい状況等は以下のとおりである。

「1. 解決に向けて取り組んでいる課題がある」16 団体 (32.7%)

【具体的な課題と解決に向けた取り組みについて】

・次世代の生産者や販売業者の育成

錦鯉を生育する養鯉場ならではの回答として、次世代の生産者や販売業者の育成について課題を挙げている養鯉場が見られる。

まず課題点として、次世代の生産者や販売業者が不足していることや、事業承継が難しいと言った意見が見られるほか、生産者がどのようなことを行っているかが世間一般にあまり知られてないこともあり、若手が養鯉場の経営等に興味を持ってもらえていないという意見も見られる。

上記の課題について、各養鯉場からは様々な意見があり、繁忙期となれば休む暇がないほどに非常に多忙である反面、錦鯉自体への愛好や事業を継続できるだけの利益を出すことが出来る業種であるため、愛好者のニーズを捉えしっかりと利益を出し続けることが、次の世代の養鯉場経営者の育成につながるという意見があるほか、SNS 等を活用した情報発信を通じて養鯉場の経営自体に興味を持ってもらえるような取組が必要といった意見がある。

・錦鯉の愛好者の減少

生産者や販売業者の育成の次に多く見られる課題は、愛好者の減少やそれに伴う国内における錦鯉需要の低迷が挙げられる。

それらの課題に係る取組としては、イベント等への出展などを通じて錦鯉を飼育することの魅力などをアピールしたり、品評会を見に行ってもらえるようにしたりすると言った取組が行われている。また、池が無くても水槽で飼育が可能な点を提示しつつ飼育方法などを提示したり、子どもが錦鯉と触れ合うことが出来るようなイベントを多く設けたりしていると回答している養鯉場も見られる。この他、既に錦鯉を飼育している人に、飼育のアドバイスや池などの飼育環境の整備などを実施している養鯉場もある。

「2. 取り組むことが難しい状況にある課題がある」27 団体 (55.1%)

【具体的な課題と解決に向けた取り組みについて】

・養鯉場の後継者不足及び小売手等の減少

回答では、後継者がいないと回答している養鯉場が多く見られる。後継者がいない点については、国内における住宅事情の変化によって戸建てで庭がある家が少なくなっている点や愛好者が減少している点を挙げ、養鯉場としての経営が難しい状況になっているので、すぐに解決は難しいといった意見が見られる。

・愛好者の減少と国内需要の低下

養鯉場の後継者不足とも関係しているのが、錦鯉を飼育する愛好者が減少していること

と、国内における錦鯉需要が低下している点であり、これらを課題として挙げている養鯉場が見られる。また、海外での錦鯉への関心の高まりを受けて国外への輸出が重視されている点を挙げ、養鯉場を経営してく上で必要である反面、国内における愛好者の増加や需要の維持は必要といった意見も見られる。

・ **燃料費等の高騰や魚病問題**

錦鯉を生育する上で必要となる飼料や電気代、燃料代等の高騰や、KHVをはじめとした魚病への対応を課題として挙げている養鯉場もある。燃料費等の高騰や魚病対策には、相応の経費が掛かる一方、国内需要が低迷していることもあり、採算が合いにくくなっていると回答が見られ、海外への錦鯉輸出を検討している養鯉場もある。

・ **生育ノウハウの流出**

錦鯉の生育に関する様々なノウハウが海外へ流出している点について少なくない養鯉場が課題として挙げている。

ノウハウの流出によって、中国や東南アジアでの錦鯉生産が盛んになっている例を挙げ、安い人件費や設備費で錦鯉生産が出来てしまうので国内の養鯉場における燃料費や電気代の高騰を考えると価格面において勝負できないと言った声や、海外で生産された錦鯉が流通しており、アメリカやヨーロッパの市場では余剰分が出ているので、出来れば生育のノウハウの流出を止めたいが難しいと言った回答が見られる。

「3. 課題はない（解決した場合を含む）」6 団体（12.2%）

課題がないあるいは課題を解決した場合に関しては、事業承継について、後継者がすでに養鯉場で働いており事業承継の準備が進められているという回答があるほか、とにかく良い錦鯉を生育するために自分の鑑識眼や技術・知識を磨いていきたいと言った回答が見られる。

（3）新型コロナウイルス感染症の影響について

① 影響の程度

「新型コロナウイルス感染症の影響はどの程度あったか」について聞いたところ、回答のあった63か所の養鯉場のうち、「3. ある程度影響があった」22か所（34.9%）が多く、次いで「4. あまり／ほとんど影響はなかった」が17か所（27.0%）、「2. 大きな影響はあったが、団体の存続にまでの影響ではなかった」16か所（25.4%）と続き、「1. 極めて大きく団体の存続にまで影響があった」は8か所（12.7%）となった。

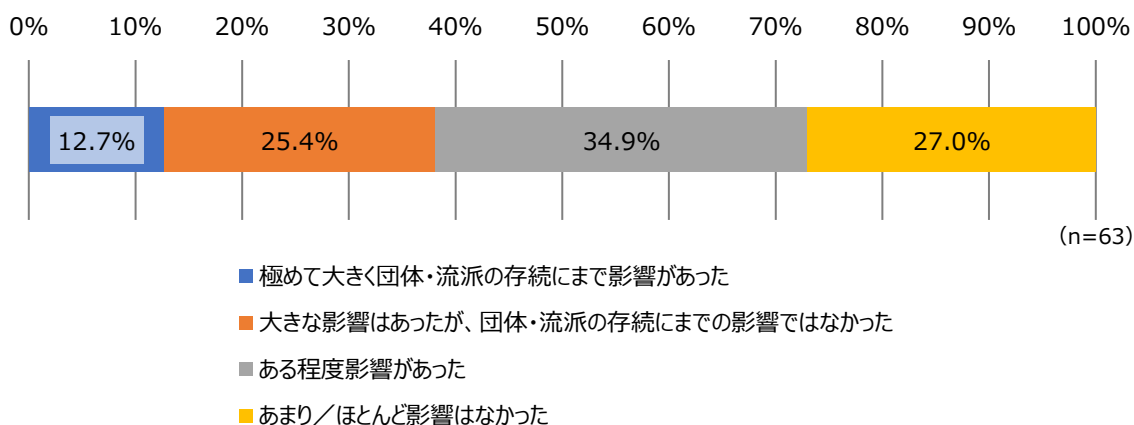


図7 新型コロナウイルス感染症の影響はどの程度あったか

②具体的な影響

具体的な影響として多く寄せられたのは、愛好者や海外のバイヤー、仲介業者が養鯉場に来店できなくなったほか、品評会や販売会等の錦鯉に関連するイベントの中止があったとの回答が多く見られた。

特に、愛好者や仲介業者が来店できなくなったことで売り上げが減少したり、品評会が中止になったことで販売等もできなくなったりして赤字となったなど様々な影響が出ている。中には品評会の中止が続いてしまったことにより、錦鯉の関係団体の支部が解散してしまったという影響も見られる。

③実施した対応策

感染症の影響が少なくなった時期から、来店する方への対応として、マスクの着用や手指等の消毒、来店する方の人数制限を設けるなどの感染症対策を行いながら対面での販売等を行っていたところもあれば、インターネットを経由した販売を実施したり、来店して実物を見ることができない愛好者や仲介業者向けに写真や動画等を SNS にアップロードするなどしたりして販売に繋げるなど、従来とは異なる販路や販売方法を実践した養鯉場も見られる。

④復旧の程度

新型コロナウイルス感染症の影響を受けた養鯉場に対し、現状（令和5年末）における復旧の程度を聞いたところ、「影響は概ね払拭されている」の27か所（55.1%）が最も多く、次いで「ある程度影響は残っている」17か所（34.7%）、「いまだに大きな影響が残っている」5団体（10.2%）となっている。

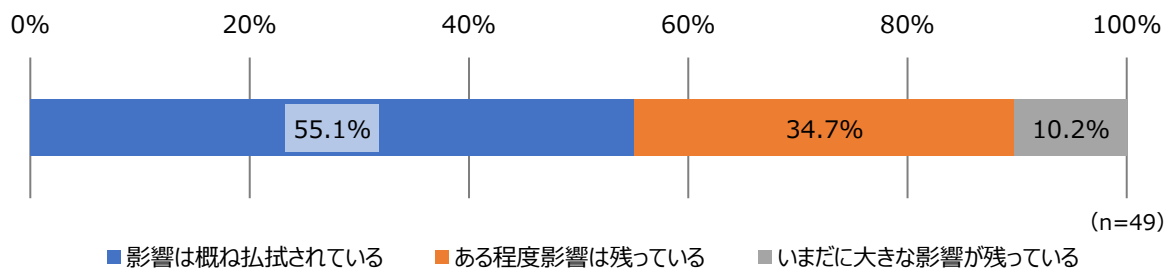


図8 復旧の程度について

3-3 まとめ

養鯉場（生産・流通業者）の活動内容

錦鯉の生産・流通業者が行っている活動内容について、まず、錦鯉の育成・販売に関して、育成している錦鯉の種類等については、いわゆる「御三家（紅白、大正三色、昭和三色）」を中心に扱っている養鯉場が多い傾向にあり、特に紅白についてはアンケート回答のあった養鯉場の約5割が育成を行っている。錦鯉の育成の年間スケジュールについては、各養鯉場によってやや異なるものの、春の産卵を経て7月以降に稚魚の選別を適宜行い、当才（当歳）を販売するのか、さらに育成するのかの判断が行われる。10月以降には越冬を行うための準備等が行われる。

錦鯉の販売方法や成果等については、店頭や対面での販売が中心であり、インターネット経由での販売やネットオークションを併用している場合もある。販売した錦鯉や、養鯉場において育成された錦鯉の中でも良いものは錦鯉品評会へ出品されており、品評会で賞を得られる錦鯉を輩出したことが、養鯉場としての一つの成果として考えられている。

委託管理や品評会への出品について、回答のあった養鯉場の約5割が委託管理を実施しており、錦鯉自体を預かって飼育・管理をする場合と、自宅や店舗等で飼育されている錦鯉の管理を行っている場合の2つに分かれ、前者を実施している養鯉場が大半を占める。錦鯉品評会への出品については、アンケート回答のあった養鯉場の約8割が実施しており、愛好者の錦鯉を出品するサポートを行っている場合もある。

次に、養鯉場における後継者育成や研修生の受け入れ、愛好者へのアドバイスの実施については、まず、後継者育成を行っている養鯉場は全体の3割、研修生の受け入れを行っている全体の1割となっており、後継者育成も研修生の受け入れも実施していない養鯉場が多いことが分かる。続いて、愛好者へのアドバイスについては、全体の4割が実施しており、飼育方法や飼育環境、魚病についての対処方法等について愛好者にアドバイスをしている。

情報発信については、全体の約7割がSNS等やホームページ、専門雑誌への広告掲載による発信に取り組んでいる。情報発信の目的は、自身の養鯉場を対外的にPRすることがほとんどであるが、一部養鯉場では愛好者に向けて飼育技術の向上を企図した情報発信に取り組んでいる例も見られる。

愛好者団体やその他の団体との関わりについては、全体の約4割が愛好者団体等に関係しており、その内の4割の養鯉場では愛好者団体が主催する品評会への協力を実施している。また、全日本錦鯉振興会に所属し、各種活動に協力している養鯉場も多い。

自治体等との連携については、自治体が主催する催事等の協力や、内水面試験場への協力、品評会への協賛依頼など多岐に亘っている。ほか、地域の漁業協同組合や養殖組合に所属し組合の活動に参画している例や、地域の学校が行う社会科見学への協力などを行っている場合もある。

上記以外の活動としては、地域の小学校や中学校へ錦鯉の寄付を行ったり小学校の社会科見学に協力したりしている例、養鯉場独自に品評会やコンテスト等を実施している例、錦鯉関連の書籍の執筆や専門雑誌への記事連載を行っている例など、各養鯉場において独自に取組を行っていることが確認できる。

これらの活動を行っていくにあたり、養鯉場が抱える課題として、錦鯉の生育に必要となる各種

資材の価格高騰や、養鯉場経営者の高齢化や人手不足、後継者育成が難しいと言った点が挙げられている。加えて、錦鯉の愛好者の高齢化や減少が進んでいる点を挙げる養鯉場も少なくない。

まず、経営者の高齢化や後継者育成が難しい点については、養鯉場によって考えは異なるが、上記の課題を踏まえた取組の一例としては、若手の経営者の育成を行い国際情勢にも対応が可能な人材を育てるといった考えで人材育成に取り組んでいる所もある。

次に愛好者の高齢化や減少という課題に対しては、多くの養鯉場が様々な考えを持っており、たとえば、世間一般が錦鯉に持つイメージ（飼育が難しい、贅沢なものなど）を払拭するために、水槽でも飼育が可能な点を含め多様な飼育が可能な点を広く知ってもらったり、初心者が参加しやすいような催事等を行う等したりして、錦鯉の飼育の楽しさを伝えるような取組を進めていく等の考えがある。

錦鯉文化の継承

「錦鯉を次世代に伝えていく上で守り続けていく必要がある」と考えられる要素に関する設問については、「錦鯉の飼育の技術及び知識」、「錦鯉をより良く生育するための環境」、「錦鯉のある暮らしがもたらす自然観、精神性、芸術性」、「錦鯉そのもの、良い親鯉」、「錦鯉を選別するのに必要となる審美眼や知識」、「錦鯉をより良く生育するための飼料や機材、道具」、「錦鯉の育種の技術及び知識」、「錦鯉の似合う庭などの和の空間」、の順で回答の割合が高い。各要素について、大切であると考えられる理由はおおよそ以下のとおりであった。

- ・ 錦鯉の飼育の技術及び知識については、錦鯉の品種や血筋を活かし美しい錦鯉を作出するため、また、錦鯉自体を絶やさずに次世代へ継承していくという観点からも、技術や知識は重要である。
- ・ 錦鯉をより良く生育するための環境については、飼育に関する技術や知識、良質の錦鯉がいることを前提として、飼育する対象となる錦鯉にあわせて、水質や土壌等の環境を整え適切な飼育状況を構築することが大事である。
- ・ 錦鯉のある暮らしがもたらす自然観、精神性、芸術性については、錦鯉を飼育し美しい姿や泳ぐ姿を眺めることで、精神的な豊かさや癒しを感じることが出来る点が大事である。
- ・ 錦鯉そのもの、良い親鯉については、良い錦鯉を作出する観点に立てば、血統・系統が遺伝していくのでオリジナルの系統や良い親鯉が大事である。
- ・ 錦鯉を選別するのに必要となる審美眼や知識については、錦鯉を飼育していく中で、将来的に成長した時に体格や模様などを含めて美しい錦鯉を育てるためには、欠くことが出来ない要素である。

- ・錦鯉をより良く生育するための飼料や機材、道具については、水質の維持や水が汚れにくい飼料など、錦鯉にとって適切な飼育環境を維持・管理し、錦鯉を長く健康的に飼育していく上で、重要な要素である。
- ・錦鯉の育種の技術及び知識については、良い親鯉を飼育していく、良い親鯉の系統を次の世代へと残していくためにも、親鯉同士の交配や稚魚の選別等は不可欠な要素である。
- ・錦鯉の似合う庭などの和の空間については、錦鯉の普及という観点から大事である。

上記の要素を次世代に守り伝えていく必要がある中、その課題点として、錦鯉の飼育技術や知識、それと合わせて錦鯉を選別していくために必要となる審美眼や知識等を、どのように伝えていくかという点が課題点の一つとして挙がっている。飼育技術や審美眼等は知識とは異なり、個々人の経験の蓄積によって得られるものであるため、若手や愛好者に上手く教えることが難しいという回答が見られる。また、飼育に係る様々な知識については、養鯉場経営者や愛好者への普及があまり進んでいないとみる養鯉場もあり、同業者同士での情報交換が必要であるという意見のほか、錦鯉に関連する団体が飼育技術や知識を積極的に普及するような取組を行った方が良いという指摘も見られ、独自に冊子やパンフレットを愛好者に配布する取組を行っている例も見られる。

次に、養鯉場ならではの課題として、錦鯉を生育するための野池の造成が難しい点を挙げている例も見られる。特に、農地から野池への転用については、転用する農地がどの地域に存するかによっても異なるが、農地法及び農業振興地域の整備に関する法律に基づき一定の規制がかかっているため、転用の手続き等に時間がかかる点がある。現在では、期間を区切った形で農地を野池として一時転用するなどの措置も取られているが、農地の恒久的な転用から造成までに手続きがかかる点等を課題と考えている養鯉場が多いことが分かる。

このほか、家に庭池等を作ることが少なくなる等、錦鯉を飼育できる環境が整えにくくなっていることから、錦鯉の愛好者が減少している傾向にある点を課題として捉えている養鯉場も少なくない。この点については、錦鯉の飼育の面白さなどを広く伝える取組が必要であると言った意見や、錦鯉が泳いでいる姿を見る機会が少なくなっていることから、日常空間において錦鯉を観賞できる機会を増やす取組や SNS で美しい錦鯉の姿を発信していくような取組も必要との意見も見られる。

新型コロナウイルス感染症の影響

新型コロナウイルス感染症については、回答あった 63 の養鯉場の内、「3. ある程度影響があった」が 22 か所 (34.9%) と最も多く、次いで「あまり／ほとんど影響はなかった」の 17 か所 (27.0%) 「2. 大きな影響はあったが団体の存続にまでの影響ではなかった」16 か所 (25.4%) と続く。

具体的な影響としては、錦鯉愛好者や海外で活動しているバイヤー、仲介業者等が、養鯉場に来店できにくくなった点に加え、関係団体が主催する品評会や販売会の中止を挙げている。

対応策としては、感染症の影響が弱まったところから、感染症対策を行いつつ入店制限を設ける等して対面での販売を再開している養鯉場もあれば、インターネット販売を実施して新たな販路を開拓している養鯉場の例も見られ、工夫を行いながら養鯉場の運営を行っていたことが確認できる。

なお、コロナ禍以降の養鯉場の運営等への影響については、約4割の養鯉場が影響を拭いきれていないと捉えていることも分かった。

結 本調査研究事業のまとめ

1. 錦鯉で継承されてきたこと

錦鯉は、養魚環境の整備や生産及び飼育に関する技術や知識、生育等に必要となる用具の開発等を通じて、改良が重ねられてきた観賞用コイを賞翫する、日本の伝統的な生活文化である。

現在、私たちが錦鯉として親しんでいる観賞用コイを観賞する文化は、江戸時代の中越地方において、食用として飼育していたコイの中に、赤やまだらの色付きのコイが出現し、それらを人為的に交配して美しい色や模様を持つコイを飼育・愛玩するようになったことが始まりと言われており、徐々に中越地方を中心に広まっていった。

明治以降になると、「模様鯉」や「色鯉」等の名称で観賞用コイとして売買が少しずつ広まっていき、「緋鯉」や「浅黄」等以外の品種（「紅白」）が生み出された。また、東京大正博覧会の水産館展示場において観賞用コイが展示されることとなり、多くの人々に「模様鯉」や「変わり鯉」の存在が知れ渡るきっかけの一つとなった。以降、展覧会等への出品や観賞魚店での錦鯉の販売も行われるようになる過程で「錦鯉」という名称が名付けられ、当時の有力者や貴人にも錦鯉を飼育し観賞する文化が広まっていった。これ以降、全国的に錦鯉が流通していくとともに、海外に向けた錦鯉の輸出・販売への取組も行われるようになった。

第二次世界大戦中、錦鯉の生産・販売自体が停止せざるを得なかったことから、衰退の危機をむかえたが、戦後には生産・飼育も復活し海外輸出も行われるようになった。1960～1970年代になると、マイホームブームを背景として、錦鯉の飼育・観賞を趣味とする愛好者の爆発的な増加が起り、これに伴い従来、錦鯉の発祥の地と言われる中越地方を中心とした新潟県が主たる錦鯉産地だったが、少しずつ全国各地で錦鯉を生産する業者が増える結果となった。また、錦鯉の愛好者が増えたことよって（一社）全日本愛鱗会が結成された他、錦鯉の生産業者や流通業者の横断的団体である（一社）全日本錦鯉振興会が結成された。

なお、この頃には、輸送法の確立に伴い、戦前から取り組まれていた錦鯉の輸出が、ハワイやアメリカ合衆国、欧州、アジア各国へと拡大していくとともに、錦鯉の生産者や愛好者が積極的に錦鯉の普及を海外において図るようになった。また、錦鯉は、海外交流が行われる際の贈答品として送る例も見られるなど、次第に海外から見た時の日本文化を象徴するものの一つとして捉えられるようになっていった。

錦鯉の横断的団体や養鯉場を対象としたアンケート調査の回答結果からも窺うことができるように、錦鯉の愛好者や生産・流通業者等において、錦鯉の観賞の楽しみ方やその美的感覚等が共有されてきた。このことに加えて、錦鯉の愛好者団体や生産・流通業者団体が主催する錦鯉品評会に加え、飼育方法や魚病対策の教授を目的とした研修会等の開催といった、様々な普及活動が継続的に実施されてきた。また、錦鯉を専門に生育する養鯉場では、幾度もの交配を経て作出された錦鯉の「品種（「紅白」「大正三色」「昭和三色」等）」そのものが産出・生育を通じて継承されており、錦鯉の飼育・選別、飼育環境の整備に関する技術や知識の継承と発展に係る取組が行われている。これら、錦鯉に係る人や団体の様々な取組を通じて、錦鯉を飼育し観賞する文化が今日まで継続的に行われてきた。

2. 錦鯉に係る用具等の継承について

錦鯉の飼育や選別を行う際には、飼料をはじめ、各種魚病に対応した薬品や、養鯉池の水を濾過・循環させる等して錦鯉の飼育環境に適した水質を維持するためのろ過機器等が用いられてきた。また、錦鯉の生産業者等の場合、飼育を行う養鯉池の中でも野池がとりわけ重視されており、健康で美しい錦鯉の生育を行うためには必要な飼育設備となっている。

錦鯉に関する流通については、錦鯉を生産する養鯉場、養鯉場から仕入れを行い販売店や愛好者へ販売を行う流通業者、そして錦鯉愛好者、主に左記の三者によって成り立っている。現在では、愛好者が養鯉場等の生産者から直接仕入れることが少なくなっており、流通業者が養鯉場から仕入れたものが販売する形が多くなっている傾向にあるほか、流通業者によるネットオークションによる販売や、海外への輸出が行われている。そのような流通状況の中で、錦鯉に係る用具については、飼料やろ過機器などを製造する業者から卸業者を経由して観賞魚販売店などの小売店で販売される場合が多く、この点は生産業者や愛好者も同様であるが、一部の生産業者や流通業者の場合は製造メーカーと直接取引を行っている場合も見られる。

次に各用具の状況について、まず錦鯉に与える飼料については、養鯉場やセミプロの愛好者が用いるものと、一般向けに流通しているものに大別される。飼料の性質も様々であり、浮上しやすいもの、沈下しやすいものなど、錦鯉自体の状況や飼育している池や季節等の環境に応じた飼料の生産・販売が行われている。国内は元より、錦鯉を健康に美しく育てるための飼料の選択は、養鯉業者や愛好者にとって重要であり、日本で製造された飼料は海外へも輸出が行われている。

飼料と同じく重要とされるのが、魚病に対応するための薬品類である。KHV（コイヘルペスウイルス）やCSV（コイ春ウイルス血症）のように特定の治療薬が無い魚病もあるが、穴あき病や立鱗病などの細菌性のものや寄生虫を原因とする疾病には薬品類が開発・製造されている。また、消毒を行うための薬品類も流通している。

ろ過機器等の用具類については、循環ポンプやろ過槽等、錦鯉の飼育に適した水質を保つための機器が開発・製造されており、飼育環境の違いによって様々なバリエーションの機器の販売が行われている。これらも、飼料と同じく流通業者や小売店等を中心に販売が行われている。

次に、池や水槽等に関しては、野池やたたき池以外にも、FRP等を素材とした成型池や、屋内で飼育する場合の水槽等が流通している。錦鯉メーカーが販売している製品を用いている場合のほか、錦鯉専用のもので無い製品を用いている場合も見られる。

ヒアリングにおいて、錦鯉に関する用具や原材料について、現時点において製造や流通等に問題が生じているという話は無かったが、飼料を製造する際の原料の一つとして用いる魚粉や胚芽の価格高騰が続いている状況にあり、愛好者団体支部や養鯉場へのアンケート、その回答では飼料の値段が高いとの指摘がされており、上記の状況と関連しているものと考えられる。

3. アンケート結果から見た今後の団体・養鯉場の活動内容、その方向性と課題

まず、錦鯉に関する国民意識調査の結果からは、錦鯉を飼育しているもしくは錦鯉の養鯉業を営んでいる（いた）と回答した者について、回答者の親や兄弟姉妹・祖父母等の家族が錦鯉を飼育し

ていたことをきっかけとして、錦鯉の飼育を始めていたことが回答者全体の6割を占めており、特に回答者の年齢が高いほどにその傾向が強く見られる。

イベント等で錦鯉の飼育体験や観賞をしたことがあると回答した者については、触れ合ったり観賞したりしたきっかけとして、学校や職場、公園や庭、またはイベント等で錦鯉を見たことと回答している割合が回答全体の4割を占めており、続いて、テレビや映画等のメディアを通じて知ったことや、親や兄弟姉妹・祖父母など家族が飼育していることをきっかけとした者はいずれも2割程度となっている。触れ合ったり観賞したりした場については、公園や庭園、文化施設などでのイベントとの回答が回答者全体の5割を占めており、学校や職場で飼育されていたとの回答が2割強と続く。各回答における世代別の傾向を見ると、家族が飼育していたことをきっかけとして錦鯉と触れ合ったり観賞したりしたと回答した者の場合は、50代以上の年齢層の割合が高いことから、錦鯉を飼育したことがある者と似た傾向が見て取れる。その一方で、錦鯉に触れ合ったり観賞したりしたことのある10～30代の場合、学校や職場、イベント等をきっかけに錦鯉と触れ合った・観賞したと回答している割合が高く、世代によって錦鯉に触れる・観賞する機会自体が異なっている傾向にあることが見て取れる。

なお、錦鯉の飼育や観賞などをしたことがない者について、飼育や観賞体験の内容や条件に関する意向を尋ねると、様々な体験内容の選択肢に当てはまるものはない、分からないとの回答が、回答者全体の7割以上を占めている。次に観賞や体験したことが無い理由について、回答者全体の4割は興味が無い、3割が自分の趣味と合わないと回答している。これらの回答から、錦鯉の飼育や観賞に対して興味や関心を持っていない人が多い傾向にあることが推察される。なお、何らかの機会に錦鯉の観賞をしたことがある者の場合、回答者全体の4割は興味関心が無いと回答している。

本調査においては、錦鯉への興味関心があまり高くない者が多い傾向が見られる一方で、錦鯉に対する興味関心があり、飼育や観賞などの体験をしてみたいと考えている者も一定数いることが確認できる。例えば、錦鯉の観賞経験等がある者の場合、飼育しやすい環境として、飼育の相談に乗ってもらえる養鯉場が近くにあることや、飼育の仕方などを教えてもらったり出来る家族や身近な人がいたらと、錦鯉自体の飼育方法や飼育環境の整え方についてアドバイスを乞うことが出来る人が、身近にいることが望ましいと考える人が多い傾向にある。一方、飼育していない理由の回答傾向を見ると、飼育出来る場所や設備が無い、生物を扱う難しさ、飼育を始めるための費用が確保できない等、飼育環境自体を整えることが難しい状況にあると考える回答者が少なくない傾向にあり、錦鯉飼育の一つのハードルとなっていることが推察される。

上記のような錦鯉に興味はあるが飼育するにはハードルがある者に対して、錦鯉に関係する各団体や養鯉場が様々な取り組みを実施していることはアンケート調査からも明らかになっているが、国民意識調査の結果から見える傾向を踏まえた場合、既に行われている取組をより広く周知していく試みや工夫が必要となっていることが推察される。

次に、錦鯉に関する横断的な団体及び支部、養鯉場に対して実施したアンケート調査からは、それぞれ団体や支部において規模の差があるものの、錦鯉品評会を開催し、会員向けの講習会や研修会を開き、錦鯉の飼育方法や魚病対策、錦鯉の観賞に関する知識・技術の普及を行いながら、広報

活動を行うことで錦鯉の飼育・観賞に係る文化の普及や振興を行っていることが確認できる。養鯉場では、錦鯉の生育と販売を行うとともに、顧客の錦鯉を委託管理して飼育したり、錦鯉品評会への出品や顧客の要望に応じた出品サポートを実施したりしている。また、養鯉場によっては愛好者への飼育方法や技術に関するアドバイスを行ったり、飼育方法などについて周知を行っている例が見られるほか、養鯉場独自で愛好者が参加出来るイベントを実施したり、地域にある学校への協力を行っている例もあるなど、錦鯉を生育・販売するのみならず、錦鯉に係る文化の普及に資するような取組が各養鯉場において行われていることが確認できる。

各横断的団体や養鯉場が様々な普及に資する取組を進めている中でも、アンケート回答の内容には、愛好者の高齢化や減少によって品評会への出品数の減少している点や、団体会員も減少している等の課題点が多く見られることから、錦鯉愛好者の減少は錦鯉に係る文化を支える人や団体にとって共通的な課題であることが推察される。このようなこともあり、横断的団体や養鯉場は愛好者を増やすための広報活動の強化をはじめ、様々な飼育方法があることや錦鯉が身近な文化であること等の周知を行うことで、新たな愛好者を増やしていくための様々な活動を行っている。他方、養鯉場特有の問題として、錦鯉の飼育に係る技術・知識、錦鯉を選別するための審美眼を如何に伝えていくか、といった課題が挙げられている。また、後進の育成という観点に加え、飼育に関する技術や知識については、愛好者にもしっかり周知する必要があると考える養鯉場もあり、課題意識を持った各養鯉場では様々な取組を進めていることがアンケート結果から窺える。

4. 錦鯉を次世代に継承するために

錦鯉の飼育や観賞に係る文化については、近世期において特定の地域において行われてきた文化が、明治・大正・昭和に様々な契機の中で、全国的な広がりを持った文化として今日に至っている。

今回行った調査からは、生産・流通業者や愛好者の横断的団体、生産・流通業者が連携を図りながら、当該文化の普及と振興に関する取組を実施してきたことで、今日まで継承されてきたという実情が明らかとなった。

現在、錦鯉を専門に生育・販売を行う養鯉場や流通業者により多様な品種の錦鯉が生産・販売されている。また、生産・流通業者を会員とする横断的組織によって、錦鯉品評会の開催を始めとした普及活動が行われている。愛好者は、養鯉場や流通業者等から錦鯉を購入するなどして、池や水槽、ろ過機などの飼育環境を整え、錦鯉の飼育を行い、錦鯉の持つ美しい色や模様、泳ぐ姿を観賞して楽しんでいる。愛好者の中には、自らが飼育している錦鯉の交配や選別を行って、飼育や観賞の楽しみの幅を広げている者、品評会等へ出品を行っている者も確認できる。また、愛好者においても横断的団体を組織し、品評会の開催や飼育方法や魚病対策に関する研修会などを実施、飼育や観賞に関する知識や技術の共有を図りつつ普及活動を実施している。

以上のように、錦鯉の飼育や観賞に係る文化は、錦鯉の愛好者や養鯉場や流通業者、そして横断的な全国団体の活動等によって、それらの文化の継承と振興・普及が図られてきた。しかし、国民意識調査や横断的団体等へのアンケート調査結果からは、国内における錦鯉の需要は減少傾向にあることが分かった。これは、従来の飼育環境一庭に池を作って錦鯉を放ち飼育できる環境一が成立

しにくい状況になりつつあることが、愛好者の増加のハードルとなっていることが一つの要因となっている。加えて、一部の優れた錦鯉が非常に高価な値段で取引されていることなどもあり、錦鯉＝高いもの、富裕な者が行う趣味や娯楽の一つ、といったイメージが広まっていることも、愛好者が増えにくい要因の一つとして考えられている。

一方、国外における錦鯉への人気が高まっており、一時期は KHV の発生による輸出の制限などがあったものの、海外での需要に応じる形で積極的に錦鯉の輸出を行っている養鯉場や流通業者もあるが、国内需要の空洞化による日本における錦鯉に係る飼育や観賞の文化自体の衰退を危惧する意見が散見される。ことため、国内における錦鯉需要の喚起によって如何に錦鯉愛好者の減少に歯止めをかけるか、という点が愛好者や養鯉場関係者の共通的な課題として認識されていることが推察される。また、愛好者の減少は、愛好者の横断的団体及びその支部において、「品評会や研修会の実施が困難になりつつある」等の形で現出していることがアンケート回答から確認できる。

こういった課題の解決のために、生産者や流通業者の横断的団体では、錦鯉を水槽で飼育する方法などを掲載したパンフレットを配布するような取り組みが行われているほか、養鯉場経営者の中には錦鯉の飼育に関する書籍において水槽での飼育方法について執筆している者もいるなど、錦鯉の飼育方法が多様であることを周知する動きが見られる。また、愛好者の横断的団体や支部においても、錦鯉の水槽での飼育方法や、愛好者の環境に応じた飼育環境の構築方法を周知する必要があるという意見が出ていることから、従来の庭池での錦鯉飼育が難しくなっており、水槽での飼育を薦めることも視野に入れないと愛好者減少の歯止めは難しいと考えている者が少なくないことが分かる。

錦鯉の飼育環境を整えることが難しいと考えている者が多いことは、国民意識調査における錦鯉の観賞体験などの経験者に対して、飼育や観賞に対してどのようなイメージを持っているかとの質問への回答からも、設備などにお金がかかる、飼育環境を整えるのが難しい、と言った回答の割合が高い点や、錦鯉を飼育していない理由の中でも、興味関心が無いとの回答に次いで、飼育出来る場所や設備がないと回答している者の割合が高い点からも、愛好者や養鯉場、流通業者が考えているように、一般の人々が錦鯉の飼育や観賞に対して飼育環境を整える面で、ハードルの高さを感じている傾向が窺える。

以上のような状況を踏まえて、横断的団体や養鯉場等において、錦鯉の飼育や観賞に係る文化に興味関心を持ってもらうための取組が様々な形で進められているが、実際に錦鯉を飼育・観賞してもらうためにはさらなる工夫が必要となると考えられる。また、団体が行っている取組への支援の在り方についても、検討していく必要がある。

錦鯉の飼育や観賞に係る文化は、様々な模様や色が異なる品種の錦鯉を、自ら飼育しその姿や形を観賞する日本の伝統的な生活文化の一つである。錦鯉に係る文化を次の世代へ継承していくためには、錦鯉に飼育や観賞がどのように行われているか、その楽しみ方を含めて世間一般への認識を高めるための周知を広く行う等の取組を進めていく必要がある。各横断的団体や養鯉場、愛好者が自主的に取り組んでいる普及活動を尊重しつつ、国や地方公共団体においても当該分野に関する活動の適時適切な支援の在り方について検討を行っていくことが重要である。

参考資料 有識者(錦鯉)及び有識者会議検討経過

1. 有識者

本調査研究事業は、錦鯉に関する豊富な識見を有する者を有識者(錦鯉)として委嘱し、調査研究及び報告書に対して助言等をいただいた。(令和3・4年は「文化創造アナリスト(錦鯉)」として委嘱)

【名簿】 ※50音順、敬称略、令和6年1月31日現在

菅 豊 東京大学 東洋文化研究所 汎アジア研究部門 教授
馬場 俊三 株式会社錦彩出版 代表取締役(月刊『錦鯉』発行人)

2. 有識者会議の経過

令和3年度

第1回

●開催日・開催方法

令和3年12月2日 リモート会議

●主な内容

- ・「生活文化調査研究事業(錦鯉)」の概要について
- ・現時点における各項目の調査内容について
- ・今後の予定について

第2回

●開催日・開催方法

令和3年12月23日 リモート会議

●主な内容

- ・「生活文化調査研究事業(錦鯉)」報告書(素案)の検討について
- ・今後の予定について

第3回

●開催日・開催方法

令和4年3月1日 リモート会議

●主な内容

- ・「生活文化調査研究事業(錦鯉)」報告書(素案)の検討について
- ・今後の予定について

令和4年度

第1回

●開催日・開催方法

令和4年8月5日 リモート会議

●主な内容

- ・「生活文化調査研究事業(錦鯉)」の概要について
- ・ウェブ調査の設問案について
- ・今後の予定について

第2回

●開催日・開催方法

令和4年11月24日 リモート会議

●主な内容

- ・ウェブ調査結果について
- ・報告書修正案について
- ・今後の予定について

第3回

●開催日・開催方法

令和5年1月24日 リモート会議

●主な内容

- ・令和4年度「生活文化調査研究事業」報告書案について

令和5年度

第1回

●開催日・開催方法

令和5年10月5日 リモート会議

●主な内容

- ・団体及び養鯉場アンケート案について
- ・アンケート送付方法及び送付先について
- ・用具及び原材料についての調査状況について
- ・今後のスケジュールについて

第2回

●開催日・開催方法

令和6年1月12日 リモート会議

●主な内容

- ・アンケート調査実施状況について
- ・用具及び原材料調査 原稿案について
- ・報告書構成案について

- ・今後のスケジュールについて

第3回

- 開催日・開催方法

令和6年2月6日 リモート会議

- 主な内容

- ・「令和5年度生活文化調査研究事業（錦鯉）」報告書（案）検討について

3. 受託事業者

本調査研究事業は株式会社文化科学研究所が受託事業者として以下の業務を行った。

- ・錦鯉の原材料・用具に関する文献等の調査、ヒアリング等
- ・錦鯉団体及び養鯉場アンケートの作成、発送、集計、分析
- ・有識者会議等の調整、運営などの業務

参考資料 錦鯉の用具と原材料について

(1) 概要

錦鯉の生産・飼育に使われる用具・原材料としては下記のもの挙げられる¹。

名称	概要
飼料	一般の観賞魚用の飼料でも飼育可能であるが、美しい錦鯉の飼育を行うには専用の飼料が必要となる。栄養補助剤もある。
魚病薬	病気にかかった際に必要となる薬品類。錦鯉専用ではなく、他の観賞魚類にも利用できるものとなっている。
ろ過機器(機)、ろ過材、循環ポンプ類	飼育している池、水槽などの飼育水を循環し飼育に適した環境の水にする機器、水質や水中の酸素量を保つための機器、材料。循環ポンプとろ過槽を一体化させたウォータークリーナーもある。消耗品としてろ過槽に入れるろ過材のほか、水質調整剤、アオコ抑制剤、塩素中和剤なども別途販売されている。
簡易池・水槽類	FRP（繊維強化プラスチック）、PE（ポリエチレン）製の簡易池、ガラス水槽、プラスチック水槽、大型コンテナ、組み立て式プール、丸桶など。
漁具類	錦鯉をすくう網、玉網などの各種漁具類。
その他	輸送用の酸素器具や袋類、錦鯉のサイズを測る検寸器、水質維持のための紫外線殺菌器、自動給餌機、粘膜保護剤等。

このほか、錦鯉の育種や飼育に関しては、野池、たたき池などの池が重要な役割を担っている。

野池は棚田などに人工的に設けられた養鯉池であり、錦鯉の稚魚は野池でミジンコ等を餌に飼育される。また、室内のハウス池で飼育されている錦鯉を野池で育てることで、体形や色艶が良くなるとも言われる。愛好者たちが飼育する錦鯉は「たたき池」（コンクリート製の池）で長く飼育すると色艶が衰えてくるため、1年程度、野池での飼育を生産者に委託することもある。

なお、農地を養殖池として利用する場合、転用許可や転用期間制限など農地法による規制があるが、令和3年（2021）3月に優良農地の確保とともに地域の農業振興と農業に係る養殖事業の展開を目的とした、「農地を養殖池に一時転用する場合における農地転用許可の取扱いについて」（2農振第2935号 令和3年（2021）3月4日付農林水産省農村振興局長通知）²が発出されている。これは、内水面における水産動植物の養殖を目的とした農地の一時転用（養殖池に付帯する給排水施設を含む）について、農地への復元が可能な状態であること等の要件を付した上で、一時転用期間の上限が3年を超える場合であっても、10年以内であれば一時転用を許可するものである。

1 成田養魚園株式会社ウェブサイト資材育成ストア（URL:<https://www.narita-koi.com/store>）の取扱商品进行参考にした。最終確認日：令和6年2月15日

2 農振第2935号 令和3年（2021）3月4日付け農林水産省農村振興局長通知を参照した。（URL:https://www.chisou.go.jp/tiiki/kokusentoc/pdf/r030304_yousyokuike.pdf）最終確認日：令和6年2月15日

以下、上記の用具・原材料のうち主要なものとして、飼料、魚病薬、ろ過器（機）、ろ過材、ポンプなどの器具、簡易池・水槽類について、錦鯉の流通業者、各製造業者へのヒアリング調査を基にした概要や製造状況を記す³。

（２）流通の概要

錦鯉業界は、生産者（養鯉場）、生産者から錦鯉を仕入れ観賞魚販売店や愛好者に販売する流通業者、錦鯉を購入し、飼育・観賞する愛好者の三者からなる。流通業者へのヒアリングによると、20年ほど前までは、流通業者は卸売を兼ねる大規模業者から仕入れをすることもあったが、近年では生産者から直接仕入れることが常となり、生産者が愛好者に直接販売するいわゆる庭先販売を行うことは少なくなっている。また、流通業者によるインターネット上でのオークションも増えている。なお、海外への輸出については、それぞれの国に対する輸出ライセンスを持った流通業者（海外を本拠地とした事業者を含む）が販売している。

用具・原材料については、大きく、生産者・流通業者などのプロや一部の愛好者が使用するものと一般の愛好者が使用するものとに二分される。プロが使用するものは、錦鯉専用もしくは養殖漁業用の養殖資材・機器であり、多くは錦鯉専用商品の製造業者や養殖漁業用の養殖資材・機器メーカーが製造したものを卸業者経由で購入する。ただし、大手や老舗の錦鯉の生産者や流通業者には、メーカーが直取引を行っている場合もある。プロ用資材を愛好者が購入する場合、かつては錦鯉の流通業者からの購入に限られていたが、現在ではインターネットでの通信販売やホームセンターでの販売が増えている。

品評会への参加を目指さない一般の愛好者は、観賞魚店やホームセンター、インターネット通販で用具・原材料の購入を行っている。錦鯉は環境に合わせて成長するという特性があるため、60cm以上の大型水槽等、通常の観賞魚用の器具での飼育が可能であり、餌や薬品についても一般の観賞魚用が使用できる。これらの用具・原材料は、観賞魚向けの飼料や薬品、用具のメーカーから、観賞魚を含むペットショップ向けの卸やホームセンター向けの卸などを経由し、観賞魚店、ホームセンター、インターネット通信販売業者などで販売されている。

■飼料

飼料メーカーへのヒアリングによると、錦鯉の飼料は、主に養鯉場で使われるプロ向けや品評会に出品するような錦鯉を飼育している愛好者向けの飼料と、一般向けの飼料に大きく分けられる。プロ向け飼料の生産量や出荷金額についての統計資料はないが、国内向けの生産・出荷量は数千トン程度と想定される。

錦鯉の飼料には、様々な種類がある。錦鯉の摂取量を管理しやすい浮上性のもの、おとなしい錦鯉がほかの錦鯉に押しつけられずに食べられる沈下性のもの、また、低水温用や、病気予防に特化したもの等である。こうした多様な飼料を、季節や鯉の状態によってどのように組み合わせて使う

3 株式会社 錦彩出版（令和5年10月11日）、日本動物薬品株式会社（令和5年11月6日）、カミハタ養魚グループ（令和5年11月13日）、タカラ工業株式会社（令和5年11月15日）、横浜錦鯉（令和5年11月15日）、成田養魚園（令和5年12月3日）へヒアリングを行った。

かが養鯉場の腕の見せ所となる。また、管理が容易となる自動給餌機も開発されている。

飼料の主な材料は魚粉、もしくはチキンミールと、大豆の絞りかすや小麦の胚芽、機能性を持たせるためのプランクトンなどである。各メーカーは、栄養バランスを考えた配合、鯉の健康増進に効果的な生菌剤やハーブを付加する等、様々な開発努力を行っている。大手の流通業者が協力し、飼料メーカーとの共同開発によるオリジナルブランドも製造されている⁴。

錦鯉の姿形、特に発色を良くする日本の飼料は世界の錦鯉関係者や愛好者によく知られている。輸出は、国内での出荷量を大きく上回り、錦鯉の海外輸出の拡大とともに飼料の輸出市場も広がりを見せている。ただし、飼料の輸出にあたっては、輸出国での基準をクリアする必要があり、国によっては当該国から検査官が飼料工場の調査に直接来るといった厳しい審査が実施されている。

なお、観賞魚店やホームセンターなどで販売されている一般向け飼料については、上述した錦鯉専用の飼料を生産しているメーカーのほか、一般の観賞魚用飼料メーカーが生産している。

■魚病薬

・鯉特有の病気

錦鯉で最も注意すべき病気として、真鯉と錦鯉のみに発生する KHV（コイヘルペスウイルス）がある。法律（持続的養殖生産確保法）によって特定疾病に指定されており、発生した場合、殺処分、及び輸出の禁止が義務付けられている。このウイルスは、平成10年（1998）にイスラエルやアメリカでコイが大量死し、その後ヨーロッパやインドネシアなどでも発生が確認されたことから、海外から持ち込まれたものと考えられている。日本では平成15年（2003）に初めて発生、その後数年にわたり大きな被害を出した⁵。

また、SVC（コイ春ウイルス血症）も KHV と同様に持続的養殖生産確保法の特定疾病であり、発生した場合殺処分が必要となる⁶。この SVC は、ヨーロッパ諸国、アメリカ、カナダ、ブラジル、中国などで発生しているが、日本ではこれまでのところ発生は見られていない⁷。

これら病気の発生を抑えるためには、錦鯉を育成している環境を防疫区画としてウイルスフリーの環境を実現していく必要がある。対策としては、立ち入り禁止区画を設ける、飼育用具を各池専用とするといった隔離や、適切な消毒を実施することが求められる。消毒のための機器、薬品としては、紫外線ランプや高度サラシ粉、次亜塩素酸ナトリウム溶液などが販売されている。

4 成田養魚園株式会社ウェブサイト資材育成ストア（URL:<https://www.narita-koi.com/store>）、株式会社キョーリンウェブサイト錦鯉用飼料ページ（URL:<https://www.kyorin-net.co.jp/koi/>）、日本動物薬品株式会社商品案内ページ（URL:https://www.jpnd.com/n_jpd/product/product.html）、エフディーフード株式会社ウェブサイト（URL:<http://fdfood.jp/company.html>）を参照した。最終確認日：令和6年2月15日

5 農林水産省「コイヘルペスウイルス病に関する Q&A」（URL:<https://www.maff.go.jp/j/syouan/tikusui/koi/qa.html>） 最終確認日：令和6年2月15日

6 農林水産省「コイ春ウイルス血症（SPRING VIRAEemia OF CARP:SVC）とは」（URL:<https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/tikusui/pdf/080404-01.pdf>） 最終確認日：令和6年2月15日

7 公益社団法人日本水産資源協会「知っていますか？水産防疫の対象疾病」平成28年（URL:https://www.maff.go.jp/j/syouan/suisan/suisan_yobo/attach/pdf/index-3.pdf）を参照した。最終確認日：令和6年2月15日

・その他の病気

観賞魚や食用魚と共通する疾病があり、主なものとして、細菌性の穴あき病、立鱗病、赤班病、鰓炎、ミズカビによるワタカブリ病、外部寄生虫による疾病などがある⁸。これらに対しては既に薬品類が開発・製造されており、ほかの観賞魚と共通の薬品として販売されている。

国内の錦鯉のプロ向けの医薬品卸企業へのヒアリングによると、国内の製薬メーカー数社から仕入れた薬品を販売している。新規の薬品は、農林水産省が認可して発売できるようになるまで概ね5年程度の開発期間が必要となる。具体的には、耐性菌の蔓延に対応するための後発薬の開発などが行われている。

■用具、機器

錦鯉を健全に飼育するために、池に溜まる糞尿やその他の汚れ、有害物質を除去すること、水中の酸素分圧を保つことが求められる。このために、飼育用の循環を促す循環ポンプや水中に酸素を入れ込む（曝気^{ばっき}する）ためのエアープンプ、ろ過材の入ったろ過槽等が使用される。また、循環ポンプとろ過槽と一体化させた、一つで全ての役割をこなす過機器（ウォータークリーナー）もある。用具（ろ過機器）は池の容量等に応じ、ろ過槽のサイズ、酸素量、循環水量、多様な揚水量・揚程（水が汲み上げられる高さ）の製品が製造されている。

これらを供給するメーカーには、主に錦鯉専門メーカーが1社、錦鯉用の池用にポンプを供給しているポンプメーカーが数社ある。生産者や流通業者など、大きなたたき池を擁するところでは、ポンプメーカーが製造する大型のポンプを購入・使用する場合が多い。一方、愛好者は、錦鯉用、もしくは錦鯉用に使用が可能な比較的小型のポンプ・ろ過装置を、錦鯉の流通業者やホームセンターやインターネット通信販売などで購入している。

ろ過を行うためには消耗品としてろ過材が必要となる。また、水のpHの調整やカルキ抜き、アオコの発生を予防するなどの水質調整剤が各種発売されている。このようなろ過材、水質調整剤については、錦鯉用の各種機器製造を専門としているメーカーが関連商材として卸を行っているが、大量に使用する場合には養殖漁業用、小規模な使用には一般観賞魚用のろ過材や水質調整剤が販売されており、それらが販売及び利用の主流となっていると思われる。

■池、水槽など

錦鯉の飼育は、生産者・流通業者の野池、たたき池や愛好者の個人の池のほか、FRP（繊維強化プラスチック）製の水槽、PE（ポリエチレン）製の水槽（成形池）が多く使われている。錦鯉の観賞の基本は上見^{うわみ}であり、しかも太陽光が当たらないと褪色することもあるため、室内置きを想定した場合、透明水槽（ガラス製、プラスチック製）、大型コンテナ、組み立て式プール、丸桶が使われる。

FRPの水槽については陸上据置き型、PE製の水槽については庭園に埋め込むものとして、埋没型

8 中島健次「魚病学基礎講座（錦鯉篇）X（最終回）錦鯉の疾病とその診療〈その2〉」（『日本獣医師会雑誌』29巻12号 公益社団法人日本獣医師会 昭和51年 p. 679-684, 687）（URL: https://www.jstage.jst.go.jp/article/jvma1951/29/12/29_12_679/_pdf/-char/ja）を参照した。最終確認日：令和6年2月15日

や据置き型の製品が数社から発売されている。なお、錦鯉の専門メーカーが発売しているもの以外は、必ずしも錦鯉用として販売されているわけではない。一方、生産者や流通業者が利用する矩形の大型製品については、養殖漁業用の製品を生産しているメーカーが養殖用水槽として提供している。

(3) 課題

■製造面の課題

錦鯉の用具・原材料においては、錦鯉用飼料や一部の水質維持のための小型器具等を除くと、生産者や流通業者などのプロ用では養殖漁業向けの製品メーカーが、一般の愛好者向けには観賞魚用の製品メーカーが製品を提供しており、必ずしも錦鯉専用とは限らない。したがって、これらの製品メーカーが提供している用具・原材料については、錦鯉自体の市場の動向ではなく、養殖業や観賞魚市場の動向からの影響が大きく関与すると考えられる。漁業養殖業や観賞魚市場の動向調査は本稿の範囲を超えるものであるが、錦鯉の用具・原材料の製造や流通に関わっている業界各社へのヒアリングにおいて、こうした用具・原材料の製造に問題が生じている、あるいは生じる可能性があるかもしれないという声が聞かれることはなかった。

一方、飼料関係の業者へのヒアリングによると、錦鯉専用のプロ向けの飼料については、錦鯉自体の輸出拡大に合わせて国産の錦鯉飼料の海外市場も拡大しており、業績面での課題は少ない。ただし、飼料の主要な材料である魚粉については、令和5年12月現在、価格上昇が続いており、また胚芽などの副原料の価格も上昇傾向が見られる。

■流通面の課題

国内顧客を主とする流通業者へのヒアリングによれば、海外輸出に携わっている流通業者の業績が好調である反面、国内顧客を主に対象としている流通業者において、経営者・従業員の高齢化や業者数の減少について危惧する声があったほか、近年では、用具・原材料のホームセンターやインターネット通販での購入が増えており、価格競争が激化、経営を圧迫する傾向にあるという声も聞かれた。

一方、国内外に幅広く販売をしている流通業者へのヒアリングによると、インターネットを通じたPRで若年層の顧客獲得に成功している事例を確認することができた。

参考資料 国民意識調査 調査票

(1) 属性

F 1 あなたの性別をお答えください。(1つ)

1. 男
2. 女
3. それ以外/答えたくない

F 2 あなたの年齢をお答えください。(1つ)

1. 18歳未満
2. 18~19歳
3. 20代
4. 30代
5. 40代
6. 50代
7. 60代
8. 70代以上

F 3 あなたのお住まいの都道府県をお答えください。(1つ)

1. 北海道
2. 青森県
3. 岩手県
4. 宮城県
5. 秋田県
6. 山形県
7. 福島県
8. 茨城県
9. 栃木県
10. 群馬県
11. 埼玉県
12. 千葉県
13. 東京都
14. 神奈川県
15. 新潟県
16. 富山県
17. 石川県
18. 福井県
19. 山梨県
20. 長野県
21. 岐阜県
22. 静岡県
23. 愛知県
24. 三重県
25. 滋賀県
26. 京都府
27. 大阪府
28. 兵庫県
29. 奈良県
30. 和歌山県
31. 鳥取県
32. 島根県
33. 岡山県
34. 広島県
35. 山口県
36. 徳島県
37. 香川県
38. 愛媛県
39. 高知県
40. 福岡県
41. 佐賀県
42. 長崎県
43. 熊本県
44. 大分県
45. 宮崎県
46. 鹿児島県
47. 沖縄県

F 4 あなたの仕事をお答えください。(1つ)

1. 正規の職員・従業員(役員を含む)
2. 非正規の職員・従業員(期間従業員、契約社員、派遣社員を含む)
3. 自営業主・自由業(自分で、または共同で事業を営んでいる)
4. 家族従業者(家族が営んでいる事業を手伝っている)
5. 主婦・主夫
6. 学生
7. リタイア、無職
8. その他

F 5 あなたと同居している人の状況をお答えください。(1つ)

1. ひとり暮らし(同居している家族はいない)
2. 核家族(夫婦のみもしくは親と未婚の子どもの世帯)
3. 三世代家族(親・子・孫の3世帯以上が同居)
4. 上記以外で同居している人がいる

F 6 昨年度の世帯全体の年収(税込み)は、おおよそどのくらいですか。(1つ)

1. 100万円未満
2. 100万円以上～200万円未満
3. 200万円以上～300万円未満
4. 300万円以上～400万円未満
5. 400万円以上～500万円未満
6. 500万円以上～600万円未満
7. 600万円以上～700万円未満
8. 700万円以上～800万円未満
9. 800万円以上～900万円未満
10. 900万円以上～1,000万円未満
11. 1,000万円以上
12. 分からない

F 7 あなたが最後に卒業された学校はどちらですか。(1つ)

1. 小学校
2. 中学校
3. 高校・旧制中学校
4. 短大・高専
5. 大学
6. 大学院
7. その他

F 8 あなたは、子供の頃に習い事をされていましたか。(いくつでも)

1. 楽器演奏(ピアノやバイオリンなど)や歌唱(コーラスや声楽など)
2. バレエやダンス(バレエ、モダンダンスやコンテンポラリーダンスなど)
3. 美術(絵画や版画、彫刻、工芸など)
4. 伝統芸能や茶道・華道等の芸事
5. 囲碁や将棋
6. 書道・習字・ペン字、そろばん
7. スポーツ・武道
8. その他(具体的に:)
9. していない

(2) フィルタリング・パート

F Q 1 煎茶道について

この調査の「煎茶道」とは、主人が客人を招き、一定の作法で淹れた煎茶や玉露等を振る舞い、書や絵画等の鑑賞を行いながら交流を図る、日本の伝統的な生活文化のことをいいます。

あなたは、これまでに、「煎茶道」を経験したことはありますか。次の選択肢の中から、あてはまる一番近いものをお選びください。(1つ)

1. 習っている (いた)、あるいは教える立場にいる (いた)
2. 学校の授業や職場の研修、イベント等で煎茶会や煎茶席に参加した経験はある
3. 今まで経験したことはない

F Q 2 香道について

この調査の「香道」とは、沈香、白檀などの香木や、古典的な薫 (たきもの) を、一定の作法に従って焚 (炷) (た)き、その香りを鑑賞する (=「聞く」、日本の伝統的な生活文化のこと) をいいます。

あなたは、これまでに「香道」を経験したことはありますか。次の選択肢の中から、あてはまる一番近いものをお選びください。(1つ)

1. 習っている (いた)、あるいは教える立場にいる (いた)
2. 学校の授業や職場の研修、イベント等で香会や香席に参加した経験はある
3. 今まで経験したことはない

F Q 3 和装について

この調査の「和装」とは、着物 (和服、浴衣も含む) の着付けのことをいいます。なお、作務衣・甚平のような着脱が簡易なものや、柔道着・剣道着等の特定競技用のものは含まないこととします。

あなたは、日常生活や行事等 (例えば結婚式、入学式、卒業式、成人式等) の折に、着物を着付けることはありますか。次の選択肢の中から、あてはまる一番近いものをお選びください。(1つ)

1. 着物を自分で着付けている (いた)、あるいは人に着付けている (着付けたことがある)
2. 自分で着物の着付けはできないが、人に着付けてもらって着ている (着たことがある)
3. 今まで着物を着たことはない

F Q 4 礼法について

この調査の「礼法」とは、作法や所作、しつらい等の一定の礼式に則ることによって相手への敬意を表す、日本の伝統的な礼儀作法のことをいいます。

あなたは、これまでに「礼法」を経験したことはありますか。次の選択肢の中から、あてはまる一番近いものをお選びください。(1つ)

1. 習っている (いた)、あるいは教える立場にいる (いた)
2. 学校の授業や職場の研修、イベント等で礼法に関する体験をしたことはある
3. 今まで経験したことはない

煎茶道 2 あなたが煎茶道を習い始めた当初、次のうちどのような方法で習っていましたか。あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

1. 家族や知人等、身近な人に習っていた
2. 学校や職場などの部活動、同好会、サークルで習っていた
3. カルチャーセンターの講座で習っていた
4. 稽古場や教室で習っていた
5. その他(具体的に:)

煎茶道 2 補問 その方法を選んだ理由をお選びください。(いくつでも)

1. 家族や友人等と一緒に良かった
2. 通いやすい場所だった
3. 費用が手頃だった
4. 道具等が借りられた
5. 通いやすい時間帯だった
6. 指導方法やカリキュラム、費用が具体的に示されていた
7. 本格的に習ってみたかった
8. 手軽に習ってみたかった
9. その他(具体的に:)
10. 特に理由はない、わからない

煎茶道 3 現在、煎茶道に関する活動を続けていますか。選択肢の中からお選びください。(1つ)

1. 続けている
2. 続けない

<上記で1と回答した方に>

煎茶道 3 補問 1 あなたが煎茶道に関する活動を続けるようになった理由として、あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

1. 指導者や教授者として活動したい(している)
2. 日本の文化だから
3. 一緒に楽しむ仲間がいる
4. 煎茶や玉露等の淹れ方や、煎茶席のしつらいの仕方など、奥深い文化をもっと知りたい
5. 煎茶席でいただく煎茶や玉露等がおいしい
6. 習っていくうちに、暮らし、生活の一部となった
7. その他(具体的に:)
8. 特に理由はない
9. 上記の中で当てはまるものはない

<上記で2と回答した方に>

煎茶道3補問2 あなたが煎茶道に関する活動から離れたきっかけや理由として、あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

1. 時間がなくなった
2. 近くに習う場所がなくなった
3. 当初目標としていたことが達成できた
4. 興味を失った
5. 経済的に続けるのが難しくなった
6. 健康面、体調面で続けることが難しくなった
7. 一緒に活動する家族や友人等が辞めてしまった
8. 習っている内容についていけなくなった
9. 指導者や教授者を引退した
10. その他(具体的に:)

煎茶道4 あなたが煎茶道を続けている(続けていた)年数を選択肢の中からお選びください。

(1つ)

1. 1年未満
2. 1～3年未満
3. 3～5年未満
4. 5～10年未満
5. 10～20年未満
6. 20年以上

煎茶道5 あなたの現在の煎茶道の活動内容(かつて行っていた内容)について、あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

1. 教室や稽古場で習っている(いた)
2. カルチャーセンターの講座等を受講している(いた)
3. 学校や職場などの部活動、同好会、サークルに所属して活動している(いた)
4. 指導者や教授者として教えている(いた)
5. その他(具体的に:)

煎茶道6 あなたは煎茶道に関する活動をどのくらいの頻度で行っています(いました)か。選択肢の中からお選びください。(1つ)

1. ほぼ毎日
2. 週に2～3回
3. 週1回程度
4. 月数回程度

5. 月1回程度
6. 年数回程度
7. 年1回程度

煎茶道7 あなたは煎茶道に関する活動に、月幾らくらいの費用を使っています（いました）か。選択肢の中からお選びください。（1つ）

1. 5,000円未満
2. 5,000円以上～10,000円未満
3. 10,000円以上～15,000円未満
4. 15,000円以上～20,000円未満
5. 20,000円以上～25,000円未満
6. 25,000円以上～30,000円未満
7. 30,000円以上～35,000円未満
8. 35,000円以上～40,000円未満
9. 40,000円以上～45,000円未満
10. 45,000円以上～50,000円未満
11. 50,000円以上

煎茶道8 あなたが煎茶道の中で関心を持っている領域、魅力は何ですか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 煎茶や玉露等を淹れ、おいしくいただける
2. 手前・作法や煎茶や玉露等の淹れ方が分かる
3. 煎茶席のしつらえや、そこから感じることができる四季等
4. 集中力を高めたり、心を落ち着かせたりすることができる
5. 主客の心の交流
6. 日本の伝統的な文化として国内外に知られている
7. その他（具体的に： ）
8. 上記の中で当てはまるものはない

●イベント等で煎茶道を体験した人の質問（FQ1で2に回答）

煎茶道9 あなたが煎茶道を体験したきっかけとして、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 親や兄弟姉妹、祖父母などが習っていた
2. 親や兄弟姉妹、祖父母などが教えていた
3. 友人、知人などから勧められた・誘われた
4. 学校や、煎茶道の稽古場や教室、文化施設等で体験イベントが行われていた
5. テレビや映画、雑誌、漫画、ウェブメディア等で知った

6. 趣味や教養として、煎茶道に興味関心があった
7. 煎茶道に係る仕事や職業に興味関心があった
8. 自分が行っている別の分野の趣味・習い事と関係していた
9. その他（具体的に： ）

煎茶道 10 あなたはどのような場で煎茶道を体験しましたか。あてはまるものをお選びください。
（いくつでも）

1. 教室や稽古場等で開かれた体験会
2. 学校の授業や職場の研修会
3. 学校や職場の部活動、同好会やサークルが行った体験イベント
4. 文化施設等で行われた体験イベント
5. 自宅
6. 自分が行っている別の分野の趣味・習い事の中で体験
7. その他（具体的に： ）

煎茶道 11 あなたが今後、煎茶道を習う機会があった場合、どのような状況だと参加をしやすい
と思いますか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 家族や知人等、身近な人から習えたら
2. 通いやすい場所で習えたら
3. 費用が手頃だったら
4. 必要な道具等が借りられたら
5. 習う時間帯を調整してもらいやすかったら
6. 指導方法やカリキュラム、費用が具体的に示されていたら
7. 指導で教本やテキストを使っていたら
8. その他（具体的に： ）
9. わからない

煎茶道 12 もし煎茶道を習い始めるとしたら、月にどの程度なら支払えますか。選択肢の中から
お選びください。（1つ）

1. 5,000 円未満
2. 5,000 円以上～10,000 円未満
3. 10,000 円以上～15,000 円未満
4. 15,000 円以上～20,000 円未満
5. 20,000 円以上～25,000 円未満
6. 25,000 円以上～30,000 円未満
7. 30,000 円以上～35,000 円未満
8. 35,000 円以上～40,000 円未満

9. 40,000 円以上～45,000 円未満
10. 45,000 円以上～50,000 円未満
11. 50,000 円以上

煎茶道 13 あなたがこれまでに、煎茶道を習っていない事情や理由として、あてはまるものを選びください。(いくつでも)

1. 興味がなかった
2. 通いやすい場所に稽古場や教室がなかった
3. 習うための授業料等の費用が確保できなかった
4. 習うための十分な時間が取れなかった
5. カリキュラムの内容や必要となる費用等の十分な情報が明示されていなかった
6. 稽古場や教室等の雰囲気に分からなかった
7. 習う内容についていけるかどうか不安がある
8. 他の趣味や娯楽の方に関心が向いている
9. 自分の趣味と合わない
10. その他(具体的に:)

煎茶道 14 あなたが煎茶道について持っている印象やイメージについて、あてはまるものを選びください。(いくつでも)

1. 煎茶やお菓子を楽しめる
2. 日本の伝統文化への理解を深められる
3. 暮らし、生活を豊かにしてくれる
4. 作法、しきたりなどが複雑
5. 人間関係が複雑
6. 月謝や道具等にお金がかかる
7. 習い始めると時間を取られる
8. 一般に知られていない
9. その他(具体的に:)
10. 特に印象はない、わからない

煎茶道 15 あなたが煎茶道の中で関心を持っている領域、魅力は何ですか。あてはまるものを選びください。(いくつでも)

1. 煎茶や玉露等を淹れ、おいしくいただける
2. 手前・作法や煎茶や玉露等の淹れ方が分かる
3. 煎茶席のしつらえや、そこから感じることができる四季等
4. 集中力を高めたり、心を落ち着かせたりすることができる
5. 主客の心の交流

6. 日本の伝統的な文化として国内外に知られている
7. その他（具体的に： ）
8. 上記の中で当てはまるものはない

●煎茶道を体験や経験を全くしたことがない人に対する質問（F Q 1で3に回答）

煎茶道 16 もし、あなたが煎茶道を体験する機会があった場合、どのような内容であれば参加してみたいと思いますか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 煎茶席でのお茶のいただき方や、基本的な作法等、客としての振る舞い方を教えてくれる
2. 煎茶道の歴史や意義を教えてくれる
3. 煎茶席で使う道具やしつらいを詳しく教えてくれる
4. 普段の生活に応用した、お茶の楽しみ方を教えてくれる
5. その他（具体的に： ）
6. 上記の中で当てはまるものはない

煎茶道 17 あなたが煎茶道を体験する機会があった場合、どのような条件や状況だと参加をしやすいと思いますか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 家族や知人等、身近な人と一緒に体験できたら
2. 行きやすい場所で体験できたら
3. 手ごろな参加費で参加できたら
4. 体験に必要な費用や道具が明示されていれば
5. 体験する時間帯等を調整してもらいやすければ
6. 初心者だけが参加できるような機会があれば
7. 体験する内容や雰囲気を事前に確認できれば
8. 指導者の教え方が分かりやすかったら
9. その他（具体的に： ）
10. わからない

煎茶道 18 あなたがこれまでに、煎茶道を体験したことがない事情や理由があれば、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. そもそも知らなかった
2. 興味がない
3. 気軽に体験できそうな場所や機会がなかった
4. 参加する時間がとれなかった
5. 体験できる場所や機会があることを知らなかった
6. 体験できる詳しい内容が分からなかった
7. 他の趣味や娯楽の方に関心が向いている
8. 自分の趣味と合わない

9. その他（具体的に： ）

煎茶道 19 あなたが煎茶道について持っている印象やイメージについて、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 煎茶やお菓子を楽しめる
2. 日本の伝統文化への理解を深められる
3. 暮らし、生活を豊かにしてくれる
4. 作法、しきたりなどが複雑
5. 人間関係が複雑
6. 月謝や道具等にお金がかかる
7. 習い始めると時間を取られる
8. 一般に知られていない
9. その他（具体的に： ）
10. 特に印象はない、わからない

煎茶道 20 煎茶道の魅力について、どのような説明や情報があるなら、煎茶道を実際に体験してみたいと思われますか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 煎茶や玉露等を淹れ、おいしくいただける
2. 手前・作法や煎茶や玉露等の淹れ方が分かる
3. 煎茶席のしつらえや、そこから感じることができる四季等
4. 集中力を高めたり、心を落ち着かせたりすることができる
5. 主客の心の交流
6. 日本の伝統的な文化として国内外に知られている
7. その他（具体的に： ）
8. 上記の中で当てはまるものはない

②香道

●香道を習っている（習っていた）者に対する質問（FQ2で1に回答）

香道 1 あなたが香道を習い始めたきっかけとして、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 親や兄弟姉妹、祖父母などが習っていた
2. 親や兄弟姉妹、祖父母などが教えていた
3. 友人、知人などから習うことを勧められた・誘われた
4. 学校の授業や、香や香木を扱う店（香舗）での体験会、文化施設等で行われたイベントで体験した
5. テレビや映画、雑誌、漫画、ウェブメディア等で知った

6. 趣味や教養として、香道に興味関心があった
7. 香道に係る仕事や職業に興味関心があった
8. 自分が行っている別の分野の趣味・習い事と関係していた
9. その他（具体的に： ）

香道2 あなたが香道を習い始めた当初、次のうちどのような方法で習っていましたか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 家族や知人等、身近な人に習っていた
2. 学校や職場などの部活動、同好会、サークルで習っていた
3. カルチャーセンターの講座で習っていた
4. 稽古場や教室で習っていた
5. その他（具体的に： ）

香道2 補問 その方法を選んだ理由をお選びください。（いくつでも）

1. 家族や友人等と一緒に良かった
2. 通いやすい場所だった
3. 費用が手頃だった
4. 道具等が借りられた
5. 通いやすい時間帯だった
6. 指導方法やカリキュラム、費用が具体的に示されていた
7. 本格的に習ってみたかった
8. 手軽に習ってみたかった
9. その他（具体的に： ）
10. 特に理由はない、わからない

香道3 現在、香道に関する活動を続けていますか。選択肢の中からお選びください。（1つ）

1. 続けている
2. 続けない

<上記で1と回答した方に>

香道3 補問1 あなたが香道に関する活動を続けるようになった理由として、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 指導者や教授者として活動したい（している）
2. 日本の文化だから
3. 一緒に楽しむ仲間がいる
4. 香木等の焚き方や、香席のしつらいの仕方など、奥深い文化をもっと知りたい
5. 香席で聞く香木等の香りが心地よい

6. 習っていくうちに、暮らし、生活の一部となった
7. その他（具体的に： ）
8. 特に理由はない
9. 上記の中で当てはまるものはない

<上記で2と回答した方に>

香道3 補問2 あなたが香道に関する活動から離れたきっかけや理由として、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 時間がなくなった
2. 近くに習う場所がなくなった
3. 当初目標としていたことが達成できた
4. 興味を失った
5. 経済的に続けるのが難しくなった
6. 健康面、体調面で続けることが難しくなった
7. 一緒に活動する家族や友人等が辞めてしまった
8. 習っている内容についていけなくなった
9. 指導者や教授者を引退した
10. その他（具体的に： ）

香道4 あなたが香道を続けている（続けていた）年数を選択肢の中からお選びください。（1つ）

1. 1年未満
2. 1～3年未満
3. 3～5年未満
4. 5～10年未満
5. 10～20年未満
6. 20年以上

香道5 あなたの現在の香道の活動内容（かつて行っていた内容）について、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 教室や稽古場で習っている（いた）
2. カルチャーセンターの講座等を受講している（いた）
3. 学校や職場などの部活動、同好会、サークルに所属して活動している（いた）
4. 指導者や教授者として教えている（いた）
5. その他（具体的に： ）

香道6 あなたは香道に関する活動をどのくらいの頻度で行っています（いました）か。選択肢の中からお選びください。（1つ）

1. ほぼ毎日
2. 週に2～3回
3. 週1回程度
4. 月数回程度
5. 月1回程度
6. 年数回程度
7. 年1回程度

香道7 あなたは香道に関する活動に、月幾らくらいの費用を使っています（いました）か。選択肢の中からお選びください。（1つ）

1. 5,000円未満
2. 5,000円以上～10,000円未満
3. 10,000円以上～15,000円未満
4. 15,000円以上～20,000円未満
5. 20,000円以上～25,000円未満
6. 25,000円以上～30,000円未満
7. 30,000円以上～35,000円未満
8. 35,000円以上～40,000円未満
9. 40,000円以上～45,000円未満
10. 45,000円以上～50,000円未満
11. 50,000円以上

香道8 あなたが香道の中で関心を持っている領域、魅力は何ですか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 香木等を焚きその香りを楽しむ
2. 香木等に応じた焚き方が分かる
3. 香席のしつらえや、そこから感じることができる四季等
4. 集中力を高めたり、心を落ち着かせたりすることができる
5. 主客の心の交流
6. 日本の伝統的な文化として国内外に知られている
7. その他（具体的に： ）
8. 上記の中で当てはまるものはない

●イベント等で香道を体験した人の質問（F Q 2で2に回答）

香道 9 あなたが香道を体験したきっかけとして、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 親や兄弟姉妹、祖父母などが習っていた
2. 親や兄弟姉妹、祖父母などが教えていた
3. 友人、知人などから勧められた・誘われた
4. 学校や、香や香木を扱う店（香舗）、文化施設等で体験イベントが行われていた
5. テレビや映画、雑誌、漫画、ウェブメディア等で知った
6. 趣味や教養として、香道に興味関心があった
7. 香道に係る仕事や職業に興味関心があった
8. 自分が行っている別の分野の趣味・習い事と関係していた
9. その他（具体的に： ）

香道 10 あなたはどのような場で香道を体験しましたか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 教室や稽古場、香や香木を扱う店（香舗）等で開かれた体験会
2. 学校の授業や職場の研修会
3. 学校や職場の部活動、同好会やサークルが行った体験イベント
4. 文化施設等で行われた体験イベント
5. 自宅
6. 自分が行っている別の分野の趣味・習い事の中で体験
7. その他（具体的に： ）

香道 11 あなたが今後、香道を習う機会があった場合、どのような状況だと参加をしやすいと思いますか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 家族や知人等、身近な人から習えたら
2. 通いやすい場所で習えたら
3. 費用が手頃だったら
4. 必要な道具等が借りられたら
5. 習う時間帯を調整してもらいやすかったら
6. 指導方法やカリキュラム、費用が具体的に示されていたら
7. 指導で教本やテキストを使っていたら
8. その他（具体的に： ）
9. わからない

香道 12 もし香道を習い始めるとしたら、月にどの程度なら支払えますか。選択肢の中からお選びください。（1つ）

1. 5,000 円未満
2. 5,000 円以上～10,000 円未満
3. 10,000 円以上～15,000 円未満
4. 15,000 円以上～20,000 円未満
5. 20,000 円以上～25,000 円未満
6. 25,000 円以上～30,000 円未満
7. 30,000 円以上～35,000 円未満
8. 35,000 円以上～40,000 円未満
9. 40,000 円以上～45,000 円未満
10. 45,000 円以上～50,000 円未満
11. 50,000 円以上

香道 13 あなたがこれまでに、香道を習っていない事情や理由として、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 興味がなかった
2. 通いやすい場所に稽古場や教室がなかった
3. 習うための授業料等の費用が確保できなかった
4. 習うための十分な時間が取れなかった
5. カリキュラムの内容や必要となる費用等の十分な情報が明示されていなかった
6. 稽古場や教室等の雰囲気に分からなかった
7. 習う内容についていけるかどうか不安がある
8. 他の趣味や娯楽の方に関心が向いている
9. 自分の趣味と合わない
10. その他（具体的に： ）

香道 14 あなたが香道について持っている印象やイメージについて、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 香木等の香りが楽しめる
2. 日本の伝統文化への理解を深められる
3. 暮らし、生活を豊かにしてくれる
4. 作法、しきたりなどが複雑
5. 人間関係が複雑
6. 月謝や道具等にお金がかかる
7. 習い始めると時間を取られる
8. 一般に知られていない

9. その他（具体的に： ）
10. 特に印象はない、わからない

香道 15 あなたが香道の中で関心を持っている領域、魅力は何ですか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 香木等を焚きその香りを楽しめる
2. 香木等に応じた焚き方が分かる
3. 香席のしつらえや、そこから感じることができる四季等
4. 集中力を高めたり、心を落ち着かせたりすることができる
5. 主客の心の交流
6. 日本の伝統的な文化として国内外に知られている
7. その他（具体的に： ）
8. 上記の中で当てはまるものはない

●香道を体験や経験を全くしたことがない人に対する質問（FQ2で3に回答）

香道 16 もし、あなたが香道を体験する機会があった場合、どのような内容であれば参加してみたいと思いますか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 香席でのお香の聞き方や、基本的な作法等、客としての振る舞い方を教えてくれる
2. 香道の歴史や意義を教えてくれる
3. 香木や香席で使う道具やしつらいを詳しく教えてくれる
4. 普段の生活に応用した、香の楽しみ方を教えてくれる
5. その他（具体的に： ）
6. 上記の中で当てはまるものはない

香道 17 あなたが香道を体験する機会があった場合、どのような条件や状況だと参加をしやすいと思いますか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 家族や知人等、身近な人と一緒に体験できたら
2. 行きやすい場所で体験できたら
3. 手ごろな参加費で参加できたら
4. 体験に必要な費用や道具が明示されていれば
5. 体験する時間帯等を調整してもらいやすければ
6. 初心者だけが参加できるような機会があれば
7. 体験する内容や雰囲気を事前に確認できれば
8. 指導者の教え方が分かりやすかったら
9. その他（具体的に： ）
10. わからない

香道 18 あなたがこれまでに、香道を体験したことがない事情や理由があれば、あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

1. そもそも知らなかった
2. 興味がない
3. 気軽に体験できそうな場所や機会がなかった
4. 参加する時間がとれなかった
5. 体験できる場所や機会があることを知らなかった
6. 体験できる詳しい内容が分からなかった
7. 他の趣味や娯楽の方に興味が向いている
8. 自分の趣味と合わない
9. その他(具体的に:)

香道 19 あなたが香道について持っている印象やイメージについて、あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

1. 香木等の香りが楽しめる
2. 日本の伝統文化への理解を深められる
3. 暮らし、生活を豊かにしてくれる
4. 作法、しきたりなどが複雑
5. 人間関係が複雑
6. 月謝や道具等にお金がかかる
7. 習い始めると時間を取られる
8. 一般に知られていない
9. その他(具体的に:)
10. 特に印象はない、わからない

香道 20 香道の魅力について、どのような説明や情報があるなら、香道を実際に体験してみたいと思われますか。あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

1. 香木等を焚きその香りを楽しむ
2. 香木等に応じた焚き方が分かる
3. 香席のしつらえや、そこから感じることができる四季等
4. 集中力を高めたり、心を落ち着かせたりすることができる
5. 主客の心の交流
6. 日本の伝統的な文化として国内外に知られている
7. その他(具体的に:)
8. 上記の中で当てはまるものはない

③和装

●着物の着付けができる人に対する質問（F Q 3 で 1 に回答）

和装 1 あなたが着物の着付けを習おうと思ったきっかけとして、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 親や兄弟姉妹・祖父母などが自分で着物を着付けていた
2. 親や兄弟姉妹・祖父母などが着付けの指導をしていた
3. 友人、知人などから習うことを勧められた・誘われた
4. 学校の授業や、呉服店等が実施する着付け教室、文化施設等で行われたイベントで体験した
5. テレビや映画、雑誌、漫画、ウェブメディア等で知った
6. 成人式・結婚式等の冠婚葬祭や初詣等の年中行事に参加する必要があった
7. 和装に係る仕事や職業に興味関心があった
8. 自分が行っている別の分野の趣味・習い事と関係していた
9. その他（具体的に： ）

和装 2 あなたが着付けを習い始めた当初、次のうちどのような方法で習っていましたか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 家族や知人等、身近な人に習っていた
2. 学校や職場などの部活動、同好会、サークルで習っていた
3. カルチャーセンターの講座で習っていた
4. 着付け教室で習っていた
5. 着付けや美容の専門学校で習っていた
6. その他（具体的に： ）

和装 2 補問 その方法を選んだ理由をお選びください。（いくつでも）

1. 家族や友人等と一緒に良かった
2. 通いやすい場所だった
3. 費用が手頃だった
4. 道具等が借りられた
5. 通いやすい時間帯だった
6. 指導方法やカリキュラム、費用が具体的に示されていた
7. 本格的に習ってみたかった
8. 手軽に習ってみたかった
9. その他（具体的に： ）
10. 特に理由はない、わからない

和装3 現在、着物の着付けを行っていますか。選択肢の中からお選びください。(1つ)

1. 現在も着付けを行っている
2. 現在は着付けを行っていない

<上記で1と回答した方に>

和装3 補問1 あなたが着付けを続けるようになった理由として、あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

1. 指導者や教授者として活動したい(している)
2. 日本の文化だから
3. 一緒に楽しむ仲間がいる
4. 着物の着付け方や取り合わせ方など、奥深い文化をもっと知りたい
5. 四季や行事によって着物を着分けて装うことが楽しい
6. 習っていくうちに、暮らし、生活の一部となった
7. その他(具体的に:)
8. 特に理由はない
9. 上記の中で当てはまるものはない

<上記で2と回答した方に>

和装3 補問2 あなたが着付けをしなくなったきっかけや理由として、あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

1. 時間がなくなった
2. 近くに習う場所がなくなった
3. 着物の相談等ができる場所がなくなった
4. 興味を失った
5. 経済的に続けるのが難しくなった
6. 健康面、体調面で続けることが難しくなった
7. 一緒に着物を楽しむ仲間と疎遠になった
8. 着物を着ていくような場面や機会がなくなった
9. 着崩れする、動きにくい
10. 着付けに関する仕事を辞めた
11. その他(具体的に:)

和装4 あなたが着付けをしている(いた)年数を選択肢の中からお選びください。(1つ)

1. 1年未満
2. 1～3年未満
3. 3～5年未満
4. 5～10年未満

5. 10～20 年未満
6. 20 年以上

和装5 あなたは現在、どのような機会に自分もしくは他者への着物の着付けをしますか（していましたか）。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 普段着として着物を着る時
2. 仕事着として着物を着る時
3. 入学式や成人式、結婚式等の冠婚葬祭に出席する時
4. 初詣等の年中行事に参加する時
5. 観劇の際や茶会等の催事に参加する時
6. 仕事として、他者への着付けを依頼された時
7. 親族や知人等に、他者への着付けを依頼された時
8. その他（具体的に： ）

和装5 補問 他の方に着付けをしてもらう機会がありますか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 仕事着として着物を着る時
2. 入学式や成人式、結婚式等の冠婚葬祭に出席する時
3. 初詣等の年中行事に参加する時
4. 観劇の際や茶会等の催事に参加する時
5. 着付けてもらうことはない
6. その他（具体的に： ）

和装6 あなたは着物に関する活動をどのくらいの頻度で行っています（いました）か。選択肢の中からお選びください。（1つ）

1. ほぼ毎日
2. 週に2～3回
3. 週1回程度
4. 月数回程度
5. 月1回程度
6. 年数回程度
7. 年1回程度

和装7 あなたは着物に関する活動に、月幾らくらいの費用を使っています（いました）か。選択肢の中からお選びください。（1つ）

1. 5,000 円未満
2. 5,000 円以上～10,000 円未満

3. 10,000 円以上～15,000 円未満
4. 15,000 円以上～20,000 円未満
5. 20,000 円以上～25,000 円未満
6. 25,000 円以上～30,000 円未満
7. 30,000 円以上～35,000 円未満
8. 35,000 円以上～40,000 円未満
9. 40,000 円以上～45,000 円未満
10. 45,000 円以上～50,000 円未満
11. 50,000 円以上

和装 8 あなたが着物の着付けの中で関心を持っている領域、魅力は何ですか。あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

1. 季節にあわせた着物を楽しめる
2. 職人の手仕事による着物等が持つ独特の質感や意匠
3. 生地や色柄の取り合わせ等、工夫1つでおしゃれを楽しめる
4. お祭りや伝統的な雰囲気がある場所に着ていくと見映えが良い
5. 着物を着ることで、落ち着いた気持ちになる
6. 日本の伝統的な文化として国内外に知られている
7. その他(具体的に:)
8. 上記の中で当てはまるものはない

●着付けはできないが着物を着たことがある人への質問 (FQ3で2に回答)

和装 9 あなたが着物を着た(着せてもらった)きっかけとして、あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

1. 親や兄弟姉妹・祖父母などが自分で着物を着付けていた
2. 親や兄弟姉妹・祖父母などが着付けの指導をしていた
3. 家族や友人、知人などから着物を着ることを勧められた・誘われた
4. 学校や、呉服店等が実施する着付け教室、文化施設等で体験イベントが行われていた
5. テレビや映画、雑誌、漫画、ウェブメディア等で知った
6. 成人式・結婚式等の冠婚葬祭や初詣等の年中行事に参加する必要があった
7. 和装に係る仕事や職業に興味関心があった
8. 自分が行っている別の分野の趣味・習い事と関係していた
9. その他(具体的に:)

和装 10 あなたはどのような場で着物を着ましたか(着せてもらい)ましたか。あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

1. 入学式や成人式、結婚式等の冠婚葬祭

2. 初詣等の年中行事
3. 観劇の際や茶会等の催事
4. 旅行先の観光地
5. 学校の授業や、呉服店等が実施する着物に関するイベント
6. 自宅
7. 自分が行っている別の分野の趣味・習い事の中で体験
8. その他（具体的に： ）

和装 11 あなたが今後、着物の着付けを習う機会があった場合、どのような状況だと参加をしやすいと思いますか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 家族や知人等、身近な人から習えたら
2. 通いやすい場所で習えたら
3. 費用が手頃だったら
4. 着物をはじめ必要な道具等が借りられたら
5. 習う時間帯を調整してもらいやすかったら
6. 指導方法やカリキュラム、費用が具体的に示されていたら
7. 指導で教本やテキストを使っていたら
8. その他（具体的に： ）
9. わからない

和装 12 もし着物の着付けを習い始めるとしたら、月にどの程度なら支払えますか。選択肢の中からお選びください。（1つ）

1. 5,000 円未満
2. 5,000 円以上～10,000 円未満
3. 10,000 円以上～15,000 円未満
4. 15,000 円以上～20,000 円未満
5. 20,000 円以上～25,000 円未満
6. 25,000 円以上～30,000 円未満
7. 30,000 円以上～35,000 円未満
8. 35,000 円以上～40,000 円未満
9. 40,000 円以上～45,000 円未満
10. 45,000 円以上～50,000 円未満
11. 50,000 円以上

和装 13 あなたがこれまでに、着物の着付けを習っていない事情や理由として、あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

1. 興味がなかった
2. 通いやすい場所に着付け教室がなかった
3. 習うための授業料等の費用が確保できなかった
4. 習うための十分な時間が取れなかった
5. カリキュラムの内容や必要となる費用等の十分な情報が明示されていなかった
6. 着付け教室等の雰囲気が分からなかった
7. 習う内容についていけるかどうか不安がある
8. 他の趣味や娯楽の方に関心が向いている
9. 自分の趣味と合わない
10. その他(具体的に:)

和装 14 あなたが着物の着付けについて持っている印象やイメージについて、あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

1. 生地や色柄等が豊富なので自分だけのおしゃれが楽しめる
2. 日本の伝統文化を体感できる
3. 伝統行事に参加する際や、歴史的な街並みを訪れる時などに着物を着ると楽しめる
4. 暮らし、生活を豊かにしてくれる
5. 着付けの仕方や、着物の取り合わせ等の決まり事が複雑
6. 着物を着ていくような場面がない
7. 動きにくい、動くと着崩れする
8. 着物等を揃えるとお金がかかる
9. 着付けを覚えるのに時間がかかる
10. その他(具体的に:)
11. 特に印象はない、わからない

和装 15 あなたが着物の着付けの中で関心を持っている領域、魅力は何ですか。あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

1. 季節にあわせた着物を楽しめる
2. 職人の手仕事による着物等が持つ独特の質感や意匠
3. 生地や色柄の取り合わせ等、工夫1つでおしゃれを楽しめる
4. お祭りや伝統的な雰囲気がある場所に着ていくと見映えが良い
5. 着物を着ることで、落ち着いた気持ちになる
6. 日本の伝統的な文化として国内外に知られている
7. その他(具体的に:)
8. 上記の中で当てはまるものはない

●着物を着ていない人への質問（F Q 3 で 3 に回答）

和装 16 もし、あなたが着物を着たり、着付けを体験したりする機会があった場合、どのような内容であれば参加してみたいと思いますか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 季節や場面に応じた着物や帯等の選び方や取り合わせ方を教えてくれる
2. 基本的な着物の着付け方と着方のコツを教えてくれる
3. 着物を着た時の適切な姿勢や歩き方、所作等を教えてくれる
4. 着物のお手入れの仕方や保管の仕方を教えてくれる
5. 普段の生活の中で、着物をどのように楽しんだら良いのか教えてくれる
6. その他（具体的に： ）
7. 上記の中で当てはまるものはない

和装 17 あなたが着物を着たり、着付け方を体験する機会があったりした場合、どのような条件や状況だと参加をしやすいと思いますか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 家族や知人等、身近な人が着付けや着付け方を教えてくれたら
2. 旅行先の観光地や、催事、イベントで着付ける機会があれば
3. 手ごろな参加費で参加できたら
4. 体験に必要な費用や道具が明示されていれば
5. 着付けや着付け方を体験する時の時間帯を調整してもらいやすければ
6. 初心者だけが参加できるような機会があれば
7. 体験する内容や雰囲気を事前に確認できれば
8. 指導者の教え方が分かりやすかったら
9. その他（具体的に： ）
10. わからない

和装 18 あなたがこれまでに、着物を着たことがなかったり、着付けを体験したことがなかったりした事情や理由があれば、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. そもそも知らなかった
2. 興味がない
3. 気軽に体験できそうな場所や機会がなかった
4. 参加する時間がとれなかった
5. 体験できる場所や機会があることを知らなかった
6. 体験できる詳しい内容が分からなかった
7. 他の趣味や娯楽の方に 관심이向いている
8. 自分の趣味と合わない
9. その他（具体的に： ）

和装 19 あなたが着物の着付けについて持っている印象やイメージについて、あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

1. 生地や色柄等が豊富なので自分だけのおしゃれが楽しめる
2. 日本の伝統文化を体感できる
3. 伝統行事に参加する際や、歴史的な街並みを訪れる時などに着物を着ると楽しめる
4. 暮らし、生活を豊かにしてくれる
5. 着付けの仕方や、着物の取り合わせ等の決まり事が複雑
6. 着物を着ていくような場面がない
7. 動きにくい、動くと着崩れする
8. 着物等を揃えるとお金がかかる
9. 着付けを覚えるのに時間がかかる
10. その他(具体的に:)
11. 特に印象はない、わからない

和装 20 和装の魅力について、どのような説明や情報があるなら、着物を着たり、着付けを体験してみたいと思われますか。あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

1. 季節にあわせた着物を楽しめる
2. 職人の手仕事による着物等が持つ独特の質感や意匠
3. 生地や色柄の取り合わせ等、工夫1つでおしゃれを楽しめる
4. お祭りや伝統的な雰囲気がある場所に着ていくと見映えが良い
5. 着物を着ることで、落ち着いた気持ちになる
6. 日本の伝統的な文化として国内外に知られている
7. その他(具体的に:)
8. 上記の中で当てはまるものはない

④礼法

●礼法を習っている(習っていた)者に対する質問(FQ4で1に回答)

礼法 1 あなたが礼法を習い始めたきっかけとして、あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

1. 親や兄弟姉妹、祖父母などが習っていた
2. 親や兄弟姉妹、祖父母などが教えていた
3. 友人、知人などから習うことを勧められた・誘われた
4. 学校の授業や、礼法の稽古場・教室での体験会、文化施設等で行われたイベントで体験した
5. テレビや映画、雑誌、漫画、ウェブメディア等で知った
6. 趣味や教養として、礼法に興味関心があった
7. 礼法に係る仕事や職業に興味関心があった

8. 自分が行っている別の分野の趣味・習い事と関係していた
9. その他（具体的に： ）

礼法2 あなたが礼法を習い始めた当初、次のうちどのような方法で習っていましたか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 家族や知人等、身近な人に習っていた
2. 学校や職場などの部活動、同好会、サークルで習っていた
3. カルチャーセンターの講座で習っていた
4. 稽古場や教室で習っていた
5. その他（具体的に： ）

礼法2 補問 その方法を選んだ理由をお選びください。（いくつでも）

1. 家族や友人等と一緒に良かった
2. 通いやすい場所だった
3. 費用が手頃だった
4. 道具等が借りられた
5. 通いやすい時間帯だった
6. 指導方法やカリキュラム、費用が具体的に示されていた
7. 本格的に習ってみたかった
8. 手軽に習ってみたかった
9. その他（具体的に： ）
10. 特に理由はない、わからない

礼法3 現在、礼法に関する活動を続けていますか。選択肢の中からお選びください。（1つ）

1. 続けている
2. 続けない

<上記で1と回答した方に>

礼法3 補問1 あなたが礼法に関する活動を続けるようになった理由として、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 指導者や教授者として活動したい（している）
2. 日本の文化だから
3. 一緒に楽しむ仲間がいる
4. 相手に敬意を示す所作や作法、四季に応じたしつらいの仕方など、奥深い文化をもっと知りたい
5. 礼法を習ったり実践したりすると、気持ちが穏やかになる
6. 習っていくうちに、暮らし、生活の一部となった

7. その他（具体的に： ）
8. 特に理由はない
9. 上記の中で当てはまるものはない

<上記で2と回答した方に>

礼法3 補問2 あなたが礼法に関する活動から離れたきっかけや理由として、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 時間がなくなった
2. 近くに習う場所がなくなった
3. 当初目標としていたことが達成できた
4. 興味を失った
5. 経済的に続けるのが難しくなった
6. 健康面、体調面で続けることが難しくなった
7. 一緒に活動する家族や友人等が辞めてしまった
8. 習っている内容についていけなくなった
9. 指導者や教授者を引退した
10. その他（具体的に： ）

礼法4 あなたが礼法を続けている（続けていた）年数を選択肢の中からお選びください。（1つ）

1. 1年未満
2. 1～3年未満
3. 3～5年未満
4. 5～10年未満
5. 10～20年未満
6. 20年以上

礼法5 あなたの現在の礼法の活動内容（かつて行っていた内容）について、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 教室や稽古場で習っている（いた）
2. カルチャーセンターの講座等を受講している（いた）
3. 学校や職場などの部活動、同好会、サークルに所属して活動している（いた）
4. 指導者や教授者として教えている（いた）
5. その他（具体的に： ）

礼法6 あなたは礼法に関する活動をどのくらいの頻度で行っています（いました）か。選択肢の中からお選びください。（1つ）

1. ほぼ毎日
2. 週に2～3回
3. 週1回程度
4. 月数回程度
5. 月1回程度
6. 年数回程度
7. 年1回程度

礼法7 あなたは礼法に関する活動に、月幾らくらいの費用を使っています（いました）か。選択肢の中からお選びください。（1つ）

1. 5,000円未満
2. 5,000円以上～10,000円未満
3. 10,000円以上～15,000円未満
4. 15,000円以上～20,000円未満
5. 20,000円以上～25,000円未満
6. 25,000円以上～30,000円未満
7. 30,000円以上～35,000円未満
8. 35,000円以上～40,000円未満
9. 40,000円以上～45,000円未満
10. 45,000円以上～50,000円未満
11. 50,000円以上

礼法8 あなたが礼法の中で関心を持っている領域、魅力は何ですか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 伝統的な礼儀作法を生活の中で生かすことができる
2. 相手に敬意を示すために洗練されてきた作法や所作
3. 礼法に則った部屋のしつらえや、そこから感じることができる四季等
4. 集中力を高めたり、心を落ち着かせたりすることができる
5. 礼法を通じて人間関係を円滑に保つことができる
6. 日本の伝統的な文化として国内外に知られている
7. その他（具体的に： ）
8. 上記の中で当てはまるものはない

●イベント等で礼法を体験した人に対する質問（F Q 4で2に回答）

礼法 9 あなたが礼法を体験したきっかけとして、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 親や兄弟姉妹、祖父母などが習っていた
2. 親や兄弟姉妹、祖父母などが教えていた
3. 友人、知人などから勧められた・誘われた
4. 学校や、礼法の稽古場や教室、文化施設等で体験イベントが行われていた
5. テレビや映画、雑誌、漫画、ウェブメディア等で知った
6. 趣味や教養として、礼法に興味関心があった
7. 礼法に係る仕事や職業に興味関心があった
8. 自分が行っている別の分野の趣味・習い事と関係していた
9. その他（具体的に： ）

礼法 10 あなたはどのような場で礼法を体験しましたか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 教室や稽古場等で開かれた体験会
2. 学校の授業や職場の研修会
3. 学校や職場の部活動、同好会やサークルが行った体験イベント
4. 文化施設等で行われた体験イベント
5. 自宅
6. 自分が行っている別の分野の趣味・習い事の中で体験
7. その他（具体的に： ）

礼法 11 あなたが今後、礼法を習う機会があった場合、どのような状況だと参加をしやすいと思いますか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 家族や知人等、身近な人から習えたら
2. 通いやすい場所で習えたら
3. 費用が手頃だったら
4. 必要な道具等が借りられたら
5. 習う時間帯を調整してもらいやすかったら
6. 指導方法やカリキュラム、費用が具体的に示されていたら
7. 指導で教本やテキストを使っていたら
8. その他（具体的に： ）
9. わからない

礼法 12 もし礼法を習い始めるとしたら、月にどの程度なら支払えますか。選択肢の中からお選びください。(1つ)

1. 5,000 円未満
2. 5,000 円以上～10,000 円未満
3. 10,000 円以上～15,000 円未満
4. 15,000 円以上～20,000 円未満
5. 20,000 円以上～25,000 円未満
6. 25,000 円以上～30,000 円未満
7. 30,000 円以上～35,000 円未満
8. 35,000 円以上～40,000 円未満
9. 40,000 円以上～45,000 円未満
10. 45,000 円以上～50,000 円未満
11. 50,000 円以上

礼法 13 あなたがこれまでに、礼法を習っていない事情や理由として、あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

1. 興味がなかった
2. 通いやすい場所に稽古場や教室がなかった
3. 習うための授業料等の費用が確保できなかった
4. 習うための十分な時間が取れなかった
5. カリキュラムの内容や必要となる費用等の十分な情報が明示されていなかった
6. 稽古場や教室等の雰囲気に分からなかった
7. 習う内容についていけるかどうか不安がある
8. 他の趣味や娯楽の方に関心が向いている
9. 自分の趣味と合わない
10. その他(具体的に:)

礼法 14 あなたが礼法について持っている印象やイメージについて、あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

1. 伝統的な礼儀作法を習うことが楽しめる
2. 日本の伝統文化への理解を深められる
3. 暮らし、生活を豊かにしてくれる
4. 作法、しきたりなどが複雑
5. 人間関係が複雑
6. 月謝等にお金がかかる
7. 習い始めると時間を取られる
8. 一般に知られていない

9. その他（具体的に： ）
10. 特に印象はない、わからない

礼法 15 あなたが礼法で関心を持っている領域、魅力は何ですか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 伝統的な礼儀作法を生活の中で生かすことができる
2. 相手に敬意を示すために洗練されてきた作法や所作
3. 礼法に則った部屋のしつらえや、そこから感じることができる四季等
4. 集中力を高めたり、心を落ち着かせたりすることができる
5. 礼法を通じて人間関係を円滑に保つことができる
6. 日本の伝統的な文化として国内外に知られている
7. その他（具体的に： ）
8. 上記の中で当てはまるものはない

●礼法を経験したことがない者に対する質問（F Q 4で3に回答）

礼法 16 もし、あなたが礼法を体験する機会があった場合、どのような内容であれば参加をしてみたいと思いますか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 礼法の基本的な作法や所作を教えてくれる
2. 礼法の歴史や意義を教えてくれる
3. 礼式に則ったしつらいの仕方や、贈答の形としての折り型・水引・結びなどを詳しく教えてくれる
4. 普段の生活の中で、礼法がどのように役立つのか教えてくれる
5. その他（具体的に： ）
6. 上記の中で当てはまるものはない

礼法 17 あなたが礼法を体験する機会があった場合、どのような条件や状況だと参加をしやすいと思いますか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 家族や知人等、身近な人と一緒に体験できたら
2. 行きやすい場所で体験できたら
3. 手ごろな参加費で参加できたら
4. 体験に必要な費用や道具が明示されていれば
5. 体験する時間帯等を調整してもらいやすければ
6. 初心者だけが参加できるような機会があれば
7. 体験する内容や雰囲気事前に確認できれば
8. 指導者の教え方が分かりやすかったら
9. その他（具体的に： ）
10. わからない

礼法 18 あなたが礼法を体験したことがない事情や理由があれば、あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

1. そもそも知らなかった
2. 興味がない
3. 気軽に体験できそうな場所や機会がなかった
4. 参加する時間がとれなかった
5. 体験できる場所や機会があることを知らなかった
6. 体験できる詳しい内容が分からなかった
7. 他の趣味や娯楽の方に興味が向いている
8. 自分の趣味と合わない
9. その他(具体的に:)

礼法 19 あなたが礼法について持っている印象やイメージについて、あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

1. 伝統的な礼儀作法を習うことが楽しめる
2. 日本の伝統文化への理解を深められる
3. 暮らし、生活を豊かにしてくれる
4. 作法、しきたりなどが複雑
5. 人間関係が複雑
6. 月謝等にお金がかかる
7. 習い始めると時間を取られる
8. 一般に知られていない
9. その他(具体的に:)
10. 特に印象はない、わからない

礼法 20 礼法の魅力について、どのような説明や情報があるなら、礼法を実際に体験してみたいと思いますか。あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

1. 伝統的な礼儀作法を生活の中で生かすことができる
2. 相手に敬意を示すために洗練されてきた作法や所作
3. 礼法に則った部屋のしつらえや、そこから感じることができる四季等
4. 集中力を高めたり、心を落ち着かせたりすることができる
5. 礼法を通じて人間関係を円滑に保つことができる
6. 日本の伝統的な文化として国内外に知られている
7. その他(具体的に:)
8. 上記の中で当てはまるものはない

⑤盆栽

●盆栽を経験した者に対する質問（FQ5で1に回答）

盆栽1 あなたが盆栽を始めたきっかけとして、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 親や兄弟姉妹、祖父母など家族が育てていた
2. 親や兄弟姉妹、祖父母など家族が盆栽園を営んでいた
3. 友人、知人などが盆栽を育てていて勧められた・誘われた
4. 学校や職場で育てられているのを見たり、公園や庭園、盆栽園や盆栽展、文化施設等のイベントで鑑賞や体験をしたりした
5. テレビや映画、雑誌、漫画、ウェブメディア等で知った
6. 趣味や教養として、盆栽に興味関心があった
7. 盆栽に係る仕事や職業に興味関心があった
8. 自分が行っている別の分野の趣味・習い事と関係していた
9. その他（具体的に： ）

盆栽2 あなたが盆栽を始めた時、次のうちどのような方法で育て方や剪定の方法を学んでいましたか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 家族や知人等、身近な人に教えてもらっていた
2. 盆栽の愛好者団体に教えてもらっていた
3. カルチャーセンターの講座で習っていた
4. 盆栽園で教えてもらっていた
5. 雑誌や専門書等を見て学んでいた
6. ウェブサイトやYouTube 等を見て学んでいた
7. その他（具体的に： ）

盆栽2 補問 その方法を選んだ理由をお選びください。（いくつでも）

1. 家族や友人等と一緒に良かった
2. 通いやすい場所だった
3. 費用が手頃だった
4. 道具等が借りられた
5. 通いやすい時間帯だった
6. 指導方法やカリキュラム、費用が具体的に示されていた
7. 雑誌や専門誌の解説が分かりやすかった
8. 本格的にやってみたかった
9. 手軽にやってみたかった
10. その他（具体的に： ）

11. 特に理由はない、わからない

盆栽3 現在、盆栽を続けていますか。選択肢の中からお選びください。(1つ)

1. 続けている
2. 続けない

<上記で1と回答した方に>

盆栽3 補問1 あなたが盆栽を続けるようになった理由として、あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

1. 盆栽園を営みたい(営んでいる)
2. 日本の文化だから
3. 一緒に楽しむ仲間がいる
4. 盆栽の形作りや剪定や培養など、奥深い文化をもっと知りたい
5. 盆栽に愛着が湧いた(盆栽を育てるのが純粋に楽しい)
6. 暮らし、生活の一部となった(盆栽を育てることが生きがいとなった)
7. その他(具体的に:)
8. 特に理由はない
9. 上記の中で当てはまるものはない

<上記で2と回答した方>

盆栽3 補問2 あなたが盆栽から離れたきっかけや理由として、あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

1. 時間がなくなった
2. 盆栽の育成ができる環境を維持できなくなった
3. 手入れ等の相談をできる場所がなくなった
4. 興味を失った
5. 経済的に続けるのが難しくなった
6. 健康面、体調面で続けることが難しくなった
7. 一緒に世話をしてくれる家族や仲間の手が借りられなくなった
8. 盆栽園を閉鎖した
9. その他(具体的に:)

盆栽4 あなたが盆栽を続けている(続けていた)年数を選択肢の中からお選びください。(1つ)

1. 1年未満
2. 1～3年未満
3. 3～5年未満

4. 5～10年未満
5. 10～20年未満
6. 20年以上

盆栽5 あなたの現在の盆栽に関する活動内容（かつて行っていた内容）について、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 自宅等で盆栽の手入れをしている（いた）
2. 盆栽園に盆栽を預けて手入れをしてもらっている（いた）
3. 盆栽を盆栽展に出品している（いた）
4. 盆栽園や盆栽の教室等で習っている（いた）
5. カルチャーセンターの講座等を受講している（いた）
6. 盆栽園を営んでいる（いた）
7. 講師として教室や体験会、講座を開いている（いた）
8. その他（具体的に： ）

盆栽6 あなたは盆栽に関する活動をどのくらいの頻度で行っています（いました）か。選択肢の中からお選びください。（1つ）

1. ほぼ毎日
2. 週に2～3回
3. 週1回程度
4. 月数回程度
5. 月1回程度
6. 年数回程度
7. 年1回程度

盆栽7 あなたは盆栽を育てるにあたって、月幾らくらいの費用を使っています（いました）か。選択肢の中からお選びください。（1つ）

1. 5,000円未満
2. 5,000円以上～10,000円未満
3. 10,000円以上～15,000円未満
4. 15,000円以上～20,000円未満
5. 20,000円以上～25,000円未満
6. 25,000円以上～30,000円未満
7. 30,000円以上～35,000円未満
8. 35,000円以上～40,000円未満
9. 40,000円以上～45,000円未満
10. 45,000円以上～50,000円未満

11. 50,000 円以上

盆栽 8 あなたが盆栽で関心を持っている領域、魅力は何ですか。あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

1. 盆栽を育て、仕立てていくことで様々に変化する姿や形
2. 盆栽として仕立てていくための剪定等の技術
3. 樹木と植木鉢(盆器)を取り合わせることで生まれる盆栽の姿や形
4. 盆栽を育てる中で感じられる四季等
5. 盆栽を育てることで、心を落ち着かせることができる
6. 日本の伝統的な文化として国内外に知られている
7. その他(具体的に:)
8. 上記の中で当てはまるものはない

●イベント等で盆栽体験をしたことがある方への質問(FQ5で2に回答)

盆栽 9 あなたが盆栽体験をしたきっかけとして、あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

1. 親や兄弟姉妹、祖父母など家族が育てていた
2. 親や兄弟姉妹、祖父母など家族が盆栽園を営んでいた
3. 友人、知人などが盆栽を育てていて、勧められた・誘われた
4. 学校や職場で育てられているものや、公園や庭園、文化施設等で行われているイベントで見た
5. テレビや映画、雑誌、漫画、ウェブメディア等で知った
6. 趣味や教養として盆栽に興味関心があり、盆栽展等で鑑賞した
7. 盆栽に係る仕事や職業に興味関心があった
8. 自分が行っている別の分野の趣味・習い事と関係していた
9. その他(具体的に:)

盆栽 10 あなたはどのような場で盆栽体験をしましたか。あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

1. 盆栽園や愛好者の団体等が主催する体験会
2. 学校の授業や職場の研修会
3. 文化施設等で行われた体験イベント
4. 自宅
5. 自分が行っている分野の趣味・習い事の中で体験
6. その他(具体的に:)

盆栽 11 あなたが今後、盆栽を育てる機会があった場合、どのような状況だと育てやすいと思いますか。あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

1. 家族や知人等、身近な人から育て方等を教えてもらえたら
2. 知人、家族と一緒に育てることができたら
3. 通いやすい場所に相談に乗ってもらえる盆栽園等があったら
4. 必要な道具等が借りられたら
5. 習う時間帯を調整してもらいやすかったら
6. 育て方や剪定の仕方等をわかりやすく示している雑誌や専門誌があったら
7. その他(具体的に:)
8. わからない

盆栽 12 もし盆栽を始めるとしたら、どの程度なら払えますか。選択肢の中からお選びください。

(1つ)

1. 5,000 円未満
2. 5,000 円以上～10,000 円未満
3. 10,000 円以上～15,000 円未満
4. 15,000 円以上～20,000 円未満
5. 20,000 円以上～25,000 円未満
6. 25,000 円以上～30,000 円未満
7. 30,000 円以上～35,000 円未満
8. 35,000 円以上～40,000 円未満
9. 40,000 円以上～45,000 円未満
10. 45,000 円以上～50,000 円未満
11. 50,000 円以上

盆栽 13 あなたがこれまでに盆栽を育てていない事情や理由として、あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

1. 興味がなかった
2. 通いやすい場所に、盆栽の育て方等の相談に乗ってくれる場所がなかった
3. 始めるための費用が確保できなかった
4. 盆栽を育てるための十分な時間が取れそうになかった
5. 一緒にやってくれる人がいない
6. 盆栽の育て方等の相談をできる人が身近にいなかった
7. 植物の育て方や管理の仕方などが難しいと思う
8. 盆栽を育てて管理できる場所がない
9. 他の趣味や娯楽の方に関心が向いている
10. 自分の趣味と合わない

11. その他（具体的に： ）

盆栽 14 あなたが盆栽について持っている印象やイメージについて、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 盆栽を育てたり仕立てたりするのが楽しめる
2. 日本の伝統文化への理解を深められる
3. 暮らし、生活が豊かになる
4. 剪定や育成等が難しい
5. 盆栽を育てるための環境を整えるのが難しい
6. 植物を扱うのは容易ではない
7. 道具等にお金がかかる
8. 育て始めると時間を取られる
9. 一般に知られていない
10. その他（具体的に： ）
11. 特に印象はない、わからない

盆栽 15 あなたが盆栽で関心を持っている領域、魅力は何ですか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 盆栽を育て、仕立てていくことで様々に変化する姿や形
2. 盆栽として仕立てていくための剪定等の技術
3. 樹木と植木鉢（盆器）を取り合わせることで生まれる盆栽の姿や形
4. 盆栽を育てる中で感じられる四季等
5. 盆栽を育てることで、心を落ち着かせることができる
6. 日本の伝統的な文化として国内外に知られている
7. その他（具体的に： ）
8. 上記の中で当てはまるものはない

●盆栽体験をしていない方への質問（FQ5で3に回答）

盆栽 16 もし、あなたが盆栽体験をする機会があった場合、どのような内容であれば参加してみたいと思いますか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 盆栽の種類や育て方、剪定や鑑賞の仕方を教えてくれる
2. 盆栽の歴史や意義を教えてくれる
3. 盆栽を育てるのに必要となる道具や環境等を詳しく教えてくれる
4. 普段の生活の中で、盆栽をどのように楽しめばよいのか教えてくれる
5. その他（具体的に： ）
6. 上記の中で当てはまるものはない

盆栽 17 あなたが盆栽体験をする機会があった場合、どのような状況だと参加をしやすいと思いますか。あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

1. 家族や知人等、身近な人と一緒に体験できたら
2. 普段、鑑賞しに出かけている盆栽展や盆栽園で体験機会があれば
3. 手ごろな参加費で参加できたら
4. 体験に必要な費用や道具が明示されていれば
5. 体験する時間帯等を調整してもらいやすければ
6. 初心者だけが参加できるような機会があれば
7. 体験する内容や雰囲気を事前に確認できれば
8. 指導者の教え方が分かりやすかったら
9. その他(具体的に:)
10. わからない

盆栽 18 あなたがこれまでに盆栽体験をしたことがない事情や理由があれば、あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

1. そもそも知らなかった
2. 興味がない
3. 気軽に体験できそうな場所や機会がなかった
4. 参加する時間がとれなかった
5. 体験できる場所や機会があることを知らなかった
6. 体験できる詳しい内容が分からなかった
7. 他の趣味や娯楽の方に関心が向いている
8. 自分の趣味と合わない
9. その他(具体的に:)

盆栽 19 あなたが盆栽について持っている印象やイメージについて、あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

1. 盆栽を育てたり仕立てたりするのが楽しめる
2. 日本の伝統文化への理解を深められる
3. 暮らし、生活が豊かになる
4. 剪定や育成等が難しい
5. 盆栽を育てるための環境を整えるのが難しい
6. 植物を扱うのは容易ではない
7. 道具等にお金がかかる
8. 育て始めると時間を取られる
9. 一般に知られていない
10. その他(具体的に:)

11. 特に印象はない、わからない

盆栽 20 盆栽の魅力について、どのような説明や情報があるなら、盆栽を実際に体験してみたいと思いますか。あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

1. 盆栽を育て、仕立てていくことで様々に変化する姿や形
2. 盆栽として仕立てていくための剪定等の技術
3. 樹木と植木鉢(盆器)を取り合わせることで生まれる盆栽の姿や形
4. 盆栽を育てる中で感じられる四季等
5. 盆栽を育てることで、心を落ち着かせることができる
6. 日本の伝統的な文化として国内外に知られている
7. その他(具体的に:)
8. 上記の中で当てはまるものはない

⑥錦鯉

●錦鯉の飼育を経験した者に対する質問(FQ6で1に回答)

錦鯉 1 あなたが錦鯉の飼育を始めたきっかけとして、あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

1. 親や兄弟姉妹・祖父母など家族が飼育していた
2. 親や兄弟姉妹・祖父母など家族が養鯉場を営んでいた
3. 友人、知人などが錦鯉を飼育していて、勧められた・誘われた
4. 学校や職場で飼育されているのを見たり、公園や庭園、養鯉場や錦鯉品評会、文化施設等やイベントで観賞をしたりした
5. テレビや映画、雑誌、漫画、ウェブメディア等で知った
6. 趣味や教養として、錦鯉に興味関心があった
7. 錦鯉に係る仕事や職業に興味関心があった
8. 自分が行っている別の分野の趣味・習い事と関係していた
9. その他(具体的に:)

錦鯉 2 あなたが錦鯉の飼育を始めた時、次のうちどのような方法で設備や飼育の仕方について学んでいましたか。あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

1. 家族や知人等、身近な人に教えてもらっていた
2. 錦鯉の愛好者団体に教えてもらっていた
3. 養鯉場で教えてもらっていた
4. 雑誌や専門書等を見て学んでいた
5. ウェブサイトやYouTube等を見て学んでいた
6. その他(具体的に:)

錦鯉 2 補問 その方法を選んだ理由をお選びください。(いくつでも)

1. 家族や友人等と一緒に良かった
2. 通いやすい場所だった
3. 費用が手頃だった
4. 通いやすい時間帯だった
5. 指導方法やカリキュラム、費用が具体的に示されていた
6. 雑誌や専門誌の解説が分かりやすかった
7. 本格的にやってみたかった
8. 手軽にやってみたかった
9. その他(具体的に:)
10. 特に理由はない、わからない

錦鯉 3 現在、錦鯉の飼育を続けていますか。選択肢の中からお選びください。(1つ)

1. 続けている
2. 続けない

<上記で1と回答した方に>

錦鯉 3 補問 1 あなたが錦鯉を飼育し続けるようになった理由として、あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

1. 養鯉場を営みたい(営んでいる)
2. 日本の文化だから
3. 一緒に楽しむ仲間がいる
4. 錦鯉の飼育や選別など、奥深い文化をもっと知りたい
5. 錦鯉に愛着が湧いた(飼育が純粋に楽しい)
6. 暮らし、生活の一部となった(飼育や観賞をすることが生きがいとなった)
7. その他(具体的に:)
8. 特に理由はない
9. 上記の中で当てはまるものはない

<上記で2と回答した方>

錦鯉 3 補問 2 あなたが錦鯉の飼育から離れたきっかけや理由として、あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

1. 時間がなくなった
2. 錦鯉の飼育ができる環境を維持できなくなった
3. 飼育等の相談をできる場所がなくなった
4. 興味を失った
5. 経済的に続けるのが難しくなった

6. 健康面、体調面で続けることが難しくなった
7. 一緒に世話をしてくれる家族や仲間の手が借りられなくなった
8. 養鯉場を閉鎖した
9. その他（具体的に： ）

錦鯉4 あなたが錦鯉の飼育を続けている（続けていた）年数を選択肢の中からお選びください。

（1つ）

1. 1年未満
2. 1～3年未満
3. 3～5年未満
4. 5～10年未満
5. 10～20年未満
6. 20年以上

錦鯉5 あなたの現在の錦鯉に関する活動内容（かつて行っていた内容）について、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 自宅等の池で飼育している（いた）
2. 自宅等の水槽で飼育している（いた）
3. 養鯉場に預けて飼育してもらっている（いた）
4. 錦鯉の品評会に出品している（いた）
5. 錦鯉の養鯉場を営んでいる（いた）
6. その他（具体的に： ）

錦鯉6 あなたは錦鯉の飼育に関する活動をどのくらいの頻度で行っています（いました）か。選択肢の中からお選びください。（1つ）

1. ほぼ毎日
2. 週に2～3回
3. 週1回程度
4. 月数回程度
5. 月1回程度
6. 年数回程度
7. 年1回程度

錦鯉7 あなたは錦鯉の飼育にあたって、月幾らくらいの費用を使っています（いました）か。選択肢の中からお選びください。（1つ）

1. 1万円未満
2. 1万円以上～5万円未満

3. 5万円以上～10万円未満
4. 10万円以上～50万円未満
5. 50万円以上～100万円未満
6. 100万円以上

錦鯉 8 あなたが錦鯉の飼育で関心を持っている領域、魅力は何ですか。あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

1. 飼育をしていくことで、変化する模様
2. 飼育していくための技術
3. 種類によって異なる多様な色彩や模様
4. 錦鯉の飼育・観賞を通じて感じられる四季等
5. 錦鯉の飼育・観賞することで、心を落ち着かせることができる
6. 日本の伝統的な文化として国内外に知られている
7. その他(具体的に:)
8. 上記の中で当てはまるものはない

●イベント等で錦鯉の体験や観賞を経験した方への質問 (F Q 6 で 2 に回答)

錦鯉 9 あなたが錦鯉と触れ合ったり、観賞したりしたきっかけとして、あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

1. 親や兄弟姉妹・祖父母など家族が飼育していた
2. 親や兄弟姉妹・祖父母など家族が養鯉場を営んでいた
3. 友人、知人などが錦鯉を飼育していて、勧められた・誘われた
4. 学校や職場で飼育されているものや、公園や庭園、文化施設等で行われているイベントで見た
5. テレビや映画、雑誌、漫画、ウェブメディア等で知った
6. 趣味や教養として錦鯉に興味関心があり、品評会等で観賞した
7. 錦鯉に係る仕事や職業に興味関心があった
8. 自分が行っている別の分野の趣味・習い事と関係していた
9. その他(具体的に:)

錦鯉 10 あなたはどのような場で錦鯉と触れ合ったり、観賞したりしましたか。あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

1. 錦鯉を扱う団体や業者が主催する品評会や即売会
2. 学校や職場で飼育されていた
3. 公園や庭園、文化施設等でのイベント
4. 自宅
5. 自分が行っている別の分野の趣味・習い事の中で体験

6. その他（具体的に： ）

錦鯉 11 あなたが今後、錦鯉を飼育する機会があった場合、どのような状況だと飼育をしやすいと思いますか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 家族や知人等、身近な人から飼育の仕方等を教えてもらえたら
2. 知人、家族と一緒に飼育できたら
3. 通いやすい場所に相談に乗ってもらえる養鯉場等があったら
4. 飼育の仕方や設備の整え方等をわかりやすく示している雑誌や専門誌があったら
5. その他（具体的に： ）
6. わからない

錦鯉 12 もし錦鯉を飼育し始めるとしたら、どの程度なら払えますか。選択肢の中からお選びください。（1つ）

1. 1万円未満
2. 1万円以上～5万円未満
3. 5万円以上～10万円未満
4. 10万円以上～50万円未満
5. 50万円以上～100万円未満
6. 100万円以上

錦鯉 13 あなたがこれまでに錦鯉の飼育をしていない事情や理由として、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 興味がなかった
2. 通いやすい場所に、錦鯉の飼育方法等の相談に乗ってくれる場所がなかった
3. 始めるための費用が確保できなかった
4. 錦鯉を飼育するための十分な時間が取れそうになかった
5. 一緒にやってくれる人がいない
6. 錦鯉の飼育方法等の相談をできる人が身近にいなかった
7. 生物の扱いが難しいと思う
8. 錦鯉を飼育できる場所や設備がない
9. 他の趣味や娯楽の方に興味が向いている
10. 自分の趣味と合わない
11. その他（具体的に： ）

錦鯉 14 あなたが錦鯉の飼育や観賞について持っている印象やイメージについて、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 錦鯉の飼育や観賞が楽しめる

2. 日本の伝統文化への理解を深められる
3. 暮らし、生活が豊かになる
4. 飼育の方法等が難しい
5. 錦鯉を飼育するための環境を整えるのが難しい
6. 生物を扱うのは容易ではない
7. 設備等にお金がかかる
8. 飼育し始めると時間を取られる
9. 一般に知られていない
10. その他（具体的に： ）
11. 特に印象はない、わからない

錦鯉 15 あなたが錦鯉の飼育に関心を持っている領域、魅力は何ですか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 飼育をしていくことで、変化する模様
2. 飼育していくための技術
3. 種類によって異なる多様な色彩や模様
4. 錦鯉の飼育・観賞を通じて感じられる四季等
5. 錦鯉の飼育・観賞することで、心を落ち着かせることができる
6. 日本の伝統的な文化として国内外に知られている
7. その他（具体的に： ）
8. 上記の中で当てはまるものはない

●錦鯉の飼育を経験していない方への質問（FQ6で3に回答）

錦鯉 16 もし、あなたが錦鯉の観賞体験をする機会があった場合、どのような内容であれば参加してみたいと思いますか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 錦鯉の種類や飼育の仕方、観賞の仕方を教えてくれる
2. 錦鯉の歴史や意義を教えてくれる
3. 錦鯉の飼育で必要となる設備や環境等を詳しく教えてくれる
4. 普段の生活の中で、錦鯉の飼育や観賞をどのように楽しむのか教えてくれる
5. その他（具体的に： ）
6. 上記の中で当てはまるものはない

錦鯉 17 あなたが錦鯉の観賞体験をする機会があった場合、どのような状況だと参加をしやすいと思いますか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 家族や知人等、身近な人と一緒に体験できたら
2. 錦鯉の品評会や即売会が身近で行われていれば
3. 手ごろな参加費で参加できたら

4. 公園や庭園、文化施設等で観賞できたら
5. 体験する内容や雰囲気を事前に確認できれば
6. 初心者だけが参加できるような機会があれば
7. その他（具体的に： ）
8. わからない

錦鯉 18 あなたがこれまでに錦鯉の観賞体験等をしたことがない事情や理由があれば、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. そもそも知らなかった
2. 興味がない
3. 気軽に体験できそうな場所や機会がなかった
4. 参加する時間がとれなかった
5. 体験できる場所や機会があることを知らなかった
6. 体験できる詳しい内容が分からなかった
7. 他の趣味や娯楽の方に興味が向いている
8. 自分の趣味と合わない
9. その他（具体的に： ）

錦鯉 19 あなたが錦鯉の飼育や観賞について持っている印象やイメージについて、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 錦鯉の飼育や観賞が楽しめる
2. 日本の伝統文化への理解を深められる
3. 暮らし、生活が豊かになる
4. 飼育の方法等が難しい
5. 錦鯉を飼育するための環境を整えるのが難しい
6. 生物を扱うのは容易ではない
7. 設備等にお金がかかる
8. 飼育し始めると時間を取られる
9. 一般に知られていない
10. その他（具体的に： ）
11. 特に印象はない、わからない

錦鯉 20 錦鯉の魅力について、どのような説明や情報があるなら、錦鯉の飼育や観賞を実際に体験してみたいと思いますか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 飼育をしていくことで、変化する模様
2. 飼育していくための技術
3. 種類によって異なる多様な色彩や模様

60. 洋舞、社交ダンス	61. 学習・調べもの	62. 読書（仕事、勉強などを除く娯楽としての）
63. ファッション（楽しみとしての）		

娯楽

64. 囲碁	65. 将棋	66. トランプ、オセロ、カルタ、花札など
67. カラオケ	68. テレビゲーム（家庭での）	69. ゲームセンター、ゲームコーナー
70. ソーシャルゲームなどのオンラインゲーム	71. 麻雀	72. ビリヤード
73. パチンコ	74. 宝くじ	75. サッカーくじ（toto）
76. 中央競馬	77. 地方競馬	78. 競輪
79. ボートレース（競艇）	80. オートレース	81. 外食（日常的なものは除く）
82. バーベキュー	83. バー、スナック、パブ、飲み屋	84. クラブ、キャバレー
85. ディスコ	86. サウナ	87. 温浴施設（健康ランド、クアハウス、スーパー銭湯等）

観光・行楽

88. 遊園地	89. ドライブ	90. ピクニック・ハイキング・野外散歩
91. 登山	92. オートキャンプ	93. フィールドアスレチック
94. 海水浴	95. 動物園、植物園、水族館、博物館	96. 催し物、博覧会
97. 帰省旅行	98. 国内観光旅行（避暑、避寒、温泉など）	99. 海外旅行

その他

100. 複合ショッピングセンター、アウトレットモール	101. ウィンドウショッピング	102. クルージング（客船による）
103. エステティック、ホームエステ	104. ペット（遊ぶ、世話をする）	105. 農園（市民農園など）
106. ボランティア活動	107. SNS、ツイッターなどのデジタルコミュニケーション	108. ヨガ、ピラティス
109. 自由記述（具体的に：）	110. 特に何もしていない	

※上記の選択肢は『レジャー白書 2021』の調査種目を参照し作成したものである。なお、一部分野については『レジャー白書 2021』で「その他」に分類されていた部門から異なる部門への分類を行っている。

共通2 あなたは、スポーツや趣味、娯楽等の活動に、平均月どの程度の費用を払っていますか。

(1つ)

- | | |
|------------------------|-------------------------|
| 1. 5,000円未満 | 2. 5,000円以上～10,000円未満 |
| 3. 10,000円以上～15,000円未満 | 4. 15,000円以上～20,000円未満 |
| 5. 20,000円以上～25,000円未満 | 6. 25,000円以上～30,000円未満 |
| 7. 30,000円以上～35,000円未満 | 8. 35,000円以上～40,000円未満 |
| 9. 40,000円以上～45,000円未満 | 10. 45,000円以上～50,000円未満 |
| 11. 50,000円以上 | |

共通3 あなたが、スポーツや趣味、娯楽等の活動をよくする時間帯を教えてください。(いくつでも)

- | | | | |
|---------|---------|---------|---------|
| 1. 平日午前 | 2. 平日午後 | 3. 平日夕方 | 4. 平日夜間 |
| 5. 休日午前 | 6. 休日午後 | 7. 休日夕方 | 8. 休日夜間 |

共通4 あなたは、スポーツや趣味、娯楽等の活動に、平均月どの程度の時間をかけていますか。

(1つ)

- | | | |
|------------------|----------------|----------------|
| 1. 1時間未満 | 2. 1時間以上～2時間未満 | 3. 2時間以上～3時間未満 |
| 4. 3時間以上～4時間未満 | 5. 4時間以上～5時間未満 | 6. 5時間以上～6時間未満 |
| 7. 6時間以上～7時間未満 | 8. 7時間以上～8時間未満 | 9. 8時間以上～9時間未満 |
| 10. 9時間以上～10時間未満 | 11. 10時間以上 | |

共通5 下記の中で、あなたのお考え、意識に近いものを教えてください。(いくつでも)

1. 自分の考えを主張するより、周りとの和を尊重したい
2. 周りに合わせるより、自分の考えに基づいてものごとを判断したい
3. チャンスと感じたら逃したくない
4. リスクはできるだけ避けたい
5. 家族や友人・知人の役に立ちたい
6. 環境問題・社会課題の解決の役に立ちたい
7. 困っている人・助けが必要な人の役に立ちたい
8. 周りの人から注目されたい
9. 集まりやイベントの参加者同士の一体感が大事だ
10. その時・その場でしか得られない体験をしたい
11. 流行りのものは試してみたい
12. 流行っていないけど、自分が面白いと思ったものは試してみたい
13. 買ったものや、気持ちを発信したい
14. 自分が発信したものに反応が欲しい
15. 上記であてはまるものはない

※上記の選択肢は令和3年度実施の消費者庁「消費者意識基本調査」の調査票問6の選択肢を引用したものである。

共通6 下記の中で、あなたが普段よくご覧になっているメディアを教えてください。(いくつでも)

1. テレビ(民放の地上波・BS)
2. テレビ(NHKの地上波・BS)
3. CATVや衛星放送のチャンネル
4. ラジオ(インターネット経由を除く)
5. 新聞(電子版含む)
6. 雑誌・タウン誌(インターネット経由を除く)
7. インターネットのウェブサイト・ニュースサイトなど(アプリ経由を含む)
8. 動画投稿サイト(YouTube、TikTokなど)
9. SNS(Twitter、LINE、Instagram、Facebook、noteなど)
10. 紙の書籍
11. 電子書籍
12. 紙のマンガ/マンガ雑誌
13. 電子版のマンガ
14. 有料動画サイト(Amazon Prime Video、Netflix、Huluなど)
15. 上記のメディアはあまり見していない

参考資料 錦鯉団体調査アンケート配布先

No.	団体名
1	一般社団法人全日本錦鯉振興会
2	一般社団法人全日本愛鱗会
3	一般社団法人全日本愛鱗会 青森県支部
4	一般社団法人全日本愛鱗会 岩手県支部
5	一般社団法人全日本愛鱗会 山形県支部
6	一般社団法人全日本愛鱗会 福島県支部
7	一般社団法人全日本愛鱗会 栃木県支部
8	一般社団法人全日本愛鱗会 埼玉県支部
9	一般社団法人全日本愛鱗会 千葉県支部
10	一般社団法人全日本愛鱗会 東京都支部
11	一般社団法人全日本愛鱗会 桜支部
12	一般社団法人全日本愛鱗会 神奈川県支部
13	一般社団法人全日本愛鱗会 新潟県支部
14	一般社団法人全日本愛鱗会 石川県支部
15	一般社団法人全日本愛鱗会 越前支部
16	一般社団法人全日本愛鱗会 長野県支部
17	一般社団法人全日本愛鱗会 静岡県支部
18	一般社団法人全日本愛鱗会 愛知県支部
19	一般社団法人全日本愛鱗会 三重県支部
20	一般社団法人全日本愛鱗会 滋賀県支部
21	一般社団法人全日本愛鱗会 京都府支部
22	一般社団法人全日本愛鱗会 大阪府支部
23	一般社団法人全日本愛鱗会 兵庫県支部
24	一般社団法人全日本愛鱗会 奈良県支部
25	一般社団法人全日本愛鱗会 和歌山県支部
26	一般社団法人全日本愛鱗会 島根県支部
27	一般社団法人全日本愛鱗会 岡山県支部
28	一般社団法人全日本愛鱗会 広島県支部
29	一般社団法人全日本愛鱗会 山口県支部
30	一般社団法人全日本愛鱗会 徳島県支部
31	一般社団法人全日本愛鱗会 さぬき支部
32	一般社団法人全日本愛鱗会 高知県支部
33	一般社団法人全日本愛鱗会 福岡県支部
34	一般社団法人全日本愛鱗会 大分県支部

令和5年度「生活文化調査研究事業（錦鯉）」報告書

発行日 令和6年5月31日

修正版発行日 令和8年2月28日

発行 文化庁 参事官（生活文化創造担当）

〒602-8959

京都府京都市上京区下長者町通新町西入藪之内町 85-4

〈受託事業者〉

株式会社 文化科学研究所

〒151-0053 東京都渋谷区代々木 1-43-7 光ビル 4F
